

# 綿貫観音山古墳 I

墳丘・埴輪編

《遺物観察表編》

1998

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 綿貫觀音山古墳 I

墳丘・埴輪編

《遺物觀察表編》

1998

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



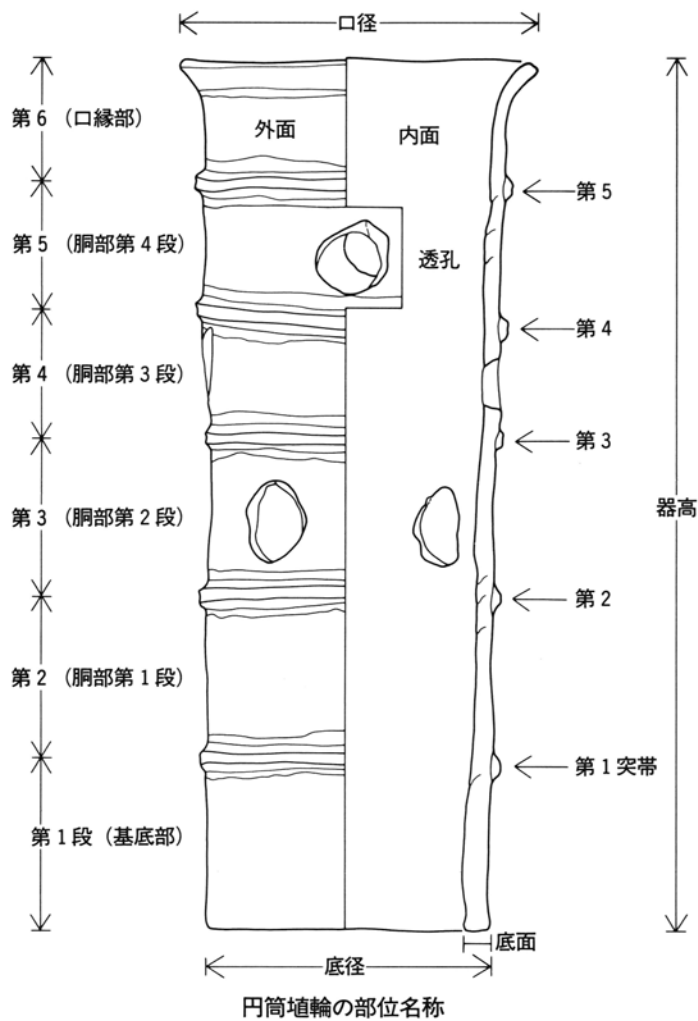
# 目 次

円筒埴輪	1
形象埴輪	105
土器・石造物	174

## 観察表凡例

1. 本書は『綿貫観音山古墳Ⅰ』墳丘・埴輪編の《遺物観察表》である。
2. 遺物番号は本文編に掲載した挿図中の実測図の番号と一致しており、挿図の順に掲載している。
3. 表中に使用した記号や略語は各々以下のとおりである。
  - a. 両目、透孔の項目中で数値に（ ）のあるものは復元値を、〈 〉は残存値を表す。
  - b. 胎土の項目中の分類は下記のことを表す。砂礫の混入の状況はA>B>Cの順である。
    - A 径1～5mmの小礫を多量に含む。
    - B 小礫、細砂を含む。
    - C 礫の混入は少量である。
  - c. 色調は農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の『新土色帖』に基づいている。
  - d. 焼成は器面の観察から下記のとおり分類した。

良好	普通	不良
硬質	普通	軟質
  - e. 円筒埴輪の各部の名称、突帯、口縁部先端の形状の分類は、次ページ凡例図による。
  - f. 円筒埴輪の突帯の間隔の項目の「1」、「2」は、第1段、第2段の突帯の中間の数値である。
  - g. 透かし（透孔）の項のFは図中の正面、Bは後面、Rは図中の右側、Lは左側の位置を表す。
  - h. 円筒埴輪のハケメの項目の中でタテ、ヨコはハケメの方向を表す。数値は2cmの幅の中に確認できるハケメの本数を記したものである。
  - i. 基部粘土板の重ね合わせは埴輪を底面側から見た時の粘土の重なりを示している。



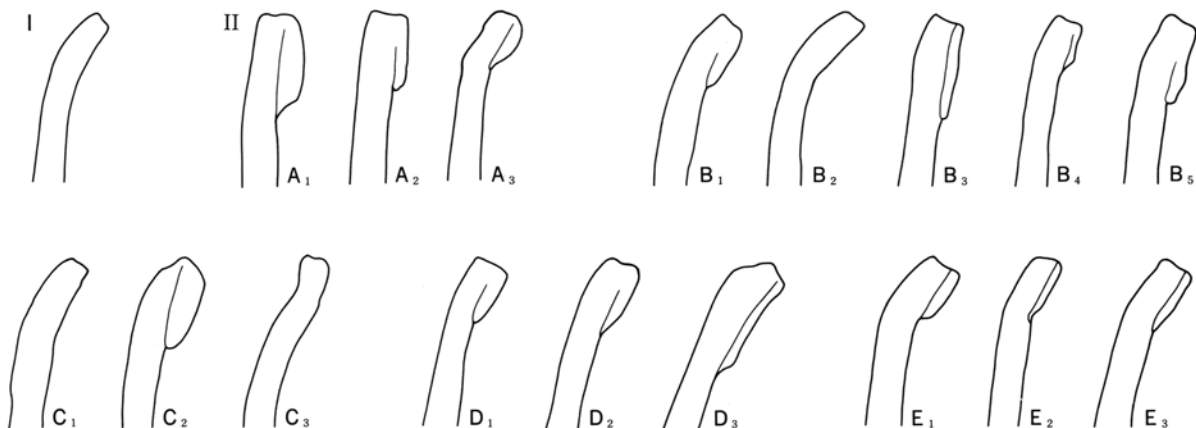
**口縁部の形状**

- I 単口縁……外反して立ち上がる
- II 貼付口縁……外反して立ち上がる  
外面は粘土帯を貼付肥厚する
- A 貼付部肥厚の幅
  - A<sub>1</sub> 幅広
  - A<sub>2</sub> やや幅広～普通
  - A<sub>3</sub> 狭小
- B 貼付部先端の形状 (外面)
  - B<sub>1</sub> 肥厚著しく段をなす
  - B<sub>2</sub> 肥厚薄く段はない。下端をナデている
  - B<sub>3</sub> 肥厚薄く段はない。下端は貼付したまま
  - B<sub>4</sub> B<sub>2</sub>と同様、ただし貼付部中位が凹む
  - B<sub>5</sub> B<sub>3</sub>と同様、ただし貼付部中位が凹む
- C 貼付部先端の形状 (内面)
  - C<sub>1</sub> 弧状に立ち上がる
  - C<sub>2</sub> 内面に稜
  - C<sub>3</sub> 内面強いヨコナデによる凹面
- D 貼付部先端の形状 (先端面)
  - D<sub>1</sub> 先端平坦
  - D<sub>2</sub> 先端凹面
  - D<sub>3</sub> 先端圭頭状
- E 貼付部外面の器面調整
  - E<sub>1</sub> ヨコハケを施す
  - E<sub>2</sub> ナデを施す
  - E<sub>3</sub> ヨコハケ後ナデを施すがハケメを残す

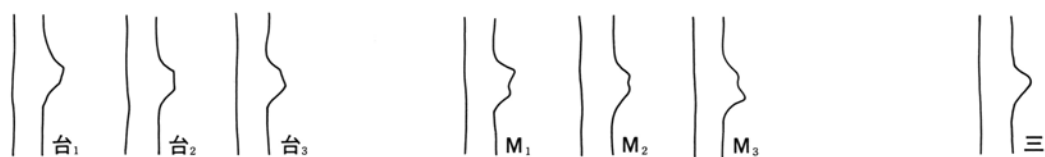
**突帯の形状**

- 台 断面台形を呈する
  - 台<sub>1</sub> 上稜が突出
  - 台<sub>2</sub> 上下稜が平均的
  - 台<sub>3</sub> 下稜が突出
- M 断面M字形を呈する
  - M<sub>1</sub> 上稜が突出
  - M<sub>2</sub> 上下稜が平均的
  - M<sub>3</sub> 下稜が突出
- 三 断面三角形

**口縁部の形状**



**突帯の形状**



円筒埴輪

前方部中央(前面)出土の円筒埴輪(1) (第83図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔		形状	タテ	ヨコ			
0001	残 基底部 ~胴部第2 段1/3 底 (31.4) 高 <30.5>	①前方部中 央(前面)・ 前方部墳頂 部②1トレ T-20G、 V-20G、 3トレV- 21G	①B②明赤褐 2.5YR6/8③ 普通・やや硬 質		台2	1 10.7 2 9.9 3 8.5 4 <1.4>		円			13	外面はタテハケ後、ほぼ等 間隔に突帯を配し、3条が 残存する。胴部第1段に円 形の透孔を穿つ。内面は、 ナデ、ナナメ方向のハケメ を施す。底面近くには基部 成形時のヨコ方向の木目を 残す。底面は左を上を重ね る。	内面は還元 状態。 PL42
0002	残 基底部 2/3 底 (26.0) 高 <11.7>	①前方部中 央(前面)② 1トレR- 20G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通								8	外面はタテハケを施す。内 面は底面近くに基部成形痕 を残し、その山より上位に はナナメヨコハケ、ナナメ ヨコ方向のヘラナデを加え ている。底面は左を上に乗 ねる。	器面は粗れ ている。 PL49
0003	残 基底部 1/3 底 (31.4) 高 <9.4>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VII	①B②赤褐5 YR4/6③良 好・やや硬質								10	基底部下半の残存である。 器肉は厚い。外面タテハケ。 内面には粘土板製作時の押 圧痕を顕著に残す。	内面に黒色 の付着物あり。 PL49
0004	残 口縁部 破片 高 <7.7>	①前方部中 央(前面)② 1トレS- 20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							9	先端外面は幅の狭い粘土帯 を薄く貼り肥厚させ器面を ナデる。外面タテハケ後一 部上半にナナメヨコハケを 重ねる。内面はヨコ方向の ハケを施す。	外面に黒色 の付着物あり。
0005	残 口縁部 破片 高 <6.3>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VII	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・普通	I							11	外面はタテハケで先端にヨ コナデを加える。内面はヨ コハケを施す。	外面黒色の 付着物あり。外面に 横位のヘラ 描き。 PL49
0006	残 口縁部 破片 高 <7.8>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- X	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>							10	外面タテハケ後先端に薄 いが幅広く粘土を貼る。肥厚 部分はヨコナデを施す。内 面ナナメハケ。	内面に焼成 前粘土塊付 着。 PL49
0007	残 口縁部 破片 高 <6.3>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>							8	先端の外面は粘土を貼り肥 厚、器面をナデる。以下は タテハケを施す。内面は先 端に強いヨコナデ、以下は ナナメヨコハケを施す。	内面にヘラ 描きあり。 PL49
0008	残 口縁部 破片 高 <4.9>	①前方部中 央(前面)② 1トレS- V? (注記 誤りか)	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>							9	先端外面は幅狭い粘土帯を 薄く貼り肥厚させ器面をな でる。外面はタテハケ後ヨ コ方向のハケを重ねる。内 面にナナメハケを残す。	内面にヘラ 描き。 PL49
0009	残 口縁部 破片 高 <7.6>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- V	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>							10 ・ 12	先端はタテハケ後4.5cmと 幅広く粘土を貼り肥厚させ る。肥厚部分はヨコハケを 施すが上下両端はナデ消し ている。内面も先端を幅広 くヨコナデ。	外面、縦位 に1条、ヘ ラ描き。 PL49・73

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タヨコ テ			
0010	残 口縁部 ～胴部1段 1/3 高 <14.3>	①前方部中 央(前面)② 1トレT- 20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	台1	11.0	円		10	先端外面は幅狭く肥厚する。器面はナデられる。外面は突帯貼り付け後タテハケを施す。内面はナナメヨコハケが施される。	PL49・69
0011	残 口縁部 破片 高 <5.8>	①前方部中 央(前面)② 1トレQ- 20G	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					表 7 ・ 裏 13	先端の外面は幅の狭い粘土帯を薄く貼り、器面をナデている。以下はタテハケを施す。内面の先端はヨコナデ、以下はナナメヨコハケを施す。	外面に黒色の付着物あり。 PL49
0012	残 口縁部 破片 高 <5.7>	①前方部中 央(前面)② 前方N-X	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					9	先端は緩やかに立ち上がり、内縁が尖る。外面タテハケ。内面ヨコナデ。	PL49
0013	残 胴部2 段破片 高 <8.5>	①前方部中 央(前面)② 1トレS- 20G	①A②橙7.5 YR6/8③普 通・普通		M1				9	外面タテハケ後突帯貼り付け。その後両段とも二次調整のヨコハケを重ねている。内面はナナメヨコハケを施す。	器面やや磨滅している。
0014	残 胴部2 段破片 高 <10.3>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	①B②橙5 YR6/6③良 好・やや硬質		M1				11	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケを施す。	
0015	残 胴部2 段破片 高 <9.6>	①前方部中 央(前面)② 1トレR- 20G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1				10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケを施す。	
0016	残 胴部2 段破片 高 <11.8>	①前方部中 央(前面)② 前方N-IX	①B②灰オ リーブ5Y5/2 ・黄褐2.5Y5/ 3③不良・軟 質、還元状態		台2		円		10	外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテハケ後部分的にタテ方向のナデを重ねる。	小径に想定 できるのは 歪みによる か。

前方部中央（前面）出土の円筒埴輪(2) (第84図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タヨコ テ			
0017	残 胴部2 段破片 高 <18.2>	①前方部中 央(前面)② 1トレS- 20・T-20 G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1	<7.2> 11.0	円		11	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケをタテ方向のナデで粗雑に消している。	PL49
0018	残 胴部2 段破片 高 <7.0>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	①A②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテハケを施す。上位段に透孔がある。	
0019	残 胴部2 段破片 高 <7.1>	①前方部中 央(前面)② 1トレQ- 20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2				11	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付ける。内面はナナメタテ方向のハケメを施す。	内面にヘラ 描き。
0020	残 胴部2 段破片 高 <13.2>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VIII	①A②灰5 Y4/1・明黄褐 10YR6/6③ 不良・軟質、 還元状態		台2				10	外面はタテハケ後突帯を貼り付け。下段には粗雑なヨコハケを重ねる。内面は一部にハケを残すが丁寧にナデを施す。	歪みが生じ ている。



No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ ケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0021	残 胴部破 片 高 <11.0>	①前方部中 央(前面)② 前方NT-X	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1			円		11	外面は粗雑なタテハケ後突 帯貼り付け。内面はナナメ ハケ。透孔は下位に片寄っ て配されている。	器面は磨耗 している。
0022	残 胴部2 段破片 高 <7.0>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通		M1			円		7	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメタテ方向 のハケメを施す。上位段に 透孔を配す。	
0023	残 胴部2 段破片 高 <14.5>	①前方部中 央(前面)② 前方NT-VII	①A②明赤褐 5YR5/6・明 黄褐10YR6/ 6③普通・普通		台2			円	<6.7> <2.7>	表 16 ・ 裏 10 ・ 16	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面下位ナナメ、上位 タテハケ。	突帯の下位 にハケに後 出した工具 痕が列状に 認められ る。 PL72
0024	残 胴部2 段破片 高 <8.7>	①前方部中 央(前面)② 1トレR- 20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2			円		11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ。 上位段に透孔を施す。	
0025	残 胴部破 片 高 <12.9>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	① A ② 橙5 YR6/8③良 好・普通		台2					11	外面タテハケ後突帯を貼り 付け、シャープにナデてい る。内面はナナメタテハケ 後部分的にナデを重ねる。	胎土分析試 料。
0026	残 胴部2 段破片 高 <11.5>	①前方部中 央(前面)② 前方NT-X	①A②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2			円		表 12 ・ 裏 6	外面は粗雑なタテハケ後突 帯貼り付け。内面はタテハ ケ後ナデを重ねる。内面は ヘラ状の幅広い単位のハケ が施されたか。	
0027	残 胴部2 段破片 高 <16.2>	①前方部中 央(前面)② 1トレT- 20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		M1			円		9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯は下端の幅が広く しっかりした成形である。 内面はタテ方向にナデを施 している。	

前方部中央（前面）出土の円筒埴輪(3) (第85図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ ケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0028	残 胴部破 片 高 <8.2>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		三			円		10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ を施す。	
0029	残 胴部2 段破片 高 <8.2>	①前方部中 央(前面)② 1トレT- 20G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通		M2			円		12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯はシャープなつくり である。下段に透孔の一部 が残存する。内面は強い タッチでタテハケが施され ている。	
0030	残 胴部2 段破片 高 <8.9>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VIII	① B ② 赤褐5 YR4/8③普 通・普通		台1					8	外面タテハケ後上端の狭小 な突帯貼り付け。内面は下 位がヨコ方向のナデ、上位 はナナメハケを施す。	外面に黒色 の付着物あ り。
0031	残 胴部2 段破片 高 <5.7>	①前方部中 央(前面)② 1トレU- 20G	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通		M1			円		8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。上位段はその後二次的 にタテハケを施している。 内面はナナメハケ、ナデを 施す。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0032	残 基底部 ～胴部第2 段1/4 高 <21.6>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VIII	①B②にぶい 赤褐5YR4/4 ③良好・普通		M1	1 2.8 2 15.9 3 2.9	円	3 <2.3> <3.2>	9	器肉は全体に薄く基底部は 歪む。外面はタテハケ後突 帯貼り付け。第1段は底面 から2.5cmと低位置である。 内面は基部作製時の押圧痕 にナメタテハケを重ねる。	PL49
0033	残 基底部 ～胴部第2 段1/4 高 <13.9>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VIII	①A②灰5 Y4/1・にぶい 黄褐10YR5/ 4③良好・普通		M1	1 8.1 2 <10.3> 3 <3.7>	円		8	基底部を含め器肉は薄く、 底面近くに歪みが生じてい る。外面はタテハケ後突帯 貼り付け。胴部の2段は回 転を伴わない粗雑なヨコハ ケを重ねる。内面は下端に ナメハケを残す他は丁寧 なナデを施す。	PL49
0034	残 基底部 破片 高 <10.2>	①前方部中 央(前面)② 1トレR- 20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・やや硬質		台3	1.7			10	外面タテハケ後、底面間近 に突帯を貼り付ける。内面 は下位にナデを、上位にナ メヨコハケを施す。	
0035	残 基底部 破片 高 <8.7>	①前方部中 央(前面)② 1トレP- 20G	①A②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1	1.2			9	外面タテハケ後、底面に接 する位置に突帯を貼り付け る。内面はナデている。	
0036	残 頸部 朝顔 ～胴部破片 径 (18.0) 高 <14.0>	①前方部中 央(前面)② 1トレT- 20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1	1 <3.3> 2 8.6 3 <2.1>			12	肩部はあまり張らない。肩 部と口縁部下端の2条の突 帯が認められる。外面はタ テハケ、内面はナデを施す。	PL49
0037	残 胴部破 朝顔 片 高 <7.6>	①前方部中 央(前面)② 前方NT- VIII	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通				円		表 8・ 裏 22	内彎して立ち上がる。外面 はタテハケ。内面はナメ ヨコハケを施すが接合痕を 残す。	

前方部東北隅出土の円筒埴輪(1) (第86図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0038	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 口 (30.0) 高 <19.3>	①前方部東 北隅②拵3 T-23G	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>	台1	1 <4.3> 2 15.0	円		10	口縁部は緩やかに外反、口 縁先端は外側に粘土を貼り 付ける。内側には弱い稜がつ く、外面はタテハケ後突帯 を貼り付け、内面はナメ ハケ、下位はナデを施す。	PL49・69
0039	残 口縁部 ～胴部1段 破片 口 (30.4) 高 <17.6>	①前方部東 北隅②拵3 No.2・No.3	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	台2	1 <6.6> 2 11.0	円	1 <3.5> 7.2	10	口縁部の先端は幅狭く肥厚 する。以下外面はタテハケ 後突帯貼り付け。内面はナ メヨコハケを施す。	外面の一部 黒色みあり。 PL49
0040	残 口縁部 1/3 口 (32.0) 高 <9.5>	①前方部東 北隅②拵3	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					13	先端の外面は粘土を貼り肥 厚、器面にハケメを施す。 以下の外面はタテハケ、内 面はナメヨコハケ、単位 の細かい工具を用いている。	外面、ハケ メの上に横 位のヘラ描 きあり。 PL50
0041	残 基底部 1/3 底 25.2 高 <13.5>	①前方部東 北隅②拵3	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通						5	外面は単位の粗いタテハケ を施す。内面はナデにタテ ハケを加える。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔		形状	タテ	ヨコ			
0042	残 底部 ～胴部第2 段1/3 高 <27.1>	①前方部東 北隅②拡3 周堀	①B②橙7.5 YR6/8③普 通・普通		台1	1 2 3	2.8 17.1 <7.2>	円			11	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。第1突帯は底面間近 にめぐる。内面はハケメ、 上半にナデを施す。	器面は著し く磨滅して いる。 PL42
0043	残 底部 ～胴部第2 段1/2 底 (22.0) 高 <30.3>	①前方部東 北隅②拡 3、1号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2	1 2 3	8.7 12.8 <8.8>	円			15	外面タテハケ後ほぼ等間 隔に突帯を貼り付けたか。 内面は工具を強く押しつけ るようにナナメタテハケを 施す。	器面は粗れ ている。胴 部第1段に ヘラ描きあ り。 PL42
0044	残 口縁部 破片 高 <12.0>	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							6	口縁部の立ち上がりは長 く、緩やかに外反する。先 端は外側に粘土を厚く貼 る。器面は単位の粗いハケ で外面はタテ、内面はナ メ方向に調整する。	PL49
0045	残 口縁部 破片 高 <3.9>	①前方部東 北隅②前方 部東北端T	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>							10	先端は肥厚し、やや幅広 い面をもつ。先端は内外面 ともヨコナデ。内面はナ メハケ。	器面磨滅し ている。 PL50
0046	残 口縁部 破片 高 <6.8>	①前方部東 北隅②13ト レP-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>							9	先端の外面には粘土を貼 り肥厚させた状態が明瞭に 観察できる。器面の下半 にはヨコハケを残す。以 下の外面はタテハケ、内 面はナメヨコハケを施す。	内面に黒色 の付着物あ り。
0047	残 口縁部 ～胴部1段 破片 口 (36.0) 高 <12.3>	①前方部東 北隅②拡3	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>	台2	1 2	<3.3> 9.0	円			8	口縁部の先端は外側に粘 土の貼り付けが施される。 内側は短く屈折、端面の断 面形を圭頭状を呈する。外 面はタテハケ、内面はナ メヨコハケを施す。	PL49
0048	残 口縁部 破片 口 (32.6) 高 <10.6>	①前方部東 北隅②拡 3、1号埴 輪	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							5	先端は短く屈曲、外側は粘 土を貼り肥厚、器面をナ デている。以下外面はタ テハケ、内面はナメハケ を施す。	PL49
0049	残 口縁部 破片 高 <6.8>	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	①B②におい 赤褐5YR5/4 ③普通・普通	I							7	先端がナメ上方に向けて 立ち上がる。外面タテハ ケ、内面ナメハケを施す。	PL50
0050	残 口縁部 破片 高 <4.5>	①前方部東 北隅②13ト レQ-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>							15	先端の外面は幅広く粘土 を貼り肥厚させている。器 面は中位にヨコハケを施 す。	PL50
0051	残 口縁部 破片 高 <4.6>	①前方部東 北隅②12ト レS-24G	①B②におい 赤褐5YR5/4 ③普通・普通	I							10	端部はシャープに仕上げら れている。外面はナメヨ コハケ、内面はヨコハケ を施す。	朝顔形の口 縁部破片の 可能性もあ る。

前方部東北隅出土の円筒埴輪(2) (第87図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔		形状	タテ	ヨコ			
0052	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <13.3>	①前方部東 北隅②拡 3、3号埴 輪	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	I	三		7.9	円			14	外面タテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナデを 施す。	内面剝離著 しい。 PL49

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0053	残 口縁部 破片 高 < 6.9)	①前方部東 北隅②12ト レS-24G、 拡3	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	I					7	先端は外反して立ち上がる。全体に器肉は薄い。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	外面の一部 黒色みあり。 PL50
0054	残 口縁部 破片 高 < 6.6)	①前方部東 北隅②拡3 周堀	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通	I					11	端面は上縁の突出が顕著である。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。 PL50
0055	残 口縁部 破片 高 < 8.6)	①前方部東 北隅②拡 3、3号埴 輪	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	I					13	先端は強く外反、端面の上縁は突出する。外面タテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0056	残 口縁部 破片 高 < 6.9)	①前方部東 北隅②拡3	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	I					10	先端は内面に弱い稜をなす。外面はタテハケを施す。	器面やや磨 減している。 内面に ヘラ描きあり。
0057	残 口縁部 破片 高 < 4.7)	①前方部東 北隅②拡3	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通	I					11	先端は内側に稜をなしヨコナデを施す。以下外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0058	残 胴部2 段破片 高 < 15.8)	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	①B②赤褐5 YR4/8③普 通・普通		台1	12.3			8	上方に向かって外反する形状か。外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面にはヘラナデとナナメハケがみられる。	器面は剝離 が顕著である。
0059	残 胴部破 片 高 < 7.2)	①前方部東 北隅②拡3 No2、T- 23~24G	①B②におい 赤褐5YR5/ 4(表)、明赤褐 5YR5/6(裏) ③普通・普通		台2				8	外面タテハケ後上・下縁が丸みをおびた突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	
0060	残 胴部2 段1/3 破片 高 < 11.3)	①前方部東 北隅②13ト レQ-23G・ R-23G接 合	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1	1 < 7.7> 2 9.8	円	2 < 4.6> < 5.7>	9 12	作業単位を境に外形は大きく歪んでいる。外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	
0061	残 胴部2 段破片 高 < 15.0)	①前方部東 北隅②拡3	①B②橙5 YR6/6③不 良・普通、内 面還元状態		M1				9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケ、ナデを施す。	
0062	残 胴部2 段破片 高 < 20.7)	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	①B②におい 赤褐5YR5/4 ③良好・普通		台1		円		10	小径か。外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケ方向にハケメ、ナデを施す。	PL50
0063	残 胴部2 段破片 高 < 13.3)	①前方部東 北隅②拡3 周堀	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1		円		12	外面タテハケ後突帯を貼り付け。内面にはナナメハケとナデがみられる。	

前方部東北隅出土の円筒埴輪(3) (第88図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0064	残 胴部2 段破片 高 < 11.5)	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M1				9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はハケメをナナメタテハケ方向にナデ消している。	割れ口が磨 減している。
0065	残 胴部2 段破片 高 < 6.9)	①前方部東 北隅②前方 部東北端	①A、雲母粒 ②明赤褐5 YR5/6③良 好・普通		台2				14	外面ナナメハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向のナデ。	朝顔形の口 縁部破片の 可能性もある。

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ			
0066	残 胴部2 段破片 高 < 7.0	①前方部東 北隅②抔3	①B②にぶい 橙5YR6/4(表)、 にぶい黄橙10 YR7/4(裏) ③良好・普通		M 1				14	外面、細かい単位のタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は ナナメヨコハケを施す。	
0067	残 胴部2 段破片 高 < 8.8	①前方部東 北隅②抔3 周堀	① B ② 橙5 YR6/6(表)、 橙7.5YR7/6 (裏)③普通・ 普通		台 1				12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面にはハケメ、ナデ が認められる。	
0068	残 胴部3 段破片 高 < 25.0	①前方部東 北隅②抔3 周堀	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台 3	1 < 3.9 2 13.1 3 < 8.0	円		12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。一部にヨコハケ。内面 は大半がナデを施し一部に ハケメが残る。	外面に黒色 の付着物あり。 PL50
0069	残 胴部2 段破片 高 < 7.4	①前方部東 北隅②前方 部東北端	① A ② 橙5 YR6/8③普 通・普通		台 1		円		11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面ナナメハケ。	
0070	残 胴部2 段破片 高 < 9.8	①前方部東 北隅②抔3	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		M 2				12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメハケにナ デを重ねる。	
0071	残 胴部2 段破片 高 < 11.4	①前方部東 北隅②抔3	① B ② 橙5 YR6/6(表)、 にぶい赤褐5 YR5/4(裏) ③不良・普通、 還元状態		台 3		円		8	外面は粗い単位のタテハケ 後突帯を貼り付ける。内面 はタテ方向に粗雑なハケメ を施す。	
0072	残 胴部2 段破片 高 < 11.9	①前方部東 北隅②抔3	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台 1		円		8	外面タテハケ後、突出度の 低い突帯を貼り付ける。内 面はナナメタテハケを施 す。	
0073	残 胴部2 段破片 高 < 16.6	①前方部東 北隅②13ト レD-23G、 抔3	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・やや軟質		台 1	1 < 1.6 2 12.7 3 < 2.3	円		表 12 裏 7	外面はナナメタテハケ後突 帯を貼り付ける。内面は外 面と異なる工具でタテハケ を施す。一部にナデもみら れる。	器面は粗れ ている。 PL50
0074	残 胴部2 段破片 高 < 9.6	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通		台 2				11	外面はタテハケ後突帯を貼 り付け、その後二次的にヨ コハケを重ねる。内面はハ ケメか。	内面は粗れ ている。

前方部東北隅出土の円筒埴輪(4) (第89図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ			
0075	残 胴部2 段破片 高 < 9.4	①前方部東 北隅②抔3	① B ② 橙5 YR7/6③普 通・普通		台 3		円		12	外面は細かい単位のタテハ ケを施す。内面はナナメハ ケをまばらにナデ消す。	器面は磨滅 している。
0076	残 胴部2 段破片 高 < 7.5	①前方部東 北隅②抔3 No.2・No.3	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通		台 3				13	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はナデを施す。	
0077	残 口縁部 破片 高 < 7.6	①前方部東 北隅②13ト レR-23G	① B ② 橙5 YR7/6③不 良・軟質						10	外面はタテハケを施す。内 面はナナメタテハケを一部 ナデ消す。	外面にヘラ 描きあり。
0078	残 胴部2 段破片 高 < 15.0	①前方部東 北隅②抔3	① B ② 橙5 YR7/6③普 通・普通		三		円		10	内面は作業単位部分の接合 で大きくくいちがいを生じ ている。外面タテハケ後突 帯を貼り付ける。内面はタ テ方向の粗雑なハケメを施 す。	PL50

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテヨコ			
0079	残 胴部破片 高 < 5.8>	①前方部東北隅②拡3	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・普通					円	8	外面タテハケ、内面はナナメタテハケ、ナデを施す。	外面の一部黒色。外面にヘラ描きあり。PL73
0080	残 胴部2段破片 高 < 15.9>	①前方部東北隅②拡3	①B②にぶい橙2.5YR6/4③普通・普通、やや還元ぎみ		台3				6	外面は粗い単位のタテハケ後、突帯を貼り付ける。突帯は上下両縁とも丸みをおびる。内面はナナメ方向のハケメを施す。	
0081	残 胴部2段破片 高 < 8.1>	①前方部東北隅②拡3 周堀	① B ② 橙5 YR6/8(表)、橙5YR7/6(裏)③普通・普通		台2			円	12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。	磨滅している。
0082	残 胴部2段破片 高 < 13.3>	①前方部東北隅②拡3 T-23G	①B②黄橙7.5YR7/8(表)、橙7.5YR7/6(裏)③普通・普通		台1			円	16	外面は細かい単位のタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はハケメをナデ消している。	外面の一部にハケメの上に粘土塊をナデつけたところがある。
0083	残 底部部～胴部第1段破片 高 < 5.1>	①前方部東北隅②13トレR-23G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・普通		台2	2.5			7	外面はタテハケ後突帯を底面間近かの2.3cmの位置に貼り付ける。内面にはナデ、ハケを施す。	
0084	残 底部部～胴部第1段1/4 高 < 13.9>	①前方部東北隅②拡3、1号埴輪	①B②明赤褐2.5YR5/6③良好・普通		台2	1 11.2 2 < 2.7>			7	外面はタテハケ後上面の狭いきゃしゃな突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケ、ナデを施す。	PL50
0085	残 底部部～胴部第1段破片 高 < 9.4>	①前方部東北隅②前方部東北端T	① B ② 赤褐5 YR4/6③ 良好・普通		M2	6.5			14	外面タテハケ後底面から6.2cmに突帯を配す。内面はナナメ・タテ方向にナデを施す。	外面に黒色の付着物あり。PL50

前方部東北隅出土の円筒埴輪5) (第90図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテヨコ			
0086	残 底部部～胴部第1段 高 < 16.7>	①前方部東北隅②13トレR-23G	①B②明赤褐5YR5/8③普通・やや軟質		台1	14.3			8	器内は全体に薄い。外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面は下端にナデを残すが、これより上位はナナメタテハケを施す。	PL50
0087	残 底部部～胴部第1段破片 高 < 18.9>	①前方部東北隅②拡3 T-23G	①B②にぶい橙7.5YR6/4③不良・普通、還元状態		台2	13.2			5	外面は単位の粗いタテハケ後突帯を貼り付ける。内面は底面間近かに基部成形痕を残す。他はナナメタテハケを施す。底面の粘土板の重ねは右を上にする。	PL50
0088	残 底部部～胴部第2段破片 底 (21.0) 高 < 22.1>	①前方部東北隅②拡3	① B ② 橙5 YR6/6③ 普通・普通		台1	16.2			11	外面は調整はタテハケを施す。突帯は底面に接した第1段から3.0cmと間隔をあけて第2段をめぐらす。内面にはナデ、ナナメタテハケがみられる。	形象基底部か？ PL50
0089	残 底部部第1段破片 高 < 11.1>	①前方部東北隅②13トレQ-23G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普通・普通		台2	3.3			11	外面タテハケ後、底面間近か、3.5cmのところに突帯をめぐらす。内面はナナメタテハケを施す。	器内は粗れている。 PL50

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0090	残 基底部 破片 高 < 7.9>	①前方部東 北隅②垢3 No.3	①B、雲母粒 やや多い②橙 2.5YR6/6③ 普通・普通		三		1.9			13	外面はタテハケ後底面に接して突帯を貼り付ける。内面は下端に基部成形痕を残し、ナナメハケを施す。	
0091	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 13.9>	①前方部東 北隅②垢3	① B ② 橙 5 YR7/8・明黄 褐10 YR7/6 ③普通・普通、 一部還元状態		台2		4.5	円		11	底面の基肉は厚い。外面はタテハケ後底面から5.0cmの位置に突帯を貼り付ける。内面はナナメハケを施す。底面の粘土板の重ねは右を上にする。	PL50
0092	残 基底部 第1段破片 高 < 11.7>	①前方部東 北隅②垢3	① B ② 橙 5 YR7/8③ 普通・普通		三		2.8			8	外面タテハケ後、底面間近かに突帯を貼り付ける。内面にはナナメ方向のハケメを施す。	
0093	残 基底部 ～胴部第1 段1/3 高 < 11.0>	①前方部東 北隅②12ト レS-23・ S-24G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台1	1	4.8	円		10	外面タテハケ後底面から5.2cmの位置に突帯を貼り付ける。内面は下端に押圧痕、それ以上にはナデを施す。	突帯の一部に工具があたり形状が乱れている。
0094	残 口縁部 1/4 高 < 14.2>	①前方部東 北隅②前方 部東北端T I・II	① A ② 赤 褐 2.5 YR4/8・ 赤 褐5YR4/6 ③普通・普通							12	口縁部は大きく外方に立ち上がる。先端はナナメ上方に面を向け、シャープな稜をつくる。外面はタテハケ後ヨコハケを粗雑に重ねる。内面はヨコハケ・ナナメヨコハケを施す。	PL50

前方部東北隅出土の円筒埴輪(6) (第91図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0095	残 口縁部 ～胴部4段 2/3 口 30.8 高 < 46.3>	①前方部東 北隅②垢3 Q-23G	① B ② 橙 5 YR6/6③ 良 好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	台1	1 2 3 4 5	< 6.6> 12.5 14.1 13.3 13.5	円 1L 1R 3F 3B	— (5.4) 6.4 (5.2) 6.5 7.2 (6.0) (6.4)	9	口縁部は外反弱く筒状に立ち上がる。口縁部先端の外面は幅3.3cm程に他よりも広く肥厚している。突帯は比較的突出度が高いが、上辺の上下両端とも丸みをおびている。透孔は切り抜き後周縁をナデている部分もある。外面の調整はタテハケである。胴部内面はハケメを施す。	PL42・69・73 口縁部内面にヘラ描き。
0096	残 口縁部 ～胴部1段 破片 口 (33.0) 高 < 17.8>	①前方部東 北隅②垢3、 1ピットと 周堀接合	① B ② 橙 2.5 YR6/8③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	台1	1 2	< 7.2> 10.6			8	緩やかに立ち上がる口縁部の先端は外面に粘土を貼り肥厚させる。端面は上縁・下縁とも鋭利である。	PL42・69
0097	残 胴部4 段1/2 胴 (28.0) 高 < 34.6>	①前方部東 北隅②垢3 埴輪6、Q -23G、周 堀1ピット	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普通・普通		台1	1 2 3 4	< 4.1> 12.4 11.0 < 7.1>	円 2F 2B	6.2 (6.7) (6.1) (6.6)	8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。第2段目の突帯は断面三角形を呈する。内面は下～中位がナナメハケ、上位がナナメヨコハケを施す。	器面は粗れている。残存部第2段にハケメ後ひび割れを補う粘土を貼り付ける。 PL42
0098	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 < 11.0>	①前方部東 北隅②垢3 Q-23G	① B ② 橙 2.5 YR6/6③ 良 好・普通	I	台3		8.5			8	口縁部は緩やかに外反する。外面はタテハケ後突帯をシャープに貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	外面の一部黒色みをおびる。

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0099	残 胴部2 段1/4 高 <20.1>	①前方部東 北隅②拡 3、2ピッ ト	①B②橙2.5 YR6/8(表)、 黄灰2.5Y5/ 1(裏)③不 良・普通		台1			円	8	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。各段に透孔がみ られる。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0100	残 胴部2 段破片 高 <9.3>	①前方部東 北隅②拡 3、2ピッ ト	①B②暗灰黄 2.5Y5.2にぶい 褐7.5YR5/3 ③不良・軟質		M1				10	焼成が不良で還元状態を呈 する。外面はタテハケ後突 帯を貼り付ける。内面はナ デ、ナナメタテハケを施す。	

前方部東側出土の円筒埴輪(1) (第92図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0101	残 口縁部 ~胴部1段 1/3 口 (29.0) 高 <19.7>	①前方部東 側③トレ V-23・V -24G接合	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>	台1	1 <3.3> 2 16.4			9 ・ 12	口縁部は緩やかに外反して 立ち上がる。外面には粘土 を貼り付け器面にヨコハケ を施す。以下の外面はタテ ハケを、内面はナナメヨコ ハケを施す。	内面は磨滅 が著しい。 PL42
0102	残 口縁部 ~胴部1段 1/3 口 (34.6) 高 <17.0>	①前方部東 側④トレ X-23・X -24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	M2	1 <3.3> 2 13.7			12	口縁部は長く、先端は外面 が肥厚する。以下の外面は タテハケ、内面はナナメヨ コハケを施す。	内面は磨滅 著しい。 PL51
0103	残 胴部2 段1/3 径 (26.0) 高 <19.4>	①前方部東 側④トレ X-22・X -23G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台1	1 <8.2> 2 <11.2>	円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	外面は一部 に黒色みを おびる。内 面にヘラ描 きあり。 PL52・73
0104	残 胴部2 段1/4 高 <31.8>	①前方部東 側②前方E T-IV	①A②赤褐5 YR4/8③普 通・普通		台1	1 <1.2> 2 14.2 3 15.4 4 <1.0>			10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面ナナメタテハケ後 ナナメタテ方向にナデを重 ねる。	PL42
0105	残 胴部2 段1/3 径 (29.0) 高 <18.5>	①前方部東 側③トレ V-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1				10	外面のタテハケは乱れてお り、一部は突帯貼り付け後 にハケメを加え、再度ヨコ ナデを重ねている部分があ る。内面は弱いタッチのナ ナメハケを施す。	PL51
0106	残 胴部2 段1/2 径 (26.0) 高 <21.9> (図上復元)	①前方部東 側④トレ X-23G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2	1 <11.5> 2 <10.4>			9	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。二次的にヨコハケを 施す。内面はナナメタテハ ケ。下位はこれをナデ消す。	外面に黒色 の付着物あ り。外面に 線刻か。下 段胴部外面 にみられる ナデはひび 割れの補修 痕か？ PL52
0107	残 胴部2 段1/3 径 (25.6) 高 <16.0>	①前方部東 側④トレ X-23G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1	1 <10.6> 2 <5.4>	円		8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。透孔は各段に配さ れる。内面はナナメヨコハ ケを施す。	下段の透孔 に沿ってヘ ラ描きが施 される。 PL52



No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0108	残 胴部1/4 高 <14.1>	①前方部東側②3トレV-23G	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通		台1	1 11.2			表8・裏12	全体に器肉厚い。外面やや粗いタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケと一部ナデが重なる。		
0109	残 基底部 ～胴部第1 段1/4 底 (23.0) 高 <16.7>	①前方部東側②前方部東側ET-V	①B②赤褐5YR4/6③良好・普通		台2	1 2 <2.9>			表6・裏10	小径か。底面の状況から全体形状には大きな歪みが生じているか。外面は粗い単位のタテハケ後突帯貼り付け。内面はタテハケ後ナデを重ねる。	PL52	
0110	残 基底部 第1段1/3 底 (29.6) 高 <17.3>	①前方部東側②3トレV-23G	①B②明赤褐5YR5/8③普通・普通		M1	1 2 <7.6>			15	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はハケメをナナメタテ方向にナデ消す。		
0111	残 基底部 ～胴部第2 段1/2 底 (25.2) 高 <28.0>	①前方部東側②前方ET	①B②明赤褐5YR5/8・オリブ褐2.5Y4/3③普通・普通		台3	1 2 3 <7.2>	円	2	6.8 <5.8>	表14・裏6	基部が薄く造られたため、底面近くで歪みが生じている。外面の調整はタテハケ後突帯貼り付け。内面は底面間近くに粘土板作成時の工作台の圧痕が残る。胴部第1段内面まではナデと粗い単位のナナメハケ。胴部第2段は細かい単位のナナメタテハケ。	基底部外部にひび割れを補修したと考えられる粘土塊付着。 PL42
0112	残 基底部 ～胴部第1 段2/3 底 (23.6) 高 <14.1>	①前方部東側②4トレX-23G	①B②赤褐2.5YR4/8③普通・普通		M2		円		9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメ方向のナデ、ハケメを施す。下端に基部成形の痕跡を残す。	PL42	
0113	残 基底部 ～胴部第1 段1/2 底 (26.0) 高 <12.3>	①前方部東側②前方ET	①C②橙7.5YR6/8・灰オリブ7.5Y4/2③良好・普通、内面還元状態		台2	1 2 <7.6>	円		9	基部粘土板は底面の厚さ2.7cmと肉厚である。外面はタテハケ後底面から4.7cmに突帯を貼り付ける。内面はナナメハケ後ナデを重ねる。	PL52	
0114	残 基底部 ～胴部第1 段3/4 底 (23.4) 高 <20.2>	①前方部東側②4トレX-23G	①B②明赤褐5YR5/6③良好・普通		台1	1 2 <4.8>	円		7	外面タテハケ後、突帯貼り付け。下端の突帯は底面に接する位置にある。内面は基底部下半に基部作製時の押圧。ナデが残る。上半部～胴部はタテ方向のナデを施す。	器面に黒色の付着物あり。形象基台部の可能性もあるか。 PL42	
0115	残 基底部 ～胴部第1 段1/3 底 (25.6) 高 <15.0>	①前方部東側②4トレX-23G	①B②赤褐5YR4/8③普通・普通		台2	1 2 <3.6>			8・14	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケ、ナデを施す。	PL42	
0116	残 基底部 1/2 底 (25.0) 高 <15.3>	①前方部東側②3トレV-24・V-25G 接合	①B②橙7.5YR6/8・明黄褐10YR6/6③普通・普通		台1	1 13.7			9	形状は著しく歪んでいる。外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はタテ方向にナデを施す。	PL52	

前方部東側出土の円筒埴輪(2) (第93図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0117	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 高 <13.4>	①前方部東 側②3トレ V-21G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	M2	1 2	<2.4> 11.0	円		12	口縁部の先端は端部外面に突帯を貼り付けたように狭小に肥厚する。端面はくぼみ、上縁は強く突出する。外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。	PL51
0118	残 口縁部 破片 高 <8.5>	①前方部東 側②4トレ X-23G	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>						12	先端の外面はやや幅広に粘土を貼り肥厚させ、器面にヨコナデを施す。内面はナナメヨコハケを施す。	
0119	残 口縁部 破片 高 <8.2>	①前方部東 側②前方E T・前方E T-II	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						9	口縁部は短く、先端外面はタテハケ後粘土を貼り肥厚させる。肥厚部分とそれに対応する内面はヨコナデ。内面はナナメヨコハケ。	PL51
0120	残 口縁部 破片 高 <9.3>	①前方部東 側②4トレ X-23G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						11	先端の外面は粘土を貼り肥厚させる。外形もその部分でやや外反傾向にある。内面はハケメを施す。	PL51
0121	残 口縁部 破片 高 <9.2>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① A ② 橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						9	先端は外面がわずかに肥厚する。	器面はやや磨滅している。内面にヘラ描き1条。PL51
0122	残 口縁部 破片 高 <6.9>	①前方部東 側②前方E T	① B ② 明褐 7.5 YR5/6③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						7	先端は外面にタテハケ後粘土を薄く貼り肥厚させる。肥厚部分に強くヨコナデを施すため稜をなす。内面は幅広くヨコナデ。	
0123	残 口縁部 破片 高 <7.4>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① A ② 橙5 YR6/6③普 通・やや硬質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>						9	先端の外面は薄く粘土を貼り肥厚させる。器面はヨコ方向のナデを上半分だけナデ消している。ヨコハケは肥厚部分のやや下位までおよび以下はタテハケである。	
0124	残 口縁部 破片 高 <4.9>	①前方部東 側②前方E T-II	① A ② 明褐 7.5 YR5/6③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						13	先端は外面タテハケ後粘土を貼り肥厚させる。内面も先端はヨコナデ、以下にヨコハケを施す。	
0125	残 口縁部 破片 高 <7.7>	①前方部東 側②前方部 東側	① A ② 赤褐5 YR4/6③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						12	緩やかに外反する。先端は外面にタテハケ後粘土を貼り肥厚させる。肥厚部分はヨコハケ後上下両端をナデる。内面はナナメヨコハケ。	外面に黒色の付着物あり。 PL51
0126	残 口縁部 破片 高 <6.9>	①前方部東 側②前方E T	① A ② 明褐 7.5 YR5/6③ 普通・やや軟 質	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						12	先端は内側に弱い稜をつくり外反する。先端は内外面、ヨコハケ。以下は外面がタテハケ、内面がヨコハケ。	
0127	残 口縁部 破片 高 <6.0>	①前方部東 側②4トレ X-21G	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>						10	先端の外面は粘土を貼り肥厚し器面にヨコハケを施す。内面はナナメヨコハケである。	PL51

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ テ			
0128	残 口縁部 破片 高 < 5.2>	①前方部東 側②4トレ X-21G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端の外縁は幅広く粘土を 貼り肥厚する。端面の上縁 は突出する。	PL51
0129	残 口縁部 破片 高 < 4.1>	①前方部東 側②4トレ X-21G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					10	先端の外縁は粘土を貼り薄 く肥厚させる。器面にはハ ケメを施し、上下両端はナ デ消している。	
0130	残 口縁部 破片 高 < 4.8>	①前方部東 側②前方E T	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端は外縁に幅広く粘土を 貼り肥厚させ、これにヨコ ハケを重ねる。内面はナナ メヨコハケ。	
0131	残 口縁部 破片 高 < 3.9>	①前方部東 側②前方E T	①B②明赤褐 5YR5/6③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					18	先端は外縁にタテハケ後粘 土を貼り肥厚させその部分 をヨコナデする。内面はヨ コハケを施す。	
0132	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①前方部東 側②3トレ V-24G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					12	先端は端面がくぼみ、上 縁・下縁とも突出する。	
0133	残 口縁部 破片 高 < 5.8>	①前方部東 側②3トレ V-21G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					9	端面にくぼみ、下縁はつま まれたように突出する。外 面はタテハケ、内面ヨコハ ケを施す。器内は全体に薄 い。	
0134	残 口縁部 破片 高 < 6.3>	①前方部東 側②前方E T-IV	①A②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・やや軟質	I					14	先端は緩やかに外反して立 ち上がる。外面タテハケ、 内面ヨコハケを施す。	外面に黒色 の付着物あり。外面に ヘラ記号。 PL73
0135	残 口縁部 破片 高 < 5.0>	①前方部東 側②3トレ V-25G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					12	先端はやや外反して立ち上 がり下縁が強く突出、断面 三角形を呈する。外面はタ テハケ、内面はヨコハケを 施す。	
0136	残 口縁部 破片 高 < 5.4>	①前方部東 側②4トレ X-24G	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通	I					4	先端は端面の上縁が突出す る。外面はタテハケ、内面 はナナメヨコハケを施す。	
0137	残 口縁部 破片 高 < 4.7>	①前方部東 側②4トレ X-24G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					13	端面はややくぼむ。外面タ テハケ、内面ナナメヨコハ ケを施す。	
0138	残 口縁部 破片 高 < 4.0>	①前方部東 側②3トレ V-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	I					11	先端の端面は平坦である。	

前方部東側出土の円筒埴輪(3) (第94図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ テ				
0139	残 口縁部 ~胴部1段 1/4 高 < 18.3>	①前方部東 側②3トレ V-24G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I	台1	1 2 < 5.5>	12.8			11	口縁部は上半が外反して立 ち上がる。端面はくぼみ上・ 下縁ともややくぼむ。外面 はタテハケ後突帯貼り付け を行う。内面のハケメはナ ナメからナナメヨコ方向へ と変わり先端にいたる。	PL51

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0140	残 口縁部 破片 高 < 4.1)	①前方部東 側②3トレ V-23G	①B②赤褐5 YR4/6③不 良・やや軟質	I					12	緩やかに外反して立ち上がる。端面は平坦である。	
0141	残 胴部2 段破片 高 < 6.5)	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1			円	8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	
0142	残 胴部2 段破片 高 < 12.5)	①前方部東 側②4トレ X-23G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台2			円	5	外面粗い単位のタテハケ後突帯を貼り付ける。内面も外面と同じハケで調整する。	PL51
0143	残 胴部2 段破片 高 < 8.7)	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M3			円	9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケ、一部にナデを施す。	
0144	残 胴部2 段破片 高 < 8.1)	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②灰褐5 YR4/2③不 良・普通、還 元状態		M2			円	14	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	
0145	残 胴部破 片 高 < 6.6)	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1				16	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	
0146	残 口縁部 ~胴部2段 破片 高 < 26.4)	①前方部東 側②前方E T、ET- V	①B②赤褐5 YR4/6③良 好・普通		台3	1 < 7.4) 2 12.9 3 < 6.1)		円	10 ・ 14	胴部外面はタテハケ後幅の狭い工具によるヨコハケを施す。突帯貼り付けとヨコハケの前後関係は不明。口縁部は突帯貼り付け後タテハケを施す。ハケは胴部の内外面が同じ。口縁部は胴部と異なる工具で内外面を調整。内面は胴部がナナメタテハケ。口縁部がナナメハケ。	外面に黒色の付着物あり。 PL51・72
0147	残 胴部2 段破片 高 < 9.7)	①前方部東 側②4トレ X-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M2				11	外面タテハケ後波状のヨコハケを重ねる。内面はナデを施す。	
0148	残 胴部2 段1/4 高 < 11.2)	①前方部東 側②4トレ X-23・X -24G	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通		台2	1 < 6.3) 2 < 4.9)		円	9	外面はタテハケ後、幅広の工具でヨコハケを重ねる。ヨコハケと突帯貼り付けの前後関係は不明である。内面にはナナメハケを施す。	外面は各段にヘラ描きが施されている。 PL51
0149	残 胴部2 段破片 高 < 5.4)	①前方部東 側②4トレ X-22G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M2			円	10	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	

前方部東側出土の円筒埴輪(4) (第95図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0150	残 胴部2 段破片 高 < 14.2)	①前方部東 側②3トレ V-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M2			円	< 7.5) —	14	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はタテ方向にナデている。	PL51
0151	残 胴部2 段破片 高 < 8.9)	①前方部東 側②3トレ V-24G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台3					12	外面タテハケ後、突帯貼り付け。内面にはナナメハケを施す。	
0152	残 胴部2 段破片 高 < 8.2)	①前方部東 側②3トレ V-21G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M2			円		16	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケを一部タテ方向にナデ消す。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0153	残 胴部2 段破片 高 <17.3>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2			円	7	外面はタテハケ後ヨコハケ を重ねる。突帯貼り付けと の前後関係は不明である。 内面はナナメタテハケ、一 部はナデを施す。	PL52
0154	残 胴部破 片 高 <8.3>	①前方部東 側②3トレ V-24・V -25G 接合	①B②橙7.5 YR6/6(表)、 明褐7.5YR5/6 (裏)③普通・ やや軟質		台1			円	10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。上段に穿った透孔は小 径か。内面タテ方向にナデ る。	
0155	残 胴部3 段破片 高 <24.3>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		三 ・ 台1	1 <6.9> 2 12.0 3 <5.4>		半 円	9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面もタテハケを 施す。胴部2段目にみられ る透孔は円形の上位が歪み 不整円形になった残存部分 ともみられる。	PL51
0156	残 胴部破 片 高 <7.9>	①前方部東 側②前方E T	①B②赤褐5 YR4/6③良 好・普通		台2			円	15	外面タテハケ後、ヨコハケ。 内面は粗雑なタテハケ、ナ デ。	
0157	残 胴部破 片 高 <10.0>	①前方部東 側②3トレ V-25G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 不良・やや硬 質、断面内部 還元状態		台1				10	外面タテハケ後、幅狭い突 帯を貼り付ける。内面はタ テハケ後、これに粗雑なヘ ラナデを重ねる。	
0158	残 胴部3 段破片 高 <21.9>	①前方部東 側②前方E T	①A②明褐7. 5YR5/6③良 好・普通		台1	11.2		円	表 16 ・ 10 ・ 裏 10	残存部上位は弱く内彎ぎみ に立ち上がる。外面のタテ ハケは中段の中位を境に変 わる。内面はナナメヨコハ ケ。上位にはナデが施され る。	朝顔形か。 器面は磨滅 している。 外面にヘラ 記号。 PL51
0159	残 胴部2 段破片 高 <12.3>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1				8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	
0160	残 胴部破 片 高 <7.3>	①前方部東 側②前方E T	①B②褐7.5 YR4/6③良 好・普通		台1			円	16	器肉は厚い。外面はタテハ ケ後、ヨコハケを重ねる。 工具は右回りに動き、休止 痕が認められる。	

前方部東側出土の円筒埴輪(5) (第96図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0161	残 胴部2 段破片 高 <15.3>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1			円	7 ・ 14	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。内外のハケメ は異なる。	PL52
0162	残 胴部2 段破片 高 <9.5>	①前方部東 側②前方部 東側	①A②におい 黄褐10YR5/4・ 明褐7.5YR5/6 ③良好・普通		台2			円	14	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はヨコハケ後、タ テ方向のナデを重ねる。	
0163	残 胴部2 段破片 高 <13.2>	①前方部東 側②前方E T-III・前 方E T-V	①A②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2				14	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はヨコハケを施す。	残存上位は 口縁の可能 性ありか。 PL51
0164	残 胴部3 段破片 高 <18.6>	①前方部東 側②4トレ X-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台3	9.8		円	14 ・ 11	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。ハケメは最下位 と上位2段で工具が異なる。 内面はナナメタテハケ を施す。	PL52

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0165	残 胴部2 段破片 高 <15.2>	①前方部東 側②3トレ V-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M2					14	外面は一部にタテハケ後ヨコハケを重ねている。内面はナナメハケを施すが粘土紐の接合痕を残す。	PL52
0166	残 胴部2 段破片 高 <12.2>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2			円		9	外面ナナメタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	残存上位は口縁部か。外面にヘラ描きがある。PL51・73
0167	残 胴部3 段1/3 高 <17.7>	①前方部東 側②前方E T-III・IV	①B②明赤褐 5YR5/6・明 赤褐5YR5/8 ③普通・普通		M2	1 < 2.5> 2 11.2 3 4.0		円		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケ。各段に透孔が配されている。	最上段内面にヘラ記号がある。PL51
0168	残 胴部2 段破片 高 <11.8>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②橙7.5 YR6/6・灰オ リーブ5Y5/3 ③不良・普通、 やや還元状態		台3			円		9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。突帯の縁はやや丸みをおびている。内面はナデを施す。	
0169	残 胴部2 段破片 高 < 9.3>	①前方部東 側②3トレ V-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M2			円		12	外面タテハケ後突帯をやや粗雑に貼り付ける。内面はナナメハケを施す。	外面黒色みをおびる。
0170	残 胴部2 段破片 高 < 7.9>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2			円		8	外面はタテハケ後上幅の狭い突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	
0171	残 胴部2 段破片 高 < 6.6>	①前方部東 側②3トレ V-26G	①B②にぶい 橙5YR6/ 4(表)、にぶい 赤褐5YR5/ 4(裏)③普 通・普通、や や還元状態		M3			円		14	外面、単位の細かいタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。	
0172	残 胴部2 段破片 高 < 9.4>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2			円		9	外面タテハケ後幅の狭い突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	器面の一部に黒色みあり。PL52

前方部東側出土の円筒埴輪(6) (第97図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0173	残 胴部2 段 高 <11.2>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台3					14	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	
0174	残 胴部破 片 高 <12.3>	①前方部東 側②3トレ V-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・やや硬質		台1					12	径が小さく形象の基台部か。外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケを施す。	外面の一部に黒色の付着物あり。
0175	残 胴部2 段破片 高 <10.2>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台3			円		12	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	
0176	残 胴部破 片 高 <10.9>	①前方部東 側②4トレ X-23G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1					9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	
0177	残 胴部2 段破片 高 <10.8>	①前方部東 側②前方部 E・T・東側	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・普通		台2			円		10 14	外面はタテハケ後ヨコハケを粗雑に重ねる。突帯は上辺の幅が狭小の断面形状を呈する。内面はナデ後ナナメハケ・ヨコハケを施す。	外面に黒色の付着物あり。

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0178	残 胴部2 段破片 高 <11.1>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		台2			円		4	外面は単位の粗いタテハケ 後、突出の明瞭な突帯を貼 り付ける。内面はタテハケ を施す。	PL52
0179	残 胴部破 片 高 <8.1>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1					8	外面タテハケ後突帯を シャープに貼り付ける。内 面はナナメハケ後一部をナ デる。	
0180	残 胴部2 段破片 高 <11.6>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②にぶい 黄褐10YR6/ 4③普通・普 通、やや還元 ぎみ		台2			円		13	外面タテハケ後、幅狭い突 帯を貼り付ける。内面はナ ナメタテハケを施す。	
0181	残 胴部2 段破片 高 <11.7>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台3			円		7	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0182	残 胴部2 段破片 高 <12.3>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②橙7.5 YR6/8③普 通・普通		M2			円		7	外面タテハケ後突出度の低 く、下端の広い突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0183	残 胴部破 片 高 <5.3>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通							8	外面タテハケ後ヨコハケを 重ねる。内面はナナメハケ を施す。	外面にヘラ 描きあり。 PL51
0184	残 胴部破 片 高 <4.5>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通							11	外面タテハケ、内面はナナ メタテハケを施す。	形象か。外 面にヘラ描 きが2条あ る。PL73
0185	残 胴部破 片 高 <6.2>	①前方部東 側②3トレ V-23G	①A②橙7.5 YR6/6③普 通・普通							13	外面タテハケ、内面ナナメ ハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。
0186	残 胴部破 片 高 <3.9>	①前方部東 側②4トレ X-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通							9	内外面ともハケメを施す。	形象か。外 面にヘラ描 きあり。
0187	残 胴部破 片 高 <6.8>	①前方部東 側②4トレ X-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通					円		9	外面タテハケ、内面ナデを 施す。	外面にヘラ 描きあり。
0188	残 胴部破 片 高 <8.9>	①前方部東 側②前方E T-VI	①A②明褐7. 5YR5/6③普 通・やや軟質		台1					8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面粗雑なナナメハケ。	外面にヘラ 記号あり。 PL51
0189	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <11.2>	①前方部東 側②4トレ X-21G	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通		台1	3.1				8	外面タテハケ後底面から2. 7cmの位置に突帯を貼り付 ける。内面はナナメタテハ ケを施す。下端には基部成 形痕を残す。	
0190	残 底部 破片 高 <11.8>	①前方部東 側②3トレ V-23G	①A②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2	10.5				12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はタテ方向にナデ を施すが下端に基部成形時 の作業台の圧痕が残存す る。	器面は磨滅 が著しい。
0191	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <14.8>	①前方部東 側・前方部 墳頂部②4 トレX-20 ・X-21G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通		M2	11.6				14	外面タテハケ後底面から 11.0cmに突帯を貼り付け る。内面はナナメタテハケ 、ナデを施す。	PL52
0192	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <8.4>	①前方部東 側②前方E T-I	①B②赤褐5 YR4/6③良 好・普通		台2	1	2.1	円		12	外面タテハケ後底面に接し て突帯貼り付け。内面には 基部粘土板作製時の押圧に ナデを重ねる。	形象埴輪の 基部の可能 性がある。 PL52

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
0193	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 8.1>	①前方部東 側②前方E T	①B②明褐7. 5YR5/6③普 通・やや軟質		台2		2.9				10	外面タテハケ後底面に接し て突帯貼り付け。内面はナ デを施す。	磨滅してい る。
0194	残 口縁部 破片 高 < 7.5>	①前方部東 側②前方E T	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		不明						12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。タテハケにヨコハケを 重ね更に一部タテハケが施 される。内面ヨコハケを施 す。	接合痕顕著 にみられ る。

くびれ部東側出土の円筒埴輪(1) (第98図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
0195	残 上半部 1/2欠損 口 32.2 底 25.3 高 77.7	①くびれ部 東側②拡 4、5・6 号埴輪、17 トレ	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・硬質	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	台2	1 2 3 4 5 6	16.4 13.1 13.9 13.5 12.8 8.0	長 円 形	2F 2B 3L 3R 4F 4B 5L 5R	6.6 (5.3) 5.9 (4.9) (6.4) — (6.0) — (6.2) — — (6.1) — —	13 ・ 5	口縁部は先端が外反して立 ち上がり、外面に肥厚する。 突帯は突出度が高い断面台 形であるが第5突帯のみ下 縁の幅が狭い。外面の調整 はタテハケであるが、基底 部とそれより上位では明ら かに工具が異なる。内面の 調整はタテ方向に粗いハケ メをくり返している。	器面に黒色 の付着物あ り。胴部第 4段外面に ヘラ記号。 P L 4 3 ・ 70～72
0196	残 2/3 口 (33.0) 底 (29.2) 高 78.7	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪、中段、 下段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通	I	M2	1 2 3 4 5 6	(14.4) 13.5 (12.7) (13.5) 15.7 8.9	円	2L 2R 3F 3B 4L 4R 5F 5B	— — (6.7) — (6.7) — — (6.6) (6.9) — 7.5 6.0 6.8 (6.4)	8	口縁部は短く、先端が外反 して立ち上がる。突帯は突 出度が高い。外面調整のタ テハケは同一部分に複数回 施されている。	同一個体と 考えられる 複数の破片 から復元し た。器面に 黒色の付着 あり。 PL43
0197	残 口縁部 ～基底部1/ 2 口 27.4 底 23.4 高 61.9	①くびれ部 東側②5ト レ Y-24・Y -26G、拡4	①A、粗砂② 橙7.5YR6/6 ③良好・硬質	I	台2	1 2 3 4 5	6.8 15.1 15.1 12.4 12.6	長 円 形	2L 2R 3F 3B 4L 4R	6.9 5.5 — — 7.0 5.0 — 6.4 5.5 (6.1) (6.1)	5	底面を基準に復元したの で、口縁部の先端は外反し て、外側に強い稜をなす。 器形が一方に傾倒してい る。突帯の突出は明瞭であ るが上端の幅は狭い。最下 段は低位置である。外面の 調整は粗い単位のタテハケ である。4条突帯5段構成 で形状の復元できたものは この資料だけである。	胴部第3段 にヘラ記号 がある。 PL43・72 胎土分析試 料。



No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0198	残 口縁部 ～胴部3段 口 31.6 高 <41.7>	①くびれ部 東側・前方 部墳頂部② 拡4、3・ 6号埴輪、 Z-14・20 ・22G	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・硬質	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>	M1	1 <5.0> 2 14.4 3 12.1 4 10.2	円	1R — — 2L (6.2) (5.9) 2R (6.9) (6.9) 3F 6.2 (6.4) 3B — (6.1)	14	口縁部は外側に厚く肥厚する。突帯は上端の突出が強い。貼り付けは下端のナデツケが弱く接合痕が明瞭に残る。外面の調整は口縁部の肥厚部分がヨコハケの他はタテハケを施している。内面はハケメを施し、部分的にナデを重ねる。	胴部外面に ヘラ記号あり。 PL42・70
0199	残 口縁部 ～胴部3段 1/2 口 (26.8) 高 <44.8>	①くびれ部 東側②拡 4、4号・ 6号埴輪	①A②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	台1	1 <4.9> 2 12.5 3 17.0 4 10.4	円	2L — — 2R (6.6) (6.8) 3F (3.9) (4.1) 3B (4.6) (5.1)	8	口縁部は短く、緩やかに外反して立ち上がる。先端は外側に粘土を貼り肥厚させ器面をヨコナデする。胴部はタテハケ後突帯を貼り付けるが各段の間隔は著しく異なる。内面はナデとナナメハケが混在する。	PL42・70
0200	残 口縁部 ～胴部3段 口 34.7 高 <36.2>	①くびれ部 東側②拡 4、5～7 号埴輪、中 段・下段	①B、赤色粘 土粒②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	I	M2	1 <5.3> 2 11.3 3 11.0 4 8.6	長 円 形	2L (6.6) (6.5) 2R (7.9) (6.9) 3F 8.7 (6.0) 3B 6.9 5.8	13	口縁部はその下の胴部から徐々に外反して立ち上がる。外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面は胴部にナナメハケを施し部分的に間隔をあけてヨコハケ・タテハケを重ねている。口縁部はヨコハケである。	PL42・69

くびれ部東側出土の円筒埴輪(2) (第99図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0201	残 口縁部 ～胴部1段 1/3 口 (32.4) 高 <22.4>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	台1	1 <12.0> 2 10.4	円	1 (7.7) 6.7	15	口縁部は短く緩やかに外反する。先端は外面が肥厚する。外面の調整はタテハケ、胴部は一部にヨコハケを重ねる。内面はナナメヨコハケを施す。	外面、透孔 の右側にヘ ラ描きあり。 PL43・69・ 73
0202	残 胴部2 段1/2 高 <14.8>	①くびれ部 東側②拡 4、2・3 号埴輪中段	①A②橙5 YR6/6③普 通・普通		台1	1 <2.9> 2 <11.9>	円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケを施す。	PL44
0203	残 胴部2 段破片 高 <20.4>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪中段	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2	1 <4.5> 2 14.3 3 <1.6>	円		7	外面はタテハケ後ヨコハケを施す。ヨコハケと突帯貼り付けの前後関係は不明である。内面はナナメタテハケを施す。	PL54
0204	残 胴部3 段1/2 高 <24.2>	①くびれ部 東側②拡 4、2号埴 輪周堀	①B②赤褐2. 5YR4/8③良 好・普通		台2	1 <6.9> 2 11.9 3 <5.4>	円		14 ・ 8	外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。最下段にのみヨコハケが重ねられる。内面は下半にはナデが、上半にはナナメヨコハケがみられる。	残存部最上 段外面にヘ ラ描きあり。 PL43

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0205	残 胴部3 段1/3~1/2 径 (24.0) 高 <29.4>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G、 拡4、2号 植輪接合	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・普通	台1 ・ M1	1 2 3 4	<8.0> 9.5 10.0 <1.9>	円	2	4.1 4.9	10	外面タテハケ後突出度の弱い突帯をめぐらす。内面はタテハケにナデを重ねている。	器面の一部に黒色みあり。残存部第1突帯の内面には外側から工具によって刺突された痕跡が4箇所みられる。外面はハケメが施されそれらに対応する痕跡は消されている。 PL43・71
0206	残 胴部3 段1/3 径 (29.0) 高 <25.3>	①くびれ部 東側②17ト レ4層	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	台1	1 2 3	<11.3> 11.7 <2.3>	円			9	外面はタテハケ後ヨコハケを粗雑に重ね、その後に突帯を貼り付けたか。突帯は幅が狭くしゃしゃである。内面にはナナメハケ・ナナメヨコハケが施される。	外面の一部に黒色みあり。 PL54・72
0207	残 胴部3 段1/3 径 (29.0) 高 <25.9>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G、拡4	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通	M2	1 2 3	<6.9> 12.2 <6.8>	円			9	外面はタテハケ後突帯貼り付けを施す。ハケメは残存部下・中段と上段で異なる。内面は下段にナデを残す他はナナメハケを施す。	中段外面にヘラ描きあり。 PL43
0208	残 胴部3 段1/3 径 (26.0) 高 <24.2>	①くびれ部 東側②17ト レ4層	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・やや軟質	台3	1 2 3	<1.7> 10.5 <12.0>	円	2	(6.0) (6.6)	9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面は中位にナデを、他はナナメハケを施す。	器面はやや粗れている。 PL53
0209	残 胴部3 段1/3 高 <24.5>	①くびれ部 東側②拡4 中段、周堀	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	M2	1 2 3 4	<1.1> 11.3 7.5 <4.6>	円			8	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケに一部ナデを重ねるが、接合痕を多く残している。	PL53
0210	残 胴部4 段2/3 高 <34.2>	①くびれ部 東側②拡4、 6号植輪、 17トレ	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	台1	1 2 3 4	<8.7> 11.6 11.7 <2.2>	円	2L	(4.2) 4.5	14	外面タテハケ後突帯貼り付け。突帯は強く突出する。内面の最下段はナナメハケ。その他はタテ方向にナデを。	PL43
0211	残 胴部2 段1/3 径 (24.0) 高 <18.5>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②赤褐2. 5YR4/8③普 通・普通	台2	1 2 3	<7.5> 10.3 <0.9>	円			8	外面はやや粗い単位のタテハケ後突帯貼り付け。突帯は上下端とも幅狭く、一部は断面三角形を呈する部分もある。内面はナナメヨコハケを施すが接合痕を残す。	器面の一部が黒色みをおびる。 PL43
0212	残 胴部2 段1/3 高 <14.3>	①くびれ部 東側②拡4、 4号植輪・ 中段、 11トレ	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通、 内面還元状態	M2	1 2	<8.9> <5.4>	円			8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。一部にナデを重ねる。	PL44
0213	残 底部 ~胴部第3 段1/2 底 (26.6) 高 <38.5>	①くびれ部 東側②拡4、 6号植輪 中段	①A②灰褐7.5 YR6/2・にぶ い褐7.5YR6/3 ③普通・普通、 還元状態	M2	1 2 3 4	12.8 11.7 11.5 <2.5>	円	3	(5.9) 6.3	11	外面タテハケ後突出度の弱い突帯を貼り付け。内面は下端に基部粘土板作製時の工作台の圧痕が残る他はタテ方向にナデを施す。	PL42・72

くびれ部東側出土の円筒埴輪(3) (第100図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0214	残 基底部 ～胴部第4 段3/4 底 26.3 高 <53.1>	①くびれ部 東側②拡 4、6・7 号埴輪・中 段、11・17 トレ	①B②橙5 YR6/6・褐灰 5YR5/1③良 好・普通		M2	1 9.2 2 12.8 3 11.6 4 13.0 5 <6.5>	円	3F 6.2 (5.9) 3B (5.3) (4.8) 4L (7.1) (5.5) 4R (9.0) (5.6) 5F (6.0) (5.5) 5B — —	12	突帯の突出度は低く扁平である。突帯貼り付けはタテハケ後であるが、第3突帯だけは2次調整が加えられている。内面はタテ方向にナデとハケメを重ねる。	焼きむらで 内外面に還元状態を呈する部分がある。 PL43・72	
0215	残 基底部 ～胴部第2 段1/2 底 (24.8) 高 <30.7>	①くびれ部 東側②17ト レ4層	①A②橙5 YR6/6③良 好・普通、やや 還元ぎみ		台1	1 15.1 2 13.1 3 <2.5>	円		8 ・ 14	外面はタテハケ後突帯貼り付け。基底部と基底部上半から胴部のハケの工具が異なる。内面は各作業工程ごとにナメハケを施し、部分的にナデを重ねる。	PL42・72	
0216	残 基底部 ～胴部第3 段1/3 底 (27.1) 高 <35.0>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22・ 23G	①B②にぶい 赤褐2.5YR5/4 (表)、赤褐5 YR4/8(裏) ③良好・普通		台1	1 8.7 2 11.0 3 11.7 4 <3.6>	円	3 (5.7) (6.0)	13 ・ 8	外面タテハケ後突帯貼り付け。基底部と胴部の工具が異なる。(内面もこれに対応する。)内面はヨコナメハケ、あるいはナメハケを施す。	器面に黒色の の付着物あり。 第1突帯・第2突帯に工具の ふれた箇所 があり形状 が乱れている。 PL44	
0217	残 基底部 ～胴部第2 段2/3 底 (24.3) 高 <32.5>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G・拡4、 4号・6号 埴輪	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台2	1 14.0 2 13.1 3 <5.4>			14 ・ 9	基底部外面はタテハケ後突帯貼り付け。胴部の2段はタテハケ後二次的にヨコハケを重ねる。突帯貼り付け後のナデとの前後関係は不明瞭である。	器面に黒色の の付着物あり。 PL44	
0218	残 基底部 ～胴部第2 段1/3 底 (27.6) 高 <30.8>	①くびれ部 東側②拡 4、11トレ、 Z-23G	①A②にぶい 赤褐2.5YR5/4 ③普通・普通		台1	1 13.3 2 14.9 3 <2.6>	円	2F 6.6 <3.6>	9	基底部は幅広い。外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメタテハケを施す。	器面に黒色の の付着物あり。 PL43	
0219	残 基底部 ～胴部第2 段1/2 底 (28.2) 高 <25.9>	①くびれ部 東側②拡4 中段・下段	①A②明赤褐 5YR5/6(表)、 赤褐5YR4/ 6(裏)③普 通・普通		台2	1 2.4 2 16.6 3 <6.9>	円		10	外面はタテハケ後突帯貼り付け。第1突帯は底面に接して配されている。内面は下端に基部粘土板作製の押圧痕を残す他はナメヨコハケが配される。	器面に黒色の の付着物あり。 PL43	
0220	残 基底部 ～胴部第1 段 底 (25.5) 高 <16.4>	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	①B、雲母や や多い②橙5 YR6/8③良 好・普通		台1	1 9.2 2 <7.2>			表 9 ・ 裏 6	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面には基部粘土板作製の木目痕、押圧痕を残す。その上に粗い単位のナメハケを重ねる。	PL43	
0221	残 基底部 3/4 底 (23.0) 高 <10.4>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR3/6③良 好・普通						14	外面タテハケ、残存部上端にヨコハケがみられ、接して突帯が配置されたと考えられる。内面はナメヨコハケを施す。下端に基部成形時の痕跡あり。	外面の一部 は黒色みを おびる。 PL44・72	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ	ヨ コ			
0222	残 底部部 ～胴部第2 段1/2 底 (25.0) 高 <18.8>	①くびれ部 東側②拡 4、7号埴 輪	①A②赤褐5 YR4/6③普 通・普通		台2	1 2.9 2 11.8 3 <4.1>	円			10	器形は歪んでいるか。外面はタテハケ後、突帯貼り付け。第1段は底面に接する低位置突帯である。内面は基底部の底面間近からタテハケを施す。胴部第2段にはナデを加える。	器面に黒色の付着物あり。胴部外面にヘラ状工具による刺突痕がある。PL43・71
0223	残 口縁部 破片 高 <5.6>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						16	先端は外面に粘土を貼り付け器面にヨコハケを施す。内面は稜をなす。	
0224	残 口縁部 破片 高 <7.9>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						9	先端の外面には粘土を薄く貼り肥厚させる。以外の外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0225	残 口縁部 破片 高 <6.4>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						8	先端の外面は厚く肥厚する。器面にはナデを施す。以下の外面にはタテハケを、内面にはナナメヨコハケを施す。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(4) (第101図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ	ヨ コ			
0226	残 口縁部 破片 高 <11.8>	①くびれ部 東側②拡 4、7号埴 輪	①B②赤褐5 YR4/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>						9	先端は大きく外反、外面は粘土を貼って肥厚する。器面はヨコハケにナデを重ねる。	外面の一部は黒色みをおびる。PL52
0227	残 口縁部 破片 高 <4.6>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						12	先端の外面は粘土を貼り厚く肥厚する。器面にはヨコハケが施される。以下外面はタテハケ、内面にはナナメヨコハケが施される。	PL69
0228	残 口縁部 破片 高 <4.4>	①くびれ部 東側②17ト レ5区	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						12	先端の外面は粘土を貼り肥厚させ、器面にはヨコハケを施す。内面はナナメヨコハケである。	
0229	残 口縁部 破片 高 <8.6>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪、17トレ	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>						13	先端は外面が薄く肥厚、器面はヨコハケ後ナデを重ねる、内面には稜がつけられる。先端以下は外面がタテハケ、内面がナナメヨコハケを施す。	PL52
0230	残 口縁部 破片 高 <3.8>	①くびれ部 東側②11ト レZ-22G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>						15	先端の外面には粘土を貼り肥厚させる。器面はヨコハケにナデを重ねる。	内面還元状態。

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0231	残 口縁部 破片 高 <12.2>	①くびれ部 東側①7ト レ	①B②赤褐5 YR4/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					9	口縁部は長く、先端の外 面は粘土を貼り肥厚、こ のため先端が屈曲し外反 しているようである。器 面は中位にヨコハケを 施す。以外外面はヨコ ハケ、内面はナナメヨ コハケを施す。	内面に3条のヘラ描 き。外面の一部に黒 色みあり。 PL53・73
0232	残 口縁部 破片 高 <8.5>	①くびれ部 東側②拡4	①B②明赤褐 5YR5/6③ 不 良・普通、還 元状態	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>					9	外面の先端はやや幅 広く粘土を貼り肥厚す る。器面はヨコハケを 上下端でナデ消してい る。	
0233	残 口縁部 破片 高 <11.1>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>	台1		9.8		11	外面は先端が肥厚す る。器面はヨコハケに ナデを重ねている。	PL53
0234	残 口縁部 破片 高 <8.7>	①くびれ部 東側② 拡 4、6号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/6③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					12	先端は外面が幅狭く 肥厚する。以下の外面 はタテハケ、内面は ヨコハケを施す。	外面の一部 黒色みをお びる。
0235	残 口縁部 破片 高 <9.7>	①くびれ部 東側①7ト レ5区	①B②明赤褐 5YR5/6・橙 7.5YR6/6③ 普通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					16	先端の外面はやや幅 広く粘土を貼り肥厚さ せる。器面にはヨコハ ケを施す。以下の外面 はタテハケ、内面は ナナメハケを施す。	PL53
0236	残 口縁部 破片 高 <10.0>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					9	外面の先端は幅広く 、厚く肥厚する。器面 にはヨコハケを施す。 以下外面はタテハケ、 内面はヨコハケ・ナ ナメヨコハケを施す。	PL53・69
0237	残 口縁部 破片 高 <4.2>	①くびれ部 東側② 拡 4、6号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	先端は外面が肥厚す る。	器面は磨滅 している。
0238	残 口縁部 破片 高 <8.8>	①くびれ部 東側② 拡 4、6号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					14	先端は外反、外面は 薄く肥厚し、器面をナ デる。以下の外面は上 から下方向へナナメ タテハケを施す。内 面はナナメヨコハケ がみられる。	
0239	残 口縁部 破片 高 <5.9>	①くびれ部 東側②5ト レY-23G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	先端外面は粘土帯を 貼り肥厚させる。内面 はヨコハケ・ナナメヨ コハケを施す。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(5) (第102図)

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0240	残 口縁部 破片 高 <5.5>	①くびれ部 東側②拡4 下段	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					10	外面の先端は粘土を 貼り肥厚する。以下の 外面にはタテハケ、内 面は端面上縁までヨ コハケが施される。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0241	残 口縁部 破片 高 <11.0>	①くびれ部 東側② 拡 4、1号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					14	外面の先端は粘土を貼り付 け断面半円状に肥厚する。 以下の外面はタテハケを施 した上に帯状に2段、ヨコ ハケが施される。内面はナ ナメヨコハケを施す。	PL52
0242	残 口縁部 破片 高 <5.2>	①くびれ部 東側② 拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					8	先端の外面は極わずかに肥 厚、ヨコハケが施される。 以下にはタテハケが加えら れる。内面にはナナメヨコ ハケがみられる。	
0243	残 口縁部 破片 高 <7.1>	①くびれ部 東側② 拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					7	外面の先端は厚く肥厚、ヨ コハケを施す。以下はタテ ハケ、内面はナデを施す。	
0244	残 口縁部 破片 高 <5.3>	①くびれ部 東側② 拡 4、2号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>					14 ・ 10	先端は外面が薄く肥厚す る。端面はくぼみ、上縁・ 下縁ともシャープにつくら れている。	
0245	残 口縁部 破片 高 <6.5>	①くびれ部 東側②11ト レZ-22G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					9	先端は外側に粘土を貼り肥 厚させる。肥厚部の下端は 強いヨコナデのため屈曲し たようにみえる。内面は幅 広くヨコナデを施す。	
0246	残 口縁部 破片 高 <4.2>	①くびれ部 東側②17ト レ3区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					14 ・ 18	先端の外面は幅狭く粘土を 貼り付け肥厚させる。器面 にはヨコハケを施す。以下 の外面にはタテハケ、内面 にはヨコハケを施す。	
0247	残 口縁部 破片 高 <5.2>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					9	先端はやや強く外反する か。外面は幅狭く肥厚、器 面をナデている。以下の外 面はタテハケ、内面はヨコ ハケを施す。	
0248	残 口縁部 破片 高 <4.0>	①くびれ部 東側②17ト レ2 A-23 G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	先端の外面は粘土を貼り肥 厚させる。器面にはハケメ を残す。以下の外面はタテ ハケ、内面はナナメヨコハ ケを施す。	
0249	残 口縁部 破片 高 <6.1>	①くびれ部 東側②11ト レZ-24G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					14	先端は外側に粘土を貼り肥 厚させる。内側は明瞭な稜 をつくる。	器面の剝 離、磨滅顕 著。
0250	残 口縁部 破片 高 <6.1>	①くびれ部 東側② 拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					14	先端は弱く外反、外面は粘 土を貼り肥厚する。内面は 端面上縁までヨコハケ・ナ ナメヨコハケを施す。	
0251	残 口縁部 破片 高 <5.3>	①くびれ部 東側② 拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					11	先端は強く外反する。外面 には粘土を貼り肥厚し、ヨ コハケを施す。内面にはナ デを施す。	

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテ ヨコ			
0252	残 口縁部 破片 高 < 4.6>	①くびれ部 東側②11ト レZ-23G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>3</sub> E <sub>2</sub>					8	先端は短い、強く外側に 屈曲する。	
0253	残 口縁部 破片 高 < 6.0>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					13	外面の先端は粘土を貼り肥 厚する。器面にはナデを施 す。内面も幅広くナデが施 される。	PL53
0254	残 口縁部 破片 高 < 6.3>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					9	先端の外面は弱く肥厚す る。内面は稜をなし、以下 にヨコハケを施す。	
0255	残 口縁部 破片 高 < 5.7>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>					8	先端の外面は粘土を貼り付 け肥厚する。器面はヨコハ ケを施しナデを重ねてい る。以下の外面はタテハケ を、内面はナデを施す。	
0256	残 口縁部 破片 高 < 7.1>	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	先端外面の貼り付けは幅狭 いが厚い。器面はナデを施 す。内面は端面上縁間近ま でハケを施す。	PL53
0257	残 口縁部 破片 高 < 5.0>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	外面の先端は粘土を貼り薄 く肥厚させている。端面の 上縁はやや突出する。内面 にはナナメヨコハケを施 す。	
0258	残 口縁部 破片 高 < 9.6>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 良 好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>4</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					7	外面先端の肥厚部分はヨコ ナデのため中位でくぼむ。 以下の外面はタテハケ後一 部にヨコハケを重ねる。内 面は先端間近に稜をなし、 以下にナナメヨコハケが施 される。	
0259	残 口縁部 破片 高 < 7.5>	①くびれ部 東側②拡4 下段	① B ② 橙5 YR6/8③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					9	外面の先端は薄く肥厚す る。器面にはヨコハケが施 される。以下もヨコハケで ある。内面はヨコハケ・ナ ナメヨコハケである。	
0260	残 口縁部 破片 高 < 4.7>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					10	先端外面の肥厚部分は粘土 の貼り付けが極めて粗雑で ある。	
0261	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①くびれ部 東側②5ト レZ-21G	①B②にぶい 赤褐5YR4/4 ③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					16	先端の外面は幅狭いがやや 厚く肥厚する。器面はナデ られる。以下の外面はタテ ハケ、内面はヨコハケを施 す。	
0262	残 口縁部 破片 高 < 5.0>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	先端は外面が肥厚する。内 面はナデによりくぼむ。端 面は上縁がやや突出する。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0263	残 口縁部 破片 高 < 5.5)	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					13	外面の先端は薄く肥厚する。端面の両縁は突出する。器面にはヨコナデが施される。以下の外面にはタテハケが施される。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(6) (第103図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0264	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 < 15.3)	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	① B ② 赤褐5 YR4/6③ 普 通・普通	I	M1	1	8.0		8	口縁部はわずかに外反して立ち上がり、端面は上方を向く。外面はタテハケ、内面はナナメハケ・ナナメヨコハケを施す。	外面黒色みをおびる。 PL52
0265	残 口縁部 破片 高 < 6.0)	①くびれ部 東側②17ト レ3区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					8	先端は強く外反する。外面はタテハケ、内面はナナメハケを施す。	PL53
0266	残 口縁部 破片 高 < 5.3)	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					8	先端は外面が肥厚、内面がナデのためくぼむ。	
0267	残 口縁部 破片 高 < 13.5) (図上復元)	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I	台2		12.5		10	口縁部は長く、先端近くで外反して立ち上がる。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	PL52
0268	残 口縁部 破片 高 < 5.8)	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通	I					11	先端は強く外反する。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	内面にヘラ 描きあり。 PL53
0269	残 口縁部 破片 高 < 6.4)	①くびれ部 東側②17ト レ	①B②明赤褐 5YR5/6③ 良 好・普通	I					12	外面タテハケ、内面はナナメヨコハケ、ナナメ方向のナデ後先端にヨコナデを施す。器肉はやや厚い。	
0270	残 口縁部 破片 高 < 8.9)	①くびれ部 東側②17ト レ	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	I					12	強く外反して立ち上がり、端面は外方を向く。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケ後幅広くヨコナデする。	PL52
0271	残 口縁部 破片 高 < 5.0)	①くびれ部 東側② 拡 4、7号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	I					6	先端は端面間近で強く外反する。外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。	
0272	残 口縁部 破片 高 < 9.6) (図上復元)	①くびれ部 東側② 拡 4、6号埴 輪	①B②にぶい 赤褐5YR5/4 ③良好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	外面は先端が薄く肥厚する。器面はヨコハケを施す。内面はナナメヨコハケを施す。	
0273	残 口縁部 破片 高 < 5.6)	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					10	先端は大きく外反する。外面はタテハケ、内面はヨコハケ後、先端をナデている。	
0274	残 口縁部 破片 高 < 6.9)	①くびれ部 東側②5ト レY-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	I					9	先端は緩やかに外反して立ち上がる。外面はタテハケ、内面はナナメハケを施す。	
0275	残 口縁部 破片 高 < 7.9)	①くびれ部 東側②拡4 周堀	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	I					10	先端はほとんど外反せず、弱く傾斜して立ち上がる。端面はくぼむ。外面はタテハケ、内面はナナメタテハケを施す。	



No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0276	残 口縁部 破片 高 < 6.7)	①くびれ部 東側②㌖4 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	I					10	先端は緩やかに立ち上がる。端面はくぼみ、上縁は突出する。	
0277	残 口縁部 破片 高 < 4.8)	①くびれ部 東側②17ト レ3区	① B ② 橙5 YR6/6③普通・普通	I					10	端面は上下両縁ともやや突出する。外面はタテハケ、内面はヨコハケ後、先端を強くヨコナデする。	
0278	残 口縁部 破片 高 < 5.0)	①くびれ部 東側②5ト レY-24G	①B②明褐7. 5YR5/6③普通・普通	I					11	端面の上縁はやや突出する。外面はタテハケ、内面はナメハケを施す。	
0279	残 胴部2 段破片 高 < 8.0)	①くびれ部 東側②㌖4 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台3				11	外面タテハケ後幅狭い突帯を貼り付ける。内面にはナメタテハケを施す。	
0280	残 胴部2 段破片 高 < 14.4)	①くびれ部 東側②17ト レ2区	①B②明赤褐 2.5YR5/8③普通・普通		台2				10	外面は弱いタッチのタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメヨコハケを施すが接合痕も明瞭に残る。	PL54

くびれ部東側出土の円筒埴輪(7) (第104図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0281	残 胴部2 段破片 高 < 13.2)	①くびれ部 東側②㌖4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		M1				9	外面タテハケ後、上縁が突出した突帯を貼り付ける。内面はナメヨコハケを施す。	
0282	残 胴部2 段破片 高 < 13.8)	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台1				7	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデを施す。	器面の一部は黒色みをおびる。
0283	残 胴部3 段破片 高 < 23.6)	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		M1	11.5	円		9	外面はタテハケ後、ナメヨコハケを施し、その後に突帯を貼り付ける。内面は丁寧にナデる。	PL54
0284	残 胴部2 段破片 高 < 19.2)	①くびれ部 東側②17ト レ2区	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		台3				10	外面は弱いタッチのタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメヨコハケを施す。	外面にヘラ描きあり。突帯に布目痕あり。PL54
0285	残 胴部2 段破片 高 < 12.4)	①くびれ部 東側②㌖4 中段	① B ② 橙2.5 YR6/6③良好・普通		M1		円		12	外面は細かい単位のタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメハケをタテ方向に一部ナデ消す。	
0286	残 胴部破 片 高 < 7.2)	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		台1		円		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面ナメタテハケを施す。	黒色みおびている。
0287	残 胴部2 段破片 高 < 12.2)	①くびれ部 東側②17ト レ5区	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		M2				14	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを施す。	
0288	残 胴部2 段破片 高 < 10.7)	①くびれ部 東側②5ト レY-24G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③普通・普通		M3				9	外面タテハケ、内面ナデを施す。	
0289	残 胴部2 段破片 高 < 7.0)	①くびれ部 東側②11ト レZ-22G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③普通・普通		台1		円		8	外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。突帯は上端の両縁とも丸みをおびている。内面にはナメヨコハケを施す。	
0290	残 胴部破 片 高 < 9.3)	①くびれ部 東側②㌖4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③普通・普通		M2				10	外面タテハケ後突帯を貼り付け、幅広くヨコナデを施す。内面もナデを施す。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0291	残 胴部破片 高 < 5.9)	①くびれ部 東側②11ト レZ-22G	①B②橙2.5 YR6/8③普通・普通		台2			円	8	外面タテハケ後突帯を丁寧に貼り付ける。内面はナデている。	器面、黒色みをおびる。

くびれ部東側出土の円筒埴輪(8) (第105図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0292	残 胴部2 段破片 高 < 13.8)	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		M1			円	8	外面タテハケ後突帯貼り付け。円形の透孔は大径で、上下2段にみられる。内面は丁寧にナデる。	PL54
0293	残 胴部3 段破片 高 < 20.7)	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②橙2.5 YR6/8・橙5 YR6/8③普通・普通、やや還元状態		M2 ・ 台1	1 < 6.0 2 10.6 3 < 4.1)		円	8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。透孔は下位の2段に配される。内面はナメヨコハケ、一部にナデが重ねられる。	PL54
0294	残 胴部3 段破片 高 < 22.5)	①くびれ部 東側・前方 部墳頂部② 5トレZ- 20・Z-22 G	①B②赤褐5 YR4/6③普通・普通、やや還元状態		台1	1 < 4.8 2 12.4 3 < 8.2)			8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメタテハケを施し、一部にナデを重ねる。	
0295	残 胴部2 段破片 高 < 14.5)	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②橙5 YR6/8③良好・普通、内面やや還元ぎみ		M2				15	外面はタテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナメハケを施す。	PL53
0296	残 胴部2 段破片 高 < 7.8)	①くびれ部 東側②17ト レ4区	①B②橙5 YR6/8③普通・普通		台1				10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを施す。	
0297	残 胴部2 段破片 高 < 6.4)	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台2				9	外面はナメハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメハケを施す。	朝顔形の破片か。
0298	残 胴部破片 高 < 7.3)	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		M2				14	外面、単位の細かいタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメヨコハケを施す。	
0299	残 胴部破片 高 < 9.0)	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②橙5 YR6/8③普通・普通		M2			円	13	外面、単位の細かいタテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。	
0300	残 胴部2 段破片 高 < 7.1)	①くびれ部 東側②11ト レZ-22G	①B②明褐7. 5YR5/6③普通・普通		M1				8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケとナデを施す。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(9) (第106図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0301	残 胴部2 段破片 高 < 9.7)	①くびれ部 東側②17ト レ2区	①B②橙5 YR6/8③普通・普通		M1				9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデを施す。	
0302	残 口縁部 ~胴部破片 高 < 9.5)	①くびれ部 東側②5ト レY-23G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		M3				11	口縁部の先端は欠失するが貼り付け口縁であったと考えられる。外面はタテハケ、内面はナメハケを施す。	
0303	残 胴部2 段破片 高 < 13.8)	①くびれ部 東側②拡4	①B②橙5 YR6/6③不良・普通、還元状態		M2				9	外面は粗雑なタテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナメハケにナデを重ねる。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0304	残 胴部2 段破片 高 <12.3>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②橙2.5 YR6/8③良 好・普通		台3				10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメハケにナ デを重ねる。	PL54
0305	残 胴部2 段破片 高 <11.4>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		M1			円	9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	
0306	残 胴部2 段破片 高 <9.8>	①くびれ部 東側②5ト レY-24G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通、還 元状態		M2			円	14	外面、単位の細かいタテハ ケ後上幅の狭い突帯を貼り 付ける。内面にはナデ、ハ ケメを施す。	
0307	残 胴部2 段破片 高 <11.4>	①くびれ部 東側②5ト レZ-23G	①B②にぶい 黄褐10YR5/ 4③普通・普 通、還元状態		台1				9	外面タテハケ後突出度の高 い突帯貼り付けを行う。内 面はナナメハケにタテ方向 のナデを重ねる。	
0308	残 胴部破 片 高 <7.0>	①くびれ部 東側②5ト レY-23G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		台1			円	10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯の上縁は著しく突 出する。内面はナデている。	
0309	残 胴部2 段破片 高 <10.3>	①くびれ部 東側②拡 4、2号埴 輪	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通、内 面還元状態		台2			円	8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ にナデを重ねる。	
0310	残 胴部2 段破片 高 <8.7>	①くびれ部 東側②5ト レY-21G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M1			円	9	外面タテハケ後突出度の高 い突帯を貼り付ける。突帯 の上縁は強く突出する。内 面はナデを施す。	
0311	残 胴部2 段破片 高 <10.7>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M2				13	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面にはナナメハ ケを施す。	
0312	残 胴部2 段破片 高 <11.4>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1				9	外面タテハケ後上縁の突出 した突帯を貼り付ける。内 面はナナメタテハケを施 す。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(10) (第107図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0313	残 胴部破 片 高 <13.6>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1				7	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はタテ方向に ナデを施す。	器面の一部 に黒色みあ り。
0314	残 胴部2 段破片 高 <14.0>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M1	10.0		円	12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施し、一部にナデを 重ねる。	
0315	残 胴部2 段破片 高 <12.7>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1				14	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。一部は二次的にタ テハケを重ねたか。内面は ナナメヨコハケを施す。	PL55
0316	残 胴部2 段破片 高 <10.1>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		M1				9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0317	残 胴部2 段破片 高 <8.9>	①くびれ部 東側②17ト レ5区	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		M1			円 ?	9	外面のハケメはタテ方向と ナナメタテ方向を交互に くり返している。内面はナ ナメハケの一部をナデて いる。	PL55

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0318	残 胴部2 段破片 高 <11.6>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	① B ② 橙5 YR6/8③ や やや不良・普通		台1			円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテハケ後弱くナデを重ねる。	
0319	残 胴部2 段破片 高 <11.6>	①くびれ部 東側②17ト レ東墳丘?	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・普通		台2					14	外面タテハケ後下段の広い突帯を貼り付ける。一部に粗雑なナデがみられる。内面にはナデを施す。	PL54
0320	残 胴部破 片 高 <7.2>	①くびれ部 東側②拡4	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通		台3					13	外面細かい単位のタテハケ後シャープに突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケ・ナナメタテハケを施す。	
0321	残 胴部2 段破片 高 <11.8>	①くびれ部 東側②17ト レ2B-23G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M3			円		9	外面やや粗い単位のタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケを施すが明瞭な接合痕を残す。	PL55
0322	残 胴部破 片 高 <6.2>	①くびれ部 東側②拡 4、4号埴 輪	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M3					12	外面タテハケ後、突出度の良好な突帯を貼り付ける。	
0323	残 胴部破 片 高 <6.1>	①くびれ部 東側②5ト レZ-23G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台3					6	外面は単位の粗いハケメを施す。内面もタテハケを施す。	
0324	残 胴部3 段破片 高 <23.3> (図上復元)	①くびれ部 東側②拡 4、7号埴 輪	①B②明赤褐 5YR3/6③ 普 通・普通		台1 ・ M2	1 <8.2> 2 11.8 3 <3.3>		円		9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はタテ方向にナデを施す。透孔は下位の2段に配されている。	外面の一部 黒色みをお びる。 PL54

くびれ部東側出土の円筒埴輪(11) (第108図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0325	残 胴部破 片 高 <10.2>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		M2					12	外面はタテハケ後突帯貼り付け。その後ヨコハケを施す。突帯は幅狭いが突出度は良好である。内面はナナメハケを施す。	PL55
0326	残 胴部2 段破片 高 <9.3>	①くびれ部 東側②5ト レZ-24G	①B②明褐7. 5YR5/6③ 普 通・普通		台1					11	外面はタテハケ後突帯貼り付け。その後ヨコハケを重ねる。内面はナナメタテハケを重ねる。	
0327	残 胴部2 段破片 高 <6.2>	①くびれ部 東側②5ト レY-23G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台3			円		7	外面タテハケ後ヨコハケを施す。その後幅狭い突帯を貼り付けたと思われる。内面にはハケメ、ナデを施す。	
0328	残 胴部2 段破片 高 <16.2> (図上復元)	①くびれ部 東側②拡4 周堀、5ト レ	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		台2			円		表 12・ 裏 6	外面はタテハケ後突帯を貼り付け。その後粗雑なヨコハケを施す。内面はナナメタテ方向にハケメ、ナデを施す。	PL53
0329	残 口縁部 ~胴部破片 高 <13.2>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		M2			円		13	外面タテハケ後突出度の高い突帯を貼り付ける。内面はヨコ方向にハケメを施す。	PL55
0330	残 胴部2 段破片 高 <12.5>	①くびれ部 東側②拡4 下段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		M3					7	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面にはナナメヨコハケを施す。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0331	残 胴部2 段破片 高 <16.3>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		三		円		10	外面弱いタッチのタテハケ 後突帯を貼り付ける。内面 はナメタテハケ後一部を ナデている。	PL54
0332	残 胴部2 段破片 高 <13.8>	①くびれ部 東側②拡4	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2				11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナメタテ ハケを施す。	途中でハケ メの工具が 変わってい るか。 PL54
0333	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <13.0>	①くびれ部 東側⑤5ト レY-21G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1				8	口縁部は先端にいたり外反 している。外面タテハケ後 突帯貼り付け。内面はナメ ヨコハケを施す。	
0334	残 胴部2 段破片 高 <11.3>	①くびれ部 東側②17ト レ4区・5 区接合	① A ② 橙5 YR6/6③ 良 好・普通、内 面やや還元状 態		M1		円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	PL55
0335	残 胴部2 段破片 高 <8.7>	①くびれ部 東側②17ト レ3区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M2				15	外面は単位の細かいタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は タテ方向にナデを施す。	
0336	残 胴部2 段破片 高 <8.8>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 不 良・普通、還 元状態		台2				8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	
0337	残 胴部破 片 高 <8.5>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M2				7	外面タテハケ後突出度の高 い突帯を貼り付ける。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(12) (第109図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0338	残 胴部2 段破片 高 <7.8>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台1				9	外面タテハケ後突帯貼り付 けを施す。内面はタテ方向 のハケメ、ナデがみられる。	
0339	残 胴部2 段破片 高 <7.4>	①くびれ部 東側②17ト レ4区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・やや軟質		台1		円		9	外面タテハケ後に貼り付け た突帯は突出度が弱く、上 端の下稜も消失済みである 。内面にはナメタテハケ を施す。	
0340	残 胴部2 段破片 高 <8.2>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		台2		円		8	外面のタテハケ後突帯を粗 雑に貼り付ける。	内面は磨減 が著しい。 PL54
0341	残 胴部2 段破片 高 <9.5>	①くびれ部 東側②17ト レ2区	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台1				10	外面は弱いタッチのタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は ナメヨコハケを施す。	
0342	残 胴部2 段破片 高 <15.6>	①くびれ部 東側⑤5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2		円		9	外面タテハケ後突帯貼り付 けを施す。内面はナメヨ コハケを充填する。	PL54
0343	残 胴部2 段破片 高 <15.0>	①くびれ部 東側⑤5ト レY-21G	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通		M1				8	外面タテハケ後突出度の低 い突帯をめぐらす。内面は 丁寧にナデている。	外面のハケ メの上には 工具があた り器面を乱 した痕跡あ り。
0344	残 胴部2 段破片 高 <17.3>	①くびれ部 東側⑤5ト レY-21G	① B ② 赤褐5 YR4/6③ 普 通・普通		台1		円		9 <5.4>	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面は丁寧にナデてい る。	内外面黒色 みをおび る。

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0345	残 胴部2 段破片 高 <11.8>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		台2					13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメヨコハケを施す。	器面の一部が黒色みをおびる。
0346	残 胴部2 段破片 高 <7.6>	①くびれ部 東側②11ト レZ-22G	①B②橙5 YR6/6③不良・普通、やや還元状態、焼きひびが入る		台3			円		9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向にナデを施す。	PL55
0347	残 胴部2 段破片 高 <9.7>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明褐7. 5YR5/6③普通・普通		台2					8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデを施すが部分的に接合痕を残す。	
0348	残 胴部破 片 高 <9.7>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	①B②橙5 YR7/8③普通・やや軟質		台2			円		8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面にはナデを施す。	
0349	残 胴部2 段破片 高 <8.7>	①くびれ部 東側②5ト レZ-24G	①B②橙5 YR6/8③普通・普通		M2			円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメヨコハケを一部ナデ消している。	

くびれ部東側出土の円筒埴輪(13) (第110図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0350	残 胴部2 段破片 高 <15.7>	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台1			円		9	外面はタテハケ後ナメヨコハケを施し、その後突帯貼り付けを行う。内面は丁寧にナデる。	PL53
0351	残 胴部3 段破片 高 <23.1>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪、中段	①B②赤褐5 YR4/6③良好・普通		M2	1 <6.6> 2 11.6 3 <4.9>		円		13	外面タテハケ、一部ナメタテハケ後突帯を貼り付ける。透孔は下位の2段に認められる。内面はナメヨコハケ、一部にナデを施す。	PL53
0352	残 胴部2 段1/4 径 (32.2) 高 <20.4>	①くびれ部 東側・前方 部東北隅② 拡4周堀、 12トレ	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		台2	1 <3.4> 2 16.3 3 <0.7>		円	1 4.7	13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面は工具を器面に強く押しあてナメタテハケを施す。	PL54
0353	残 胴部2 段破片 高 <13.1>	①くびれ部 東側②5ト レY-22G	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		台1					11	外面タテハケ後、幅狭く突出度の低い突帯をめぐらす。内面はタテ方向にナデを施す。	PL53
0354	残 胴部2 段破片 高 <6.8>	①くびれ部 東側②拡 4、7号埴 輪	①B②橙5 YR6/8③普通・普通		台3					8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はハケメ後タテ方向にナデを重ねる。	外面にヘラ描きあり。
0355	残 胴部破 片 高 <4.9>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②橙5 YR6/6③普通・普通					円		14	外面はナメタテハケ後一部ヨコハケを重ねる。内面はナメタテハケを施す。	外面に透孔に沿うようにヘラ描きあり。
0356	残 胴部破 片 高 <7.0>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②橙5 YR6/8③普通・普通							8	外面はタテハケを、内面はハケ、ナデを施す。	外面にヘラ描きあり。
0357	残 胴部破 片 高 <4.4>	①くびれ部 東側②5ト レZ-23G	①B②橙5 YR6/6③普通・普通							7	外面タテハケ。内面ハケをナデ消す。	外面にヘラ描きあり。
0358	残 胴部破 片 高 <4.0>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②橙5 YR6/6③普通・普通					円		8	外面タテハケ、内面はタテハケとナデを施す。	外面にヘラ描きあり。

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ テ			
0359	残 胴部破片 高 <10.4>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M 2			円	13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はハケメを施す。	外面に斜行する2条のヘラ描きあり。 PL55
0360	残 胴部破片 高 < 4.9>	①くびれ部 東側②5ト レY-23G	① A ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通					円	13	外面タテハケ後ヨコハケを重ねる。内面ハケメを施す。	
0361	残 口縁部 ～胴部破片 高 < 8.6>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		M 1				8	外面タテハケ後幅広の突帯を貼り付ける。内面にはナナメハケを施す。	内面にヘラ描きあり。
0362	残 胴部破片 高 < 6.4>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通						9	先端は欠損する。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	内面にヘラ描きあり。

くびれ部東側出土の円筒埴輪(4) (第111図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ テ			
0363	残 胴部2 段破片 高 < 6.7>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台 3			円	9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケの一部をナデ消す。	
0364	残 胴部2 段破片 高 < 9.0>	①くびれ部 東側②5ト レZ-23G	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		台 1				8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。突帯は低く、下縁はつぶれ断面三角形に近い状態である。内面にはナナメヨコハケが施される。	
0365	残 胴部2 段破片 高 <10.4>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③ や や不良・普通		M 1			円	8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテハケをナデ消している。	
0366	残 胴部破片 高 < 6.3>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台 2			円	8	外面タテハケ後突帯出度の低い突帯を貼り付ける。内面にはナデ、ハケメがみられる。	
0367	残 胴部2 段破片 高 <10.4>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		M 1			円	8	外面タテハケ後突帯貼り付けを施す。内面はナナメタテハケを施す。	
0368	残 胴部2 段破片 高 < 6.8>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		M 1				8	外面タテハケ後上縁の突出した突帯を貼り付ける。内面はナナメハケを施す。	
0369	残 胴部2 段1/3 径 (23.6) 高 <15.3>	①くびれ部 東側②11ト レZ-23G	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通、や や還元状態		M 2	1 < 3.0> 2 11.4 3 < 0.9>		円	14 ・ 8	外面の残存部最下段は粗い単位の、上段は細かい単位の工具でタテハケを施す。内面はナナメヨコハケを施しこれを一部でナデ消している。	PL53
0370	残 胴部2 段破片 高 < 8.9>	①くびれ部 東側② 拡 4、6号埴 輪	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台 2				10	外面タテハケ後突帯貼り付けを施す。	突帯貼付後のヨコナデに沿って器面に工具のあたっての痕跡がみられる。
0371	残 胴部2 段破片 高 < 6.5>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通、や や還元状態		M 1			円	9	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付ける。内面はナナメヨコハケをナデ消す。	

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0372	残 胴部2 段破片 高 <6.5>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②におい 黄褐10YR5/ 3・橙5YR6/6 ③やや不良・ 普通、還元状 態		台3					9	外面はタテハケ後突出度の 高い突帯を貼り付ける。内 面はナナメタテハケを施 す。	
0373	残 胴部2 段破片 高 <12.3>	①くびれ部 東側②5ト レZ-21G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2					10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデを施す。	
0374	残 胴部破 片 高 <10.3>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		台2			円		10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメタテハケ、 ナデを施す。	
0375	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <16.4>	①くびれ部 東側②拡 4、4号埴 輪	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2		12.0			13	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナデを施 すが下端には基部成形時の 作業台の圧痕が認められ る。	器面は磨滅 が著しい。
0376	残 底部部 ～胴部第1 段1/3 高 <22.1>	①くびれ部 東側②17ト レ2区	① B ② 橙5 YR6/8・暗灰 黄2.5YR4/2 ③普通・普通、 内面還元状態		台3	1 2 3	9.6 10.9 <1.6>			12	胴部は外反しており全体形 状に乱れが生じていると思 われる。外面タテハケ後突 帯貼り付け。内面はナデで いる。底面は右を上にする。	外面に黒色 みをおびる 部分あり。 PL53

くびれ部東側出土の円筒埴輪(15) (第112図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0377	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <17.2>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/8・にお い黄褐10YR 5/4③普通・普 通、やや還元 ぎみ		台1		7.7			8	外面タテハケ後底面から7. 8cmの位置に突帯を貼り付 ける。内面はナナメハケに ナデを重ねている。底面は 左を上重ねる。	PL54
0378	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <17.2>	①くびれ部 東側②11ト レZ-21G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2		10.3			8	外面はタッチの弱いタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は 下半がナデ、上半がナナメ ヨコハケを施す。	PL55
0379	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <14.6>	①くびれ部 東側②拡 4、4号埴 輪	①B②赤褐5 YR4/6③ 普 通・普通		台2		10.2			13	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。最下端には基 部成形時の作業台の圧痕が みられる。	器面の一部 黒色みをお びる。
0380	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <16.1>	①くびれ部 東側②5ト レZ-23・ Z-24G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 不 良・普通、還 元状態		M1		12.5	円		7	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面には粗雑な ナデを施す。	外面には製 作時に生じ た亀裂を補 修したナデ 、押さえの 痕跡が残る。 PL55
0381	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <14.4>	①くびれ部 東側②拡4 中段	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		M2		9.0			8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	PL55



No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
0382	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <12.4>	①くびれ部 東側②拡 4、1号埴 輪	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通		台2		7.6				14	外面タテハケ後底面から7.6cmの位置に突帯を貼り付ける。内面は下端に基部成形時の押圧痕を残すがこれより上位はナナメヨコハケを施す。	PL55
0383	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <11.4>	①くびれ部 東側②17ト レ3区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1		10.0				12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面は下半にナナメ方向のナデ、上半にナナメハケを施す。底面は右を上を重ねる。	
0384	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <12.0>	①くびれ部 東側②17ト レ4区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		台1		7.4				10	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	
0385	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <13.4>	①くびれ部 東側②17ト レ4区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		台2		3.7				12	外面タテハケ後底面から3.7cmの位置に突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	PL55
0386	残 基底部 破片 高 <11.8>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通		台1		2.7				7	外面タテハケ後底面に接して突帯を貼り付ける。内面にはナナメハケとナデがみられる。底面は右を上を重ねる。	PL55

くびれ部東側出土の円筒埴輪16 (第113図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
0387	残 基底部 ～胴部第2 段破片 高 <16.7>	①くびれ部 東側②拡 4、2号埴 輪・中段	① B ② 赤褐5 YR4/8③ 普 通・普通		台1	1 2 3	1.6 10.8 <4.3>				10	やや小径か。外面はタテハケ後最下段の突帯が底面に接して配される。内面はナナメタテハケをナデ消している。	PL54
0388	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <20.5>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪・中段・ 周堀	① B ② 明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通、や や還元状態		M3		15.2	円			8	外面タテハケ後一部にヨコハケを重ねる。ヨコハケと突帯貼り付けの前後関係は不明である。内面は下半がナデ、上半がナナメタテハケである。	PL54
0389	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <13.3>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M3		7.3				13	外面タテハケ後底面から7.2cmに突帯を配す。内面はナデを施す。	PL55
0390	残 基底部 破片 高 <12.7>	①くびれ部 東側②5ト レY-24G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M3		11.6				14	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面は底面間近からナナメヨコハケを施し、一部にナデを重ねる。	PL55
0391	残 胴部破 片 朝顔 高 <11.5>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台2						13	肩部の破片である。内彎して立ち上がり頸部の突帯にいたる。内面はナナメハケを施す。外面にもハケメがみられる。	外面にヘラ描きあり。 PL53
0392	残 胴部破 片 朝顔 高 <9.0>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2			円			7	胴部は低い突帯を境に頸部に向かって丸く内彎して立ち上がる。内面はハケメを施す。	外面は磨滅している。 PL53

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形 状	タ テ	ヨ コ			
0393	残 口縁部 破片 高 < 9.0>	①くびれ部 東側②5ト レZ-22G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1					8	口縁部の中位の破片である。頸部から外反して立ち上がりが突帯のところでやや角度を変え更に上方に向かう。外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。	PL53
0394	残 胴部破 片 高 < 7.8>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		三					10 ・ 4	胴部上位の破片である。丸みをおびて肩部を形成し、頸部へと続いている。	器面は磨滅している。
0395	残 口縁部 破片 高 < 9.6>	①くびれ部 東側②17ト レ2A-23 G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2					14	口縁部下位の破片である。外面タテハケ、内面ヨコハケを施す。	

### 後円部東側出土の円筒埴輪(1) (第114図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形 状	タ テ	ヨ コ			
0396	残 全体1/ 2口縁部先 端欠損 底 25.7 高 77.0	①後円部東 側②22ト レ3~6区	①B、白色鈹 物粒②外面、 胴部第2段目 にふい赤褐2.5 YR4/4・基底 部~胴部第2 段灰7.5Y4/1 (表)、黄灰2.5 Y4/1(裏)③ 良好・硬質	I	台2 ・ M2	1 11.1 2 10.0 3 9.7 4 11.5 5 10.1 6 10.7 7 (13.7)	円	3L 6.4 6.9 3R — — 5F — (5.4) 5B (5.8) (6.9) 6L 6.4 (6.9) 6R — —	9 ・ 14	製作、焼成のいずれかは断定できないが、器形の変形が著しい。突帯は比較的等間隔に配されているが下位の3段が上位の狭い台形状であるのに対し、上位3段は断面M字形の突出度の弱いものである。	焼きむらが生じ、還元状態を呈する部分がある。 PL44	
0397	残 口縁部 ~胴部1段 1/3 口 (31.4) 高 <14.0>	①後円部東 側②7ト レ中段前	①B②にふい 赤褐2.5YR5/4 ③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>	台2	1 <4.2> 2 9.8	円		7	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。先端は外面に粘土を貼り肥厚させる。器面はヨコハケを施す。以下の外面はタテハケ、その後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケが施される。	PL57	
0398	残 胴部3 段2/3 径 (30.0) 高 <24.7>	①後円部東 側②22ト レ4区	①A②明赤褐 5YR5/8(表)、 にふい赤褐5 YR4/4(裏) ③普通・普通		台2	1 <3.3> 2 11.2 3 <10.2>	円	2R <2.5> 4.7 3F — (6.5)	12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面タテハケを施す。	PL44	
0399	残 胴部2 段1/3 径 (24.0) 高 <18.3>	①後円部東 側②22ト レ4区	①B②明赤褐 5YR5/6(表)、 灰黄褐10YR 4/2(裏)③不 良・軟質、還 元状態、発泡 している		台1	1 0.7 2 10.7 3 <6.4>	円		8 ・ 16	外面のタテハケは突帯を境に工具が変わっている。突帯は幅が狭いが、突出度は保っている。内面はナナメタテ方向にハケとナデを施す。	PL57	
0400	残 胴部2 段1/3 径 (30.0) 高 <21.5>	①後円部東 側②2ト レ2E-23G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1	1 <9.3> 2 9.6 3 <2.6>	円		12	外面タテハケ後突帯貼り付けを行う。内面はタテ方向にナデるが接合痕を残す。		

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0401	残 底部部 ～胴部第1 段1/4 高 <21.9>	①後円部東 側②7トレ 井戸	①B②橙2.5 YR6/6③良 好・普通		台1	1 2	12.3 <9.6>	円		14	基台部は上方に向けて立ち 上がり突帯を境に若干くい ちがって胴部へ続く。外面 タテハケ後突帯を貼り付け る。内面はタテ方向のナデ を施す。透孔は小径で、形 象基台の可能性もあるか。	PL57
0402	残 胴部3 段1/3 径 (26.6) 高 <25.2>	①後円部東 側②22トレ 4区・5区	①B②にぶい 赤褐2.5YR4/4 (表)、黄灰2.5 Y4/1(裏)③ 不良・普通、 還元状態		台1 ・ 台3	1 2 3	<8.4> 11.7 <5.1>	円		10 ・ 16	外面はタテハケ後残存部の 最下段だけにタテハケと工 具の異なるヨコハケを施 す。突帯の貼り付けとの前 後関係は判然としないがヨ コハケ後突帯を貼り付けた か。内面にはナメヨコハ ケが施される。	PL57
0403	残 底部部 ～胴部第1 段2/3 底 (28.0) 高 <22.5>	①後円部東 側・前方部 墳頂部②22 トレ3～5 区、1トレ X-20G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		M2	1 2	11.8 <10.7>	円	2 (5.8) (6.1)	9	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面は基底部がタテ ナデ。胴部はナメタテハ ケを施す。底面近くには粘 土板作製時の工作台の圧痕 を残す。	PL44
0404	残 底部部 ～胴部第1 段1/2 底 (28.7) 高 <17.2>	①後円部東 側②22トレ 4区・5区	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普 通・普通		台2	1 2	8.8 <8.4>	円		13 ・ 9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯は上辺が狭く、突 出度が強い。内面は基部作 成後ナメハケとナデをくり 返す。	PL44

後円部東側出土の円筒埴輪(2) (第115図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0405	残 口縁部 破片 高 <5.1>	①後円部東 側②2トレ 2E-21G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						8	先端の外面は粘土帯を薄く 貼り肥厚、器面にヨコ方向 のハケを残す。	朝顔形か。
0406	残 口縁部 破片 高 <5.8>	①後円部東 側②2トレ 2E-23G	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普 通・やや軟質	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						10	先端は外面に粘土帯を貼り 肥厚させる。その下端には ヨコナデが加えられ弱い稜 をなす。	PL57
0407	残 口縁部 破片 高 <6.5>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>						10	先端の外面は粘土を貼り肥 厚する。以下外面はタテハ ケを、内面はヨコハケを施 す。	外面の一部 黒色みあり。
0408	残 口縁部 破片 高 <5.9>	①後円部東 側②22トレ 4区	① B ② 橙 5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						16	先端の外面は幅広く粘土を 貼り付ける。器面はヨコナ デを施す。以下の外面はタ テハケ、内面はヨコハケを 施す。	PL57
0409	残 口縁部 破片 高 <5.1>	①後円部東 側②22トレ 4区	① B ② 橙 5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						表 8 ・ 裏 16	先端の外面は肥厚し、器面 にヨコナデを施す。内面は 端面からやや下位で稜をな す。ナメヨコハケを施す。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0410	残口縁部破片 高<4.9)	①後円部東側②22トレ5区	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					9	先端の外表面は薄く肥厚する。	
0411	残口縁部破片 高<6.4)	①後円部東側②7トレ下段下	①B②橙2.5YR6/6③普通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					15	先端の外表面は粘土を貼り肥厚する。器面は下半にヨコハケを施す。内面はナデている。	PL57
0412	残口縁部破片 高<7.4)	①後円部東側②7トレ2H-24G	①B②橙5YR6/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	外面の調整はタテハケ後先端に粘土を薄く貼り、その上に再度タテハケを施している。内面にはナメヨコハケを施す。	PL57
0413	残口縁部破片 高<4.9)	①後円部東側②7トレ2H-24G	①B②橙5YR6/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					13	外面先端は粘土を厚く貼り付け、断面方形を呈する。器面にはヨコハケを施す。内面にもヨコハケを施す。	内面は黒色みをおびる。 PL57
0414	残口縁部破片 高<11.2)	①後円部東側②7トレ	①B②橙2.5YR6/6③普通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					7	外面は先端が薄く肥厚する。調整は外面がナデ、内面がナメヨコハケを施している。	外面は剝離著しい。
0415	残口縁部破片 高<12.8)	①後円部東側②22トレ4区・5区	①B②橙5YR6/8③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	台2	12.2			10	外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。先端は粘土を貼り肥厚させている。	PL57
0416	残口縁部破片 高<3.8)	①後円部東側②7トレ井戸	①B②2.5YR6/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						先端は幅狭く肥厚し、器面はナデられている。	
0417	残口縁部破片 高<3.3)	①後円部東側②7トレ2J-26G	①B②橙5YR6/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>3</sub> E <sub>2</sub>					9	先端は外側に強く屈曲、内面に稜をつくる。外面はナデ、内面の一部にヨコハケがみられる。	PL57
0418	残口縁部破片 高<4.2)	①後円部東側②22トレ5区	①B②橙5YR6/6③普通・普通	I					10・18	外面はタテハケを施す。内面は外面と異なる工具によるナメヨコハケを施す。	
0419	残口縁部破片 高<9.8)	①後円部東側②22トレ5区	①B②橙5YR6/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	先端は内面のヨコナデによる彎曲および外面の肥厚により受け口状を呈する。外面はタテハケを施す。内面は残存部上半にヨコハケ、下半にナデを施す。	内面にヘラ描きあり。
0420	残口縁部破片 高<4.9)	①後円部東側②22トレ5区	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>					10	先端の外表面はタテハケ後粘土を貼り肥厚する。器面はヨコナデにナデを重ねている。内面はヨコハケを施す。	
0421	残胴部2段破片 高<15.6)	①後円部東側②2トレ2E-23G	①B②橙5YR6/8③普通・やや軟質		台1	11.1	円		14・8	外面は残存部下半に細かい、上半にやや粗いハケメを施す。内面はナメヨコハケで、外面同様2種類の工具を用いている。	内面は剝離が著しい。 PL57

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0422	残 胴部2 段破片 高 <10.3>	①後円部東 側②2トレ 2E-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・やや軟質		M1		円		9	外面に粗いタッチのタテハ ケ後突帯を粗雑に配する。 内面はナナメハケを施す。	

後円部東側出土の円筒埴輪③ (第116図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0423	残 胴部3 段破片 高 <20.5>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1	1 < 3.1> 2 13.5 3 < 3.9>	円		9	外面タテハケ後貼り付けた 突帯の断面形状は上下で著 しく異なる。透孔は円形で あるが上下段がややずれた 位置にある。内面にはナデ を施す。	PL57
0424	残 胴部2 段破片 高 <13.2>	①後円部東 側②22トレ 3区	①B②橙5 YR6/8(表)、 明赤褐5YR5/6 (裏)③普通・ やや軟質		台2				8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメハケ、ナ デか。	内面の剥離 著しい。
0425	残 胴部2 段破片 高 <14.0>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2		円		14	外面タテハケ後上端の幅は 狭いが突出度の高い突帯を 貼り付ける。内面はナナメ タテハケ、ナデを施す。	
0426	残 胴部3 段破片 高 <18.4>	①後円部東 側②7トレ 中段前と墳 丘下段接合	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		M1	11.0			10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメタテハケ を施す。	器面は粗れ ている。 PL57
0427	残 胴部2 段破片 高 <9.9>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M2		円		9	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 はナナメヨコハケ後一部を ナデている。	外面の一部 に黒色みあ り。
0428	残 胴部破 片 高 <6.0>	①後円部東 側②7トレ 中段前	①B②にぶい 橙5YR6/4③ 良好・普通				円		12	外面タテハケ後粗雑にナナ メハケを施す。内面はハケ メをナデ消している。	器面の一部 は黒色みを おびる。
0429	残 胴部破 片 高 <8.9>	①後円部東 側②22トレ 6区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2				10	外面タテハケ後下端の幅広 い突帯を粗雑に貼り付け る。内面はナナメヨコハケ を2方向から施す。	内面黒色み をおびる。
0430	残 胴部2 段破片 高 <9.1>	①後円部東 側②2トレ 2E-23G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2		円		12	外面タテハケ後突出度の高 い突帯をめぐらす。内面は タテ方向にナデる。	
0431	残 胴部破 片 高 <7.6>	①後円部東 側②22トレ 4区	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台2				10	外面に弱いタッチのタテハ ケを施した後突帯を粗雑に 貼り付ける。内面はナナメ ヨコハケ、ナデを施す。	
0432	残 胴部2 段破片 高 <8.9>	①後円部東 側②22トレ 3区	①B②橙5 YR6/6(表)、 明赤褐5YR5/6 ③普通・普通		台2		円		16	外面は細かいタテハケ後突 帯を貼り付ける。内面はナ ナメハケか。	内面は粗れ ている。

後円部東側出土の円筒埴輪(4) (第117図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0433	残 胴部3 段破片 高 <23.3>	①後円部東 側⑦トレ 中段前・中 段中	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通		M2		10.8	円		12	外面は方向の異なるナメ タテハケを2度にわたり施 す。内面は下半にヨコハケ、 上半にタテ方向のナデがみ られる。	ヘラ描きの 一部が残 る。外面の 一部黒色み をおびる。 PL57・72
0434	残 胴部3 段破片 高 <20.0>	①後円部東 側⑦トレ 中段前	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		M1		11.3			11	外面、タッチの弱いタテハ ケ後突帯を粗雑に貼り付け る。内面は下半にナメタ テハケ、ナデを、上半にヨ コ方向のハケが施される。	器面は粗れ ている。 PL57
0435	残 胴部2 段破片 高 <27.6>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②橙5 YR6/8・黄灰 2.5Y4/1③不 良・普通、還 元状態		台2	1 <1.2> 2 14.4 3 <12.0>		円		表 10・ 裏 14	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。透孔は円形で上下 に2段に配されるが不規則 な位置にある。内面は2種 類の工具によりハケメを充 填させている。	PL57
0436	残 胴部2 段破片 高 <11.8>	①後円部東 側⑦トレ 井戸	①B②橙2.5 YR7/6③普 通・普通、断 面内部還元状 態		M1			円		9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナメタテハケ、 一部にナデを施す。	
0437	残 胴部2 段破片 高 <8.9>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②橙5 YR6/6(表)、 黄橙7.5YR7/8 (裏)③普通・ やや軟質		台2			円		5	外面は極めて単位の粗いタ テハケ後突帯を貼り付け る。内面もタテハケを施す。	
0438	残 胴部破 片 高 <6.8>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台2					16	外面タテハケ後ヨコハケ、 その後に突帯を貼り付けた か。内面はナメタテハケ を施す。	
0439	残 胴部破 片 高 <7.4>	①後円部東 側⑦トレ 中段奥	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通		台2					12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナメハケを施 す。	
0440	残 胴部2 段破片 高 <8.1>	①後円部東 側⑦トレ 2J-26G	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通		M2					11	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を下端を幅広く貼り 付ける。内面はナメタテ ハケに一部タテ方向のナデ を重ねる。	
0441	残 胴部破 片 高 <10.3>	①後円部東 側②22トレ 4区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2			円		16	外面は単位の細かいタテハ ケ後突帯を貼り付け。内面 にはナデを施す。	器面の一部 は剝離して いる。

後円部東側出土の円筒埴輪(5) (第118図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0442	残 胴部2 段破片 高 <9.1>	①後円部東 側②22トレ 4区と5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2			円		10	外面はタテハケ、内面はタ テ方向のハケ、ナデを施す。	PL57
0443	残 胴部2 段破片 高 <5.9>	①後円部東 側②22トレ 3区	①B②橙5 YR6/6(表)、 にぶい黄褐7.5 YR5/4(裏) ③普通・普通		M1			円		12	外面タテハケ後、突出度の 極めて低い突帯を貼り付け る。内面はナデを施す。	
0444	残 胴部2 段破片 高 <9.4>	①後円部東 側②2トレ 2E-22G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M2					11	外面タテハケ後突帯をやや 粗雑に貼り付ける。内面は 粗雑にナデを施す。	

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0445	残胴部2 段破片 高<12.4>	①後円部東 側②2トレ 2E-24G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2		円		11	外面タテハケ後突出度の低い突帯を配置する。内面はタテ方向にナデる。	
0446	残胴部破 片 高<8.1>	①後円部東 側②22トレ 4区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2		円		10	外面はタテハケ、内面はタテ方向のナデを施す。	
0447	残胴部破 片 高<11.3>	①後円部東 側②7トレ 下段下	①B②橙5 YR7/6③普 通・普通、や や軟質?		台2		円		10	外面弱いタッチのタテハケ後突帯を貼り付け。内面はナデとナナメヨコハケがみられる。	
0448	残胴部2 段破片 高<8.0>	①後円部東 側②7トレ 下段中	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通		台2				9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。	
0449	残胴部破 片 高<9.5>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②明赤褐 2.5YR5/6、 橙5YR6/6(裏) ③普通・普通		M1		円		10	外面タテハケ後上縁の突出した突帯をめぐらす。内面はナナメハケをナデ消している。	
0450	残胴部破 片 高<8.5>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2		円		12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテハケを施す。	
0451	残胴部破 片 高<10.4>	①後円部東 側②22トレ 3区	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台2				10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデを施す。	
0452	残胴部2 段破片 高<10.2>	①後円部東 側②7トレ 中段前・中 段中	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台2				14	外面タテハケ、一部にナナメハケを残す。その後突帯貼り付けを行う。内面はナナメヨコハケを施す。	
0453	残胴部2 段破片 高<8.2>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2				表 10・ 裏 12	外面はタテハケ後ナナメタテハケを重ねその後突帯を貼り付けている。	器面はやや磨滅している。
0454	残胴部破 片 高<6.3>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②におい 赤褐5YR5/4 ③普通・普通		M2				10	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。	

後円部東側出土の円筒埴輪(第119区)

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0455	残胴部破 片 高<10.8>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②橙5 YR6/6③普 通・やや軟質		台2		円		表 10・ 裏 12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面もナナメタテハケを施す。	
0456	残胴部破 片 高<7.9>	①後円部東 側②7トレ 中段前	①B②におい 赤褐5YR5/4 ③普通・普通		台2				14	外面、タテハケ後ナナメハケ、その後突帯を貼り付ける。内面はヨコハケを施す。	外面の一部に黒色みあり。
0457	残胴部2 段破片 高<7.6>	①後円部東 側②22トレ 4区・5区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1				10	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	
0458	残胴部2 段破片 高<6.7>	①後円部東 側②2トレ 2E-25G	①B②橙5 YR6/8③普 通・やや軟質		台2		円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。突帯は上幅が狭小で断面三角形に近い。内面はナナメヨコハケを施す。	
0459	残胴部破 片 高<6.0>	①後円部東 側②7トレ 2H-20G	①B②におい 橙5YR6/4③ 普通・やや軟 質		M2				12	外面はやや方向の異なる2方向のタテハケ後突出度の弱い突帯貼り付けを行う。内面はナナメタテハケを施す。	

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0460	残 基底部 破片 高 < 7.9>	①後円部東 側②22トレ 5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台2		2.2			表 12・ 裏 10	外面タテハケ後、底面に接して突帯をめぐらす。内面はナナメタテハケを施し一部をナデ消す。	
0461	残 基底部 破片 高 < 10.1>	①後円部東 側②2トレ 2E-22G	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		台2		8.2			12	外面タテハケ後上幅の狭い突帯を貼り付け。内面はナデを施す。	
0462	残 基底部 破片 高 < 13.4>	①後円部東 側②2トレ 2E-22G	①A②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		M2		11.2			13	外面タテハケ後突帯を丁寧に貼り付ける。内面はナナメハケ、上位にはヨコ方向のナデが施される。底面は右を上重ねる。	PL57
0463	残 基底部 破片 高 < 11.8>	①後円部東 側②7トレ 中段前・墳 丘下段	①B②にぶい 橙7.5YR7/4 ③不良・普通、 還元状態		台1		1.5			14	外面タテハケ後底面に接して突帯をめぐらせる。内面はナデ、ハケメを残す。	
0464	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 13.0>	①後円部東 側②2トレ 2E-25G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③普通・普通		台2		8.7			10	外面はヘラナデに近いタテハケを施した後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナナメタテ方向のナデを施す。	
0465	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 16.4>	①後円部東 側②7トレ 中段前	①B②橙2.5 YR6/6③普通・普通		台2		9.8	円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面は下端に基部成形時の押圧痕、それより上位にはナナメタテハケを施す。	

#### 後円部東側出土の円筒埴輪(7) (第120図)

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0466	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 15.4>	①後円部東 側②7トレ 下段中	①B②橙2.5 YR6/6③普通・普通		台1	1	12.6			10	外面は非常にタッチの弱いタテハケを施した後突帯を貼り付ける。内面には基部成形時の押圧痕とナデがみられる。底面は右を上にして重ねる。	外面の一部 に黒色みあり。 PL57
0467	残 基底部 破片 高 < 15.4>	①後円部東 側②7トレ 中段前	①B②橙5 YR7/6③普通・普通		台1		13.4			10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面は基部成形時の押圧痕の上にナデ、ナナメタテハケを重ねている。	
0468	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 13.2>	①後円部東 側②7トレ 下段中	①B②橙5 YR6/6③普通・普通		台2		8.4			7	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケ、ナデを施す。	外面の一部 黒色みあり。
0469	残 基底部 破片 高 < 12.3>	①後円部東 側②7トレ 中段前	①B②橙5 YR6/6③普通・普通		台1		10.2			9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面にはナデ、ナナメタテハケが残る。	底面には径 1.5cmの礫 がくいこん だ圧痕あり。
0470	残 口縁部 ～胴部破片 口 (57.6) 高 < 44.2> (図上復元)	①後円部東 側②22トレ 4～6区	①B②明赤褐 5YR5/8・明 赤褐5YR5/6 ③普通・普通		台1					12	口縁部は中に突帯をめぐらせた後、長く大きく反外して立ち上がる。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを充填している。	内面は著しく 粗れている。 PL57



No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0471	残 口縁部 朝顔 破片 高 < 6.4>	①後円部東 側②7トレ 井戸	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通						12	口縁部の下半の破片である。断面台形の低い突帯がめぐる。疑似口縁の先端には上位の粘土紐との接合を強めるために施したヘラ状工具による刻みが明瞭に観察できる。	
0472	残 胴部破 朝顔 片 高 < 9.5>	①後円部東 側②7トレ 下段下	①B②橙2.5 YR6/6③普通・普通	台1					10	肩部は突帯を境に丸みをおびて内彎する。外面はハケメ後突帯を貼り付ける。内面にもハケメを施す。	肩部外面にヘラ描きがある。 PL57
0473	残 口縁部 朝顔 破片 高 < 7.2>	①後円部東 側②22トレ 4区	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	M1					10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。一部はナデる。	
0474	残 口縁部 朝顔 破片 高 < 4.6>	①後円部東 側②7トレ 中段中	①B②橙2.5 YR6/6③普通・普通	M1					12	ナナメ上方に立ち上がる口縁部の一部である。外面はナナメハケ後突帯を貼り付ける。内面にはヨコハケを施す。	
0475	残 胴部破 朝顔 片 高 < 6.2>	①後円部東 側②7トレ 井戸	①B②橙7.5 YR6/6③普通・普通	不明					10	肩部の破片である。外面にはナナメハケ、内面にはハケ、ナデがみられる。	

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(1) (第121図)

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0476	残 胴部4 段1/3 径 (28.0) 高 <30.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ7区	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台2 ・ 台3	1 < 5.5> 2 11.1 3 10.3 4 < 4.0>	円		9	外面タテハケ後突帯を貼り付けているが一部二次的にタテハケを重ねている部分もある。内面は下半がナナメヨコハケ、上半がナデを施すが接合痕を多く残す。透孔は残存部の下位3段にそれぞれ配されている。	PL56
0477	残 胴部3 段1/2 径 (25.5) 高 <26.6>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2I ~2J-20 G	①A②橙5 YR6/6③普通・普通	台2		1 < 6.4> 2 11.2 3 < 9.0>	円	1 < 6.1>	8	外面はタテハケ後突帯を貼り付け。内面は粗雑なヘラナデを施す。部分的にハケメを施す。	器面は剝離、磨減が著しい。 PL44
0478	残 胴部3 段1/3 径 (24.0) 高 <24.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通	台1		1 < 9.9> 2 11.5 3 < 3.5>	円	1 6.0 —	7	外面は弱いタッチのタテハケ後突帯を貼り付ける。内面にはナナメヨコハケとナデがみられる。	器面は粗れている。 PL56
0479	残 底部 ~胴部第2 段3/4 底 (27.0) 高 <23.8>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	①B②橙5 YR6/6(表)、 にぶい橙7.5 YR6/4(裏) ③普通・普通	台2		1 5.2 2 13.4 3 < 5.2>	円	2F (5.1) (5.4) 2B — (4.2) 3L — — 3R — —	8	外面タテハケ後突帯貼り付け。第1突帯は底面から4cm程に配される。内面はナナメハケを施すが一部にナデもみられる。	底部外面にひび割れを調整したと思われる押圧痕あり。 PL44
0480	残 底部 ~胴部第1 段1/3 底 (27.0) 高 <15.3>	①後円部南 側(後方)② 10トレ	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通	M2		1 10.5 2 < 4.8>	円		8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はハケメをナナメタテ方向にナデ消している。	PL56

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0481	残 底部部 ～胴部第2 段1/2 底 (21.6) 高 <28.4>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2J -20G・2 K-20G	①A②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通		台2	1 12.2 2 12.0 3 <4.2>	円	2F (5.1) タテ (5.9) 2B 5.8 (5.4)	13	器肉は厚い。径はやや細かい。外面はタテハケ後各段の間隔を長くにとって突帯を配する。内面はヨコあるいはタテ方向に丁寧なナデを施す。	PL44
0482	残 底部部 ～胴部第1 段1/3 底 (26.0) 高 <17.9>	①後円部南 側(後方)② 後円部南裾	①A②赤褐5 YR4/8③良 好・普通		台1	1 9.2 2 <8.7>	円		9	外面タテハケ後底面から8.5cmに突帯を配す。基部粘土板の幅は1.0cm、内面の下端に押圧痕を残すが他はナナメ、タテ方向のナデ。	PL56
0483	残 底部部 ～胴部第1 段1/2 底 (23.0) 高 <16.8>	①後円部南 側(後方)② 10トレ5区	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通、 内面還元状態		台2	1 4.3 2 <12.5>			6	外面に弱いタッチでタテハケを施したのち底面から4.2cmの位置に突帯を貼り付ける。内面はナナメタテ方向にナデている。底面は右を上に重ねる。	PL56
0484	残 底部部 ～胴部第1 段1/2 底 (30.1) 高 <17.2>	①後円部南 側(後方)② 10トレ下段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台2	1 10.4 2 <6.8>	円	2 <5.4>	10	器形は著しく歪んでいる。外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテハケ、タテ方向のナデを施す。下端に基部粘土板作製時の工具痕が残る。	器面に黒色の付着物あり。 PL44
0485	残 底部部 ～胴部第1 段1/3 底 (25.6) 高 <12.0>	①後円部南 側(後方)② 後円部南裾	①B②赤褐5 YR4/8③良 好・普通		M2	1 7.4 2 <4.6>	円	2 <3.8>	14	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向に強いナデ。胴部下位に透孔を配す。	外面に黒色の付着物。 PL56
0486	残 底部部 1/3 底 (25.0) 高 <15.7>	①後円部南 側(後方)② 10トレ5区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1	1 13.7 2 <2.0>	円		7	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデている。	割れ口の一部に刻み状の工具痕あり。ひび割れの補修か。 PL44
0487	残 底部部 ～胴部第1 段1/3 底 (22.0) 高 <10.7>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2K -20G	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台1	1 7.2			13	外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテ方向にナデを施す。一部にハケメを残す。	内外面黒色みをおびる。 胎土分析試料。
0488	残 底部部 ～胴部第1 段1/4 底 (28.8) 高 <17.8>	①後円部南 側(後方)② 後円部南裾	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・やや軟質		台1	1 8.6 2 <9.2>	円	2 <3.9> -	9	外面タテハケ後突出度の弱い突帯貼り付け。内面には基部粘土板作製時の凸凹が残る。	内面磨滅。 PL56
0489	残 底部部 ～胴部第1 段1/3 底 (20.8) 高 <19.0>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		M2	1 13.0 2 <6.0>			14	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面にはナデを施す。小径。形象基部か？	外面に生じた亀裂を工具で補修している。 PL56

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(2) (第122図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケ メ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0490	残 口縁部 破片 高 < 9.3>	①後円部南 側(後方)② 20トレ6区	① B ② 明褐 7.5 YR5/6③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>4</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					14	先端の外面は断面台形状に肥厚する。以下外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。	PL55
0491	残 口縁部 破片 高 < 7.0>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					14	先端外面は弱く肥厚する。そのため外側に屈曲して外反しているようにみえる。器面はナデられる。外面はタテハケを施す。	内面は器面が粗れている。
0492	残 口縁部 破片 高 < 7.4>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>4</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					15	先端の外面は幅狭く肥厚する。その中央部分はナデのためくぼむ。以下の外面はナメタテハケを、内面はヨコ方向のハケを施す。	PL55・70
0493	残 口縁部 破片 高 < 6.4>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 L -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					9	先端の外面は薄く肥厚するが、中位がややくぼむ。器面はナデている。以下の外面はタテハケ、内面はナメハケを施す。	
0494	残 口縁部 破片 高 < 5.9>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					10	外面の先端は幅広く、段をなして肥厚する。器面はヨコナデを施す。内面もヨコナデを施す。	
0495	残 口縁部 破片 高 < 5.7>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					12	外面の先端は薄く粘土を貼り肥厚させる。以下の外面はタテハケ、内面はナメヨコハケを弱いタッチで施す。	
0496	残 口縁部 破片 高 < 4.7>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					12	外面の先端は幅狭いが段をなして肥厚する。器面にはヨコナデを施す。以下の外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。	PL55
0497	残 口縁部 破片 高 < 5.7>	①後円部南 側(後方)② 10トレ4区	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	先端外面は粘土を貼り肥厚させる。器面にはヨコハケを施す。以下の外面はタテハケ、内面は先端にヨコナデ、以下にナメヨコハケを施す。	
0498	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5 区・6区	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					表 12・ 裏 6	先端の外面は短く肥厚する。内面には稜をもつ。	
0499	残 口縁部 破片 高 < 6.3>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>					12	外面は若干肥厚する程度、ヨコハケ後これをナデている。	
0500	残 口縁部 破片 高 < 6.6>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 K -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					8	先端の外面は薄く肥厚し、器面にヨコ方向のハケを施す。以下の外面にはタテハケが施される。	PL69

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハ ケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0501	残 口縁部 破片 高 < 5.3>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					8	先端の外面は粘土を厚く貼 り肥厚する。内面には稜を なす。	PL55
0502	残 口縁部 破片 高 < 7.0>	①後円部南 側(後方)② 20トレ6区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					14	先端の外面は粘土を貼り断 面台形状に肥厚させる。以 下外面はタテハケ、内面は ヨコハケを施す。	
0503	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					14	先端は外面が肥厚する。端 面も幅広くくぼむ。器面 にはヨコハケが施される。内 面も先端間近までヨコハケ を施す。	
0504	残 口縁部 破片 高 < 6.7>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 橙5 YR7/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					12	先端の外面は粘土を貼り肥 厚する。端面は強くくぼみ、 上縁が突出する。内面は幅 広くヨコナデする。	
0505	残 口縁部 破片 高 < 4.3>	①後円部南 側(後方)② 10トレ5区	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					5	先端の器内は厚い。外面は 粘土を貼り肥厚させてい る。内面の調整は先端ヨコ ナデ、以下にヨコハケを施 す。	
0506	残 口縁部 破片 高 < 6.4>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					8	先端の外面には薄く粘土を 貼り、器面にはヨコハケを 施す。内面はナナメヨコハ ケを施す。	PL55
0507	残 口縁部 破片 高 < 3.5>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	I					10	先端は緩やかに外反して立 ち上がる。外面はタテハケ、 内面はナナメヨコハケ後先 端をヨコナデする。	
0508	残 口縁部 破片 高 < 6.3>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通	I					11	先端の外縁は尖る。外面タ テハケ、内面ナナメハケを 施す。	

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(3) (第123図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハ ケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0509	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <11.2>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 H -20G	①A②赤褐5 YR4/8③普 通・普通	I	台1	8.6	円 ?		12	口縁部は緩やかに外反して 立ち上がる。先端はくぼむ。 外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナナメタ テハケが施される。胴部 には突帯に接して透孔が配 されている。	PL55
0510	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <13.7>	①後円部南 側(後方)② 後円部南裾	①A②明赤褐 5YR5/8③良 好・やや硬質	I	台2				9	口縁部は緩やかに外反して 立ち上がる。先端は欠損。 外面タテハケ後上端が狭 く、突出度の高い突帯貼り 付け。内面、胴部はナナメ ハケ。口縁部はヨコハケ。	外面黒色の 付着物あり。 PL55

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0511	残 口縁部 破片 高 < 4.6>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					8	先端は緩やかに外反か。器 肉は薄い。外面はナナメタ テハケを、内面はナデを施 す。	
0512	残 口縁部 破片 高 < 4.1>	①後円部南 側(後方)② 10トレ4区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					6	端面は上縁・下縁とも強く 突出し、断面三角形をな す。	PL55
0513	残 口縁部 破片 高 < 6.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					10	先端で強く外反する形状 か。器肉も徐々に厚さを増 している。端面の下端は尖 る。器面は内外面ともナデ ている。	PL55
0514	残 胴部2 段破片 高 < 12.6>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 I -20G・2 J-20G	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		台 3			円	12	外面タッチの弱いタテハケ 後突帯を貼り付け。内面は 丁寧にナデる。一部にハケ メがみられる。	器面は黒色 みをおび る。
0515	残 胴部2 段破片 高 < 13.0>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台 3			円	12	外面タテハケ後、突出度の 弱い突帯を粗雑に貼り付け る。上位段の調整は下段と 異なる工具を用い、粗雑に 行われている。内面にはナ デ、ナナメハケを施す。	PL56
0516	残 胴部2 段破片 高 < 12.0>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 橙5 YR6/6③ 良 好・普通		台 1			円	12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ 後下半にタテ方向のナデが 重ねられている。	PL56
0517	残 胴部2 段破片 高 < 12.9>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台 1			円	12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。上位段には二次的ヨコ ハケが認められる。内面は 丁寧にナデている。	
0518	残 胴部2 段破片 高 < 15.2>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		台 1			円	13	外面にはタテハケ後二次調 整のヨコハケを施す。突帯 は幅狭く、突出度も高くない。	胎土分析試 料。
0519	残 胴部2 段破片 高 < 11.6>	①後円部南 側(後方)② 10トレ7区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台 1			円	12	外面タテハケ後、突出度の 低い突帯を貼り付け。内面 はナデを施す。	

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(4) (第124図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0520	残 胴部2 段破片 高 < 14.0>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区 ・6区	① B ② 橙5 YR7/6・暗灰 黄2.5Y4/2③ 普通・普通、 内面還元状態		台 2			円	12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデ、ヨコ 方向のハケメを残す。	
0521	残 胴部2 段破片 高 < 10.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M 2				12	外面タテハケ後、突出度の 極めて低い突帯を貼り付け る。内面にはナデを施す。	
0522	残 胴部破 片 高 < 11.8>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G・2 K-20G接 合	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		台 1			円	14	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。突帯は狭い間隔で 配置されたか。	内面は磨滅 している。

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0523	残 胴部破片 高 < 9.8>	①後円部南側(後方)② 10トレ4区	①B②橙5YR6/8③普通・普通		M1				12	外面タテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナデ後ナメタテハケを施す。	内面黒色みあり。
0524	残 胴部破片 高 < 10.9>	①後円部南側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通		台2			円	表8・裏12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデ、ナメヨコハケを施す。	
0525	残 胴部2段破片 高 < 14.1>	①後円部南側(後方)② 20トレ5区・6区	①B②明赤褐5YR5/8③普通・普通		台2			円	14	外面細かい単位のタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメナデを施す。	器面の一部黒色みをおびる。
0526	残 胴部2段破片 高 < 11.1>	①後円部南側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐2.5YR5/6・橙5YR6/6③普通・普通		台1			円	12	突帯より上位は外反ぎみに立ち上がり口縁部となるか。外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面にはナメヨコハケを施す。	
0527	残 胴部破片 高 < 10.6>	①後円部南側(後方)② 10トレ6区	①B②橙5YR6/8③普通・普通		台1			円	12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面にはヨコハケ・ナメヨコハケを充填する。	
0528	残 胴部2段破片 高 < 10.8>	①後円部南側(後方)② 20トレ	①B②明赤褐5YR5/6③良好・普通		M2			円	12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面にはナデを施す。	外面の一部に黒色みをおびる。 PL56
0529	残 胴部2段破片 高 < 10.7>	①後円部南側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通		M1			円	14	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデ、一部にハケメを残す。	

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(5) (第125図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0530	残 胴部2段破片 高 < 10.6>	①後円部南側(後方)② 1トレ2I~2J-20G	①B②明赤褐5YR5/8③普通・普通		M1				8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメヨコハケを施す。	
0531	残 胴部破片 高 < 8.0>	①後円部南側(後方)② 10トレ2L-18G	①B②にぶい褐7.5YR5/4③不良・普通、還元状態		不明				13	外面タテハケ、内面ナメハケを施す。	
0532	残 胴部破片 高 < 14.4>	①後円部南側(後方)② 1トレ2J-20G・2K-20G	①B②明赤褐5YR5/8・黒褐5YR2/1③普通・普通		台3				7	外面は単位の粗いハケメを弱いタッチで施す。その後突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	外面は黒色みをおびる。 PL56
0533	残 胴部2段破片 高 < 17.0>	①後円部南側(後方)② 20トレ6区	①B②橙5YR6/6③良好・普通		M2			円	表10・裏20	外面弱いタッチのタテハケ後突出度の高い突帯を貼り付ける。内面はナメヨコハケを施す。	
0534	残 胴部2段破片 高 < 14.0>	①後円部南側(後方)② 10トレ6区	①B②橙5YR6/8③普通・普通		台1				9	外面タテハケ後突出度の高い突帯を貼り付ける。内面にはナデを施す。	器面は粗れている。 PL56
0535	残 胴部2段破片 高 < 6.7>	①後円部南側(後方)② 1トレ2J-20G	①B②橙5YR6/6③普通・普通		M2			円	13・10	器肉は全体に厚い。外面タテハケ後突出度の弱い突帯を貼り付ける。内面は丁寧にナデる。	

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0536	残 胴部2 段破片 高 < 8.3>	①後円部南 側(後方)② 10トレ内堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通、断 面内部還元状 態		台2					12	外面は突帯貼り付け後ナデを施す。内面にはハケメとナデを施す。	
0537	残 胴部2 段破片 高 < 9.4>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台1			円		12	外面ナデ調整後突帯を貼り付ける。突帯は両縁とも丸みをおびている。内面はナメハケ、ナデを施す。	
0538	残 胴部破 片 高 < 7.7>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2L -20G	①B、大礫少 量、輝石顕著 ②浅黄橙7.5 YR8/4③ 普 通・普通、断 面還元状態		M2			円		9	外面タテハケ後やや偏平な突帯を貼り付ける。内面はナメ方向のナデを施す。色調が他より明るく、胎土も特徴的である。	胎土分析試 料。
0539	残 胴部破 片 高 < 3.9>	①後円部南 側(後方)② 20トレ6区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台2			円		16	突帯の器面はヨコナデが施されるが一部に布目圧痕が残る。	PL72
0540	残 胴部破 片 高 < 7.0>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2H -20G・2 K-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 良 好・普通		台1			円		12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面は丁寧なナデている。	器面に黒色 の付着物あ り。
0541	残 胴部破 片 高 < 4.7>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通							表 5・ 裏 8	外面は単位の粗いタテハケを弱いタッチで施す。内面もタテハケを施す。	
0542	残 胴部破 片 高 < 6.5>	①後円部南 側(後方)② 後円部南裾	①B②明赤褐 5YR5/8③ 良 好・普通		台2					12	外面はタテハケ後二次的にヨコ方向のハケを施しているが突帯貼り付けとの関係は不明瞭である。	外面に黒色 の付着物。 あり
0543	残 胴部破 片 高 < 7.4>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	① B ② 橙5 YR7/8・にぶ い黄褐10YR 5/3③普通・普 通		台2			円		10	外面弱いタッチのタテハケ後突帯貼り付けを施す。内面はナデ、ナメヨコハケを施す。	
0544	残 胴部2 段破片 高 < 7.9>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2J -20G	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		M2			円		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向にナデる。	外面黒色み をおびる。

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(6) (第126図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0545	残 胴部2 段破片 高 <12.4>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2K -20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1			円		13 ・ 8	外面はタテハケ後それと異なる工具によるヨコハケを施す。突帯の貼り付けはヨコハケ後と考えられる。内面はヨコ方向にナデる。	PL56
0546	残 胴部破 片 高 < 8.2>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2			円		6	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はタテハケを施す。	PL56
0547	残 胴部2 段破片 高 <13.1>	①後円部南 側(後方)② 10トレ内堀 内	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通		台1			円		13	外面はタテハケ後突帯貼り付け。その後二次調整のヨコハケ。内面はナメハケとナデがみられる。	

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテ ヨコ			
0548	残 胴部破片 高 <10.1>	①後円部南側(後方)②10トレ4区	① A ② 橙5 YR6/6③ 普通・普通		台1				12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを施す。	
0549	残 胴部2段破片 高 <11.1>	①後円部南側(後方)②10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・やや軟質		台2		円		6	外面はやや粗い単位のタテハケ後、突帯貼り付け。突帯の一部には粘土塊が重なる。補修痕か。内面にはタテハケを施す。	器面の磨滅著しい。 PL56
0550	残 胴部2段破片 高 <10.1>	①後円部南側(後方)②1トレ2 J-20G	① B ② 明赤褐 5YR5/6・黒 7.5YR2/1③ 普通・普通		M1				13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。上段のハケは一部ナメ方向に施されている。	外面黒色みをおびる。 PL56
0551	残 胴部2段破片 高 <7.4>	①後円部南側(後方)②10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・やや軟質		台2		円		8	外面、やや単位の粗いタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメタテハケ、接合痕はヨコにナデ消す。	
0552	残 胴部破片 高 <6.8>	①後円部南側(後方)②20トレ5区	① B ② 橙5 YR6/6・橙7.5 YR6/6③ 普通・普通		M2				10	外面は弱いタッチのタテハケを施した後突帯を貼る。内面はナデを施す。	
0553	残 胴部破片 高 <11.6>	①後円部南側(後方)②10トレ5区・6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・普通		台2				12・9	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付ける。内面は2種類の工具によりヨコハケを施す。	PL56
0554	残 胴部2段破片 高 <7.5>	①後円部南側(後方)②1トレ2 K-20G	① B、大礫少量 ② 橙7.5 YR6/6③ 普通・普通		台2		円		12	外面タテハケ後、シャープな突帯を貼り付け。内面はタテ方向に丁寧なナデを施す。	
0555	残 胴部2段1/3 径(25.0) 高 <9.7>	①後円部南側(後方)②1トレ2 J-20G	① B ② 明褐7.5 YR5/6③ 普通・やや軟質		M1		円		8	外面タテハケ後、突帯貼り付け。内面はナデている。	器面は磨滅している。

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(7) (第127図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテ ヨコ			
0556	残 胴部破片 高 <8.0>	①後円部南側(後方)②1トレ2 I-20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・普通		M2				10	外面のタテハケは器面に工具を強く押しつけて調整している。内面はナデを施しているが接合痕を明瞭に残す。	PL56
0557	残 胴部2段破片 高 <7.4>	①後円部南側(後方)②1トレ2 J-20A	① B ② 橙7.5 YR6/8③ 普通・普通		台1		円		12	外面タテハケ後、突出度の弱い突帯を貼り付ける。内面はナメハケを粗雑にタテ方向のナデで消す。	
0558	残 口縁部～胴部破片 高 <10.8>	①後円部南側(後方)②10トレ7区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普通・普通		台1				10	外面、弱いタッチのタテハケ後突帯貼り付け。内面はヨコ方向のハケメを施す。	器面は粗れている。
0559	残 胴部2段破片 高 <11.1>	①後円部南側(後方)②1トレ2 J-20G	① A ② 橙2.5 YR6/6③ 良好・普通、断面内部還元状態		台1				11	外面タテハケ後突帯貼り付け。残存部下端にヨコナデが残存することから突帯間の間隔は短いと考えられる。	
0560	残 胴部破片 高 <12.4>	①後円部南側(後方)②10トレ5区	① B ② 明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台1				15	小径である。外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はハケメ、ナデを施す。一部に接合痕を残す。	



No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成 ・ 整形 の 特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ テ	ヨ コ			
0561	残 底部 破片 高 <13.3>	①後円部南 側(後方)② 10トレ5区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通							11	外面タテハケ、内面にはナ デ、押えの痕跡がみられる。 器肉は厚い。	
0562	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <11.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6 区・7区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通、断 面内部還元状 態		台2 ?	4.3				7	外面は弱いタッチのタテハ ケ後底面から4.3cmの位置 に突帯を貼り付ける。内面 にはナデを施す。	
0563	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <15.7>	①後円部南 側(後方)② 10トレ内堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台2	10.1				10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナメタテハケを 施す。底面は右を上を重ね る。	
0564	残 底部 破片 高 <14.0>	①後円部南 側(後方)② 10トレ内堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1	13.1				16	外面は細かい単位のタテハ ケを施した後突帯を貼り付 ける。内面にはタテあるいは ヨコ方向のナデを施す。	
0565	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <13.8>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2J -20G	①B②赤褐5 YR4/6③良 好・普通		M1	11.7				8	外面はタテハケ後突出度の 極めて弱い突帯貼り付け。 その後一部にタテハケを加 えている。内面はナデを施 すが粘土紐の接合痕を明瞭 に残す。	内面黒色み をおびる。 PL56
0566	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <9.8>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2	5.5				10	外面タテハケ後底面から5. 5cmの位置に突帯を配す。内 面にはナメタテハケを施 す。	PL56

後円部南側(後方)出土の円筒埴輪(8) (第128図)

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成 ・ 整形 の 特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ テ	ヨ コ			
0567	残 底部 1/3 高 <14.5>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2K -20G	①B②赤褐5 YR4/8③普 通・普通			15.5				9	器肉は底面に近づいても肥 厚せず全体に薄い。外面は 単位の粗いハケメを何度も 重ねている。内面も底面近 くに基部成形時の押圧痕を 残す他はハケメを施す。	
0568	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <10.7>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区	①B②におい 赤褐5YR5/4 ・暗灰黄2.5 YR5/2(表)、 橙7.5YR6/6 (裏)③不良・ 普通、外面還 元状態		台1	7.4		円		10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。胴部には突帯に接して 透孔を配す。内面にはナデ を施す。	
0569	残 底部 破片 高 <10.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質							4	外面、粗い単位のタテハケ。 内面はナメタテハケを施 す。	
0570	残 底部 破片 高 <7.8>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2G -20G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・やや硬 質		M3	4.5				9	外面タテハケ後、底面近く に突帯を貼り付ける。底面 は左を上を重ねている。	
0571	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <11.9>	①後円部南 側(後方)② 10トレ墳丘	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台2	8.0				15	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 にはナデを施す。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タテヨコ				
0572	残 基底部 破片 高 < 7.8>	①後円部南 側(後方)② 10トレ6区	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 不 良・普通、還 元状態		台 2		1.5			8	外面タテハケ後底面に接して突帯を貼り付ける。内面にはナデの痕跡が認められる。	
0573	残 口縁部 朝顔 破片 高 < 7.8>	①後円部南 側(後方)② 10トレ7区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		三					14	口縁部下半の破片である。形状は頸部からナメ上方に外反しており、断面三角形の突帯を後から貼り付けている。外面はタテハケ、内面にはナデを施す。	
0574	残 口縁部 朝顔 破片 高 < 3.2>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5 区、下段	① B ② 橙2.5 YR6/6③ 普 通・普通							14	下端の接合面にヘラ状工具による鋸歯状の線刻がみられる。粘土紐の接合を補助する行為の痕跡と考えられる。	
0575	残 口縁部 朝顔 破片 高 < 14.1>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① A ② 赤褐5 YR4/8③ 普 通・普通							8	口縁部の上半は大きく外反、先端の平坦面を外側に向ける。内外面ともハケメを施し、先端のみヨコナデを重ねている。	外面は黒色 みをおび る。 PL55
0576	残 胴部破 片 朝顔 高 < 9.7>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台 1					9	肩部はやや丸みをおびる。突帯は上縁が尖る断面形状である。外面の調整は胴部がタテハケ、肩部はナメヨコハケか。内面はナデている。	器面は粗れ ている。
0577	残 頸部～ 胴部1/3 朝顔 径 (15.0) 高 < 8.1>	①後円部南 側(後方)② 20トレ6区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台 1	1 < 5.7> 2 < 2.4>				10	肩部は丸みをもって彎曲、突帯をめぐらせた頸部へ続いている。外面はヨコ方向のハケメを、内面はハケメ、ナデを施す。	内面は粗れ ている。

後円部西側出土の円筒埴輪(1) (第129図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテヨコ			
0578	残 口縁部 ～胴部2段 1/2 口 (28.2) 高 < 28.3>	①後円部西 側②6トレ 4区・5区	① B ② 明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通	I	台 1	1 < 6.1> 2 12.1 3 10.1	円	2 5.3 < 4.0>	11	口縁部は緩やかに外反し立ち上がり、端面はナメ上方を向く。外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメタテハケを施す。	PL44
0579	残 胴部3 段1/3 高 < 27.1>	①後円部西 側② WDT	① A ② 明赤褐 5YR5/8・明 褐7.5YR5/6 ③ 良好・普通		台 1 ・ 三	1 < 7.8> 2 13.4 3 < 5.9>	円	2 < 2.6> < 4.5>	9	外面のタテハケは若干ナメ方向になる部分もある。突帯は突出度が極めて弱く、上段は下稜を残すものの下段は断面三角形である。内面は粗雑なタテハケを施す。突帯内面のやや下位に作業単位を表す接合痕が認められる。	器面はやや 磨滅してい る。 PL44
0580	残 胴部3 段1/4 胴 (28.0) 高 < 23.9>	①後円部西 側② C-2、 I-2、II- 2、II-3	① B ② 明赤褐 5YR5/8・オ リーブ 褐2.5 YR4/3③ 良 好・普通、や や還元ぎみ		M 1	1 < 2.9> 2 12.8 3 < 8.2>	円		12	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付ける。内面は粗雑なナデを施す。	PL44

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし		ハケ メ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ ヨコ				
0581	残 胴部2 段1/3 高 <21.4>	①後円部西 側・後円部 墳頂部～上 段②WD、 石室上部S	①A②明赤褐 2.5YR5/6・ にぶい褐7.5 YR5/4③良 好・普通、断 面内部還元状 態		台1	1 <1.4> 2 13.9 3 <6.1>	円			9	外面タテハケ後突帯貼り 付け。内面もナナメハケ・タ テハケ。下位はナデを重ね る。	0579と 同 一。 PL44
0582	残 胴部3 段1/2 高 <27.7>	①後円部西 側②C-I、 B-II-2、 B-III-1	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1	1 <9.2> 2 14.8 3 <3.7>	円	1L (5.3) — 1R — — 2F — (5.1) 2B (5.2) (5.2)		9	同一個体と思われるが大型 破片4片になっている。外 面はタテハケ後突帯を貼り 付けている。一部ナデのみ の調整の部分がみられる。 内面はナデを施すが接合痕 を各所に残している。	器面の磨滅 著しい。黒 色の附着物 あり。 PL44
0583	残 底部部 ～胴部第1 段1/3 底 (33.0) 高 <26.6>	①後円部西 側②B-I、 B-II-2、 B-II-3	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2	1 14.5 2 <12.1>				8	底部部は長く、器肉が薄い。 調整は外面がタテハケ後突 帯貼り付け。内面はタテハ ケ後粗雑なナデを施す。	PL58
0584	残 口縁部 の先端欠損 2/3 底 (33.5) 高 <78.8>	①後円部西 側・後円部 墳頂部～上 段②B-1 -III No.45・ 48、B-II、 C-1、C -2-II-1、 C-4、石室 上部、羨門 北	①B、赤色粘 土粒②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・硬質		M2	1 11.4 2 10.9 3 13.0 4 13.4 5 14.3 6 10.2 7 <5.6>	円	2F 8.1 7.3 — (7.1) 4L (4.0) (4.0) 4R — — 5F (7.4) — 5B (5.3) (7.7)		9	6条突帯7段構成で口縁部 の先端を欠損していると思 われる。底部部は歪みを生 じ変形していたと考えられ る。突帯は比較的突出度 が高い。外面調整はタテハ ケ後、突帯貼り付けをして いる。	器面は磨滅 が著しい。 PL44
0585	残 口縁部 破片 高 <7.3>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						9	先端は平坦面をなさず丸 みをおびる。外面は粘土を貼 り肥厚させる。貼り付け部 分にヨコハケ。内面は先端 までヨコハケ。	器面やや磨 滅してい る。 PL58
0586	残 口縁部 破片 高 <7.1>	①後円部西 側②2トレ 2E-14G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						9	先端は外面に薄く粘土を貼 り肥厚させる。以下の外面 はタテハケ、内面はヨコハ ケを施す。	
0587	残 口縁部 破片 高 <8.3>	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						8	先端の外面は粘土を薄く貼 り肥厚させ、器面をナデる。 以下外面はタテハケを施 す。内面はヨコ方向のハケ を施し、先端は強いヨコナ デのため稜ができる。	PL58
0588	残 口縁部 破片 高 <8.0>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>						16	外面はタテハケ後先端に粘 土を貼り肥厚させる。肥厚 部分にはヨコハケを施す。 内面は先端にヨコハケ。以 下はナナメハケ。	内面は磨滅 している。 PL58
0589	残 口縁部 破片 高 <5.5>	①後円部西 側②19トレ 3区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>						9	先端の外面は粘土を貼り肥 厚させる。器面はナデる。 以下の外面はタテハケ、内 面はナナメヨコハケを施 す。	

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0590	残 口縁部 破片 高 < 4.6)	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					8	先端の外縁は粘土帯を幅広く貼り肥厚する。端面の上縁はつままれたように肥厚する。	

後円部西側出土の円筒埴輪(2) (第130図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0591	残 口縁部 破片 高 < 10.4)	①後円部西 側② WDT	① B ② 赤褐 2.5YR4/6・ 明赤褐5YR5/8 ③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					12	先端はナナメハケ後外側に粘土を貼り肥厚させる。肥厚部分はヨコハケを施し、両端にヨコナデを重ねる。内面はナナメハケ後、先端を幅広くヨコナデ。	内面に3条のへら記号。 PL58
0592	残 口縁部 破片 高 < 9.8)	①後円部西 側②C-2、 I-2	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	I					10	短く緩やかに立ち上がる。先端の内外面はヨコナデ。以下の外面はナナメハケ。内面は下半にナデを、上半にヨコハケを施す。	PL58
0593	残 口縁部 破片 高 < 6.2)	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					10	弱く外反して立ち上がる。先端には幅広くヨコナデが施される。内面のハケメも極めて弱い。	PL58
0594	残 口縁部 破片 高 < 4.8)	①後円部西 側②2トレ 西	① B ② 赤褐5 YR4/8③ 普 通・普通	I					5	端面は上縁が尖り、断面三角形形状を呈する。	朝顔形埴輪の口縁部か。
0595	残 口縁部 破片 高 < 7.8)	①後円部西 側②6トレ 4区	① B ② 黄橙 7.5YR7/8③ 普通・普通	I					12	先端は緩やかに外反して立ち上がる。外面はナナメタテハケを、内面はナナメヨコハケを施す。	PL58
0596	残 口縁部 破片 高 < 6.5)	①後円部西 側②6トレ 4区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					6	先端は弱く外反する。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケ・ヨコハケを施す。	
0597	残 口縁部 破片 高 < 5.6)	①後円部西 側②19トレ 4区	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・やや軟質	I					6	外面はやや粗い単位のタテハケを、内面はヨコハケを施す。器肉は薄い。	PL58
0598	残 胴部3 段1/4 高 < 23.4)	①後円部西 側②C-2、 I-2	①B②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通		台1	1 < 8.4) 2 11.6 3 < 3.4)	円	2F < 5.3) < 3.2)	9	外面はタテハケ後幅の狭い突帯を貼り付ける。内面は下位2段がナナメあるいはヨコ方向のナデ。上段にはヨコハケが施されるので口縁部にあたる可能性もある。	器面は粗れている。 PL58
0599	残 胴部破 片 高 < 7.2)	①後円部西 側②2トレ 2E-16G	①B②にぶい 赤褐5YR5/4 ③不良・普通、 内面還元状態		台1				8	外面は突帯貼り付け時に周囲を幅広くナデる。内面にもナデを施す。	
0600	残 胴部2 段破片 高 < 9.8)	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M2				5	外面のタテハケは極めて粗い単位である。内面はナデている。	PL58 胎土分析試料。
0601	残 胴部2 段破片 高 < 18.4)	①後円部西 側②6トレ 4区	① B ② 橙7.5 YR6/8③ 普 通・普通		台1		円	4.8 < 3.0)	11	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	PL58
0602	残 胴部2 段破片 高 < 8.6)	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M2		円		15	外面は細かい単位のタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はタテ方向のハケメを施す。	

後円部西側出土の円筒埴輪(3) (第131図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯			透 か し			ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔		形状	タ テ	ヨ コ				
0603	残 胴部3 段1/4 高 <26.5>	①後円部西 側②B-I・ II-2・No10、 B-I・I-2、 No43(1)・B -II・B-III	①B、礫顯著 ②橙7.5YR6/8 ③普通・普通、 内面やや還元 ぎみ		台1	1 <6.3> 2 11.5 3 <8.7>		円	2F <4.0> <4.6>		11	外面は極めて弱いタッチの タテハケ後突帯貼り付け。 残存上位にナナメハケがみ られる。内面はナナメナデ。	PL58 胎土分析試 料。	
0604	残 胴部2 段破片 高 <5.9>	①後円部西 側②2トレ 2E-14G	①B②橙7.5 YR4/6③普 通・普通		台1			円				13	外面タテハケ後突帯を丁寧 に貼り付ける。内面はナデ る。	器面の一部 は黒色みを おびる。
0605	残 胴部破 片 高 <6.3>	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1							9	外面ナナメハケ後突帯貼り 付け。	外面黒色み をおびる。 朝顔形埴輪 か。
0606	残 胴部2 段1/4 高 <20.0>	①後円部西 側②WDT	①A②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2	1 <9.9> 2 <10.1>					表 10 ・ 裏 14		上・下両段とも一部に二次 的なタテハケが施され、そ の後にヨコハケが重ねられ ている。内面はナデの上に ナナメハケを重ねる。	PL58
0607	残 胴部2 段破片 高 <9.4>	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①B②橙7.5 YR6/8③普 通・普通		M1							12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメハケを施 す。	
0608	残 胴部破 片高<6.4>	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1							8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はハケメをナデ消 す。	
0609	残 胴部2 段1/3 胴 (32.6) 高 <15.6>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・普通		台3	1 <6.5> 2 <9.1>						9	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はタテハケをナ デ消している。	PL58
0610	残 胴部2 段破片 高 <16.6>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		M3			円 ?			6 ・ 7		外面は弱いタッチのタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は ナナメハケ。	器面は粗れ ている。
0611	残 胴部2 段1/3 高 <10.0>	①後円部西 側②C-2 ・I-2・ No21・II -3・No25 ・I-3・ No22・III・ No25・III- 2・I-2 ・I-3・ C-2・II -3・3 -III	①B②明赤褐 5YR5/6・灰 オリーブ7.5 Y4/2③良 好・普通、還 元ぎみ		台2	1 <3.9> 2 <6.1>		円	1 <2.0> 4.8		12	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面は粗雑なナデを 施す。		
0612	残 胴部2 段破片 高 <9.6>	①後円部西 側②6トレ 5区	①B②橙5 YR6/8③普 通・やや軟質		台3			円				8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。両段に透孔を配す。 内面はナナメタテハケ、一 部にナデを施す。	外面にヘラ 描きあり。

後円部西側出土の円筒埴輪(4) (第132図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯			透 か し			ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔		形状	タ テ	ヨ コ				
0613	残 胴部2 段破片 高 <10.3>	①後円部西 側②B-III	①B②橙7.5 YR4/6・オ リーブ黒10 Y3/1③普 通・普通		M2	1 <8.3> 2 <2.0>						6	外面は粗いタテハケ後突帯 貼り付け。内面はナナメハ ケ。	外面に黒色 みをおびる 部分あり。

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0614	残 胴部2 段破片 高 < 8.2)	①後円部西 側②2トレ 2E-14G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台2				9	外面タテハケ後突帯貼り 付け。内面にはナデを施す。	
0615	残 胴部3 段破片 高 < 25.5)	①後円部西 側②WD、D	①B②明赤褐 5YR5/8・黄 褐10YR5/8 ③普通・普通		台1	13.5			10	外面、タテハケ後突帯貼り 付け。内面はナデ後、まば らなタテハケ。上段の突帯 は下稜がつぶれた断面三角 形を呈す。	PL58
0616	残 胴部2 段破片 高 < 11.7)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙7.5 YR4/6③普 通・普通		台3		円		8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯は稜が丸みをおび ている。内面はナデている。	外面にヘラ 描きあり。 器面は黒色 みをおびる。
0617	残 胴部破 片 高 < 7.5)	①後円部西 側②6トレ 2J-14G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台1				8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナメタテハケ を施す。	
0618	残 胴部3 段1/4 高 < 21.5)	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台1	12.0	円	< 3.0> < 2.5>	9	透孔は小径か。外面はタテ ハケ後突帯貼り付け。突帯 のやや上位にハケの重なり がみられる。内面ナメハ ケ。部分的にナデを重ねる。	PL58
0619	残 胴部2 段破片 高 < 8.2)	①後円部西 側②19トレ 6区	①B②橙5 YR6/6③良 好・普通		台2		円		11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナメタテハケ を施す。	
0620	残 胴部破 片 高 < 7.2)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		M1				9	外面タテハケ後突出度の高 い突帯を貼り付ける。内面 はナデを施す。	外面剝離。
0621	残 胴部2 段破片 高 < 12.3)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②明赤褐 5YR6/8③普 通・普通		台1				9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。突帯は上稜が大き く突出する。内面にはナメ タテハケを施す。	
0622	残 胴部2 段破片 高 < 12.1)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		円	< 5.3> —	8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯は上稜が強く突出 する。内面はナメタテハ ケ、一部にナデを施す。	

後円部西側出土の円筒埴輪(5) (第133図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0623	残 胴部2 段破片 高 < 8.0)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙7.5 YR6/8③普 通・やや軟質		台1				6	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデている。	器面は著し く磨滅して いる。
0624	残 胴部2 段破片 高 < 6.9)	①後円部西 側②19トレ 4区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2				11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面もタテハケを施す。	形象の可能 性あるか。
0625	残 胴部2 段破片 高 < 10.0)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		円		10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。突帯は下稜が失わ れつつある。内面はナメ タテハケを施す。	
0626	残 胴部破 片 高 < 9.3)	①後円部西 側②2トレ 2E-16G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M3		円		11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデる。色 調が橙色をおびる。	
0627	残 胴部2 段破片 高 < 11.5)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②にぶい 赤褐5YR4/4 ③普通・普通		台1		円		12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面は丁寧なナデを施 す。	器面黒色み をおびる。
0628	残 胴部2 段破片 高 < 10.9)	①後円部西 側②19トレ 4区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1				10	外面タテハケ後貼り付けた 突帯は幅の狭い断面形状を 呈する。内面はナデを施す。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテヨコ			
0629	残 胴部 2 段破片 高 < 9.1)	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①A②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		M1				14	外面は細かなタテハケ後突 帯貼り付け。内面はナデる。	
0630	残 胴部 2 段破片 高 < 8.2)	①後円部西 側②BT- II	①B②黄褐 2.5Y5/3・灰 10Y4/1③不 良・普通、還 元状態		台1		円		9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデ。	
0631	残 胴部破 片 高 < 13.9)	①後円部西 側②6トレ 4区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		円		10	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 にはタテハケ・ナナメヨコ ハケが施される。	
0632	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 < 13.5)	①後円部西 側②B-I ・B-II	①B②明褐 7.5YR5/6③ 良好・やや硬 質		台1	5.0			7	器肉は薄い。外面は弱い タッチのハケメ後突帯貼り 付け。内面はナナメハケ。	突帯を挟ん で焼成前の 刺突孔が2 箇所みられ る。
0633	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 < 10.2)	①後円部西 側②6トレ 5区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2	8.2			9	外面タテハケ後、下端の幅 広い突帯を貼り付ける。内 面にはナデを施す。	外面の一部 黒色みをお びる。
0634	残 底部 破片 高 < 13.9)	①後円部西 側②C-I	①B②明褐 7.5YR5/6・ 灰オリーブ7. 5Y4/2③不 良・普通、還 元状態		台2	11.2			8	外面は弱いタッチのタテハ ケ。突帯貼り付け後下稜側 は幅広くヨコナデを施す。 内面にはナデ、押圧痕が認 められる。	PL58

後円部西側出土の円筒埴輪(6) (第134図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タテヨコ			
0635	残 底部 ～胴部第1 段1/4 底 (22.2) 高 < 14.0)	①後円部西 側②WDT	①B②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通		台1	10.8			8	外面は弱いタッチのタテハ ケ後突出度の低い突帯貼り 付け。内面は下端に基部粘 土板作製時の押圧痕を残 す。他はナナメハケ。	
0636	残 底部 破片 高 < 7.3)	①後円部西 側②2トレ 2E-14G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1	5.7			8	外面、弱いタッチのタテハ ケ後突帯を貼り付ける。	内面は剝離 している。
0637	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 < 5.1)	①後円部西 側②2トレ 2E-14G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		M3	1.8			16	外面タテハケ後底面間近に 突帯貼り付け。内面には基 部粘土板成形時の圧痕及び ナナメヨコ方向のハケメを 残す。	
0638	残 底部 破片 底 (25.4) 高 < 13.2)	①後円部西 側②C-1	①B②明黄褐 10YR6/6・黄 褐2.5Y5/4③ 良好・普通、 還元状態		M2	12.1			10	外面はタテハケ後、突出度 の弱い突帯を貼り付け。内 面はナナメ方向のナデとタ テハケがみられる。下端に は粘土板製作時の圧痕がみ られる。	
0639	残 底部 破片 高 < 5.4)	①後円部西 側②2トレ 2E-13G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台2 ?	4.4			12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデが認められ る。	
0640	残 底部 破片 高 < 11.1)	①後円部西 側②WDT	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1	9.5			12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面ナナメナデ。	PL58

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハ ケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形 状	タ テ	ヨ コ				
0641	残 基底部 破片 高 < 8.3>	①後円部西 側②19トレ 5区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台 2		2.2				11	外面タテハケ後底面に接し て突帯を貼り付ける。内面 もタテハケを施す。	
0642	残 基底部 破片 高 < 5.2>	①後円部西 側②6トレ 4区	① B ② 橙2.5 YR6/6③ 普 通・普通		三		3.1				12	外面はタテハケ後底面間近 に突帯を貼り付ける。内面 はナナメタテハケをナデて いる。	
0643	残 基底部 破片 高 < 5.2>	①後円部西 側②19トレ 4区	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台 3		1.7	円			10	外面はタテハケを施す。底 面に接して突帯を貼り付 け、直上に突帯を配してい る。内面にはタテハケを施 す。	
0644	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 < 8.0>	①後円部西 側②C-2、 I-2	① B ② 橙7.5 YR6/6・黄褐 2.5YR5/3③ 良好・普通、 やや還元状態		台 1		1.8				8	突帯は底面に接する位置に 配されている。外面はタテ ハケ後突帯貼り付け。内面 はタテハケ。	PL58
0645	残 口縁部 1/4 口 (39.0) 高 < 22.1>	①後円部西 側②B-I、 II-2、No 42・No46・ No48、C- 1	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・普通		台 2	1 < 2.4> 2 19.7					15	口縁部は中位にやや張りをも って立ち上がり、先端で 屈曲、外反する。外面には粘 土を貼り弱く肥厚させる。 外面の調整はタテハケ後、 肥厚部分をつくり、ヨコハ ケ、さらにナデを重ねる。	外面に黒色 の付着物。 PL58
0646	残 頸部1/ 3 頸 (14.0) 高 < 5.3>	①後円部西 側②B-I、 III-1、No 48、C-1	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台 1	1 < 2.7> 2 < 2.6>					10	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はナデ。	
0647	残 頸部破 片 高 < 7.0>	①後円部西 側 ② B T -II	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通								14	肩部から屈曲し口縁部のは じまる部分である。外面に はタテハケ後突帯がめぐ る。	PL58
0648	残 胴部1/ 3 径 (27.0) 高 < 7.7>	①後円部西 側②B-I ・B-II	①B②明赤褐 5YR5/8・にぶ い赤褐5YR5/4 ③普通・普通、 やや還元状態		台 2	1 < 6.1> 2 < 1.6>					8	肩部外面は横に近いナナメ ハケ。内面にはナデを施す が接合痕残す。	
0649	残 胴部破 片 高 < 6.3>	①後円部西 側②B-II	①B②明赤褐 5YR5/8③ 普 通・普通		台 1						14	突帯より上位の外面にナナ メハケ。	



くびれ部西側出土の円筒埴輪(1) (第135図)

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)		
					形状	間隔	形状	タテヨコ					
0650	残 完形 口 28.5 底 22.7 高 69.7	①くびれ部 西側②拡 1、16トレ、 34トレ	①B②橙2.5 YR6/6③良 好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	M2	1	14.0	円	2L	6.9	15 ・ 16	基底部から胴部の径は一定を保つ。口縁部は弧状に外反して立ち上がる。先端は外面がやや肥厚し、ヨコ方向のハケを施す。タテハケ後突帯を貼り付け、ヨコナデを加えている。外面の調整は細かなタテハケを重ねている。口縁部はややナメ方向になる。	部分的に器面磨滅。口縁部内面にヘラ記号あり。胴部第4段の透孔はひび割れが生じ、粘土塊を貼り補修している。 PL45・69・70・72・73
						2	13.3		2R	5.9			
						3	12.5		3F	6.2			
						4	10.1		3B	6.7			
						5	10.2		4L	5.7			
						6	9.6		4R	5.2			
									5F	5.7			
										5.8			
									5B	5.4			
										5.8			
0651	残 基底部を除きほぼ 完形 口 31.5 底 29.1 胴 29.6 高 68.7	①くびれ部 西側②拡 1、1号埴輪・2号埴輪	①C②橙5 YR6/6③良 好・普通	I	台1	1	9.9	半円・円	2L	6.6	7	口縁部は先端がやや強く外反する。突帯はタテハケ後貼り付けているが剥離が著しい。調整は外面にタテハケが施されているが極めて粗雑である。	器面の剥離、磨滅が著しい。 PL45・70
						2	14.0		2R	(7.0)			
						3	11.5		3F	7.0			
						4	13.0			7.0			
						5	10.0		3B	7.6			
						6	10.3			6.5			
									4L	6.6			
										7.0			
									4R	(6.4)			
									5F	6.2			
			6.2										
		5B	6.7										
			5.3										
			7.4										
0652	残 ほぼ完形 口 26.9 底 24.6 高 73.2	①くびれ部 西側②拡 1、2号埴輪・墳裾・中段	①B、赤色粘土粒、金雲母 ②にぶい橙 7.5 YR7/4③ 良好・普通	I	M3	1	12.5	半円・円	2F	4.5	12 ・ 13	上半部が傾き、全体の均整を欠いている。口縁部は胴部第4段の上端の乾燥が進んでから付け足されたか内面の接合痕は特に顕著である。外面はタテハケ後突帯貼り付け。	透孔の形状は胴部第1段が半円形、それ以外は円形。器面は磨滅が著しい。 PL45・70・71
						2	12.7		2B	6.1			
						3	12.1		3F	5.7			
						4	10.4			5.4			
						5	12.8		3B	6.8			
						6	12.7			5.3			
									4L	6.9			
										5.7			
									4R	6.7			
									5F	5.7			
			7.2										
		5B	5.3										
			7.0										
			5.3										

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0653	残 ほぼ完 形 口 27.1 底 21.8 高 63.5	①くびれ部 西側②拡 1、6号埴 輪・1号埴 輪・堀	①B②橙5 YR6/6③良 好・普通	I	台2	1 4.8 2 11.6 3 9.9 4 11.0 5 14.4 6 11.8	円	2L — — 2R 5.7 — — 4F (5.6) — 4B (5.2) (5.6) 5L 5.9 — 5R 5.9 — 5.5	9	口縁部はわずかに外反して立ち上がる。外面の先端からやや下位にヨコナデ時の弱い稜がつくられ、面をなす。突帯の配置にバランスを欠き、下位胴部の間隔は狭い。低位置突帯である。外面はタテハケを下から上へ。内面、タテ方向のナデ。5段目の内面にタテハケを一部残す。口縁部にはナナメ方向のハケを残す。	器面はやや磨滅している。黒色の付着物あり。 PL46	
0654	残 口縁部 ～胴部3段 1/3 口 (35.0) 高 <45.0>	①くびれ部 西側②拡 1、2号埴 輪	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>	M1	1 <4.2> 2 13.8 3 14.1 4 12.9	円		9	口縁部の先端は外面に肥厚する。調整は外面がタテハケ、内面は胴部がナナメタテハケ、口縁部がナナメヨコハケを施す。	破片4片から復元。 PL46・70	
0655	残 口縁部 1/3 口 (35.0) 高 <8.9>	①くびれ部 西側②C— 4IV	①B②赤褐5 YR4/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>					9	先端の外面は粘土紐を貼り付け肥厚させ、段をなす。外面はタテハケ後粘土紐貼り付け。貼り付け部分はヨコ方向のハケを粗雑にナデ消している。内面はナナメハケ、先端はヨコナデを施す。	外面に黒色の付着物あり。 PL59	
0656	残 口縁部 ～胴部3段 1/2 口 28.6 底 <52.1> 高	①くびれ部 西側②C— 4・C—4 IV a、C— 4・5、C— 5	①B②橙2.5 YR6/6③良 好・普通、や や還元ぎみ	I	台1	1 <11.0> 2 13.5 3 15.5 4 12.1	円	1F — (4.3) 1B — — 2L 4.2 — 5.1 — — 2R — — — 3F (5.6) (4.6) — — 3B — —	9	口縁部は弱く外反して立ち上がる。胴部は突帯の配置に間隔を保っている。透孔は胴部の各段やや上位に寄せて、90°ずつふれた位置に切り抜かれている。外面はタテハケ後突帯を貼り付けている。口縁部の先端外面にはヨコナデが施されず上端までハケが残る。内面は胴部を3回にわたりタテ方向にハケ調整。作業休止(工程)部分ではここにタテナデを加えて接合痕を消している。口縁部はナナメ方向のハケである。	PL46	

くびれ部西側出土の円筒埴輪(2) (第136図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0657	残 ほぼ完 形 口 (31.0) 底 (24.1) 高 81.9	①くびれ部 西側・周堀 ②拡1排 Z・表採・27 トレ	①B②橙7.5 YR6/6③良 好・硬質	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	M1	1 11.0 2 12.4 3 12.2 4 10.2 5 12.7 6 13.9 7 9.5	円	3F 5.1 (5.7) 3B 5.7 6.6 5L 7.0 (7.8) 5R 6.5 7.5 6F 4.9 (5.5) — 6B (5.4)	10 ・ 6	全体形状はやや傾倒ぎみである。口縁部は先端の外面が肥厚する。突帯は外面調整後比較的均等に配置されている。外面調整はタテハケを施すが口縁部とそれ以外の胴部では工具が異なる。内面の調整はタテハケをくり返す。	口縁部内面にヘラ記号あり。 PL45・69・ 71	

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0658	残 口縁部 は一部残存 口 (30.9) 底 (26.5) 高 73.0	①くびれ部 西側②C- 4 II	①B、礫の含 入少量②橙5 YR6/6・明赤 褐5YR5/6③ 普通・普通	I	M2	1 10.9 2 13.7 3 12.7 4 12.2 5 14.8 6 8.7	円	2L 2R 4F 4B 5L 5R	6.3 6.8 6.1 (5.8) 5.8 6.0 7.6 (6.0) (5.8) — —	14	基底部は歪みを生じている が、その他は比較的整美で ある。口縁部の外反は他よ り顕著である。	PL45・71
0659	残 ほぼ完 形 口 28.4 底 28.7 高 74.7	①くびれ部 西側②拡 1、1号埴 輪	①B、赤色粘 土粒②にふい 橙7.5YR7/6 ③良好・普通	I	台2	1 11.6 2 10.5 3 10.9 4 9.5 5 13.3 6 10.2 7 8.7	円	2F 2B 3L 3R 4L 4R 5F 5B 6L 6R	6.9 7.1 6.0 6.6 6.5 5.9 6.0 5.5 6.4 5.8 (6.8) (6.0) 6.8 6.5 (4.0) (3.2) (6.2) (5.2) — (6.5)	9	胴部は底面から46.0cm程、 第4突帯部分に最小径をも ち、それから上位に向けて やや径を太くする。口縁部 は外反して立ち上がる単純 な形状である。突帯の貼り 付けは粗雑で波打つ状態で 間隔も不均等である。外面 は突帯貼り付け後タテハケ 調整。内面は、タテ方向の ナデとナナメ方向のハケメ をくり返している。	器面は磨滅 が著しい。 口縁部外面 と第4突帯 にヘラ記号 あり。 PL45・70・ 71
0660	残 口縁部 ～胴部3段 1/3 口 30.5 高 <37.9>	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通	I	M2	1 <8.4> 2 10.8 3 10.8 4 7.9	円			10 ・ 14	口縁部は短く、緩やかに外 反して立ち上がる。透孔は胴 部の上位2段に配される。 調整は外面がタテハケ、内 面はナナメヨコハケを施 す。	PL46
0661	残 口縁部 ～胴部2段 1/3 口 (31.0) 高 <35.9>	①くびれ部 西側②C- 4 II	①B②にふい 赤褐5YR4/4 ③良好・普通	I	M3	1 <9.5> 2 14.9 3 11.5	円	2F	<5.9> —	9	口縁部は上半が緩やかに外 反して立ち上がる。外面は タテハケ後突帯貼り付け。 内面は粘土紐の接合痕を多 く残す。胴部下段と口縁部 はナナメ方向のハケ、胴部 上段は器面を押さえるよう なナデ。	器面に黒色 の付着物あ り。 PL47
0662	残 口縁部 ～胴部1段 1/2 口 (30.2) 高 <19.6>	①くびれ部 西側②拡1 埴丘裾、中 段、15号埴 輪	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>	台1 ?	1 <6.8> 2 12.8	円			12	口縁部は長く緩やかに外反 して立ち上がり先端は外側 が肥厚する。外面はタテハ ケ、口縁部の肥厚部直下に ナナメヨコハケが施され る。内面はナナメヨコハケ を施す。	PL59・69
0663	残 口縁部 ～胴部1段 1/3 口 (31.0) 高 <14.4>	①くびれ部 西側②拡1 埴丘裾部	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	I	台2	1 <6.6> 2 7.8	円			12	口縁部は短く緩やかに外反 する。調整は外面がナナメ タテハケ後突帯を貼り付け る。内面はヨコ方向のハケ を施し、一部にナデを残す。	PL59

## くびれ部西側出土の円筒埴輪(3) (第137図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
0664	残 口縁部 ～胴部1段 1/3 口 (32.0) 高 <18.1>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	M1	1 <4.1> 2 14.0	円			14	口縁部先端は外面に粘土を 貼り肥厚させる。貼り付け 部分の下端は波状を呈す る。透孔は突帯に寄せて切 られている。外面の調整は タテハケ後突帯貼り付け。 突帯の突出は弱い。内面は ナナメ方向のハケを施す。	外面に黒色 の付着物あり。 PL59
0665	残 口縁部 1/3 口 (34.0) 高 <14.0>	①くびれ部 西側②C- 5、C-5 VI、C-5 VII	①B、赤色粘 土粒②赤褐5 YR4/8③普 通・普通	I						7	口縁部は長く緩やかに外反 して立ち上がる。外面はタ テハケ、内面はナナメハケ で先端にヨコナデが加えら れる。	器面は粗れ ている。 PL59
0666	残 口縁部 ～胴部2段 1/3 口 (31.0) 高 <35.4>	①くびれ部 西側②C- 4、C-4 II・中段 下・拡1	①B②橙5 YR6/8③良 好・普通	A <sub>1</sub> ?	M2	1 <10.4> 2 12.5 3 15.5	円	2F <3.5> — 2B <3.5> —	14	口縁部はほとんど外反せず 立ち上がる。先端は外面に 粘土を貼り肥厚させていた が現在は貼り付けた部分が 剥落している。胴部は外面 タテハケ後突帯を貼り付け ている。内面はナナメ方向 であるが統一性のないハケ メを充填する。口縁部では ヨコ方向に施される。	口縁部内面 に斜行する 2条のヘラ 記号。 PL47・73	
0667	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 口 (32.0) 高 <21.3>	①くびれ部 西側②拡1 No.1	①B②明赤褐 5YR5/6(表)、 明赤褐2.5 YR5/8(裏) ③普通・普通	I	台1	1 <5.6> 2 15.7				10	口縁部は長く、先端が緩や かに外反する。外面はタテ ハケ後突帯を貼り付ける。 内面はナナメヨコハケを施 す。	PL59
0668	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 口 (31.0) 高 <28.3>	①くびれ部 西側②C- 5Va	①B②橙5 YR6/6③良 好・普通	I	台1	1 <16.0> 2 12.3				14 ・ 10	口縁部は緩やかに立ち上 がる。器肉は薄い。外面はタ テハケ後突帯貼り付け。胴 部下半とそれより上位の工 具は異なる。内面はナデ後 部分的に粗雑なハケを重ね る。突帯の内側に位置する 部分は接合部分を押圧した 指頭圧痕が明瞭に残る。	PL47
0669	残 胴部4 段破片 胴 (21.4) 高 <33.8> (図上復元)	①くびれ部 西側②拡 1、16トレ、 34トレ	①B②におい 橙2.5YR6/4 ③普通・普通		台1	1 <4.5> 2 12.0 3 9.4 4 <7.9>	円	2F (5.3) 5.3 — 2B — — 4L — — 4R — (5.3)	6	小径である。外面は単位の 粗いタテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケ・ナナメヨコハケを施 し、下位はナデを施してい る。透孔は残存部第2段、 第4段に配されている。	PL47	
0670	残 胴部6 段1/2 胴 (26.2) 高 <65.7>	①くびれ部 西側②拡 1、5号埴 輪	①B、片岩少 量②橙7.5 YR6/6③良 好・普通		M1	1 <7.3> 2 11.7 3 12.5 4 13.0 5 11.7 6 <9.1>	円	2F — (5.6) 3F 6.2 (5.7) 3B (6.0) — 5L — (4.3) — 5R — —	10	最上位は口縁部の残存か。 突帯はタテハケ後粗雑に貼 り付ける。	器面の磨滅 が著しい。 PL46	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ			
0671	残 胴部3 段 胴 (25.8) 高 <28.9>	①くびれ部 西側②拡 1、5号埴 輪	①B②橙7.5 YR6/6③良 好・硬質	台2	1 <8.4> 2 12.8 3 <7.7>	円	2F 5.3 6.1 2B 5.6 <6.3> 3L <5.2> (6.9) 3R <5.7> —	15	外面はタテハケ後突帯貼り 付け、ヨコナデを施す。内 面はタテ方向のハケにタテ 方向のナデを加えている。	器面は磨 減、黒色の 付着物あり。 PL47	
0672	残 胴部3 段1/3 高 <23.9>	①くびれ部 西側②拡1 Na6と周堀	①B②橙7.5 YR7/6・にぶ い赤褐5YR5/4 ③普通・普通、 やや還元状態	台1	1 <7.2> 2 10.9 3 <5.8>	円		14	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。各段に透孔を配 するが規則性は欠いている 。内面にはナデ、ナナメ タテハケがみられる。	PL60	
0673	残 胴部5 段1/2 胴 (26.8) 高 <54.8>	①くびれ部 西側②C— 4 II、C —4中段	①B、石英粒 ②橙2.5YR6/6 ③良好・普通	台2	1 <6.5> 2 16.8 3 11.3 4 13.9 5 <6.3>	円	3F 4.3 (4.8)	8	胴部は径に大きな変化をも たない。突帯は上端の幅が 狭く、突出度が高い。外面 はタテハケ後突帯貼り付 け。内面は下位がナナメ方 向、上位がタテ方向のナデ である。	器面は粗れ ている。 PL46	

くびれ部西側出土の円筒埴輪(4) (第138図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ			
0674	残 胴部4 段1/3 高 <27.0>	①くびれ部 西側②C— 4、C—4 II、C—4 ・5	①B②橙5 YR6/8③良 好・普通	M1	1 <2.4> 2 9.7 3 11.2 4 <3.7>	円	2F <5.6> — 3R <4.3> —	17	胴部は狭い間隔で突帯が配 置されている。透孔は各段 の上位に寄って90°ずつず らして切られている。外面 はタテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメ方向のハ ケにナデを重ねている。	PL60	
0675	残 胴部3 段2/3 高 <30.1>	①くびれ部 西側②C— 5	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	台2	1 <6.4> 2 11.7 3 <12.0>	円	2F — (5.9) 3L — (5.1)	10	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面は粗雑なタテ方 向のナデをくりかえす。製 作工程の単位を示すの器 面が大きく波打つ箇所が2 箇所ある。	器面の磨減 著しい。 PL47	
0676	残 胴部2 段1/2 高 <24.7>	①くびれ部 西側②C— 4	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通	台1	1 <10.8> 2 <13.9>	円	1L (5.0) — 2F (5.0) —	13	胴部は小径で、変化がみら れない形状である。各段に 小径の透孔を配置する。外 面の調整は下段はタテハケ のみであるが上段はタテハ ケ後突帯を貼り付け、その 後再度ヨコハケ、タテハケ と重ねている。内面はナデ を施している。	PL47	
0677	残 胴部3 段2/3 高 <31.5>	①くびれ部 西側②C— 5、C—4、 C—4、5	①B、礫顯著 ②赤褐2.5 YR4/6③普 通・普通	台2	1 <4.4> 2 15.5 3 <11.6>	円	3F — (6.3)	9	胴部はやや径が大きく、傾 きを変えることなく立ち上 がる。外面はタテハケ後突 帯貼り付け。内面はタテハ ケとタテ方向のナデを混用 する。	器面磨減し ている。 PL46	
0678	残 基底部 ～胴部第1 段1/3 底 (30.0) 高 <20.6> (図上復元)	①くびれ部 西側②拡 1、3号埴 輪中段	①B②橙5 YR6/6(表、 裏)・にぶい赤 褐5YR5/4(表)③普 通・普通	台2	1 13.3 2 <7.3>	円		12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面は丁寧にナデ ている。底面は右を上に乗 ねる。	PL47	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
0679	残 基底部 ～胴部第2 段1/3 底 (24.0) 高 <25.2> (図上復元)	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1	1 3.5 2 10.8 3 9.9 4 <1.0>	円			8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。第1段は底面から 4.0cmの位置にある。透孔は 胴部第1段、第2段にみら れる。内面はタテ方向にナ デを施す。底面は右を上 に重ねる。	PL47	
0680	残 基底部 ～胴部第2 段1/3 高 <25.8>	①くびれ部 西側②W C4III B	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2	1 10.7 2 10.5 3 <4.6>	円				外面はタテ方向のヘラナデ 後突帯貼り付け。内面はタ テ方向にナデを施す。突帯 は幅が狭い。透孔は胴部の 2段に90°ずれて穿たれて いる。下段は小径と思われ る。底面は右を上 に重ねる。	PL47・72	
0681	残 基底部 ～胴部第4 段 底 (23.0) 高 <54.9>	①くびれ部 西側②拡1 墳面・中 段・墳、11 トレZ-15 G	① B ② 橙5 YR6/6・明赤 褐2.5YR5/ 6(上部)③良 好・硬質		M2	1 4.2 2 15.5 3 15.2 4 15.8 5 <4.2>	円	2L 4.4 2R 4.4 3F (3.1) 3B 6.0 4L — 4R —	11	他と比較して胴径の細い形 状である。外面調整後突帯 を広い間隔で配置してい る。第1段は低位置突帯で ある。透孔は円形であるが 内外の径が著しく異なっ ている。外面にはタテ方向の ハケメを施す。	外面に黒色 の付着物が 残る。 PL46・72		
0682	残 基底部 ～胴部第1 段1/4 底 (34.0) 高 <22.5>	①くびれ部 西側②C- 4 IV a、C -4・5	① B ② 灰オ リーブ5Y5/ 2・にぶい橙10 YR6/4③ 普 通・普通、還 元状態		台1	1 2.0 2 13.8 3 <6.7>	円	1 <6.4> —	8	第1突帯は底面に接して配 置されている。外面はタテ ハケ後突帯貼り付けを粗雑 に行う。内面はタテハケ後 部分的にナデを加えている。	PL62		
0683	残 基底部 ～胴部第1 段1/3 底 (30.0) 高 <11.8>	①くびれ部 西側②11ト レ Z-16 G・Z-19 G接合	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2	1 4.8 2 <7.0>	円	1 — 5.3	8	底面の形状からは平面楕円 形を呈するようにみえるが 歪みの可能性もある。外面 はタテハケ後底面から4.7 cmの位置に突帯を貼り付け る。内面はナデている。	器面は粗れ ている。 PL62		
0684	残 基底部 ～胴部第3 段3/4 底 (26.6) 高 <43.7>	①くびれ部 西側②拡 1、2号埴 輪No1	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		M1 ・ M2	1 4.4 2 15.8 3 16.9 4 <6.6>	円	3F 6.2 7.2	14 ・ 8	胴部径はほとんど変化を有 さず、上方に立ち上がる。 外面はタテハケ後突帯を配 すが第1突帯は底面から4. 0cmと低位置に配されてい る。内面はナメタテハケ をくり返し施している。	胴部第3段 外面にヘラ 描きあり。 PL46		
0685	残 基底部 ～胴部第1 段1/3 底 (24.5) 高 <14.9>	①くびれ部 西側②鞍部 W-V	①B②赤褐2. 5YR4/8③ 普 通・普通		台1	1 10.0 2 <4.9>	円		7	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はタテ方向のナ デ。	PL62		
0686	残 基底部 ～胴部第1 段1/2 底 (23.2) 高 <22.3>	①くびれ部 西側②拡 1、1号埴 輪・2号埴 輪・34トレ	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・良好		M2	1 12.1 2 <10.2>	円	2 <4.0> 5.3	10 ・ 18	外面タテハケ後突帯を貼り 付け両段ともヨコ、あるいは ナメヨコハケを部分的 に施す。内面はヨコハケ・ ナメヨコハケを施す。一 部はナデる。	器面の一部 に黒色みあ り。 PL47		

## くびれ部西側出土の円筒埴輪(5) (第139図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0687	残 基底部 ～胴部第2 段1/4 底 (35.0) 高 <31.6>	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR6/8・灰オ リーブ5Y5/2 (表)、褐7.5 Y4/4(裏)③ やや不良・普 通、内面還元 状態		M1	1 10.2 2 12.3 3 <9.1>	円		10	外面は弱いタッチのタテハ ケ後突帯を貼り付ける。透 孔は第1段、第2段に配さ れている。内面は丁寧にナ デを施す。	PL62
0688	残 基底部 ～胴部第1 段2/3 底 (25.8) 高 <25.9>	①くびれ部 西側・周堀 ②拡1、27 トレ	① B ② 橙5 YR6/6③ 良 好・普通		台1	1 10.7 2 13.2 3 <2.0>			12	基底部の下端は歪み、弱く 外反する。外面はタテハケ 後、突出度の弱い突帯を貼 り付け、粗雑なナデを加え ている。内面はナナメハケ を施し、胴部にはタテ方向 のナデを施す。	基底部外面 と内面全体 は還元状態 を呈する。 PL47・71
0689	残 基底部 ～胴部第1 段3/4 高 <15.7>	①くびれ部 西側②16ト レ墳丘内、 拡1	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2	1 9.0 2 <6.7>	円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面は基部成形時 のナデを残し、上半にナナ メハケがみられる。	基部にひび 割れを補修 したと考え られるヘラ 状工具によ る刻みがみ られる。 PL62・71
0690	残 口縁部 破片 高 <8.9>	①くびれ部 西側②鞍部 W III	①B②明赤褐 5YR5/6・橙 7.5YR6/6③ 良好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端は外面に粘土を貼り肥 厚させる。内面は強いヨコ ナデのため稜をなす。外面 タテハケ。内面ナナメハケ。	PL60
0691	残 口縁部 破片 高 <4.7>	①くびれ部 西側②拡1 中段・埴輪 23	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>4</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					14	先端の外面は粘土を突帯状 に幅狭く貼り付け肥厚させ る。外面はタテハケ、内面 はナナメヨコハケを施す。	PL60
0692	残 口縁部 破片 高 <6.3>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明赤褐 5YR5/8③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					7	上半が外反して立ち上る。 先端の外面は粘土を薄く貼 り肥厚させる。外面はタテ ハケ。内面はナデている。	先端の内外 面に粗雑な 粘土の貼り 付けがある が成形時の ひび割れの 補修痕か。
0693	残 口縁部 破片 高 <9.6>	①くびれ部 西側②18ト レ4区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					12	外面の先端は粘土を貼り肥 厚させる。以下の外面はタ テハケ、内面はナナメヨコ ハケを施す。	PL60
0694	残 口縁部 破片 高 <5.8>	①くびれ部 西側②C- 5	① B ② 橙5 YR6/8③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					11	口縁部の先端は外面に断面 台形状の粘土紐を貼り付け 肥厚させている。外面はタ テハケ、内面はナナメハケ を施す。	PL60
0695	残 口縁部 破片 高 <6.6>	①くびれ部 西側②C- 4中段下	① B ② 橙7.5 YR6/8③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					8	先端の外面は粘土を貼り肥 厚させナデている。外面の 調整はタテハケ。内面はヨ コあるいはナナメハケを施 し、先端はナデている。	外面はやや 磨滅してい る。

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯			透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔		形状	タ テ	ヨ コ			
0696	残 口縁部 破片 高 < 6.4	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明褐7.5 YR5/6③良 好・硬質	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>							14	先端の外面はやや幅広い粘土を貼り肥厚させる。下端は段をなす。外面の貼り付け部分はヨコハケ、以下はタテハケ。内面はナナメ方向のハケ、ナデ後先端にヨコナデを施す。	器面は磨減している。 PL60
0697	残 口縁部 破片 高 < 10.9	①くびれ部 西側②C- 4	①B②橙7.5 YR6/8③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							8	先端の外面は粘土を薄く貼り肥厚させる。外面の調整はタテハケ。貼り付け部分はナデ。内面はナナメハケ。	PL60
0698	残 口縁部 破片 高 < 12.4	①くびれ部 西側②拡1 周堀	①B②橙5 YR7/6(表)、 にぶい橙7.5 YR6/4③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>							12	先端の外面には粘土を貼り肥厚させ器面にヨコハケを施す。外面もこの部分で外反著しい。内面はナナメヨコハケを施す。	PL59
0699	残 口縁部 破片 高 < 10.2	①くびれ部 西側②拡1 周堀	①B②橙5 YR6/8・にぶ い橙5YR6/ 4(表)、にぶ い黄橙10YR6/ 3(裏)③不良 ・普通、内面 やや還元状態	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>							16	先端の外面は幅広く、厚く突帯を貼り付け、器面にヨコハケを施す。以下外面はタテハケを、内面はナナメタテハケを施す。	PL60・69
0700	残 口縁部 破片 高 < 9.8	①くびれ部 西側②鞍部 WCT-V	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							8	先端はやや肥厚する。外面は上から下にタテハケ。内面はナナメハケ。	PL59

くびれ部西側出土の円筒埴輪(6) (第140図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯			透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔		形状	タ テ	ヨ コ			
0701	残 口縁部 ~胴部2段 破片 高 < 22.7	①くびれ部 西側②拡 1、C・4 IIa 接合	①B②橙2.5 YR6/8(表)、 橙7.5YR6/ 6・にぶい黄褐 10YR5/4③ 良好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	台1	1 < 1.0> 2 12.4 3 9.3		円			10・ 12	口縁部は短く、外反して立ち上がる。先端は外面が短く肥厚する。調整は外面がタテハケ、内面の下半がタテハケ、上半はナナメハケを施す。	外面、胴部 上段にヘラ 描きがある。 PL59
0702	残 口縁部 ~胴部1段 破片 高 < 14.5	①くびれ部 西側②鞍部 WIV	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	台1		11.5				8	口縁部の先端の外面は粘土を薄く貼り付ける。外面はタテハケ後突出度の弱い突帯貼り付け。内面はナナメハケ、下位に指頭圧痕あり。	PL59
0703	残 口縁部 ~胴部1段 1/4 口 (31.8) 高 < 16.2	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明赤褐 5YR6/6③良 好・硬質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	台2	1 < 5.3> 2 10.7					14	口縁部の先端は外面に粘土を貼り付け肥厚させる。外面はタテハケ後突帯貼り付け。突帯はやや狭いが突出度は高い。内面はナナメあるいはヨコハケを施す。	PL59
0704	残 口縁部 破片 高 < 6.6	①くびれ部 西側②C- 4 II	①B、やや礫 多い。片岩顕 著②橙7.5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							10	先端の外面は肥厚し、2回のヨコナデにより小さな段をなす。調整は外面がタテ、内面はナナメハケを施す。	



No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0705	残 口縁部 破片 高 < 6.6>	①くびれ部 西側②拡 1、34トレ	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通、や や還元ぎみ	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端の外表面は粘土を薄く貼 り付けて肥厚させる。	
0706	残 口縁部 破片 高 < 4.6>	①くびれ部 西側②拡1 周堀	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					12	先端の外表面は肥厚、ナデの ため波打っている。端面は くぼみ、上縁は強く突出す る。	
0707	残 口縁部 破片 高 < 3.7>	①くびれ部 西側②11ト レZ-18G	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	先端の外表面には粘土を貼り 肥厚させ、器面にヨコハケ を施す。内面は先端間近ま でヨコハケを施す。	
0708	残 口縁部 破片 高 < 5.2>	①くびれ部 西側②18ト レ4区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					12	先端は外表面に薄く粘土を貼 り器面をヨコナデする。内 面には稜をもつ。	
0709	残 口縁部 破片 高 < 4.1>	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G	① A ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					14	外表面の先端には粘土を貼り 肥厚させる。器面には薄く ハケメを残す。	器面は粗れ ている。
0710	残 口縁部 破片 高 < 6.9>	①くびれ部 西側②拡1 中段・埴輪 17	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					9	先端の外表面は粘土を貼り肥 厚する。器面にはヨコハケ を施す。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0711	残 口縁部 破片 高 < 5.2>	①くびれ部 西側②C- 4	①B、雲母粒、 粗砂少量②橙 5YR6/8③良 好・やや硬質	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>					14	先端の外表面は他の資料より やや幅広く粘土を貼り付け 肥厚させている。調整はヨ コハケにナデを重ねている。 内面はヨコあるいはナ ナメハケを施す。	内面にヘラ 記号が残 る。 PL60
0712	残 口縁部 破片 高 < 6.9>	①くびれ部 西側②C- 5	①B、礫少量 ②橙7.5YR6/6 ③良好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					8	先端は外側に粘土を厚く貼 り肥厚させる。肥厚部分は ヨコハケ後上半にナデを重 ねている。他の外表面はタテ ハケ、内面は横に近いナナ メハケである。	外表面にヘラ 描きか。 PL60
0713	残 口縁部 破片 高 < 7.3>	①くびれ部 西側②11ト レZ-18G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端は外表面に粘土を貼り肥 厚させる。端部上縁はやや 突出する。以下外表面の調整 はタテハケ、内面にはナナ メハケを施す。	
0714	残 口縁部 破片 高 < 6.9>	①くびれ部 西側②C- 5	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					10	先端は弱く屈曲、外側に粘 土を貼り薄く肥厚させる。 外表面はタテハケ後肥厚部分 をヨコナデ。内面はナナメ ハケ後先端をヨコナデ。	
0715	残 口縁部 破片 高 < 5.8>	①くびれ部 西側②11ト レZ-18G	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					15	先端は弱く外折しヨコナデ を施す。外表面はわずかに肥 厚する。以下外表面はタテハ ケ、内面はナナメハケを施 す。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0716	残 口縁部 破片 高 < 4.3>	①くびれ部 西側②C- 5 V a	①B②黄橙7. 5YR7/8③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>5</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					9	先端は外面に粘土を貼り付 け断面 M 字状に肥厚させ る。外面はタテハケ。内面 はナナメハケ後先端に強い ヨコナデを一周させる。	器面はやや 磨減してい る。

くびれ部西側出土の円筒埴輪(7) (第141図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0717	残 口縁部 破片 高 < 6.4>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・硬質	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					12	先端の外面は突帯を配した ように厚く肥厚する。外面 の調整はナナメハケであ る。内面は端部までヨコ方 向のハケ。	外面に黒色 の付着物あ り。 PL60
0718	残 口縁部 破片 高 < 4.8>	①くびれ部 西側②C- 4 IV a	① B ② 橙 5 YR6/6③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					10	先端は外側に屈曲し、短く 立ち上がる。調整は先端ヨ コナデ。外面にタテハケ、 内面にナナメハケを施す。	
0719	残 口縁部 破片 高 < 5.0>	①くびれ部 西側②C- 4	①C、片岩② 橙5YR6/6③ 良好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					16	先端の外面は粘土を貼り肥 厚、段をなす。貼り付け部 分にはヨコハケを施す。外面 の調整は段をヨコナデ、そ れ以下はタテハケ。内面 にはヨコ方向のハケを施す。	
0720	残 口縁部 破片 高 < 4.8>	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					13	先端は外面に粘土を貼り肥 厚させる。幅は狭いが断面 段状をなす。外面の調整は 肥厚部分がヨコナデ、以下 はナナメハケ。内面は先端 までヨコハケを施す。	
0721	残 口縁部 破片 高 < 3.4>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	外面先端の粘土貼り付けは 幅狭く、厚く肥厚する。内 面はナナメハケを施す。	
0722	残 口縁部 破片 高 < 4.4>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	先端は外側に粘土を貼り、 若干肥厚する。貼り付け部 分はナデ。内面もナデ。	
0723	残 口縁部 破片 高 < 5.6>	①くびれ部 西側②C- 5	① B ② 橙 5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					16	先端は外面に粘土を貼り付 け肥厚させる。肥厚部分 にはヨコハケが施され、下半 部にヨコナデが重ねられ る。内面は先端までナナメ ハケ・ヨコハケを施す。	
0724	残 口縁部 ~胴部1段 破片 高 < 12.5>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G	① B ② 橙 5 YR6/6③普 通・普通	I	台 1	8.4	円		11 ・ 8	口縁部はわずかに外反して 立ち上がる。外面はタテハ ケ後突出度の弱い突帯を貼 り付ける。内面はナナメヨ コハケを施す。	口縁部外面 に器面の補 修のためと 考えられる 粘土塊と工 具痕がみ られる。 PL59
0725	残 口縁部 破片 高 < 4.8>	①くびれ部 西側②拡 1 周堀	① B ② 橙 5 YR6/6③普 通・普通	I						端面上縁はやや突出する。 器面は先端を幅広くナデ ている。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0726	残 口縁部 破片 高 < 5.9)	①くびれ部 西側②拡1 周堀	① B ② 橙5 YR7/6③ 普 通・普通	I					16	緩やかに外反して立ち上がる。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0727	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 < 16.4)	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G	①B、雲母粒 顕著 ② 橙5 YR6/6③ 良 好・普通	I	台2		6.8	円	< 4.5)	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケ・ヨコハケを施す。	PL59
0728	残 口縁部 破片 高 < 9.4)	①くびれ部 西側②拡1 周堀	①B、雲母粒 ②橙7.5YR7/6 ③普通・普通	I					14 ・ 10	先端は短く外反、端面上縁がやや突出する。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0729	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 < 21.2)	①くびれ部 西側② 拡 1、1号埴 輪	①B、片岩少 量、雲母粒多 量②橙5YR6/6 ③普通・普通	I	M 2	1	< 6.9)		12	口縁部は長く立ち上がり、先端は内面に施したヨコナデのため受け口状を呈する。外面タテハケ、内面ナナメヨコハケを施す。	外面は黒色 みをおび る。 PL59
0730	残 口縁部 破片 高 < 8.0)	①くびれ部 西側② 拡 1、1号埴 輪	①B、片岩少 量、雲母粒多 量②橙5YR6/6 ③普通・普通	I					10	器肉は全体に薄い。先端は大きく外反する。外面にはタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0731	残 口縁部 破片 高 < 6.4)	①くびれ部 西側②18ト レ1区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					10	先端は外反の度合い弱く立ち上がるか。内面にはナナメヨコハケが施される。	
0732	残 口縁部 破片 高 < 9.2)	①くびれ部 西側②C- 4南	①B、粗砂、 赤色粘土粒② 橙7.5YR6/6 ③良好・普通	I					10	大きく外反して立ち上がるが、先端は内面のヨコナデによるためか弱く受け口状を呈する。外面のタテハケは部分的に上から下方向に工具が動く。内面はヨコハケである。	器面はやや 磨滅してい る。
0733	残 口縁部 破片 高 < 4.9)	①くびれ部 西側②C- 5 V b	①B、混和材 少量 ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					12	先端は緩やかに立ち上がる。内縁がつままれたように尖るのに対し、外面は丸みをもつ。先端ヨコナデ。外面のナナメハケは下から上の後部分的に上から下に向かう。	

くびれ部西側出土の円筒埴輪(8) (第142図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0734	残 口縁部 破片 高 < 6.0)	①くびれ部 西側②鞍部 W-V、W C T-V	①B②明褐7. 5YR5/6③ 普 通・普通	I					10	先端は強く外反して立ち上がる。外面はタテハケ、内面はナナメハケである。	PL59
0735	残 口縁部 破片 高 < 7.1)	①くびれ部 西側②16ト レ4区	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通	I					8	先端は外反してナナメ上方に立ち上がる。外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
0736	残 口縁部 破片 高 < 4.8)	①くびれ部 西側②C- 4 II	①B②明赤褐 5YR5/6③ 良 好・普通	I					15	先端はナデによりシャープな仕上がりである。調整は外面タテハケ、内面横に近いナナメハケである。	
0737	残 口縁部 破片 高 < 5.8)	①くびれ部 西側②拡1 中段・埴輪 17	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・やや軟質	I					8	器肉は全体に薄い。外面タテハケ、内面ナナメヨコハケを施す。	

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ			
0738	残 口縁部 破片 高 < 8.8>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					11	外面タテハケ、内面ナナメ ヨコハケを施す。	
0739	残 口縁部 破片 高 < 6.3>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	I					10	調整は外面ナナメハケ、内 面もナナメハケを施す。先 端には強いヨコナデが重ね られている。	
0740	残 口縁部 破片 高 < 15.2>	①くびれ部 西側②拡1 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I	台3		7.8		12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面もナナメタ ハケを施す。	PL62
0741	残 口縁部 破片 高 < 11.0>	①くびれ部 西側②C- 5 VII	① B ② 橙7.5 YR6/6③良 好・普通	I					8	口縁部は緩やかに外反す る。外面タテハケ、内面ナ ナメハケを施す。	先端に粘土 塊を貼り付 け。 PL71
0742	残 口縁部 破片 高 < 10.1>	①くびれ部 西側②拡 1、6号埴 輪	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	I					9	端面の上縁はやや突出す る。外面タテハケ、内面ナ ナメハケを施す。	PL59
0743	残 口縁部 破片 高 < 12.4>	①くびれ部 西側②18ト レ1区	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					8	先端はナナメ上方に外反し て立ち上がる。先端はヨコ ナデ、以下外面はナナメタ テハケ、内面はヨコ方向の ハケメを施す。	朝顔形の可 能性もある か。 PL60
0744	残 口縁部 破片 高 < 9.4>	①くびれ部 西側②拡1	①A、雲母粒 ② 橙5YR6/6 ③普通・普通	I	台3		8.2		10	口縁部は短く外反して立ち 上がる。端面上縁はやや突 出する。外面はタテハケ、 内面はヨコハケ、ナデがみ られる。	PL60
0745	残 口縁部 破片 高 < 7.0>	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					8	外面タテハケ、内面はナナ メハケを施す。	
0746	残 口縁部 ～突帯破片 高 < 9.1>	①くびれ部 西側②C- 4	① B ② 橙5 YR6/8③良 好・普通	I	台1		7.8		16	口縁部は短く、強く外反し て立ち上がる。突帯の突出 度は弱い。調整は外面がナ ナメハケ。内面は上半がヨ コハケ。下半がナデである。 工具は歯の浅いものを使用 している。	器面はやや 磨滅してい る。 PL60
0747	残 口縁部 破片 高 < 7.5>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	I					14	残存の下端にヨコナデが確 認され、突帯が間近と考え られる。先端はやや丸みを もちシャープさに欠ける。	PL60

くびれ部西側出土の円筒埴輪(9) (第143図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ			
0748	残 口縁部 破片 高 < 5.2>	①くびれ部 西側②C- 4・5	① B ② 橙5 YR6/8③良 好・普通	I					14	先端は緩やかに外反する。 外面はタテハケ、内面はヨ コ方向のハケを施す。	外面に黒色 の付着物あ り。
0749	残 口縁部 破片 高 < 6.7>	①くびれ部 西側②C -5	① B ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・やや軟質	I					12	緩やかに外反して立ち上 がる。先端は外面がやや丸 みをとおびる。	
0750	残 口縁部 破片 高 < 6.0>	①くびれ部 西側②拡1 中段・埴輪 23	① A ② 橙5 YR6/6③良 好・普通	I					12	端面の下縁はやや突出す る。外面はナナメタテハケ、 内面はヨコハケを施す。	朝顔形の口 縁か。

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0751	残 口縁部 ～突帯破片 高 < 7.5>	①くびれ部 西側②鞍部 W-V	①B②にぶい 褐7.5YR5/4 ③普通・普通	I	M 2		6.9		9	突帯は比較的しっかりして いる。外面はタテハケか。 内面はナナメハケ。	外面に2条 の線刻。下 段は突帯貼 り付け以前 か。 PL60
0752	残 口縁部 破片 高 < 9.4>	①くびれ部 西側②拡1 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					12	外面はタテハケ、内面はナ ナメタテハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。 PL60
0753	残 口縁部 破片 高 < 5.5>	①くびれ部 西側②拡1 No.1	①B、雲母粒 多量②橙7.5 YR7/6③良 好・普通	I					10	先端は外反、端面は強くく ぼみ、上縁は突出する。外 面はタテハケ、内面は右上 がりのナナメヨコハケを施 す。	外面にヘラ 描きあり。
0754	残 口縁部 破片 高 < 7.8>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					8	先端の外面は粘土を薄く貼 り肥厚させ器面をナデてい る。以下の外面はタテハケ を施すが一部二次的なハケ の重なりがみられる。内面 はナナメヨコハケを施す。	内面にヘラ 描きを施 す。 PL59
0755	残 口縁部 破片 高 < 6.0>	①くびれ部 西側②拡1 中段	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					12	外面はタテハケを施す。	器面は粗れ ている。内 面に3条の ヘラ描きあ り。
0756	残 胴部2 段破片 高 < 9.7>	①くびれ部 西側②WC 4 III B	①B②明赤褐 5YR5/6(表)、 橙7.5YR6/ 6(裏)③良 好・普通		台 2				12	器肉は全体に厚い。外面タ テハケ。内面ナデ。突帯上 下縁はやや丸みをおびる。	PL61
0757	残 胴部2 段破片 高 < 13.0>	①くびれ部 西側②鞍部 W-III	①B②橙7.5 YR6/6③良 好・普通		M 2			円	14 ・ 7	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はナナメハケに 部分的にタテ方向のナデを 重ねる。	
0758	残 胴部2 段破片 高 < 14.5>	①くびれ部 西側②11ト レZ-14G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 不良・普通、 還元状態		M 1				9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面は粗雑なナナメハ ケとナデを施す。	PL61
0759	残 胴部2 段破片 高 < 10.8>	①くびれ部 西側②拡1 中段	① B ② 橙5 YR6/8(表)、 橙5 YR 5 / 6 (裏)③普通・ 普通		台 1				10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面にはナデを施 す。	
0760	残 胴部2 段破片 高 < 12.7>	①くびれ部 西側②鞍部 W-III	①B②にぶい 黄褐10YR5/3 ③普通・普通		台 2			円 ?	12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はヨコあるいはナ ナメヨコのハケメ。	残存部上端 にヘラ記号 あり。 PL61
0761	残 胴部2 段破片 高 < 10.9>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台 2				6	小径である。外面は粗いタ テハケ後突帯貼り付け。内 面はタテナデ。	黒色の付着 物あり。 PL62
0762	残 胴部2 段破片 高 < 10.8>	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通		M 1				8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケ、ナデを施す。	胎土分析試 料。

## くびれ部西側出土の円筒埴輪(10) (第144図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0763	残 胴部2 段破片 高 <15.5>	①くびれ部 西側②拡1 と34トレ接 合	①B②橙5 YR6/8③良 好・普通		台2		10.8	円		11 ・ 15 ・ 7	外面は残存上位がタテハケを施す。下位はタテハケ後これと異なる工具でナナメヨコ、ヨコハケを施す。ヨコハケと突帯貼り付けとの前後関係は不明である。内面はナナメヨコハケ・ヨコハケを施す。	器面の一部は黒色みをおびる。 PL61
0764	残 胴部2 段破片 高 <9.5>	①くびれ部 西側②拡1 墳丘裾部・ 埴輪15	①B②明赤褐 5YR5/6・黒 褐5YR3/1③ 普通・普通		台3			円		13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケに一部タテ方向のナデを重ねる。	外面は黒色みをおびる。
0765	残 胴部2 段破片 高 <11.4>	①くびれ部 西側②11ト レZ-18G	①B②明褐7.5 YR5/6③や や不良・やや 軟質		M1					7	外面はやや単位の粗いタテハケを粗雑に施した後突帯を貼り付ける。内面にもナナメタテハケが施される。	
0766	残 胴部3 段1/4 胴 (33.0) 高 <25.1>	①くびれ部 西側②C- 4・C-5	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・普通		台2	1 <8.2> 2 10.2 3 <6.7>		円	1 <5.6> <4.8>	8	外面はタテハケ後突帯貼り付け。強いヨコナデをそえている。最上段には一部に二次的なハケがみられる。内面もハケ調整、上位にナデがみられる。	PL61 胎土分析試 料。
0767	残 胴部2 段破片 高 <10.7>	①くびれ部 西側②拡1 中段	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・やや軟質		台2			円		6	外面は粗い単位のタテハケ後突帯を貼り付ける。内面もナナメタテハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。
0768	残 胴部3 段破片 高 <26.6>	①くびれ部 西側②拡1 周堀	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		13.1	円		9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面もタテハケを施す。	器面はやや 粗れている。 PL61
0769	残 胴部2 段破片 高 <10.9>	①くびれ部 西側②11ト レZ-18G	①B②橙7.5 YR6/6③不 良・やや軟質		三					7	外面タテハケ後断面三角形の突帯を貼り付ける。内面はタテ方向にナデている。	
0770	残 胴部2 段破片 高 <7.4>	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		M2					10	外面はタテハケ後突帯を貼り付け、その後二次調整のヨコハケを重ねている。	
0771	残 胴部2 段破片 高 <9.8>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台1					8	外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメ方向のナデ。	
0772	残 胴部2 段破片 高 <11.7>	①くびれ部 西側②C- 4	①B、片岩② 黄褐2.5Y5/4 ③不良・普通、 還元状態		台2					9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデ後部分的にハケを重ねる。	

## くびれ部西側出土の円筒埴輪(11) (第145図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
0773	残 胴部3 段破片 高 <20.3>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・普通		台2	1 <4.5> 2 11.0 3 <4.8>		円		12	外面はタテハケを施すが中段の上半から上段はこのハケをナデ消している。	内面は剝離 している。 PL61
0774	残 胴部2 段破片 高 <11.8>	①くびれ部 西側②拡1 中段、埴輪 3	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1			円		9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメハケ後タテ方向にナデを施す。	
0775	残 胴部破 片 高 <12.0>	①くびれ部 西側②拡1 中段、埴輪 45	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		台3					10	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	外面にヘラ 描きがあ る。 PL70

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0776	残 胴部2 段破片 高 <11.5>	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		台1				13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデ後ナナメヨコハケを施す。	
0777	残 胴部2 段破片 高 <11.9>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	① B ② 橙5 YR6/8③普通・やや軟質		台1				6	外面は単位の粗いタテハケ後、突帯を貼り付ける。突帯は下稜が弱く断面三角形に近い部分もある。内面にはナナメタテハケを施す。	
0778	残 胴部2 段破片 高 <13.8>	①くびれ部 西側②拡1 と16トレ接 合	①B、雲母粒 ②橙5YR6/8 ③普通・普通		M3				11	外面はタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデ、ナナメハケがみられる。	残存部下位 は基底部 か。
0779	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <13.3>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台2				15	外面タテハケ後突出度の高い突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	PL61
0780	残 胴部2 段破片 高 <15.4>	①くびれ部 西側②拡 1、2号埴 輪	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		M2				9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。
0781	残 胴部2 段破片 高 <8.1>	①くびれ部 西側②C— 4・5、C— 5	①B②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通		台2		円		表 16 ・ 裏 8	外面タテハケ後突帯貼り付け。突帯は上辺の幅が狭く、強く突出する。内面はナナメハケにナデを重ねる。内外面のハケの工具が異なる。上段に透孔が認められる。	
0782	残 胴部2 段破片 高 <6.8>	①くびれ部 西側②鞍部 WCT—V	①B②明赤褐 5YR5/6・に ぶい黄褐10 YR5/4③普通・普通		三				8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケ後をナデる。	

くびれ部西側出土の円筒埴輪(12) (第146図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0783	残 胴部2 段破片 高 <13.1>	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐 5YR5/6・黒 褐5YR2/1③ 普通・普通		M1				11	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。	残存部上位 は口縁部 か。外面の 一部に黒色 みあり。 胎土分析試 料。
0784	残 胴部2 段破片 高 <11.3>	①くびれ部 西側②拡1 中段	① A ② 橙5 YR6/6③良 好・普通		M1				10	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面にはナデを施す。	
0785	残 胴部2 段破片 高 <8.6>	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR7/8③普通・普通、内 面やや還元状 態		台1		円		8	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデ、一部にハケメを残す。	
0786	残 胴部2 段破片 高 <12.7>	①くびれ部 西側②18ト レ1区	①A、雲母粒 ②橙5YR6/6 ③良好・普通		台2		円		15	外面タテハケ後、両縁がやや丸みをおびる突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	外面にヘラ 描きの一部 残存。
0787	残 胴部2 段破片 高 <22.2>	①くびれ部 西側②C— 4	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台1		長 円 形	7.1 <4.2>	8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメ方向のナデ。	黒色の付着 物。内面は 磨滅してい る。

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形 状	タ テ ヨ コ				
0788	残 胴部2 段破片 高 <10.1>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2			円		8	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面もタテハケ を施す。	器面は粗れ ている。
0789	残 胴部2 段破片 高 <6.1>	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR6/6・黒褐 5YR2/1③普 通・普通		三					6	外面タテハケ後突帯を貼 り付ける。一部にナナメハケ が重なる。	PL70
0790	残 胴部破 片 高 <13.6>	①くびれ部 西側②拡1	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通		台2			円		7	外面タテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナナメハケ を施す。	
0791	残 胴部2 段破片 高 <8.8>	①くびれ部 西側②11ト レZ-14G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1			円		9	外面タテハケ後突帯をやや 粗雑に貼り付ける。内面は ナナメヨコハケを施す。	外面黒色み あり。
0792	残 胴部2 段破片 高 <9.9>	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通、内 面やや還元状 態		台1			円		11	小径である。外面タテハケ 後突帯を貼り付ける。透孔 は両段に配される。内面は ナデている。	
0793	残 胴部2 段破片 高 <9.3>	①くびれ部 西側②拡1 中段	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通		M2					14	外面タテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナナメタテ ハケ後一部にナデを重ね る。	

くびれ部西側出土の円筒埴輪(13) (第147図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形 状	タ テ ヨ コ				
0794	残 胴部2 段破片 高 <10.7>	①くびれ部 西側②拡1	①B、雲母粒 ②橙5YR6/6 ③普通・普通		M3			円		11	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナデを施 す。	PL61
0795	残 胴部2 段破片 高 <8.7>	①くびれ部 西側②拡1 中段・埴輪 20	① B ② 橙5 YR6/6③普 通・普通		台1					8	外面タテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナナメタテ ハケ、ナデがみられる。	
0796	残 胴部2 段破片 高 <17.1>	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐 5YR5/8・黄 褐2.5Y5/3③ 普通・普通		M2					9	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 にはナナメハケを施す。	PL61
0797	残 胴部2 段破片 高 <11.0>	①くびれ部 西側②拡1 中段・埴輪 20	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M2					表 8 ・ 裏 12	外面タテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0798	残 胴部2 段破片 高 <9.0>	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G	①B②におい 赤褐5YR5/4 ③普通・普通		M2			円		13	外面タテハケ後突出度の弱 い突帯を貼り付ける。内面 にはナナメヨコハケを施 す。	器面は黒色 みをおび る。
0799	残 胴部2 段破片 高 <16.4>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B、やや礫 多い②褐7.5 YR4/6③良 好・普通、還 元状態		M2					11	外面はタテハケ後突帯貼 り付け。内面はナナメハケ後 ナナメナデを重ねる。	PL61
0800	残 胴部2 段破片 高 <6.5>	①くびれ部 西側②C- 4-II	①B②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通		台2					14	外面タテハケ後突帯貼 り付け。内面タテ方向のナデ。 突帯は突出度が高く、しっ かりしている。	外面に黒色 の付着物あ り。



No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0801	残 胴部3 段破片 高 <20.5>	①くびれ部 西側②拡 1、1号埴 輪	①A、雲母粒 ②明赤褐5 YR5/6③普 通・普通		M1		12.3	円		10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0802	残 胴部2 段破片 高 <7.9>	①くびれ部 西側②16ト レ4区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・やや硬質		M1					8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ を施す。	
0803	残 胴部2 段破片 高 <11.1>	①くびれ部 西側②拡1	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		M2			円		15	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0804	残 胴部2 段破片 高 <10.1>	①くびれ部 西側②16ト レ4区	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		三					8 ・ 16	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。突帯を境にハケメ の工具が変わっている。内 面はナデを施す。	
0805	残 胴部2 段破片 高 <9.1>	①くびれ部 西側②拡1 周堀	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		M2					7	外面は粗い単位のタテハケ 後突帯を貼り付ける。内面 にはナナメタテハケとナデ がみられる。	PL61

くびれ部西側出土の円筒埴輪(14) (第148図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0806	残 胴部2 段破片 高 <10.6>	①くびれ部 西側②鞍部 W-V	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1					8	タテハケ後突帯貼り付け。 内面は強いタッチのナナメ ハケ。	PL61
0807	残 胴部2 段破片 高 <13.2>	めくびれ部 西側②拡1 埴面	①B、礫少量 ②橙5YR6/6 ③良好・普通		M3					12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0808	残 胴部2 段破片 高 <19.1>	①くびれ部 西側②拡 1、6号埴 輪	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通、 やや還元ざみ		台1		9.9	円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメハケ を施す。	PL61
0809	残 胴部2 段破片 高 <18.8>	①くびれ部 西側②拡1	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通		台1			円		8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	PL61
0810	残 胴部2 段破片 高 <10.5>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・硬質、還 元状態		M1			円 ?		13	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面タテハケとタテ方 向のナデを施す。透孔は粗 雑に切り抜かれている。	
0811	残 胴部2 段破片 高 <9.4>	①くびれ部 西側②鞍部 W-V	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1					12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデ、一部にハ ケを残す。	下段胴部に 平行する重 弧のヘラ記 号。 PL62・73
0812	残 胴部2 段破片 高 <11.2>	①くびれ部 西側②拡1 中段	①B②橙7.5 YR6/6・にぶ い褐7.5YR5/4 ③普通・普通		三					表 10 ・ 裏 8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面にはナナメハ ケ、ナデがみられる。	外面にヘラ 描きあり。
0813	残 胴部破 片 高 <8.4>	①くびれ部 西側②拡 1、1号埴 輪	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通					円		12	外面タテハケ、内面ナナメ タテハケを施す。	PL62
0814	残 胴部2 段破片 高 <9.6>	①くびれ部 西側②鞍部 W-V	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・やや硬質		台2			円		14	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はナナメハケと ヨコハケが混在する。	透孔に沿っ てヘラ記号 ありか。天 地不明。

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形 状	タ テ ヨ コ			
0815	残 口縁部 破片 高 <10.0>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通						10	外面タテハケ、内面ナナメ ハケを施す。	外面に波状 のヘラ描き あり。外面 の一部に黒 色みあり。 PL62
0816	残 胴部破 片 高 <6.1>	①くびれ部 西側②拡1 中段埴輪24	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2			円	12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。
0817	残胴部破片 高 <4.2>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明褐7. 5YR5/6③良 好・普通					円	14	外面はタテハケ後突帯を貼 り付けたと考えられる。内 面はナナメ方向のハケを施 す。	透孔に沿う ようにヘラ 記号が認め られる。
0818	残胴部3段 破片 高 <18.9>	①くびれ部 西側②拡1	①A、雲母粒 ②橙5YR6/6 ③普通・普通		M2		11.9	円	表 14 裏 10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施し、一部にナデを 加える。	外面にヘラ 描きあり。 PL61・73 胎土分析試 料。

くびれ部西側出土の円筒埴輪(15) (第149図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形 状	タ テ ヨ コ				
0819	残 胴部破 片 高 <5.5>	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通					円	9	円形の透孔を穿つ。	ヘラ記号が みられる。	
0820	残 口縁部 破片? 高 <4.3>	①くびれ部 西側②11ト レZ-18G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通						11	外面タテハケ、内面ナナメ ヨコハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。	
0821	残 胴部2 段破片 高 <14.1>	①くびれ部 西側②拡1 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		M1				7	外面はタテハケ後突出度の 弱い突帯を貼り付ける。内 面はナナメヨコハケを施 す。	内面にヘラ 描きの一部 が残存す る。	
0822	残 胴部2 段破片 高 <8.5>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1			円	15	外面に細かい単位のタテハ ケ後突帯を貼り付ける。突 帯は極めて狭小な形状を呈 する。内面はナデている。		
0823	残 胴部2 段破片 高 <8.8>	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台1				12	突帯は上稜の幅が狭く突出 度も弱い。外面はタテハケ 後突帯貼り付けのヨコナ デ。上段にはその上にヨコ ハケを重ねている。	外面に黒色 の付着物あ り。	
0824	残 胴部3 段破片 高 <23.5>	①くびれ部 西側②C- 4、C-IV	①B、赤色粘 土粒②橙7.5 YR6/8③良 好・普通		M3 ・ 三		11.7		10	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はタテ方向 のナデ、ナナメタテ方向の ハケメを施す。	器面はやや 磨滅してい る。 PL60	
0825	残 胴部2 段1/4 高 <19.7>	①くびれ部 西側②C- 5-VII	①B②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通		M3		12.1	円	<3.8> <4.9>	9	下段に透孔がみられる。外 面はタテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメハケにナ デを混じえる。	PL61
0826	残 胴部2 段破片 高 <7.6>	①くびれ部 西側②18ト レ3区	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2				8	外面タテハケ後ややき ゃな突帯を貼り付ける。 内面はナナメタテハケを施 す。		
0827	残 底部 破片 高 <9.3>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通						8	外面タテハケ、内面ナデを 施す。	左側部の割 れ口に櫛状 工具による 刺突痕あ り。 PL62	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0828	残 基底部 ～胴部第1 段1/4 高 <18.0>	①くびれ部 西側②拡 1、5号埴 輪	①B②橙5 YR7/8③良 好・普通		台1	1 2	10.6 <7.4>			16 ・ 12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。下端はハケの下に 基部成形時の作業台の圧痕 がみられる。内面はナデと ナメタテハケ、下端に押 圧痕を残す。	PL62
0829	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <12.7>	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2		6.0			10	基底部は短く、低位置に突 帯がめぐる。外面はタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は タテ方向のナデ。	底面に植物 圧痕。 PL62

くびれ部西側出土の円筒埴輪(16) (第150図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0830	残 基底部 ～胴部第1 段1/4 高 <14.8>	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B、礫多量 ②赤褐5YR4/6 ③良好・普通		台2	1 2	9.1 <5.7>	円		9	胴部に小円の透孔を配す。 外面はタテハケ後突帯貼り 付け。突帯の突出度は弱い。 基底部内面は成形時の押圧 をナメ方向にナデている。 胴部にはナメ方向の ハケを施す。	外面は磨滅 している。 PL62
0831	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <14.1>	①くびれ部 西側②18ト レ1区	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		7.1	円		8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナメヨコハケ とこれをナデ消す部分がみ られる。	PL62
0832	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <7.8>	①くびれ部 西側②C- 4、C-5	①B、赤色粘 土粒②橙5 YR6/8③良 好・普通		M2	1 2	2.4 <6.1>			9	第1突帯は基底部底面間近 に配置される。外面はタテ ハケ。内面は粘土板成形時 の押圧痕にタテハケを重ね ている。	器面に黒色 の付着物あり。 PL62
0833	残 基底部 破片 高 <5.3>	①くびれ部 西側②拡1 No.3	①B、雲母粒 ②橙5YR6/6 ③普通・普通							10 ・ 12	外面タテハケ、内面ナデを 施す。	外面に刻み 状の工具痕 がみられる。 PL62
0834	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <14.7>	①くびれ部 西側②C- 4-II、C- IV	①C②橙5 YR6/6③普 通・普通		台3	1 2	10.4 <4.3>				外面はタテ方向のヘラナデ 後、幅の狭い突帯を貼り付 ける。内面もヨコあるいは ナメ方向のヘラナデを残 す。	器面は磨滅 している。 PL62
0835	残 基底部 破片 高 <11.5>	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		台2		9.5			10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面にはナデ、押えを 残す。	外面の一部 黒色。
0836 朝顔	残 口縁部 1/3 高 <21.4>	①くびれ部 西側②18ト レ1区・2 区	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1	1 2	<3.1> 18.3			14	口縁肥厚部の粘土の貼り付 けは、ヨコナデ後タテハケ を上から下にナデの上に重 ねている。口縁部はあまり 外反することなくナメ上 方に向けて立ち上がる。中 位に突帯を貼り付ける。先 端は外面に粘土を貼り肥厚 する。調整は外面タテハケ、 内面はヨコ方向にナデてい る。	PL60

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0837	残 口縁部 朝顔 1/4 高 <10.7>	①くびれ部 西側②18ト レ4区	①B②赤褐2. 5YR4/8③普通・普通		台2	1 <4.3> 2 <6.4>			9	下半は頸部からナナメ上方に立ち上がり、突帯の貼り付く位置でその角度をやや変えている。調整は外面がタテ方向、内面がナナメヨコ方向である。	PL60
0838	残 口縁部 朝顔 ~頸部1/2 高 <7.9> 径 (15.0)	①くびれ部 西側②拡1 周堀	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		M1	1 <3.7> 2 <4.2>				口縁部の外反の度合いは緩やかである。外面タテハケ後突帯を貼り付ける。	内面は磨減している。 PL60
0839	残 口縁部 朝顔 破片 高 <3.9>	①くびれ部 西側②拡1 墳丘下面	①B②橙5 YR6/8③普通・普通						12	先端の外面は粘土を貼り肥厚する。	
0840	残 胴部破片 朝顔 高 <11.3> (図上復元)	①くびれ部 西側②拡1 中段一埴輪 20	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台2				12	胴部上位、肩部の破片である。丸みをおびて立ち上がり頸部にいたっている。外面はヨコハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	PL61
0841	残 口縁部 朝顔 破片 高 <8.4>	①くびれ部 西側②18ト レ1区	①B②橙5 YR6/8③普通・やや軟質		台2				9	外面は弱いタッチのタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	PL62
0842	残 口縁部 朝顔 破片 高 <7.5>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②明赤褐 2.5YR5/6③普通・普通		台2				10 ・ 5	ナナメ上方に大きく開く口縁部の破片で、突帯はその途中に貼り付けられたものと思われる。内外面ともナナメヨコハケを施すが、外面のハケメは突帯を境に変えられているか。	PL62

前方部西側出土の円筒埴輪(1) (第151図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0843	残 口縁部 ~胴部2段 1/2 口 32.6 胴 27.8 高 <37.6>	①前方部西 側②WC1	①B②橙5 YR6/6③良好・普通、内 部は半還元状態	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	三	1 <11.6> 2 13.0 3 13.0	円	1F (5.9) (2.6) 1B — — 2L (3.3) <3.4> 2R (6.8) (1.8)	10	口縁部は外反して立ち上がり、先端は外面が肥厚する。突帯は断面三角形、突出度の弱い形状である。透孔は胴部の各段に配置されている。円形を基本とするが、歪みが著しい。外面はタテハケを施す。内面は胴部をタテ方向に口縁部をヨコ方向にハケメを施し、部分的にナデを重ねる。	口縁部外面にヘラ記号。 PL47・69
0844	残 口縁部 ~胴部1段 1/2 口 (28.4) 高 <19.0>	①前方部西 側②WCIV	①A②明赤褐 5YR5/8③良好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>	台1	1 <5.4> 2 13.6			9	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。先端は外面タテハケ後突帯を貼り肥厚させている。胴部はタテハケ後突帯貼り付け。内面は胴部がタテハケ。口縁部はナナメヨコハケ・ヨコハケを施す。	PL47

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯			透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No.)
					形状	間隔		形状	タテ	ヨコ			
0845	残 口縁部 ～胴部4段 1/2 口 31.0 高 <58.5>	①前方面西 側②WCT IV	①B②橙2.5 YR6/8③良 好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>	台1	1 <8.0> 2 12.3 3 12.7 4 12.5 5 13.0		円	2F 6.7 (6.8) 2B — (6.7) 3L (7.0) — 3R (6.3) (6.6) 4F 6.9 (6.2) 4B (7.2) —	12	大型破片3片から形状を復元した。口縁部は先端が屈曲するように外反、外面が弱く肥厚する。突帯はタテハケ後比較的等間隔に配置されているが、貼り付けは粗雑である。外面の調整はタテハケを施すが、口縁部先端の外面のみヨコ方向のハケである。	口縁部内面にヘラ記号。 PL47	
0846	残 口縁部 ～胴部3段 1/3 口 (28.5) 胴 (26.7) 高 <44.3>	①前方面西 側②WCT —IV、WC T—V、鞍 部WCT— IV	①B②明赤褐 2.5YR5/6(表)、 灰黄褐10YR 6/2(裏)③良 好・硬質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	三	1 <6.1> 2 13.7 3 11.4 4 13.1		円	1L — — 1R — — 2F (6.5) (6.5) 2B (5.7) (5.0) 3L (5.9) (4.9) 3R (5.1) (5.3)	9	口縁部は外側が肥厚する。胴部はタテハケ後突帯貼り付け。	内面還元状態。 PL47	
0847	残 口縁部 ～胴部2/3 口 (27.4) 高 <17.7>	①前方面西 側②WCT —V・IV、鞍 部T—V、 WCT—V	①B②明赤褐 2.5YR5/8③良 好・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>3</sub>	台1	1 <6.8> 2 10.9					10	口縁部はほとんど外反しない。先端は外面のタテハケ後粘土を貼り肥厚させる。肥厚部分はヨコハケ後弱くナデを重ねる。内面はナメハケを施す。	口縁部内面にヘラ記号。 PL47
0848	残 胴部3 段1/2 高 <23.8>	①前方面西 側②前方W T	①B②赤褐 YR4/6③普 通・普通		台2	1 <2.2> 2 12.7 3 <8.9>		円	3F 6.8 <4.4>		8	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付け。ハケメは整っている。突帯は突出度が高く、しっかりしている。内面はタテ方向のナデを施すが上半には粘土紐の接合痕を残す。	器面はやや磨滅する。透孔の形状はやや縦長を呈する。 PL48
0849	残 胴部3 段1/3 高 <32.3>	①前方面西 側②WC IV、WCT V	①A②赤褐 YR4/6③良 好・普通		M1	1 <10.1> 2 9.7 3 <12.5>		円	2 5.7 <4.3>		8	外面はタテハケ後、稜のシャープな突帯を貼り付け。内面はタテハケ。	外面にヘラ記号。外面に黒色の付着物あり。 PL47
0850	残 胴部3 段1/4 高 <32.6>	①前方面西 側②WC— IV	①B②にぶい 赤褐5YR4/4 ③良好・普通		台1	1 <9.0> 2 14.2 3 <9.4>		円	1 (4.4) (3.6)		11	外面の調整は一部タテハケ後突帯貼り付け。残存最下段は粗雑なヨコハケを二次調整する。内面はタテハケ後上半をタテ方向にナデを施す。	内外面に黒色の付着物あり。 PL48
0851	残 胴部3 段1/3 高 <26.0>	①前方面西 側②WC— I	①A②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1	1 <3.4> 2 14.1 3 <8.5>		円	1L <3.5> <3.8>		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケ上に間隔をおいてタテナデ。	PL64
0852	残 胴部2 段2/3 高 <12.4>	①前方面西 側②WCT —V、WC T—IV、鞍 部WCT— IV、鞍部W CT—V	①B②赤褐2. 5YR4/6③普 通・普通		台1	1 <1.4> 2 <11.0>		円			8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデ後ナメタテハケを施す。	外面に黒色の付着物あり。 PL48

前方部西側出土の円筒埴輪(2) (第152図)

No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0853	残 胴部2 段1/3 径 (30.0) 高 <14.8>	①前方部西 側②4トレ X-15・X -17G、W CT-IV	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台3		<10.3> <4.5>	円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。透孔は各段に配さ れる。内面はナデが施され る。	PL64
0854	残 胴部2 段1/3 高 <15.4>	①前方部西 側②WCT -IV・WC T-V	①A②明赤褐 5YR5/8・黄 褐2.5YR5/4 ③良好・普通、 断面内部還元 状態		三	1 2	<2.9> <12.5>	円		9	外面は粗雑なタテハケ後突 帯貼り付け。内面はタテハ ケ後粗雑なタテナデ。	器面は磨滅 している。 PL64
0855	残 基底部 ～胴部第1 段1/3 底 (23.6) 高 <12.0>	①前方部西 側②WCT -VI	①B、金雲母 多量、片岩少 量②褐7.5 YR4/4③良 好・普通		台1	1 2	8.9 <3.1>	円		12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面タテ方向のナデ。 透孔は胴部の下位に穿たれ ているか。	外面底面近 くに幅7mm 程の棒状工 具を引いた 痕跡が3箇 所ある。 PL48・71
0856	残 口縁部 破片 高 <5.6>	①前方部西 側②3トレ V-14G	①B②橙5 YR6/8③普 通・やや軟質	A <sub>2</sub> B <sub>5</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						8	先端の外面は粘土帯を貼り 肥厚させる。端面はくぼみ、 上縁は突出する。貼り付け 部には強いナデにより沈線 状の稜がつくられている。	
0857	残 口縁部 破片 高 <5.3>	①前方部西 側②3トレ 西	①B②黄褐2.5 Y5/3③不 良・普通、還 元状態	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						9	先端は外面に薄く粘土を貼 り肥厚させる。器面はヨコ 方向にハケを施す。以下は タテハケの上に一部ヨコハ ケが重なる。内面は端面近 くまでナナメハケを施す。	
0858	残 口縁部 破片 高 <4.5>	①前方部西 側②前方W T	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						14	外面タテハケ後先端は粘土 を貼り肥厚させヨコナデを 施す。内面はヨコハケ。	
0859	残 口縁部 破片 高 <6.2>	①前方部西 側②4トレ X-17G	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						10	先端の外面は粘土を貼り付 け薄く肥厚させ、器面にヨ コハケを施す。以下の外面 はタテハケ。内面はナナメ ハケを施す。	
0860	残 口縁部 破片 高 <11.1>	①前方部西 側②前方W T	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						10	外面はタテ、ナナメハケ後 先端に粘土を貼り肥厚させ 、ヨコナデを施す。内面 はヨコナデを施す。	PL64
0861	残 口縁部 破片 高 <6.2>	①前方部西 側②4トレ X-14G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>						12	先端の外面はやや幅広く粘 土を貼り肥厚させる。	
0862	残 口縁部 破片 高 <7.5>	①前方部西 側②前方W III	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						12	先端はタテハケ後外面に粘 土を貼り肥厚させる。肥厚 部分とその内面はヨコナ デ。以下の内面はナナメヨ コハケを施す。	PL64

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0863	残 口縁部 破片 高 < 6.0>	①前方部西 側②3トレ V-18G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					11	先端の外縁は粘土帯を薄く 貼り肥厚させ器面をナデて いる。以下の外縁はタテハ ケ、内面はナナメヨコハケ を施す。	
0864	残 口縁部 破片 高 < 4.2>	①前方部西 側②4トレ X-17G	①B②橙2.5 YR6/8③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					7	先端の外縁は粘土を貼り肥 厚させる。	
0865	残 口縁部 破片 高 < 5.3>	①前方部西 側②4トレ X-17G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					12	先端の外縁は粘土を貼り肥 厚させる。内面はナナメヨ コハケを施す。	
0866	残 口縁部 破片 高 < 6.9>	①前方部西 側②4トレ X-14G	①B②橙5 YR6/6③普通・普通	I					11	外面タテハケ、内面ナナメ ヨコハケを施す。	
0867	残 口縁部 破片 高 < 11.1>	①前方部西 側②前方W -T	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	I					8	ナナメ上方に立ち上がる が、上半は弱く内彎ぎみを 呈す。外面タテハケ後先端 をヨコナデ。内面は先端ま でハケ調整を及ぼす。	外面に黒色 の付着物あり。 PL64
0868	残 口縁部 ~胴部1段 破片 高 < 10.6>	①前方部西 側②WCT -I	①B②明赤褐 5YR5/8・明 赤褐5YR5/6 ③普通・普通、 断面内部還元 状態	I	台2	8.7	円 ?		表 18・ 裏 14	先端は緩やかに外反して立 ち上がる。外面はタテハケ 後突帯貼り付け。内面はナ ナメヨコハケ。突帯寄りの 胴部に透孔が位置する。	内面に3条 の線刻。 PL64
0869	残 口縁部 破片 高 < 7.9>	①前方部西 側②3トレ V-15G	①B②橙5 YR6/8③普通・普通	I					9	緩やかに外反する。外面タ テハケ、内面ナナメヨコハ ケを施す。	
0870	残 口縁部 破片 高 < 8.6>	①前方部西 側②4トレ X-14G	①B②橙5 YR6/8③普通・やや軟質	I					10	先端に強いヨコナデが加え られる。外面はタテハケ、 内面はヨコハケを施す。	
0871	残 胴部2 段破片 高 < 10.3>	①前方部西 側②前方W T、前方W V	①A②明赤褐 5YR5/8③普通・普通		M1				11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデ後一部にタ テハケが重なる。	

前方部西側出土の円筒埴輪③ (第153図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0872	残 胴部3 段破片 高 < 17.0>	①前方部西 側②WC- II	①B②にぶい 赤褐5YR4/4 ・明赤褐2.5 YR5/8③良好・普通		台2	10.7	円		14	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面、ナナメハケ。	黒色の付着 物あり。 PL64
0873	残 胴部2 段破片 高 < 9.1>	①前方部西 側②前方W T	①B②橙7.5 YR6/8③普通・やや軟質		台2		円		13	外面はナナメタテ方向のハ ケ後突帯貼り付け。(あるい は突帯が曲がっているか)	磨滅してい る。
0874	残 胴部2 段破片 高 < 6.4>	①前方部西 側②3トレ V-16G	①B②橙5 YR6/6③普通・やや軟質、 断面内部還元 状態		台1				表 10・ 裏 12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ を施す。	

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ				
0875	残 胴部2 段破片 高 <11.2>	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・やや軟質		台2			円		7	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面にはナナメ タテハケを施す。	器面は磨減 している。
0876	残 胴部2 段破片 高 <9.4>	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙7.5 YR6/8③ 普 通・普通		台1					7	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	PL64
0877	残 胴部2 段破片 高 <10.2>	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1			円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	
0878	残 胴部2 段破片 高 <15.3>	①前方部西 側②3トレ V-18G	① B ② 赤褐5 YR4/6③ 普 通・普通		台2	12.1		円	< 5.5> —	表 14 ・ 裏 16	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はヨコハケ・ナナ メヨコハケを施す。	外面の一部 に黒色みあ り。
0879	残 胴部2 段破片 高 <9.0>	①前方部西 側②WCT -III	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 良 好・良好		台2			円	< 1.6> < 4.7>	9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯は狭小であるが突 出度が高い。透孔は突帯に 接した下位に位置する。内 面はヨコナデ。	
0880	残 胴部破 片 高 <9.0>	①前方部西 側②3トレ V-14G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台3			円	< 4.1> —	12	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 はナナメハケを施す。	
0881	残 胴部2 段破片 高 <11.1>	①前方部西 側②3トレ V-14G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1			円		10	外面、タテハケ後突帯貼り 付け。内面はタテ方向のナ デとナナメヨコハケを施 す。	
0882	残 胴部2 段破片 高 <10.1>	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B、片岩少 量②にぶい褐 7.5YR5/4③ 良好・普通、 やや還元ぎみ		M2			円		15	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面にはナナメタ テハケを施す。	突帯の下位 に工具が器 面にあつた 痕跡がある。
0883	残 胴部破 片 高 <9.2>	①前方部西 側②WCT -IV	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 良 好・普通							12	外面タテハケ。内面ナナメ ハケ後ナデを重ねるか。接 合痕を残す。	外面にヘラ 記号。 PL64
0884	残 胴部2 段破片 高 <6.2>	①前方部西 側②4トレ X-14G	① A ② 橙7.5 YR6/6③ 普 通・普通		台2					13	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0885	残 胴部2 段破片 高 <9.0>	①前方部西 側②前方W T	① A ② 橙7.5 YR6/6・にぶ い黄褐10YR 5/3③普通・普 通、やや還元 状態		台1					12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面ヨコハケを施す。	
0886	残 胴部破 片 高 <7.5>	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙5 YR7/8③ 良 好・普通							10	外面タテハケ、内面ナデを 施す。	外面にヘラ 描きあり。 PL64

前方部西側出土の円筒埴輪(4) (第154図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ				
0887	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 高 <16.9>	①前方部西 側②WCT -III	① B、礫少量 ② 明 赤 褐 5 YR5/6③ 普 通・普通		M1					8	口縁部は先端を欠する。外 面はタテハケ。口縁部は数 回重ねる。内面はナナメハ ケ。作業単位を示す接合痕 が顕著に認められる。	PL64
0888	残 胴部2 段破片 高 <6.9>	①前方部西 側②3トレ V-16G	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・やや軟質		台1					6	外面、単位の粗いハケメ後 突帯貼り付け。内面はナデ を施す。	



No.	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
0889	残 胴部2 段破片 高 < 6.2>	①前方部西 側②3トレ V-14G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M3			円		6	外面、単位の粗いたてはけ 後突帯貼り付け。内面はナ デ。	
0890	残 胴部2 段破片 高 < 10.5>	①前方部西 側②前方W	①B②明褐7.5 YR5/6③良 好・普通		台2			円		10	外面はたてはけ後突帯貼り 付け。強いヨコナデを加え る。内面はナナメ方向のナ デを施す。	
0891	残 胴部破 片 高 < 9.5>	①前方部西 側②4トレ X-17G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2					12	外面たてはけ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメたて はけを施す。	
0892	残 胴部2 段破片 高 < 10.4>	①前方部西 側②3トレ V-16G、 WCIVが接 合	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M2			円		8	外面、単位の粗いたてはけ 後突帯貼り付け。内面はた てはけ後一部をナデしてい る。	PL65
0893	残 胴部2 段破片 高 < 5.3>	①前方部西 側②前方W T	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・やや軟質		三					6	外面たてはけ後突帯貼り付 け。内面はナデ後ナナメヨ コハケを粗雑に施す。	
0894	残 胴部2 段1/4 高 < 19.2>	①前方部西 側②WC T -IV	①B、礫少量 ②赤褐5YR 4/6・褐7.5 YR4/6③良 好・やや硬質		台1			円	1 < 4.8> < 3.5>	10	外面は粗雑なたてはけを施 した後突帯貼り付け。内面 は上半はヨコナデ、下半に はけを残す。作業工程を示 す接合痕が認められる。器 肉は全体に厚い。	外面に黒色 の付着物あ り。 PL64
0895	残 胴部2 段破片 高 < 11.6>	①前方部西 側②前方W III	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台3			円		表 9 ・ 裏 14	外面たてはけ後突帯貼り付 け。内面はヨコハケ後ナナ メ方向のナデを粗雑に重ね る。	
0896	残 胴部2 段破片 高 < 8.0>	①前方部西 側②3トレ V-16G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1					14	外面たてはけ後突帯貼り付 け。突帯は上縁が突出する。 内面はナナメはけを施す。	
0897	残 胴部2 段破片 高 < 10.5>	①前方部西 側②前方W	①B②橙7.5 YR6/6③良 好・普通		台3			円		10	外面たてはけ後突帯貼り付 け。突帯の突出度は弱い。 内面はナナメはけ後間隔を あけて粗悪なたて方向のナ デを施す。	
0898	残 胴部2 段破片 高 < 4.5>	①前方部西 側②3トレ V-14G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1			円		12	外面たてはけ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。	外面にヘラ 描きを施す。 PL64
0899	残 胴部2 段破片 高 < 13.9>	①前方部西 側②3トレ V-15G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M2	10.0				12	外面たてはけ後突出度の弱 い突帯貼り付け。内面はナ デ、上半にはナナメはけを 重ねる。	
0900	残 口縁部 破片 高 < 9.9>	①前方部西 側②4トレ X-14G	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通		台1					9	口縁部上位の破片と考えら れる。外面はたてはけ、内 面はナデ、ハケメがみられ る。	
0901	残 胴部2 段破片 高 < 7.4>	①前方部西 側②3トレ V-18G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台2					16	外面たてはけ後突帯貼り付 け。突帯は上下の両縁がや や丸みをおびる。内面はナ ナメヨコハケを施す。	

前方部西側出土の円筒埴輪(5) (第155図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ			
0902	残 胴部2 段破片 高 < 9.3)	①前方部西 側②4トレ X-17G	① B ② 橙2.5 YR6/8③ 普 通・普通		M1			円	11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0903	残 胴部2 段破片 高 < 10.2)	①前方部西 側②4トレ X-14G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1				10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0904	残 胴部2 段破片 高 < 13.1)	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		三				11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面にはタテハケ を施す。	PL65
0905	残 胴部2 段破片 高 < 12.3)	①前方部西 側②3トレ V-18G	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		M1				表 10 ・ 裏 10 ・ 20	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯の断面形は極めて 低い。内面はナナメタテハ ケを施す。	
0906	残 胴部2 段破片 高 < 10.5)	①前方部西 側②3トレ V-14G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台2			円	12	外面はやや粗いタテハケ後 突帯貼り付け。内面はヨコ 方向のハケメを施す。	
0907	残 胴部2 段破片 高 < 11.5)	①前方部西 側②4トレ X-17G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1			円	8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケ、ナデを施す。	
0908	残 胴部2 段破片 高 < 13.8)	①前方部西 側②3トレ V-15G	① B ② 黄 橙 7.5YR7/8(表)、 橙 5 Y R 6 / 6 (裏) ③ 普 通・やや軟質		台2				12	外面タテハケ後突帯を粗雑 に貼り付ける。内面にはナ デがみられる。	器面は粗れ ている。
0909	残 胴部2 段破片 高 < 11.9)	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1				12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。突帯は下縁が不明 瞭で断面三角形に近い形状 である。内面はナナメタテ ハケを施す。	PL64
0910	残 胴部2 段破片 高 < 13.5)	①前方部西 側②4トレ X-17G	① A ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台1			円	11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメハケ 後ナデを重ねている。	突帯の下位 に工具が器 面に接触し た痕跡があ る。
0911	残 胴部3 段破片 高 < 18.9)	①前方部西 側②3トレ V-15G	① B ② 明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		台2	10.0			12	外面タテハケ後、突出度の 弱い突帯を貼り付ける。内 面はナナメヨコハケ。下半 はこれにナデを重ねている。	外面は黒色 みをおび る。 PL64
0912	残 胴部破 片 高 < 6.8)	①前方部西 側②4トレ X-17G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1				7	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0913	残 口縁部 下位破片 高 < 5.8)	①前方部西 側②4トレ X-14G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1				8	口縁部下位の破片か。頸部 から徐々に外反して立ち上 がる部分と考えられる。外 面はタテハケ、内面はナデ を施す。	

前方部西側出土の円筒埴輪(6) (第156図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ			
0914	残 基底部 ~胴部第2 段1/4 高 < 21.1)	①前方部西 側②WCT -I	① B、礫少量 ② 明 赤 褐 5YR5/6・明赤 褐5YR5/8③ 良好・普通		台2	6.0 12.3		円	9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。第1突帯は底面から6. 0cmの位置に配される。内面 はナナメハケにナデを重ね る。	径が小さく 形象の基部 になる可能 性がある か。PL64

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し			ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ テ	ヨ コ				
0915	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <10.5>	①前方部西 側②3トレ V-15G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		M2		6.0				8	外面はタッチの弱いタテハ ケ後、底面から6.1cmの位置 に突帯を貼り付ける。内面 はナデる。	
0916	残 底部 1/4 高 <12.5>	①前方部西 側②3トレ V-17G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2		2.0				8	外面タテハケ後底面間近に 突出度の弱い突帯をめぐら す。内面はタテハケ後これ をナデ消す。器内は薄い。	形象基台部 の可能性あ り。
0917	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <17.5>	①前方部西 側②WCT VI	①B、片岩、 雲母粒多い② 明赤褐5YR 5/8③普通・普 通		台1		9.0	円			表 10 ・ 裏 6	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面ナメヘラナデ。 下端に基部粘土板製作時の 圧痕が残る。	底部部外面 に棒状工具 をあて引い た痕跡あり。 PL65
0918	残 底部 破片 高 <11.6>	①前方部西 側②前方W II	①B②明褐7.5 YR5/6③普 通・普通		M1		1.8				12	外面タテハケ後底面に接し て突帯をめぐらす。内面は ナメハケをタテ方向にナ デている。	PL65
0919	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <12.4>	①前方部西 側②前方W -II	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台2		10.7				10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面は下端に基部粘土 板製作時の工作台の木目圧 痕を残し、他はタテ方向の ナデ。	PL65
0920	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <8.6>	①前方部西 側②前方W T	①B②明褐7.5 YR5/6③普 通・普通		台1		4.6				11	外面タテハケ後粗雑に突帯 貼り付け。内面の下端に押 圧痕を残し、ナメヨコ方 向のナデを施す。	PL65
0921	残 底部 破片 高 <14.7>	①前方部西 側②WC- II	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通		台1		12.4				9	底面付近は16mmと薄いつく りである。外面はタテハケ 後突帯貼り付け。内面はナ メあるいはタテハケ。	PL65
0922	残 底部 破片 高 <8.6>	①前方部西 側②前方- W-IV	①B②明褐7.5 YR5/6③良 好・普通								12	外面タテハケ。内面は下端 に基部製作時の圧痕を残 し、タテ方向のナデ、ハケ を施す。	底面に近接 して径6mm の焼成前の 刺突孔が存 在する。
0923	残 底部 破片 高 <7.7>	①前方部西 側②3トレ V-15G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		台1		1.5				10	外面タテハケ後底面に接し て突帯を配す。底面の器肉 は厚い。	
0924	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <10.0>	①前方部西 側②4トレ X-14G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		2.2				5	外面タテハケ後底面に接し て突帯を貼り付ける。内面 にはナデを施す。	PL65
0925	残 胴部破 片 高 <8.0>	①前方部西 側②3トレ V-17G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		M1			円			12	肩部は内彎して立ち上が り、頸部へ移行する。頸部 の突帯は突出度が弱い。外 面の調整はナメハケを施 す。	PL64

前方部西北隅出土の円筒埴輪(1) (第157図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0926	残 胴部5 段1/3~1/2 高 <40.6>	①前方部西 北隅②15ト レR-17G、 S-17G、 拡2	①B②明赤褐 5YR3/6③普 通・普通		M1	1 <3.8> 2 11.3 3 11.8 4 10.4 5 <3.3>	円	1F (5.5) — 3F (5.0) —	11	外面はタテハケを施しながら、ほぼ等間隔に4本の突帯を配している。突帯の断面形は総じて低い。ハケメは作業単位ごとにその方向が少しずつ異なっている。透孔は中位の3段に90°ずつ位置をずらして配されている。内面にはナナメタテハケが施されるが突帯の位置とほぼ相当する部分に接合痕や形状の乱れがみられ、大きな作業単位が存在したことが想定される。	外面に黒色みをおびる部分がある。 PL48
0927	残 胴部2 段1/2 径 (24.2) 高 <22.8>	①前方部西 北隅②拡2 周堀	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台1	1 <5.2> 2 15.5 3 <2.1>	円		12	外面粗雑なタテハケ後突帯を貼り付ける。内面もタテハケを施す。	PL63
0928	残 基底部 ~胴部第1 段1/2 底 (22.4) 高 <12.1>	①前方部西 北隅②拡2	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台2	1 3.0 2 <9.1>			9	外面タテハケ後底面間近に突帯を貼りめぐらす。内面はナデを施す。	PL48
0929	残 口縁部 破片 高 <5.7>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					13	外面タテハケ後外面に粘土紐を貼り肥厚させヨコナデを施す。内面は先端にヨコナデ、以下はヨコハケを施す。	PL63
0930	残 口縁部 破片 高 <5.7>	①前方部西 北隅②拡2	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					9	先端の外面は粘土を貼り肥厚させる。以下はタテハケを施す。内面はナナメタテハケを施す。	内面にヘラ 描きあり。 PL63
0931	残 口縁部 破片 高 <7.8>	①前方部西 北隅②前方 部西北端、 前方部西北 端I	①A②橙5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	外面はタテハケ後先端に粘土を貼り肥厚、ヨコナデを重ねる。内面はナナメヨコハケ。	器面磨滅。 PL63
0932	残 口縁部 破片 高 <5.2>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					表 12・ 裏 14	先端は外面に粘土を貼り肥厚させる。ヨコナデは、肥厚部分から下端に及ぶ。内面はナナメヨコハケを施す。	
0933	残 口縁部 破片 高 <7.0>	①前方部西 北隅②拡2	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					9	先端の外面は薄く粘土を貼り肥厚させる。内面は稜をなす。以下の外面はタテハケ、内面はナナメハケを施す。	PL63
0934	残 口縁部 破片 高 <8.1>	①前方部西 北隅②15ト レR-17 G、拡2	①B②橙5 YR6/6③普 通・やや軟質	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					8	先端は外面に粘土を貼り肥厚させる。以下外面にはタテハケを施す。	内面の剝離 顕著。 PL63
0935	残 口縁部 破片 高 <9.3>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・やや軟質	A <sub>2</sub> B <sub>5</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					9	口縁部の立ち上がりは短い。外面はタテハケ後先端に粘土紐を貼り、その上にヨコナデを施す。内面はナナメハケを施す。	PL63

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0936	残 口縁部 破片 高 < 7.4>	①前方部西 北隅②14ト レT-14G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					10	先端の外縁は粘土を貼り肥 厚させ、器面にヨコハケを 施している。以下外縁はタ テハケを施す。	内面は磨減 している。 PL63
0937	残 口縁部 破片 高 < 5.1>	①前方部西 北隅②抔2	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					8	先端は外縁に粘土を貼り肥 厚させる。器面にはヨコハ ケを加える。	PL63
0938	残 口縁部 破片 高 < 7.5>	①前方部西 北隅②抔2 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	外縁の先端は粘土を貼り付 け、ナデを施す。内縁の先 端は強いヨコナデでくぼ む。以下はハケを施す。	PL63
0939	残 口縁部 破片 高 < 5.4>	①前方部西 北隅②抔2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					7	先端の外縁は粘土を貼り肥 厚させる。以下はタテハケ を施す。内面はナメヨコ ハケを施す。	
0940	残 口縁部 破片 高 < 5.3>	①前方部西 北隅②抔2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端の外縁は粘土を貼り肥 厚し弱い段をなす。以下の 外縁はタテハケ、内面はナ メハケを施す。	
0941	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					10	先端の破片である。外縁は 粘土を貼り肥厚、ヨコナデ を施す。内面はヨコハケを 加える。	
0942	残 口縁部 破片 高 < 4.9>	①前方部西 北隅②抔2 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>3</sub> C <sub>3</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					7	先端の外縁はやや幅広く粘 土を貼り付け、器面をナデ る。内縁の先端はヨコナデ のためくぼむ。以下はハケ を施す。	
0943	残 口縁部 破片 高 < 5.2>	①前方部西 北隅②前方 西北端	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					表 16 ・ 裏 12	先端の破片、外縁は粘土を 貼り肥厚させる。下端は強 いヨコナデを加える。内面 はナメヨコハケを施す。	

前方部西北隅出土の円筒埴輪(2) (第158図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 かし		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
0944	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 < 17.4>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I	M 1	10.4			10	口縁部は緩やかに外反して 立ち上がり先端はナメ上 方を向く。タテハケ後突帯 貼り付け。内面はナデ後ま ばらにナメハケを加える。	器面は磨減 している。 PL63
0945	残 口縁部 破片 高 < 11.1>	①前方部西 北隅②抔2	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					7	外縁タテハケを施す。端面 はくぼむ。	器面は著し く粗れてい る。
0946	残 口縁部 破片 高 < 6.6>	①前方部西 北隅②抔2	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					8	先端は外縁に弱い稜をなし 受け口状をなす。外縁はタ テハケ、内面はナメヨコ ハケを施す。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0947	残 口縁部 破片 高 < 4.7)	①前方部西 北隅②15ト レ R-17G	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					10	先端は緩やかに外反して立 ち上がる。外面にはヨコナ デを強く施したため弱い稜 がつくられている。	
0948	残 口縁部 破片 高 < 4.6)	①前方部西 北隅②14ト レ T-14G	① B ② 赤褐5 YR4/6③ 普 通・普通	I					10	端部は上下両端ともやや突 出、シャープにつくられて いる。内外面ともハケメを 施す。	
0949	残 口縁部 破片 高 < 6.5)	①前方部西 北隅②拵2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通	I					11	外面タテハケ、内面はナナ メヨコハケ後先端にヨコナ デを施す。	
0950	残 口縁部 破片 高 < 5.9)	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① A ② 橙7.5 YR7/6③ 普 通・普通	I					9	弱く外反して立ち上がる先 端は内面が強いナデを受け てくぼむ。	器面は磨滅 している。
0951	残 口縁部 破片 高 < 4.7)	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通	I					9	先端は端面がくぼみ、上 縁・下縁とも突出する。	
0952	残 胴部破 片 高 < 11.3)	①前方部西 北隅②14ト レ T-14G	① B ② 橙5 YR6/8③ 不 良・普通、内 面還元状態		台2				8	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 はナナメタテハケを施す。	
0953	残 胴部2 段破片 高 < 10.4)	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR7/8③ 普 通・普通		台1				8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はタテハケを施す。	
0954	残 胴部破 片 高 < 6.3)	①前方部西 北隅②拵 2、2区一 括	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通						12	外面タテハケ後ヨコハケを 重ねる。内面はナナメハケ を施す。	
0955	残 口縁部 破片 高 < 4.0)	①前方部西 北隅②15ト レ R-17G	① A ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通						10	外面タテハケ、内面ナナメ ハケを施す。	外面へラ描 きあり。
0956	残 口縁部 ～胴部1段 破片? 高 < 13.9)	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR7/8③ 普 通・普通		M2		円		12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面は下位がナナ メタテ、上位がナナメヨコ のタテハケを施す。	外面にへラ 描きがみら れる。 PL63・73
0957	残 胴部2 段破片 高 < 11.0)	①前方部西 北隅②15ト レ R-17G と拵2	① B ② 明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台1				8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はハケメを粗雑に ナデる。	
0958	残 胴部2 段破片 高 < 12.4)	①前方部西 北隅②拵2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台2				8	外面弱いタッチのタテハケ 後突帯貼り付け。内面はナ デを施す。	
0959	残 胴部2 段破片 高 < 15.2)	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1		円		11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。突帯は下縁がほとんど 残らない。内面はナナメハ ケを施す。	内面は黒色 の付着物あ り。 PL63
0960	残 胴部2 段破片 高 < 5.8)	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② にぶい 黄褐10YR6/4・ 黄橙7.5YR7/8 ③ 不良・普通、 還元状態		台1				12	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナデを施す。	

前方部西北隅出土の円筒埴輪(3) (第159図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0961	残 胴部2 段破片 高 < 6.1>	①前方部西 北隅②拵2 墳丘上・周 堀	① B ② 橙5 YR6/8③ 普 通・普通		台2				8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
0962	残 胴部2 段破片 高 < 9.8>	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1		円		8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面は弱いタッチ のナナメタテハケを施す。	
0963	残 胴部2 段破片 高 < 7.7>	①前方部西 北隅②拵2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		M2				8	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 はナナメタテハケを施す。	
0964	残 胴部2 段破片 高 < 8.7>	①前方部西 北隅②拵2	① B ② 橙5 YR7/8③ 普 通・普通		台1				8	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメヨコハケ を施す。	
0965	残 胴部破 片 高 < 9.3>	①前方部西 北隅②15ト レQ-17G	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		M1				16	外面タテハケ後突帯をやや 粗雑に貼り付ける。内面は ナナメタテハケを弱く施 し、ナデる。	外面の一部 に黒色みあ り。
0966	残 胴部破 片 高 < 8.9>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②明褐7.5 YR5/6③普 通・普通		三				12	外面タテハケ後、上位に稜 が片寄る突帯が貼り付く。	
0967	残 胴部2 段破片 高 < 8.4>	①前方部西 北隅②拵2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台3				10	外面はタテハケ後突帯を貼 り付ける。内面はナナメタ テハケを施す。	突帯の一部 に布目圧痕 がある。
0968	残 胴部破 片 高 < 7.4>	①前方部西 北隅②拵2	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		M2				10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメヨコ ハケを施す。	
0969	残 胴部2 段破片 高 < 16.8>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②赤褐2.5 YR4/6③良 好・普通		台1	12.8	円		表 10・ 7・ 裏 12	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。内面はタテハケ。ハ ケは外面に2種、裏面にそ れらと別の1種の合計3種 類が認められる。	
0970	残 胴部3 段破片 高 < 21.1>	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR6/8・にぶ い橙7.5YR6/4 ③不良・普通、 還元状態		M2	11.2	円		11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデ、一部 上位にハケメを残す。	PL63
0971	残 胴部2 段破片 高 < 11.2>	①前方部西 北隅②15ト レQ-17G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1				11	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメタテハケ を施す。	器面はやや 粗れている。
0972	残 胴部2 段破片 高 < 10.2>	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通		台1				10	外面は弱いタッチのタテハ ケ後突帯を貼り付ける。内 面はナデを施す。	
0973	残 胴部2 段破片 高 < 9.9>	①前方部西 北隅②14ト レT-15G	①B②黄褐2. 5Y5/4③不 良・普通、還元 状態なし。発 泡している。		台1				10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はハケメ、ナ デを施す。	焼き歪みを 生じてい る。 PL63
0974	残 胴部破 片 高 < 6.8>	①前方部西 北隅②15ト レS-17G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		三				8	外面タテハケ後断面三角形 の突帯を貼り付ける。内面 はナナメタテ方向にハケメ を施す。	
0975	残 胴部破 片 高 < 4.2>	①前方部西 北隅②拵2 周堀	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通						7	外面タテハケ、内面もタテ ハケ。	外面にヘラ 描きあり。
0976	残 胴部破 片 高 < 6.0>	①前方部西 北隅②拵2 表採	① B ② 橙5 YR6/6③ 普 通・普通						10	外面タテハケ、内面ナデを 施す。	外面にヘラ 描きの一部 あり。

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0977	残 胴部破片 高 < 6.8>	①前方部西北隅②拡2墳丘	①B②橙5YR6/6③普通・普通						12	外面タテハケ、内面にナデを施す。	外面にヘラ描きあり。
0978	残 基底部～胴部第1段破片 高 < 9.4>	①前方部西北隅②拡2周堀	①B②橙5YR6/6③普通・普通		M2	2.8			11	外面タテハケ後底面間近に突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	

前方部西北隅出土の円筒埴輪(4) (第160図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
0979	残 基底部～胴部第1段破片 高 < 12.5>	①前方部西北隅②15トレR-17G	①B②明赤褐5YR5/6③普通・やや軟質		台2	2.3			9	外面タテハケ後、底面間近、下端から2.6cmのところに上端の幅が狭い突帯をめぐらす。内面はナデか。	PL63
0980	残 基底部破片 高 < 11.6>	①前方部西北隅②拡2周堀	①B②橙5YR6/6③普通・普通		三	1.9			9	外面タテハケ後底面間近に突帯を貼り付ける。内面はハケメにナデを重ねる。	
0981	残 基底部破片 高 < 12.2>	①前方部西北隅②拡2	①B②橙5YR6/6③普通・普通						7	外面はタテハケを施す。内面はナナメヨコハケを施す。	PL63
0982	残 基底部～胴部第1段破片 高 < 11.0>	①前方部西北隅②拡2墳丘上	①B②橙2.5YR6/6③普通・普通		台2	6.4			11	外面タテハケ後底面から6.5cmの位置に突帯を貼り付ける。内面はハケメを施す。	PL63
0983	残 基底部～胴部第1段破片 高 < 10.5>	①前方部西北隅②拡2周堀	①B②橙5YR7/6・灰黄褐10YR6/2③不良・普通		台1	2.0			13	外面タテハケ後底面間近に突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	PL63
0984	残 基底部～胴部第1段破片 高 < 12.1>	①前方部西北隅②拡2	①B②橙2.5YR6/6③普通・普通		台1	2.0			9	外面ナナメタテハケ、タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメ方向のナデを施す。	
0985	残 基底部～突帯第2段1/4底 (28.0) 高 < 17.6>	①前方部西北隅②前方部西北端	①B②明赤褐5YR5/8③普通・やや軟質		台1	1 2 3	6.6 8.9 < 2.1>		18	基底部の器面は薄く、底面から6.3cmの位置に第1突帯を配す。外面はタテハケ。内面は基底部がナナメハケ後粗雑なナデを、胴部はナデを配す。	器面は磨減している。 PL63
0986	残 基底部～胴部第2段破片 高 < 18.9>	①前方部西北隅②15トレS-17G	①B②橙5YR6/6③普通・普通		M2	2.3 9.5			11	外面タテハケ後底面間近に第1突帯を、これから9.5cmの間隔を保って第2突帯を配す。突帯はいずれも低い。	PL63
0987	残 基底部～胴部第1段破片 高 < 7.8>	①前方部西北隅②拡2	①B②橙5YR6/6③普通・普通		三	3.7			10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテハケを施す。	
0988	残 基底部破片 高 < 5.2>	①前方部西北隅②15トレQ-17G	①B②橙5YR6/6③普通・普通		三	2.0			8	外面タテハケ後底面に接して突帯を貼り付ける。内面にはナナメタテハケを施す。	
0989	残 基底部破片 高 < 5.8>	①前方部西北隅②拡2周堀	①B②橙5YR6/6③普通・普通		台1	1.2			11	外面タテハケ後底面に接して突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。底面は左を上重ねる。	



No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ				
0990	残 底部 ～胴部第1 段破片 高 <11.7>	①前方部西 北隅②15ト レS-17G	①B②橙2.5 YR6/6③普 通・普通		台1		4.3			9	外面タテハケ後下端から4.4cmのところ突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケ後、下半にナデを重ねている。底面は右を上にする。	PL63
0991	残 口縁部 破片 高 <10.2>	①前方部西 北隅②坩2 周堀	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台1					12	口縁部の中位破片。ナナメ上方に向けて張り出す。外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメヨコハケを施す。	

前方部墳頂部出土の円筒埴輪(1) (第161図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ コ				
0992	残 胴部5 段1/4～1/3 径 (29.0) 高 <45.9>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20・ V-21G	①B②明赤褐 5YR5/8・明 赤褐5YR5/6 ③普通・普通		M2	1 <9.2> 2 10.0 3 12.4 4 11.2 5 <3.1>		円 3F <7.1> <5.2>		13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。透孔は残存部の2段目・3段目・5段目に穿つてある。	PL48
0993	残 胴部4 段1/2 高 <41.8>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-22G	①B②明褐7.5 YR5/8③普 通・普通		台1	1 <8.0> 2 10.6 3 9.1 4 12.2 5 <1.9>		円		12	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。突帯の配される間隔は短い。	内面は剝離している。 PL48
0994	残 胴部3 段1/3 径 (31.0) 高 <21.5>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-22G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1	1 <2.9> 2 9.3 3 <9.3>		円		15	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	PL66
0995	残 口縁部 破片 高 <7.6>	①前方部墳 頂部②前方 C	①A②にぶい 褐7.5YR5/3・ 明赤褐5YR5/6 ③普通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						16	先端は外面のタテハケ後粘土を貼り肥厚させている。肥厚部分はヨコナデ、以下タテハケ。内面はナナメハケ。	PL66
0996	残 口縁部 破片 高 <4.4>	①前方部墳 頂部②1ト レW-20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>						10	先端の外面はやや幅を保つてわずかに肥厚、器面をナデている。内面にはナナメヨコハケが施される。	
0997	残 口縁部 破片 高 <4.4>	①前方部墳 頂部②3ト レV-21G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						14	先端の外面は肥厚し、断面が弧状をなす。	
0998	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <11.9>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G	①B、礫少量 ②橙5YR6/8 ③普通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>	M2		10.0			8	口縁部は短く外反して立ち上がり、先端は外面が肥厚する。以下外面の調整はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施している。	PL66
0999	残 口縁部 破片 高 <5.4>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②橙5 YR6/6③普 通・やや軟質	I						13	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケを施す。	
1000	残口縁部破 片 高 <7.1>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>						8	先端の外面は肥厚する。内面は端面間近に弱い稜がつくられる。	PL66

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
1001	残 口縁部 破片 高 < 8.7)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					4	先端は上縁・下縁とも シャープで、断面三角形を 呈す。外面タテハケ、内面 は弱いタッチのハケメを施 す。	
1002	残 口縁部 破片 高 < 4.8)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-21・X -22G	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通	I					11	外面タテハケ、内面ナナメ ヨコハケを施す。	
1003	残 口縁部 破片 高 < 7.6)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	① B ② 赤褐5 YR4/8③普 通・普通	I					13	先端は緩やかに外反する。 外面はタテハケを、内面は 2種類の工具でナナメハケ 後先端寄りにヨコハケを加 える。	
1004	残 胴部破 片 高 < 6.5)	①前方部墳 頂部②4ト レX-19G	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通		M 2				7	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタテ ハケを施す。	
1005	残 胴部2 段破片 高 < 20.9)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台 3		円		6	外面粗い単位のタテハケ後 突帯を貼り付ける。内面は ナナメタテハケを施す。	

前方部墳頂部出土の円筒埴輪(2) (第162図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ			
1006	残 胴部2 段1/3 高 < 12.8)	①前方部墳 頂部②前方 中央V・VI	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		M 2		円	1 <3.0> <4.5>	表 11 裏 15	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。透孔は上位突帯に片 寄る。内面は目の細かいナ ナメハケ。	PL66
1007	残 胴部2 段破片 高 < 12.2)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-22G	①B②にぶい 赤褐2.5YR4/4 ③普通・普通		M 1		円		9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメタ テハケを施す。	突帯の下位 に工具のあ たった痕跡 がみられ る。 PL66
1008	残 胴部2 段1/4 高 < 13.5)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-22G	①B②にぶい 赤褐2.5YR4/4 ③普通・普通		M 1		円		10	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面もナナメタテ ハケを施す。	外面の一部 は黒色み をおびる。 PL66
1009	残 胴部3 段破片 高 < 22.9)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-21G	① B ② 橙5 YR6/8③普 通・普通		台 2	1 < 5.4> 2 10.0 3 < 7.5)	円		12	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す が中位に接合痕を明瞭に残 す。	器面は磨減 が著しい。 PL66
1010	残 胴部2 段破片 高 < 12.0)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	① B ② 赤褐5 YR4/8③普 通・普通		台 1				6	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメ方向 のヘラナデである。	外面は黒色 みをおび る。
1011	残 胴部2 段破片 高 < 10.0)	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②赤褐2.5 YR4/6③普 通・普通		M 2		円		8	外面は粗雑なタテハケ後突 帯を貼り付ける。内面はナ デを施すが粘土紐の接合痕 を残す。	外面の一部 黒色みあ り。
1012	残 胴部2 段破片 高 < 11.8)	①前方部墳 頂部②1ト レW-20G ・X-20G	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		M 1				9	外面タテハケ後突帯の弱 い突帯を粗雑に貼り付け る。内面はナナメハケを施 す。	

前方部墳頂部出土の円筒埴輪(3) (第163図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
1013	残 胴部2 段破片 高 <15.5>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20・ X-21G	①B②赤褐 2.5YR4/6③ 普通・普通		台1			円		8	外面タテハケ後粗い単位の タテハケを施す。内面は弱 いタッチのナナメタテハケ を施す。	器面の一部 は黒色みを おびる。 PL66
1014	残 胴部2 段破片 高 <12.0>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M1					9	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面もナナメタテ ハケを施す。	
1015	残 胴部破 片 高 <8.0>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G	①B②橙5 YR6/8③普 通・やや軟質		台1					表 16 ・ 裏 10 ・ 16	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はヨコハケを施す。	
1016	残 胴部2 段破片 高 <12.9>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		M2					13	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナナメハケ を施す。一部にはナデを加 える。	
1017	残 胴部2 段破片 高 <7.4>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2			円		14	外面タテハケ後突出度の高 い突帯を貼り付ける。内面 はナナメヨコハケを施す。	PL66
1018	残 胴部2 段破片 高 <11.6>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G	①B、雲母粒 多量②橙5 YR6/6③普 通・普通		M2			円		10	外面タテハケ後突出度の弱 い突帯貼り付け。内面はナ ナメヨコハケを施す。	
1019	残 口縁部 破片 高 <7.2>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		M2					10	外反の状況から先端の欠損 した口縁部の破片であら う。外面はタテハケ、内面 はヨコハケ後一部にナデを 重ねる。	
1020	残 胴部2 段破片 高 <10.8>	①前方部墳 頂部②前方 中央VI	①A②赤褐5 YR4/6③普 通・普通		三					表 9 ・ 裏 14	外面ナナメタテハケ後突帯 貼り付け。内面ナナメハケ。	PL66
1021	残 基底部 破片 高 <9.8>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台2		8.5			11	外面タテハケ後底面から8. 3cmの位置に突帯を貼り付 ける。内面はナデを施す。 下半には基部成形時のハケ メがつくか。	器面は粗れ ている。 PL66
1022	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <14.7>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台1		3.5			9	外面タテハケ後底面から3. 2cmの位置に突帯を貼り付 ける。内面はナナメタテハ ケを施す。	PL66
1023	残 基底部 破片 高 <12.0>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通		台1		10.5			8	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。内面はナデを施す。	外面の一部 に黒色みを おびる。

前方部墳頂部出土の円筒埴輪(4) (第164図)

No.	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケ メ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)	
					形状	間 隔	形状	タ テ ヨ コ				
1024	残 基底部 ～胴部第1 段1/4 底 (24.2) 高 <12.5>	①前方部墳 頂部②前方 中央T-V ・VI	①A②明赤褐 5YR5/8③良 好・普通		台1	1 2	9.8 <2.7>			表 9 ・ 裏 5	外面タテハケ後底面から 13.8cmの位置に突帯を配 す。内面下端には基部粘土 板作製時の工作板の木目が 圧痕として残る。これに粗 い目のハケを施す。作業単 位の接合部分には指頭圧痕 が集中する。	PL66

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
1025	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <16.2>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20、 V-21G	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通		台1		12.2			14	外面は単位の細かいタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメハケを施し、基部の接合部分にはナデを加えている。基部粘土板は左を上としている。	PL66
1026	残 底部部 ～胴部第1 段1/4 底 (22.0) 高 <17.3>	①前方部墳 頂部②前方 中央-VI	①B②にぶい 赤褐2.5YR5/4 ③良好・やや 硬質		M1	1 2	13.4 <3.9>	円		14	外面タテハケ後、突帯を強いヨコナデにより貼り付け。内面はナメあるいはタテ方向のナデ。透孔は突帯に寄って位置する。	底部外面に棒状工具による刺突痕が列状にみられる。 PL66
1027	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <13.0>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G	①B②赤褐5 YR5/6③普 通・普通		M1		11.4	円		12	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナメタテハケを施す。	器面の一部 黒色みをお びる。 PL66
1028	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <12.0>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G	①B②橙7.5 YR6/6③普 通・普通		台1		4.1			11	外面タテハケ後底面近くに突帯をめぐらす。突帯の下縁はつぶれている。内面はナメタテハケを施す。	器面の一部 に黒色みあ り。 PL66

鞍部墳頂部出土の円筒埴輪(1) (第165図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)		
					形状	間隔	形状	タテヨコ					
1029	残 口縁部 ～胴部第1段 1/2 口 (30.7) 高 <18.7>	①鞍部墳頂 部②鞍部S	①B②赤褐5 YR4/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>	台2	1 2	<4.2> 14.5			9	口縁部は上半部が緩やかに外反して立ち上がる。先端は外面に粘土を貼り肥厚させる。上端面はくぼむ。肥厚部分はヨコハケ後ナデを重ねる。胴部はタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを施す。	PL48	
1030	残 底部部 ～胴部第2 段1/2 底 (26.0) 高 <32.3> (図上復元)	①鞍部墳頂 部②5トレ Y-20G	①B②にぶい 赤褐2.5YR5/4 ③普通・普通		台2	1 2 3	11.0 10.4 <10.9>	円	2	<4.3> <5.5>	8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面は底部部に押圧痕、胴部にヨコ方向のナデを残す。	器面に黒色 の付着物あ り。 PL48
1031	残 口縁部 破片 高 <4.0>	①鞍部墳頂 部②5トレ Z-20G	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>							8	先端外面は粘土帯を貼り、以下タテハケを残す。内面はナメヨコハケを施す。	
1032	残 口縁部 破片 高 <6.4>	①鞍部墳頂 部②鞍部S	①B②にぶい 褐7.5YR5/4・ 明赤褐5YR5/6 ③良好・やや 硬質・還元状 態	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							5	先端は強く屈曲、外側に肥厚する。外面はタテハケ後肥厚部分をヨコナデ。内面はヨコハケを施す。	
1033	残 口縁部 破片 高 <6.1>	①鞍部墳頂 部②5トレ Y-20G	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>							10	先端外面は薄く肥厚する。器面はヨコハケを一部ナデ消す。貼り付け部下端の一部にタテハケが施される。	

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
1034	残 口縁部 破片 高 <10.1>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Z-20G	①B②橙2.5 YR6/8③普通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					16・12	先端の外面は肥厚し下端に段をもつ。器面には以下に施されたタテハケと異なる工具を用いたヨコハケが施される。	PL65
1035	残 口縁部 破片 高 <7.3>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②橙5 YR6/8③普通・やや不良	I					7	先端は緩やかに外反する。外面タテハケ、内面ヨコハケを施す。	PL65
1036	残 口縁部 破片 高 <6.3>	①鞍部墳頂部 ②1トレ Y-20G	①B②橙5 YR6/8③普通・普通、断面内部半還元状態	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>					16	先端の外面はやや幅広く肥厚、下端は強く段をなす。器面はナデている。外面はタテハケ、内面はヨコ方向のハケを施す。	内面にヘラ描きあり。 PL65
1037	残 口縁部 破片 高 <5.7>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③やや不良・やや軟質	I					9	先端、端面の下線は丸みをおびる。外面タテハケ、内面ヨコハケを施す。	
1038	残 口縁部 破片 高 <5.6>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	I					12	先端は緩やかに外反する。外面はタテハケ後、先端に極めて粗雑なナデを施す。	
1039	残 口縁部 破片 高 <7.5>	①鞍部墳頂部 ②1トレ Z-20G	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通	I					9	緩やかに外反して立ち上がる。先端はくぼむ。外面はタテハケ、内面はヨコ方向のハケを施す。	朝顔形の口縁部先端の可能性はあるか。
1040	残 口縁部 ～胴部1段 破片 高 <10.3>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	①B②赤褐5 YR4/6③良好・普通	I	M2		8.2		11	口縁部は短く先端が強く屈曲して立ち上がる。外面にはタテハケ後先端を2回に分け幅広くヨコナデを施す。内面はナメハケを施す。	PL65
1041	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 口 (29.8) 高 <14.9>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	①B②明赤褐 5YR5/8・赤褐5YR4/6③普通・普通	I	M2	1 2	<8.1> 6.8		10	口縁部は短く、上半が強く外反して立ち上がる。口縁部外面はタテハケを施すが先端のヨコナデと突帯貼り付け後のナデによりほとんどが消される。内面は胴部にタテ方向のナデ、口縁部にナメハケが施される。	外面にヘラ記号。黒色の付着物あり。 PL65
1042	残 胴部破片 高 <7.3>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②橙5 YR6/8③普通・普通						13・5	外面は粗い単位のタテハケに細かい単位のハケを重ねる。内面は細かい単位のハケメを施す。	
1043	残 胴部破片 高 <8.3>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Z-20G	①B②橙5 YR6/8③普通・普通						9	外面タテハケ、内面ナメヨコハケを施す。	外面にヘラ描きあり。 PL65
1044	残 胴部破片 高 <7.9>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③やや良好・普通		M1				15	外面は細かい単位のタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケ後一部タテハケを施す。	
1045	残 胴部破片 高 <7.3>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②橙5 YR6/6③普通・普通		M2			円	9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面ナメハケ後一部にナデを施す。	

鞍部墳頂部出土の円筒埴輪(2) (第166図)

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ				
1046	残 胴部2 段破片 高 < 9.3>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	①B、礫多量 ②明赤褐5 YR5/6③普通・普通		M 2			円		12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面ナナメハケ。	
1047	残 胴部2 段破片 高 < 9.0>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		台 2					10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメ方向にハケメ、ナデを施す。	PL65
1048	残 胴部2 段破片 高 < 9.4>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	① B ② 橙5 YR6/8③普通・普通		M 2					14	外面タテハケ後突帯を粗雑に貼り付ける。内面にはナデ、ハケメが施されていたと思われる。	内面は粗れている。
1049	残 胴部破 片 高 < 12.8>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②赤褐5 YR4/6③普通・普通		台 2					5	外面は非常に単位の粗いタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はハケメをナデ消す。	
1050	残 胴部3 段1/4 高 < 26.7>	①鞍部墳頂部 ②鞍部	①B②明赤褐 2.5YR5/6・明 赤褐5YR5/8 ③普通・普通		M 1	1 < 7.6> 2 16.7 3 < 2.4>		円		9	外面はタテハケ。1段と2段はその後ナナメハケを重ね、突帯貼り付け時にヨコナデを施す。内面は一部にハケを残し、ナデを施す。	PL65
1051	残 胴部2 段破片 高 < 11.0>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	① B ② 橙5 YR6/8③普通・やや軟質		台 1			円		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向のナデを施す。	
1052	残 胴部破 片 高 < 8.1>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		M 1					14	外面は非常に細かいタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメハケ後、タテ方向に一部ナデる。	
1053	残 胴部3 段1/4 高 < 21.8>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	① B ② 灰褐 7.5 YR5/2・ オリーブ黒 7.5 Y3/2・暗 灰黄2.5Y4/2 ③不良・軟質、 還元状態		台 2	1 < 4.9> 2 12.1 3 < 4.8>		円		8	外面、粗雑なタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメタテ方向のハケメ後ナデを重ねる。	発泡している。
1054	残 胴部破 片 高 < 8.5>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台 3			円		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向にナデを施す。	
1055	残 胴部2 段破片 高 < 7.8>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	① B ② 橙5 YR6/8③普通・やや軟質		M 1			円		9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコハケを施す。	

鞍部墳頂部出土の円筒埴輪(3) (第167図)

No.	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No.)	
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ				
1056	残 胴部破 片 高 < 8.9>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台 1					9	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はヨコ方向にナデを施す。	外面黒色みをおびる。
1057	残 胴部破 片 高 < 7.6>	①鞍部墳頂部 ②1トレ 2A-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		M 2					17	外面は非常に単位の細かいタテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナデとハケメが認められる。	
1058	残 胴部破 片 高 < 7.0>	①鞍部墳頂部 ②5トレ Y-20G	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通		台 1			円		11	外面タテハケ後、突帯貼り付け。内面はナデを施す。	外面黒色みをおびる。

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ			
1059	残 胴部2 段1/4 高 <11.1>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	① B ② 橙5 YR6/8③ 良好・普通		台2	1 <4.8> 2 <6.3>	円		7・16?	外面はタテハケ後突帯貼り付け。その後2次調整のヨコハケを施す。内面は粗いたテハケである。	PL65
1060	残 胴部2 段破片 高 <6.4>	①鞍部墳頂部 ②5トレY-20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・やや軟質		台1		円		11	外面タテハケ後突帯突出度の低い突帯を貼り付ける。	
1061	残 基底部 1/4 底 (24.2) 高 <13.0>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	①B②赤褐2.5 YR4/6③ 良好・普通						9	外面タテハケ。内面はタテ方向のナデ。	
1062	残 基底部 破片 高 <9.4>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普通・普通		台2	1.9			表9・裏6	外面タテハケ後底面に接して突帯をめぐらす。内面はタテハケと押圧痕が残る。	PL65
1063	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <12.8>	①鞍部墳頂部 ②5トレY-20G	① B ② 橙5 YR6/8③ 普通・普通		台3	7.2	円		13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。透孔は突帯に接して位置する。内面はナデる。	外面磨減している。 PL65
1064	残 基底部 ～胴部1段 破片 高 <16.5>	①鞍部墳頂部 ②鞍部S	①B②明赤褐 5YR5/6・赤褐 5YR4/6③ 普通・やや軟質		台2	11.8			11	外面はタテハケ後突帯突出度の弱い突帯をめぐらす。内面は下半に成形時の押圧痕を、上半に粗雑なナデを残す。	内面に黒色の部分あり。 PL65
1065	残 口縁部 破片 口 (58.0) 高 <29.9>	①鞍部墳頂部 ②5トレY-20・Y-21・Y-22G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台2	1 23.7			9	口縁部は頸部から外反してナナム上方に大きく立ち上がる。先端は端面がくぼみ上縁が突出する。突帯は全体の1/3程のところに位置する。器面の調整は外面がタテハケ、内面がヨコハケ・ナナムヨコハケを施す。	PL65
1066	残 口縁部 破片 高 <7.4>	①鞍部墳頂部 ②11トレZ-19G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普通・普通		台2				13	ナナム上方に大きく外反する。口縁部破片と思われる。外面は突帯以下にヨコ方向のハケメを、上位はタテハケを施す。	外面は黒色みをおびる。

後円部墳頂部～上段出土の円筒埴輪(1) (第168図)

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨ テ コ			
1067	残 胴部2 段1/3 高 <15.0>	①後円部墳頂部～上段 ②後円上段	① B ② 赤褐5 YR4/8③ 普通・普通		台1	1 <7.3> 2 <7.6>	円	1F <4.4> 4.7	14	外面タテハケ後突帯を貼り付けるが、大きく波打っている。内面はナナムハケを施し、接合部はナデを重ねている。	PL67
1068	残 基底部 ～胴部第1 段1/4 高 <18.4>	①後円部墳頂部～上段 ②後円上段	①A?②赤褐 2.5YR4/6③ 良好・普通		M1	1 13.6 2 <4.8>			11	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面は一部にナデがみられる他はヨコあるいはナナムヨコ方向のハケメを充填させる。	器面の一部が黒色みをおびる。 PL67
1069	残 基底部 1/3 底 (26.6) 高 <15.0>	①後円部墳頂部～上段 ②後円上段	① B ② 赤褐5 YR4/6③ 良好・普通		M2	1 13.5 2 <1.5>			12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面、下半は基部成形時のナデ、上半にはハケメを残す。	外面の底面間近にヘラ状工具の圧痕がある。 PL67

No	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突 帯		透 か し		ハケメ	成・整形の特徴	備 考 (写真No)
					形状	間 隔	形状	タ ヨコ			
1070	残 基底部 ～胴部第2 段1/4 高 < 25.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙7.5 YR6/8③普 通・普通		台1	1 10.9 2 11.3 3 < 3.1>			11	外面タテハケ後突帯を貼り 付ける。ほぼ等間隔に配さ れていたか。底面は右を上 に重ねる。	還元状態。 PL67
1071	残 口縁部 破片 高 < 6.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円-N -II、後円 C-I	①B②明赤褐 2.5YR5/6・ 明赤褐5YR5/6 ③普通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>3</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					8	先端は外面タテハケ後外側 に粘土を薄く貼り肥厚させ ている。内面の調整は最上 位がヨコハケ、以下はナナ メヨコハケ。	器面は磨滅 している。 PL67
1072	残 口縁部 破片 高 < 5.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①A②赤褐2.5 YR4/6③普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	先端の外面は幅広く肥厚 し、ヨコ方向のハケを施す。 内面もヨコ・ナナメヨコ方 向のハケメを施す。	PL67
1073	残 口縁部 破片 高 < 8.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円羨門 N・I、後円 羨門北	①A②明赤褐 5YR5/6・明 赤 褐5YR5/8 ③良好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>2</sub> E <sub>3</sub>					9	先端はタテハケ後外面に粘 土を貼り肥厚させる。肥厚 部分はヨコハケ後上下両端 にヨコナデを施す。内面は ナナメハケ。上位はヨコハ ケ。	PL67
1074	残 口縁部 破片 高 < 8.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					13	外面は先端の下縁が突出す る段をなして肥厚する。器 面はヨコナデが施される。 外面の以下はタテハケ、内 面はヨコ方向のハケメを施 す。	PL67
1075	残 口縁部 破片 高 < 8.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙5 YR6/6③普 通・普通	A <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>1</sub>					10	先端の外面はやや広く肥 厚、器面にヨコ方向のハケ メを残す。以下はタテハケ を施す。内面はヨコハケを 施す。	PL67
1076	残 口縁部 破片 高 < 5.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①A②明赤褐 5YR5/6・に ぶい黄 褐10 YR5/4③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>2</sub> C <sub>2</sub> D <sub>2</sub> E <sub>2</sub>					12	先端は若干肥厚、外反して 立ち上がる。外面の調整は タテハケ後肥厚部分をヨコ ナデ。内面はナナメハケ。	
1077	残 口縁部 破片 高 < 4.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					10	先端は外面に粘土を貼り付 け肥厚させヨコハケを施 す。下端にはヨコナデを重 ねる。内面ヨコハケ。	
1078	残 口縁部 破片 高 < 5.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②羨門北	①A②橙7.5 YR6/6③良 好・普通	A <sub>2</sub> B <sub>1</sub> C <sub>3</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					10	先端は外側に粘土を貼り肥 厚させる。外面肥厚部分に ヨコハケ。下位はナデ。内 面はヨコハケ。	
1079	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円羨門 北	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・やや軟質	I					10	先端は大きく外反して立ち 上がる。外面タテハケ、内 面ヨコ方向のハケを施す。	
1080	残 口縁部 破片 高 < 6.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②B-VI	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I					14	先端のヨコナデは外面に狭 く施されるのみ。外面はタ テハケ。内面はヨコナデ。	外面ヘラ記 号。
1081	残 口縁部 破片 高 < 8.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円羨門 北	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	I					12	先端は緩やかに外反して立 ち上がり内側が尖る。外面 タテハケ、内面ナナメヨコ ハケ。	PL67



後円部墳頂部～上段出土の円筒埴輪(2) (第169図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ			
1082	残 口縁部 ～胴部1段 1/4 高 <14.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S T	①B②赤褐2.5 YR4/8・明 赤褐2.5YR5/8 ③良好・普通	I	M 1	8.9				11	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケ。	外面、黒色の付着物あり。 PL67
1083	残 口縁部 破片 高 < 3.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S	①B②赤褐5 YR4/6・明赤 褐5YR5/6③ 良好・普通	I						12	先端は強く反り返り、内面に稜をなす。内外面にヨコナデを施す。	
1084	残 口縁部 破片 高 < 5.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通	I						12	外反して立ち上がり、端部はくぼむ。下縁は突出する。外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。	
1085	残 口縁部 破片 高 < 6.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円部C -N-T	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通	I						11	大きく外反して立ち上がる。先端面は中央がくぼむ。外面タテハケ。内面は上位に1条ヨコハケ、以下はナナメハケ。	朝顔形の可能性もある。 PL67
1086	残 口縁部 破片 高 < 9.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①A②橙5 YR6/8③普 通・普通	I						9	外反して立ち上がり、先端の内面が弱くくぼむ。外面はタテハケ、内面はナメヨコハケを施す。器肉は全体に薄い。	PL67
1087	残 口縁部 破片 高 < 4.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円部羨 門北	①B②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通	I						10	先端は外面に薄く粘土を貼り、ヨコナデをくり返し施す。内面下位はナナメヨコハケ。	
1088	残 口縁部 破片 高 < 5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通	I						14	大きく外反するか。器肉は全体に厚い。外面タテハケ、内面ナナメハケ。先端は内外面ともヨコナデ。	朝顔の口縁部か。外面黒色の付着物あり。
1089	残 口縁部 破片 高 < 4.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・やや軟質	I						10	あまり外反せず直線的に立ち上がったと考えられる。外面タテハケ、内面ヨコ方向にハケメを施した後、先端を幅広くヨコナデする。	
1090	残 胴部2 段破片 高 <12.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台1					10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメハケ後部分的にタテ方向のナデ。	PL67
1091	残 胴部2 段破片 高 <13.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1			円		8	外面、単位の粗いタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコ方向のハケメを施す。	器面の一部に黒色みあり。
1092	残 胴部2 段破片 高 <13.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上部	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台3			円		14	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面は一部にハケメを残すが大半はナナメヨコ方向にナデを施す。	PL67
1093	残 胴部2 段破片 高 < 7.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通		台2			円		9	外面タテハケ後突出度の高い突帯を貼り付ける。下段はヨコハケが施される。内面はナナメヨコハケとナデがみられる。	PL68
1094	残 胴部2 段破片 高 < 9.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円一中 央-T	①A、礫少量 ②にぶい赤褐 5YR5/4③良 好・普通、断 面内部還元状 態		台1			円		16	外面は細かなタテハケ後突帯貼り付け。突帯は突出度が弱く、特に下位の稜はつぶれて断面三角形に近い。内面は丁寧なナデ。	PL67

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
1095	残 胴部2 段破片 高 < 9.2)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N- 1	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・やや軟質		台1				10	外面タテハケ後突帯貼り付け。部分的に二次調整のタテハケを行ったため突帯上面にハケメを残す。内面はナナメハケ。	PL68

後円部墳頂部～上段出土の円筒埴輪(3) (第170図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
1096	残 胴部2 段破片 高 < 18.0)	①後円部墳 頂部～上段 ②羨門北、 C-1	①B②明赤褐 5YR5/8・に ぶい褐7.5 YR5/4・暗灰 黄2.5Y4/2③ 不良・普通、 内面還元状態		台1				10	外面は極めて軟らかいタッチのタテハケ。内面は丁寧なナナメ・タテ方向のナデ。	PL68
1097	残 胴部2 段破片 高 < 13.0)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台3				8	外面は単位の粗いハケメを弱いタッチで施した後突帯を貼り付ける。内面もナナメヨコ方向のナデを施すが接合痕を残す。	
1098	残 胴部破 片 高 < 8.7)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台2		円		10	外面タッチの弱いタテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメヨコ方向にナデ上げる。	
1099	残 胴部2 段破片 高 < 8.4)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S	①B②明赤褐 5YR5/8・明 赤褐5YR5/6 ③普通・やや 軟質		台2				12	外面の下段はナデ、上段はタテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向のナデ。	
1100	残 胴部破 片 高 < 9.7)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②赤褐5 YR4/6③普通 ・普通		M2		円		13	外面タテハケ後ヨコハケを重ねその後突帯を貼り付ける。内面はタテハケ・ナナメタテハケを施す。	器面の一部 が黒色みを おびる。 PL67
1101	残 胴部2 段破片 高 < 9.0) (図上復元)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②赤褐2.5 YR4/6③普通 ・普通		台2				11	外面タテハケ後幅の狭い突帯を貼り付ける。内面はナナメ・ナナメヨコ方向のハケメを施す。	外面にヘラ 描き。黒色 みをおび る。PL67
1102	残 胴部3 段破片 高 < 19.4)	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上 部、石室上 部S	①B②明赤褐 2.5YR5/6・ 明赤褐5YR5/8 ③良好・普通		台1	12.9	円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はタテ方向のナデとナナメハケが混在する。突帯は低く、下稜がつぶれている。	PL67
1103	残 胴部2 段破片 高 < 12.4)	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上 部S、後円 羨門北	①A②明赤褐 2.5YR5/6③ 良好・普通		台2		円	< 3.3) < 3.3)	12	外面タテハケ後、突出度の低い突帯貼り付け。透孔は下位の突帯に近接して穿たれる。内面ナナメハケ。	PL67
1104	残 胴部破 片 高 < 14.0)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台1		円	5.6 < 3.2)	16	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナナメ方向のナデとハケメが混在する。	器面の一部 は黒色みを おびる。
1105	残 胴部2 段破片 高 < 13.2)	①後円部墳 頂部～上段 ②B-V	①B②橙7.5 YR6/6・黄褐 2.5Y5/4③普通 ・普通		台1		円		12	外面はタテハケ後突帯貼り付け。内面はタテハケとナナメ方向のナデが混じる。	PL68

後円部墳頂部～上段出土の円筒埴輪(4) (第171図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
1106	残 胴部2 段破片 高 <17.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②羨門北	①A②明赤褐 5YR5/6③良 好・普通、断面 内部還元状態		台1					10	外面はタテハケ後突帯貼り 付け。突帯は突出度が低い。 特に下縁は低く断面三角形 に近い。内面はナナメタテ 方向のハケ。	PL68
1107	残 胴部破 片 高 <5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙5 YR6/8③普 通・普通							11	外面タテハケ、内面ナナメ ハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。
1108	残 胴部破 片 高 <5.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S	①A②明赤褐 5YR5/8③普 通・普通、断面 内部還元状態		三					10	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメハケ。	外面にナナ メ方向2条 のヘラ記 号。
1109	残 胴部3 段破片 高 <28.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②羨門北	①A②明赤褐 5YR5/6・赤 褐5YR4/6③ 普通・普通		台2	13.5	円			9	外面タテハケ後突帯貼り付 け。内面はナナメタテハケ。 作業工程を示す接合部分 にはハケの上に押圧痕が残る。	PL67
1110	残 胴部2 段破片 高 <22.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N- 1、後円C -1	①A②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1	1 <7.7> 2 <14.6>				8	外面は弱いタッチのタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は ナナメタテハケ後タテ方向 にナデを加える。	
1111	残 胴部2 段1/4 高 <20.9> (図上復元)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②赤褐2. 5YR4/8③普 通・普通		M3	1 <10.2> 2 <10.7>	円	1 <3.3> <3.6>		10	外面、弱いタッチのタテハ ケ後突帯貼り付け。内面は 一部にハケメを残すがほぼ 全体がナデられている。	下段外面に ヘラ描きあ り。器面は やや磨減し ている。 PL67
1112	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <13.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙2.5 YR6/8③良 好・普通		M2	12.0	円			9	外面タッチの弱いタテハケ 後突帯貼り付け。内面はタ テ方向にナデ・ヘラナデを 施す。	器面の一部 に黒色みあ り。 PL68
1113	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <17.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B、礫少量 ②橙2.5YR6/8 ③普通・普通		M1	11.3				8	外面粗い単位のタテハケ 後、底面に接して1条、こ れから11.4cm離れて1条突 帯を配する。内面はナナメ タテ方向に丁寧にナデる。	内面の一部 に黒色みお びる。形状 から形象基 台部の可能 性もある。 PL68
1114	残 基底部 破片 高 <10.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円羨門 北	①A②明褐7.5 YR5/6③良 好・普通							8	器肉は1.3cmと薄い。外面タ テハケ。内面は下端に基部 粘土板作製時のヨコナデを 残し他はナナメハケ。	

後円部墳頂部～上段出土の円筒埴輪(5) (第172図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテヨコ				
1115	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <14.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙2.5 YR6/8③普 通・普通		台1	9.2	円			9	外面タテハケ後突出度の低 い突帯を貼り付ける。内面 はナナメヨコ方向のナデを 施す。	器面の一部 に黒色みあ り。 PL68
1116	残 基底部 ～胴部第1 段破片 高 <11.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②B-VI	①B②明赤褐 5YR5/6③普 通・普通		台1	8.5				15	突帯は底面から8.0cmに位 置し、突出度は極めて弱い。 外面タテハケ。内面はナナ メハケ。	PL68

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
1117	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 <13.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 良好・普通		M 2		8.7				13	外面、タテハケを重ねた後突帯貼り付け。内面も底面間近からナナメ方向のハケを施す。底面は右を上重ねる。	器面の一部に黒色をおびる。 PL68
1118	残 底部部 ～胴部第1 段破片 高 < 8.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円-C	①A②にぶい 赤褐2.5YR4/4・ 赤褐5YR4/6 ③良好・普通		台 1		2.9				10 16	内外面ともタテハケ。突帯は低位置にある。基底部の内外面に粘土板製作時の作業台圧痕がみられる。	PL68
1119	残 底部部 破片 高 <11.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円羨門 北	①B②明赤褐 5YR5/6③良 好・やや硬質		M 1		10.3				12	外面はタテハケ後突帯を粗雑に貼り付けする。内面はタテ方向のナデ。	PL68
1120	残 底部部 ～胴部第1 段破片 底 (31.0) 高 < 8.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円E T	① B ② 赤褐5 YR4/6・明褐 7.5YR5/6③ やや軟質・普 通		台 1		3.3	円			6	外面には粗いタテハケ後突帯を低位置に貼り付け。内面はナデ。	PL68
1121	残 口縁部破 片 高 <12.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普 通・普通								9	口縁部上位の破片で、大きく外反して立ち上がる。外面、タテハケ。内面、ナナメヨコハケを施す。	器面は粗れている。
1122	残 口縁部 ～胴部3段 1/2 胴 (28.5) 高 <73.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円羨門 北	① B ② 橙 5 YR6/6③ 良 好・硬質		台 1	1 2 3 4 5 6	9.8 12.9 12.8 16.1 8.3 13.7	円	2F 3L	<5.7> <5.7> <5.3> <5.1>	11	口縁部は中位に突帯を配しナナメ上方に立ち上がる。先端は強く外反して開くと考えられるが欠損している。肩部はあまり強く張り出さない。胴部は一定の径状を保っている。外面の調整は口縁部上半がハケメ、下半がナデである。胴部は肩部にナデが加えられる他はタテハケである。	PL48

周堀出土の円筒埴輪(1) (第173図)

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし			ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)	
					形状	間隔	形状	タテ	ヨコ				
1123	残 口縁部 破片 高 < 7.2>	①北西隅周 堀②9トレ M-9G	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普 通・普通	A <sub>3</sub> B <sub>1</sub> C <sub>1</sub> D <sub>1</sub> E <sub>2</sub>							5	先端の外面は粘土を厚く貼り肥厚させる。以下の外面はタテハケ、内面はナナメハケを施す。	PL68
1124	残 口縁部 破片 高 < 4.2>	①北西隅周 堀②拡 5	① B ② 橙 2.5 YR6/6③ 普 通・普通	I							9	外面はナナメハケを、内面はヨコハケを施す。	朝顔形か。
1125	残 口縁部 破片 高 < 4.6>	①北西隅周 堀②9トレ J-9G	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通	I							6	先端は緩やかに外反する。外面はナナメタテハケ、内面はヨコハケを施す。	PL68
1126	残 胴部2 段破片 高 < 9.1>	①北西隅周 堀②拡 5 外 堀	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普 通・普通		台 3						5	外面は粗いタテハケを施した後突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	小径で形象の基部になるか。 PL68
1127	残 胴部破 片 高 < 9.6>	①北西隅周 堀②拡 5、 5区	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		不明			円			13	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	
1128	残 胴部破 片 高 < 5.5>	①北西隅周 堀②9トレ J-9G	① B ② 橙 2.5 YR6/8③ 普 通・普通		M 1			円			12	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面にはナデを施す。	

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
1129	残 胴部破片 高 < 7.9)	①北西隅周堀②拡5外堀	①B②橙2.5YR6/6③普通・普通		台3				9	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメタテハケを施す。	
1130	残 胴部2段破片 高 < 9.0)	①北西隅周堀②拡5外堀	①B②明赤褐2.5YR5/8③普通・普通		台2				6	外面は粗いタテハケ後突出度の低い突帯を貼り付ける。内面はナデを施す。	
1131	残 胴部2段破片 高 < 7.7)	①北西隅周堀②拡5外堀	①B②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通		M1		円		8	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナデを施す。	
1132	残 胴部2段破片 高 < 7.3)	①北西隅周堀②9トレM-7G	①B②橙2.5YR6/8③普通・普通		台2				14	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面にはナデ、ナナメヨコハケを施す。	PL68
1133	残 胴部破片 高 < 3.8)	①北西隅周堀②9トレJ-9G	①B②橙5YR6/8③普通・普通				円		10	外面タテハケ、内面はナデ、ナナメハケが施される。	
1134	残 胴部破片 高 < 7.1)	①北西隅周堀②拡5外堀	①B②橙7.5YR6/6③やや不良・普通、還元状態						5	外面はタテハケを施す。内面はナデを施すが、接合痕も明瞭に残す。	
1135	残 胴部破片 高 < 7.7)	①北西隅周堀②拡5外堀	①B②橙5YR6/8③普通・普通				円		7	外面はタテハケ、内面はナデ、ハケメを施す。	
1136	残 胴部破片 高 < 4.3)	①外堀東北隅②27トレ	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通		台2				12	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はナナメハケを施す。	
1137	残 底部部～胴部第1段破片 高 < 9.6)	①北西隅周堀②9トレM-9G	①B②橙2.5YR6/8③普通・普通		M1	5.2			6	外面は単位の粗いタテハケ後突帯を貼り付ける。内面にはナデ、ナナメハケがみられる。	PL68
1138	残 胴部破片 高 < 5.0)	①北西隅周堀②拡5	①B②橙5YR6/8③普通・普通				円		7	外面タテハケ、内面はナナメハケを施す。	
1139	残 胴部破片 高 < 7.1)	①北辺周堀②25トレ堀	①B②橙2.5YR6/8③普通・普通		台2				16	外面タテハケ後突帯貼り付け。	内面磨滅している。 PL68
1140	残 胴部2段破片 高 < 8.9)	①北辺周堀②25トレJ-15G	①B②橙2.5YR6/8③普通・普通		台1		円		10	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面ハケ後、ナナメタテ方向にナデている。	PL68
1141	残 胴部破片 高 < 5.2)	①北辺周堀②25トレ堀	①B②にぶい赤褐5YR4/3・灰オリーブ5Y5/2③不良・普通、還元状態		台1				12	外面は突帯貼り付け、内面はハケメ、ナデを施す。	

周堀出土の円筒埴輪(2) (第174図)

No	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
1142	残 胴部2段破片 高 < 19.1)	①北辺外堀②26トレ	①B②明褐7.5YR5/6・にぶい黄褐10YR5/4③不良・普通、還元状態		台2	10.3	円		10	外面タテハケ後突帯貼り付けを施す。内面はタテ方向にナデを施すが一部にハケメを残す。	PL68
1143	残 底部部破片 高 < 11.6)	①外堀東北隅②27トレ	①B②橙2.5YR6/6・にぶい赤褐5YR5/3③普通・普通						14	外面タテハケ後突帯貼り付け。一部、ヘラ状工具でハケメを消している部分がある。内面はナナメハケを施す。	PL68

No	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	口縁	突帯		透かし		ハケメ	成・整形の特徴	備考 (写真No)
					形状	間隔	形状	タテヨコ			
1144	残 口縁部 破片 高 < 5.5>	①東辺周堀 ②23トレ	① B ② 橙 5 YR6/8③ 普 通・普通	I					10	先端は緩やかに立ち上がる。外面はタテハケを施す。	内面は磨滅する。 PL68
1145	残 胴部破 片 高 < 4.6>	①東辺周堀 ②23トレ	①B②明赤褐 2.5YR5/6③ 普通・普通		台1				6	外面は単位の粗いタテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを施す。	外面は黒色 みをおび る。
1146	残 口縁部 破片 高 < 3.3>	①西方周堀 ②3トレV -11G	①A②にぶい 赤褐5YR5/4 ③普通・普通	I					11	緩やかに外反するか。外面タテハケ、内面ナメハケを施し、先端をヨコナデする。端面はくぼむ。	
1147	残 胴部破 片 高 < 5.4>	①西方周堀 ②3トレV -9G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		M3				12	胴部上位、肩部の破片である。外面の調整はヨコハケである。	
1148	残 胴部破 片 高 < 8.0>	①西方周堀 ②11トレ2 A-8G	①B②にぶい 橙7.5YR5/4 ③普通・普通		台3				7	外面はナメタテハケを、内面もハケメを施す。	朝顔形の可 能性もある か。
1149	残 胴部2 段破片 高 < 11.7>	①西方周堀 ②11トレ2 A-6G	① B ② 橙 5 YR6/6③ 普 通・普通		台2				11	外面タテハケ後、突帯を貼り付け、粗雑にナデを施す。内面にはナメハケを施す。	
1150	残 口縁部 ~胴部1段 破片 高 < 7.0>	①西方周堀 ②11トレ2 A-6G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通		M1				11	外面タテハケ後突帯をシャープに貼り付ける。内面にはナメヨコハケを施す。	
1151	残 口縁部 破片? 高 < 5.7>	①西方周堀 ②11トレ2 A-6G	①B②明赤褐 5YR5/6③ 普 通・普通						11	外面タテハケ、内面ナメハケを施す。	外面にヘラ 描きあり。
1152	残 基底部 ~胴部第1 段破片 高 < 9.0>	①西方周堀 ②11トレ2 A-8G	①B②明赤褐 2.5YR5/8③ 普通・普通		台2	6.1			8	外面タテハケ後底面から6.0cmの位置に突帯を貼り付ける。内面はナデている。	PL68
1153	残 口縁部 破片 高 < 4.8>	①東方周堀 ②21トレ	① B ② 橙 5 YR6/6③ 普 通・普通	A <sub>1</sub> B <sub>1</sub> C <sub>2</sub> D <sub>1</sub> E <sub>1</sub>					14 ・ 7	先端外面は幅広く貼り付けがなされる。器面はヨコハケ後上位にナデを重ねる。内面の先端は強く折れ稜をなす。	PL68・69
1154	残 胴部破 片 高 < 4.6>	①東方周堀 ②21-2トレ	① B ② 橙 5 YR6/6③ 普 通・普通						8	外面はタテハケを施す。一部にナデが重なる。内面もナデを施す。	
1155	残 胴部破 片 高 < 7.2>	①南東辺周 堀②20トレ 10区	①B②にぶい 橙7.5YR7/4 ③普通・普通		M2				10	外面タテハケ後突帯を貼り付ける。内面はタテ方向にナデを施す。	

## 形象埴輪

### 家形埴輪(1)~(3) (第175~177図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1156	家	残欠損部多 高 166.4 (図上復元)	①前方部墳 頂部②前方 CT	① B ② 橙 5 YR 6/8・明赤褐 5 YR 5/8・赤褐 2.5 YR 4/6 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL74~76

### 家形埴輪(4) (第178図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1157	家 (上屋根)	残破片 高 < 16.1>	①前方部東 北隅②拡 3	① B ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	入母屋造りの上屋根の上位、流れから破風の破片である。流れの外面には縦横に格子状板飾りの剝離痕がみられる。破風の妻側には上下幅6.8cmの板状の突起が貼り付く。また、破風の流れ側の面にはへら描き沈線が2条認められ、内部に赤色塗彩が施されていたものと思われる。この他に破風の突起周辺に赤色塗彩が残存する。	PL77
1158	家 (破風)	残破片 高 < 9.9>	①前方部墳 頂部②前方部 墳頂	① B ② 明赤褐 5 YR5/8(表)、橙 7.5 YR6/8(裏) ③ 普通・普通	上屋根の破風部分である。流れから屈曲し短く立ち上がる。へら描き沈線がみられ鋸歯文が配されていたと考えられる。	
1159	家 (破風)	残破片 高 < 7.6>	①前方部墳 頂部②前方 CT-IV	① B ② 橙 7.5 YR6/8 ③ 普通・ 普通	上屋根の破風部分の破片である。破風は短く折り返されている。へら描き沈線により鋸歯文を配し赤色塗彩を施す。流れには平行する二本の弧線が認められ、二重の円弧あるいは蕨手文が配されていたと考えられる。内部に赤色塗彩を施す。	PL77
1160	家 (妻の部分)	残破片 高 < 7.7>	①前方部西 側②4トレ X-17G	① B ② 黄橙 7.5 YR7/8 ③ 普通・ やや軟質	上屋根の上位部分の破片である。破風は流れから屈曲して返っている。外面には剝離痕がみられ飾りが施されていたと考えられる。	PL77
1161	家 (上屋根)	残破片 高 < 11.9>	①前方部東 側②4トレ X-24G下 段	①②③	上屋根の妻部分の破片である。端部は折り曲がり縁部に斜格子状の線刻がなされている。流れの外面には幅4.0cmの粘土板を貼り付け、棟木を表現しているか。	
1162	家 (上屋根)	残破片 高 < 9.4>	①前方部墳 頂部②4トレ X-19G 墳頂部	① A ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	上屋根の下端部破片と考えられる。妻側の折り返しはほとんどない。下端は幅3.0cm程を肥厚させ、くの字状の線刻を施している。また、同所に赤色塗彩が認められる。内面には上屋根から延びると考えられる筒状部分との接合面がみられる。	PL77
1163	家?	残破片 高 < 9.9>	①前方部西 北隅②14ト レT-14G 下段	① A ② ぶい橙 5 YR6/4 ③ 普 通・普通	板状の破片である。不定方向のハケメ後部分的にナデ消している。鋸歯状をなすのか線刻が施される。赤色塗彩もあるか。	PL77
1164	家 (格子状棟 飾り)	残破片 高 < 7.2>	①前方部西 側②WC T-III	① B ② 橙 7.5 YR6/8 ③ 普通・ やや軟質	本体から剝離した付属品である。幅40mm、厚さ17mmの板状の粘土である。割れ口の一端には不整形の透孔が穿ってある。	PL77
1165	家?	残破片 高 < 6.8>	①前方部西 側②WC T -I	① B ② 明褐 7.5 YR5/6 ③ 普通・ 普通	板状粘土の破片である。一端に幅1.9cmの粘土を貼り付けている。外面にはハケメを施した後2本1単位のへら描き沈線からなる蕨手、あるいは重弧文が描かれていると考えられる。	天地不明。

家形埴輪(5) (第179図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1166	家?	残 破片 高 < 9.1>	①前方部埴 頂部②前方 中央V・VI	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	器内の厚い板状粘土の破片である。外面には帯状の粘土の剥離痕が認められ、平行する二重の弧線が残存する。	PL77
1167	家	残 破片 高 < 9.2>	①前方部埴 頂部①1ト レX-20G 埴頂面	①②③	板状の粘土板に幅3.5cm以上、高さ1.0cmの粘土帯を貼り付けている。帯の脇にナデがみられる他はヨコ方向のハケメを充填している。	黒色の付着物。
1168	家	残 破片 高 < 18.4>	①前方部埴 頂部②前方 CT-V・VI	①B②にぶい橙 5YR6/4③普通・普通	円筒あるいはややつぶれ隅丸形を呈した形状を呈するか。上方に径を細めながら立ち上がる。先端は薄くなりやや尖っている。外面はタテハケ、内面にはヨコハケを施す。1156の下屋根の一部、上屋根を受ける部分の破片の可能性を考えたい。	PL77
1169	家 (付属品)	残 破片 高 < 6.8>	①くびれ部 東側②拡 4、5号埴 輪	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	板状の破片で一端に小口の剥離痕を残す。破風から突出する横木を表現したものと思われる。	PL77
1170	家 (下屋根?)	残 破片 高 < 10.7>	①前方部埴 頂部②前方 CT-V・VI	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	斜行する板状品の大型破片である。全体に器肉が厚い。内面にこれを受けるように粘土板を接合、間隙に補強粘土を充填している。外面にはヘラ描き沈線による蕨手文が配されている。内部は赤色塗彩が施されていると思われる。下屋根の部分の可能性が考えられる。	PL77
1171	家?	残 破片 高 < 10.3>	①くびれ部 西側②鞍部 -W-1	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	隅丸矩形の本体から板状の粘土を延長させている。家の上屋根部分で、流れと妻部分の接合箇所である可能性がある。外面はタテハケ後二重の弧線がヘラ描きされる。内面には粘土紐をヨコ積みして本体をつくった痕跡がみられる。	
1172	家 (破風)	残 破片 高 < 12.2>	①鞍部埴頂 部・くびれ 部東側②11 トレZ-19 G、17トレ 4区埴頂部	①B②橙7.5YR 6/6③良好・硬質	上屋根の妻部分の破片である。端部は短く屈曲して外側に張り出し、2条1単位の線刻により鋸歯状文を配置している。流れの外面には不定方向のハケメを施した上に2条1単位の円弧を鱗状に配しているか。器肉は薄い。	
1173	家 (壁体)	残 破片 高 < 8.6>	①鞍部埴頂 部②1トレ Z-20G埴 頂面	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	幅3.5cm、厚さ1.0cmの粘土帯がつく。粘土帯の貼り付けにあたり本体、粘土帯の裏面ともにハケメを施していることが観察できる。	PL77
1174	家 (格子状棟 飾り)	残 破片 高 < 6.5>	①くびれ部 西側②鞍部 W-III	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	入母屋造りの上屋根の板状破片、両端は欠損する。図上上端にみられる切り込みは、他の家形埴輪例にみられる格子状の粘土板が交差する部分に付される突起を差し込む孔である。	PL77
1175	家 (格子状棟 飾り)	残 破片 高 < 9.7>	①くびれ部 西側②拡1 排土	①B②橙5YR 6/6③普通・やや 軟質	家の上屋根上位に付属する飾り板である。幅4.4cmの板状を呈し、先端は欠損する。表面には幅2.8cmの杭状の突起が付く。裏面には屋根本体から剥離した痕跡を残す。	
1176	家 (格子状棟 飾り)	残 破片 高 < 4.5>	①くびれ部 西側②拡1 排土	①B②橙5YR 6/8③普通・やや 軟質	家の上位に付属する格子状板飾りの破片である。幅4.4cmの粘土帯には棒状の粘土板が突出する。	天地不明。
1177	家 (格子状棟 飾り)	残 破片 高 < 7.8>	①くびれ部 西側②拡1 排土	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	家の上屋根上位に付属する飾り板である。幅5.0cmの板状を呈し先端は欠損している。残存下位の外面には楕円形の切り込みが入り、突起がさしこまれている。	

家形埴輪(6) (第180図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1178	家 (上屋根)	残 破片 高 < 9.5>	①くびれ部 西側②鞍部 -W-1	①B②明褐7.5 YR5/6(表)、明 赤褐5YR5/8 (裏)③普通・普通	上屋根の流れ下端の破片である。下辺は幅約4.0cm程に粘土を貼り肥厚させている。流れの部分には2本1単位の平行するヘラ描き文を、下端部分にはくの字状の文様を配している。流れ部分タテハケ、内面はヨコハケを施す。	外面に器面のひび割れを調整した押圧痕がみられる。 H77



No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1179	家	残破片 高 < 8.6>	①くびれ部 東側②5ト レY-21G 上段	①B②黄橙7.5 YR7/8③普通・ 普通	上屋根下端の破片と考えられる。下端は3.5cm程の粘土帯を貼り付け縁取られている。表面はタテ方向にハケメを施す。内面はナデを施す。残存部上位にヘラナデがみられる。	
1180	家?	残破片 高 < 5.3>	①くびれ部 東側②拡4	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ やや軟質	板状の破片である。周縁部は外面に幅2.9cmの粘土帯を貼り肥厚させている。屋根の下端の一部か。	
1181	家 (壁体)	残破片 高 < 14.4>	①くびれ部 西側②C- 4	①B②橙7.5Y 6/6③普通・普通	板状の破片である。生きている面は端部でなく、透孔の一部と考えられる。外面はナナメハケ、内面はヨコハケにナデを重ねている。	PL77
1182	家?	残破片 高 < 17.0>	①鞍部墳頂 部②11ト レZ-19G墳 頂部	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	板状の破片である。家の壁面を構成していたか、ハケメをタテあるいはヨコ方向に重ねている。	
1183	家 (壁体)	残破片 高 < 15.4>	①くびれ部 東側②11ト レZ-23G 下段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	家の下壁体あるいは基台部の一隅と考えられる。幅2.5cm程の粘土紐を巻き上げ成形をおこない、外側には粘土を補充して明確な稜を形成している。一面はヨコ方向のハケメ、もう一面はハケメをナデ消している。内面はヨコ方向のハケメを部分的に指頭によりナデ消している。	
1184	家?	残破片 高 < 8.3>	①前方面西 北隅②拡2	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	板状の部分で、裏面の接合部分に補強粘土を貼り付けている。外面はヨコハケ、一部にヘラ描き沈線が認められる。	天地不明。
1185	家 (壁体)	残破片 高 < 11.0>	①くびれ部 西側②鞍部 W	①A②橙7.5 YR6/6(表)、橙 7.5YR6/8(裏) ③普通・普通	四隅の一隅の破片である。平面形は隅丸の形状を呈していたと考えられるが縦位の突帯を貼り付け角を強調している。	内面磨減。 PL77
1186	家 (壁体)	残破片 高 < 10.0>	①鞍部墳頂 部②5ト レY-20G墳 頂部	①B②明赤褐2.5 YR5/6③普通・ 普通	壁の隅部分の破片である。粘土紐の巻き上げにより本体が成形されており内面のヨコ断面は緩やかな弧をなしている。外面はここに粘土を付加し隅をなすが壁面の接続は鈍角である。	

#### 家形埴輪(7) (第181図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1187	家 (屋根)	残屋根大 型破片 横 < 35.9> 高 < 12.2>	①くびれ部 西側②拡1 排土	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	寄棟状を呈する屋根の隅部分である。軒先の突出度は弱い。稜と軒先部分には粘土帯を貼り肥厚させている。	PL77

#### 家形埴輪(8) (第182図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1188	家 (上屋根)	残破片 高 < 23.2>	①後円部墳 頂部~上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③良好・ 良好	本文中参照。	PL78
1189	家 (上屋根)	残破片 高 < 27.5>	①後円部墳 頂部~上段 ②石室上 部、後円S T	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	本文中参照。	内面に黒色の 付着物あり。 PL78

家形埴輪(9) (第183図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1190	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <15.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N-1、石室上部	①B②橙7.5YR 5/6③普通・普通	本文中参照。	PL79
1191	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <15.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部と奥壁の裏込	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	本文中参照。	PL79
1192	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <14.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S-T	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	1190と同様の形状を呈する破片である。表面にヘラ描きによる平行沈線が3本認められる。赤色塗彩が施される。	PL79
1193	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <10.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②WC II	①B②橙7.5YR 6/6・明褐7.5YR 5/6③普通・普通	板状の破片。軒の一隅をなしていたか。内外面ともハケをナデ消している。	

家形埴輪(10) (第184図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1194	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <12.5>	①後円部墳 頂部～上段	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	本文中参照。	PL79
1195	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <14.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C-I	①B②明褐7.5 YR5/6③良好・普通	本文中参照。	黒色の付着物あり。 PL79
1196	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <7.9>	①くびれ部 西側②C-5	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	板状の破片で、軒先の一隅と考えられる。外面はナデを施した後ヘラ描きの沈線で区画、内部に赤色塗彩を加えている。裏面にはハケメを残す。	
1197	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <9.8>	①後円部墳 頂部～上段	①B②橙7.5 YR6/6③普通・普通	板状の破片。軒先の一部か。外面にはヘラ描きによる沈線が加えられている。	
1198	家 (先端部の付属品)	残破片 長 <11.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	断面楕円形の棒状粘土である。ノの字状に彎曲する。残存する端部には剥離痕がみられ、本体と接合状態にあったと考えられる。器面は一部にハケを残す他は丁寧にナデている。	黒色の付着物あり。 PL79
1199	家 (先端部の付属品)	残破片 長 <8.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②橙7.5YR 6/8③普通・やや軟質	断面楕円形の棒状粘土である。ノの字状に彎曲する。残存する端面には剥離痕がみられる。器面はナデを施すが一部にハケメを残す。	PL79
1200	家 (先端部の付属品)	残破片 長 <5.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	断面楕円形の棒状粘土の破片である。残存する端面には剥離痕が認められる。器面はナデている。	PL79
1201	家 (先端部付属品)	残破片 長 <9.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5 YR5/6③普通・普通	彎曲する棒状品で断面が偏平な楕円形を呈する。一端には本体からの剥離痕がみられる。器面はナデられている。	PL79
1202	家	残破片 長 <5.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙5 YR 6/8③普通・普通	断面が偏平な長円形を呈する。弱く彎曲する。器面はナデを施し、部分的に赤色塗彩がみられる。一方の側面に剥離痕がみられる。	天地不明。
1203	家 (先端部の付属品)	残破片 長 <5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6・明褐7.5YR 5/6③普通・普通	断面楕円形の棒状粘土の破片である。端部には剥離痕が認められる。器面はナデている。	PL79
1204	家 (先端部の付属品)	残破片 長 <5.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/8③普通・普通	断面楕円形の棒状粘土の破片である。	

№	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1205	家?	残破片 高 < 7.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙2.5YR 6/8③普通・普通	板状の端部破片である。表面は丁寧にナデ、平行して周縁部に達する2本の線刻の間に赤色塗彩を施している。	天地不明。
1206	家 (上屋根の 付属品?)	残破片 高 < 4.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	板状の破片、裏面はやや反り返る。剝離痕がみられ本体に付属するものと考えられる。	
1207	家 (角柱)	残破片 高 < 9.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	屋根をささえる角柱の破片である。一辺と両隅を残す。隅部分はやや丸みをおびる。両側面には透孔が配されていると思われる。	外面は黒色 みをおびる。 PL81

### 家形埴輪(1) (第185図)

№	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1208	家?	残破片 高 < 9.7>	①くびれ部 東側②11ト レZ-24G 下段～内堀 内	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	外面はタテ方向のハケメ後、残存部上端をヨコ方向にナデている。器肉は1.1cmと他の事例と比較して薄く、つくりがきゃしゃである。	PL81
1209	家 (角柱)	残破片 高 < 7.0>	①くびれ部 東側②竈4、 2号埴輪	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	隅をなし角柱の破片と考えられる。器面にハケメを薄く残す。	PL81
1210	家 (角柱)	残破片 高 < 5.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	隅をなす破片である。残る端部は器肉を薄くして終わらせている。(柱ではなく別の個体の可能性もあるか)	外面は黒色 みをおびる。 PL81
1211	家 (角柱)	残破片 高 < 4.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	角柱の一部と考えられる。隅は鈍角である。外面タテハケ、内面ナデを施す。	PL81
1212	家 (角柱)	残破片 高 < 7.2>	①後円部墳 頂部～上段	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	屋根を受ける角柱の破片と考えられる。やや鈍角をなす隅の部分が残存する。	PL81
1213	家 (角柱)	残破片 高 < 5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	角柱の破片と思われる。やや鈍角をなす隅の一部である。外面タテハケ、内面ナデである。	PL81
1214	家 (角柱)	残破片 高 < 6.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	角柱の破片と考えられ、隅の一部を残す。外面、タテハケ、内面はナデを施す。	PL81
1215	家 (角柱)	残破片 高 < 6.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	屋根部を受ける角柱の破片と考えられ、やや鈍角をなす隅の一部が残存する。外面タテハケ、内面はナデを施す。	器面が粗れ ている。
1216	家 (付属品?)	残破片 長 < 7.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	板状の破片。一部側縁部を残す。外面は丁寧にナデられ、ヘラ描きによる横線をはさみ上下に斜行線が刻まれている。下段は2本1単位である。裏面には剝離痕がみられる。寄棟造りの上屋根から軒先に移行する部分にみられる剝離に対応する可能性がある。	PL81
1217	家 (付属品?)	残破片 高 < 4.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	板状の破片で、側縁を後に引くように反った断面形状を呈する。外面にはヘラ描き沈線による鋸歯文がみられる。	PL81
1218	家?	残破片 高 < 5.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C -I	①A②明褐7.5 YR5/6・にぶい 橙7.5YR5/4③ 普通・普通	隅部を構成する破片である。内外面ともナデている。	
1219	家 (付属品?)	残破片 高 < 7.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	L字状に屈曲、外面に稜をもつ。外面にヘラ描きによる直線文が施されており、鋸歯文が構成されていたか。	PL81
1220	家	残破片 高 < 5.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の破片で、直線的に延びる側縁部を残す。(残存部からの延長方向は不明) 外面にはヘラ描きにより側縁に平行する沈線をはさみその両側に鋸歯文を配していると思われる。赤色塗彩が施されている。	PL81

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1221	家 (付属品?)	残破片 高 <10.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	L字状に屈曲する粘土板である。表面はヘラ描きの横線により二分され、上段には2本1単位のヘラ描きによる斜格子目文を、下段には鋸歯文が配され、区画的に赤色塗彩が施されている。器面は丁寧にナデを施す。	PL81
1222	家 (付属品?)	残破片 高 <5.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①A②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	一部側縁を残す板状の破片である。外面にヘラ描き沈線により2本1単位の鋸歯文を描き内部に赤色塗彩を施す。	PL81
1223	家 (付属品?)	残破片 高 <8.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部、 石室上部 S	①B②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	L字状に屈曲する粘土板である。上端には剝離痕がみられる。表面には2本1単位のヘラ描きによる鋸歯文が配され、区画内には赤色塗彩が施される。器面は丁寧にナデられている。	PL81
1224	家 (付属品?)	残破片 高 <7.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	L字状に屈曲する粘土板で、隅をなす部分と思われる。外面には2本1単位のヘラ描きによる鋸歯文が連続する。器面はナデを施すが一部にハケメを残す。	PL81

### 家形埴輪(12) (第186図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1225	家 (床部)	残破片 長 <10.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②鞍部	①B②橙7.5YR 6/6③良好・良好	板状の破片である。上面は丁寧なナデ。下面はやや粗雑なナデである。	
1226	家 (床部)	残破片 長 <21.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部、 石室上部 S、後円 ST	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	やや隅丸を呈する柱状の部位からヨコ方向に粘土を延ばし床面を成形している。	PL80
1227	家 (上屋根先端部)	残破片 長 <8.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	板状の破片であるが一部肥厚する部分が認められる。外面は一方方向にハケメを施した後ヘラ描き沈線を加えている。	
1228	家	残破片 高 <9.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明赤褐 2.5 YR5/6③普通・ 普通	高床部分の破片と考えられる。	
1229	家 (上屋根?)	残破片 高 <7.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N- 1	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	屋根の一部と考えられる。内面に粘土板の貼り付けが残存する。角柱の一部か。	天地不明。
1230	家 (床面)	残破片 長 <34.3> 高 <4.5>	①後円部墳 頂部～上 段・後円部 南側(後方)	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	本文中参照。 出土位置②1トレ2F-20G、20トレ6区後円部上段	裏面は黒色 みをおびて いる。 PL80
1231	家	残破片 高 <7.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙5 YR 6/8③普通・普通	板状を呈するが、肥厚する側の欠損面には一部に剝離がみられる。	天地不明。

家形埴輪(13) (第187図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1232	家 (円柱)	残 破片 高 <14.4>	①後円部墳 頂部～上段	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	径14.0cmを測る小径の円筒である。外面タテハケ、内面もタテ方向のナデを施す。	PL81
1233	家 (円柱)	残 破片 高 <13.3>	①くびれ部 西側②C4 南	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	径11.7cmの円筒状を呈する。外面タテハケ、内面はタテ方向のナデを施す。	黒色の付着物あり。 PL81
1234	家 (円柱)	残 破片 高 <9.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	一部に底面を残し、小径の円筒状を呈する。外面タテハケ、内面ナデを施す。	PL81
1235	家 (円柱)	残 破片 高 <5.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。外面はタテハケ、内面はナデを施す。角柱の一部と考えられる。器肉は薄い。	
1236	家 (付属品?)	残 破片 高 <6.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST	①A②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	山形に屈曲する破片である。2本1単位の斜格子状の文様がへら描きされ、区画内に赤色塗彩が施される。	
1237	家 (円柱)	残 破片 高 <8.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	筒状を呈する破片か。外面タテハケ、内面、ナナメハケ後一部にナデを施す。	
1238	家 (円柱)	残 破片 高 <7.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	円筒部の破片である。径は17.0cmと小さい。外面はタテ方向のハケメ、内面にはナデを施している。	
1239	家 (円柱)	残 破片 高 <12.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 と石室上部 S	①B②橙7.5YR 6/6・明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	小径の円筒あるいは隅丸の長方形に近い形状を呈すると思われる。外面タテハケ、内面もタテ方向にナデている。底部に基部作製時の粘土紐の重ねがみられる。	PL81
1240	家 (床部)	残 破片 長 <17.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 とWD	①B②橙7.5YR 6/6・明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	円筒部から水平方向に粘土板を延ばし床部分を形成している。	PL81

家形埴輪(14) (第188図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1241	家 (格子状棟飾り)	残 破片 高 <9.2>	①後円部東 側②後円E T	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ やや軟質	板状粘土で外面に向けて緩やかに外反する。裏面に粘土を貼った痕跡がみられる。家の頂部に付く格子状棟飾りの一部と考えられる。	PL80
1242	家 (入母屋の上屋根、格子状棟飾り)	残 破片 高 <10.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ やや普通	幅7.0cmを測る板状の製品で上端で外反している。	PL80
1243	家 (格子状棟飾り?)	残 破片 高 <7.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・やや 軟質	幅6.2cmの板状を呈する。裏面には本体から剥離痕を残す。表面はタテハケ後両線に沿って2条の赤色塗彩を施す。上屋根の格子状棟飾りと考えられる。	天地不明。
1244	家 (上屋根)	残 破片 高 <10.2>	①後円部西 側②2トレ 2E-14G 下段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	上屋根の切妻部分で、合掌部間近の破片である。妻側の端部は、外側に向けて折り曲げられて幅4.0cm程の破風の面となっている。流れ部分は残存部の上位に幅4.5cmの粘土帯を貼り付けている。この粘土帯と破風の面に赤色塗彩による鋸歯文が構成されている。	
1245	家 (上屋根)	残 破片 高 <6.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②BT-VI	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ やや軟質	屋根の棟部分の破片である。ヨコ方向に幅40mmの粘土帯を貼っている。	
1246	家 (棟飾り)	残 破片 高 <6.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST	①B②にふい褐 7.5YR5/4・橙 7.5YR6/6③普 通・普通	入母屋造りの上屋根部の棟の破片である。頂部は丸みを有して折り返されている。ヨコ方向に幅4.7cmの棟飾りが付されている。	PL82

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1247	家 (格子状棟飾り付き)	残破片 高 <11.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 7/6③普通・普通	入母屋造りの上屋根の部分である。棟部分の側面に横行する格子状棟飾りとこれに直行する飾りが貼り付く。両板の交点には突起が付く。タテ方向の棟飾りにはへら描きにある山形文が配され内区に赤色塗彩が充填される。ヨコ方向の飾りにもナナメ方向に赤色塗彩が施されている。	PL80
1248	家 (破風?)	残破片 高 <14.4>	①出土地不詳 ②後円	①B②にぶい橙 7.5YR6/4③普通・普通	板状の面を合わせ角をなしている。接合が鋭角をなすので家形の屋根の破風の部分とも考えられるが、破風の内面にあたる器面にハケメを施す点がやや納得できない点である。	
1249	家 (破風～流れ)	残破片 高 <22.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部、石室上部S	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	上屋根の破片である。破風は流れ本体から外側にほぼ直角に折り返される。流れの外側はヨコ方向のハケメ後へら描きにより重弧文が配されていると思われる。内面もヨコハケ後、破風寄りをナデている。破風部分はタテ方向のハケメを施した後、赤色塗彩による斜格子文を配している。	PL82
1250	家 (破風)	残破片 高 <12.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C-II	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	上屋根の破風部分の破片である。流れに幅3.9cmの粘土板をほぼ直立させて接合している。折り返った妻側の面には2本1単位のへら描き沈線による鋸歯文を配し、全面に赤色塗彩を施している。	天地不明。 PL80
1251	家 (破風～流れ)	残破片 高 <13.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	上屋根の下位流れ部分になる。破風は接合部分で剥落している。外面は器面調整後へら描きによる重門文を配している。内面には妻側の壁面をとりつけた痕跡がみられる。	PL82

#### 家形埴輪(15) (第189図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1252	家 (破風～棟)	残破片 高 <11.3>	①後円部西側 ②D	①B②明赤褐 5YR5/8③普通・普通	上屋根の棟頂部は若干丸みをおびていたと考えられ、2枚流れの上にコの字状の粘土をわたすようにして接合していたと思われる。破風は妻側の端を折り曲げるように板状粘土を接続している。妻側の面に2本1単位の斜行するへら描き沈線を配し、内部に赤色塗彩を施す。端面にも赤色塗彩が施されているか。	外面は器面の剝離が著しい。 PL82
1253	家 (破風に付属する横木)	残破片 高 <9.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C-I	①B②橙7.5YR 6/6・にぶい黄橙 10YR7/4③普通・普通	上屋根の破風の破片である。流れから屈曲して外側に折れた破風は幅3.5cm程で、妻側にタテ6.4cm、厚さ13mmの突起が付される。この突起の周辺および、破風の端部に赤色塗彩が施される。	PL80
1254	家 (破風～流れ)	残破片 高 <11.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・やや軟質	上屋根の上位破片である。本体部分に幅4.0cm程の粘土帯を十字に貼り格子状板飾りを表現している。破風は折り返し部分が欠損するがへら描きによる鋸歯文が配されていたと考えられる。	器面磨滅著しい。
1255	家 (流れ)	残破片 高 <8.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・やや軟質	入母屋造りの上屋根の流れ部分の破片である。外面はヨコ方向のハケメ後、へら描きによる弧状の沈線を施し、2条を確認する。	
1256	家 (上屋根)	残破片 高 <14.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2F-20G、 後円部上段	①B②橙7.5YR 6/6③良好・普通	上屋根の妻部分の破片である。端部を外側に向けて折り曲げている。ここには棟木を表現したと思われる突起の剝落痕がタテ6.8cm、ヨコ3.2cmの範囲にみられる。端部の両面及び屋根外面には部分的に赤色塗彩が施されている。	
1257	家 (破風に付属する横木)	残破片 高 <3.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	板状粘土、一面が割れている他は各面とも器面をナデている。入母屋造りの上屋根部分の破風に付属すると考えられ、横木から突出した破風を表現すると思われる。	PL80
1258	家 (破風に付属する横木)	残破片 長 <3.1> 高 <5.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	入母屋の上屋根の一部と考えられる板状の粘土片、小口的一端に本体からの剝離痕がみられる。破風の妻部分から突出する横木を表現したものか。器面は丁寧にナデている。	PL80
1259	家 (破風に付属する横木)	残破片 長 <3.6> 高 <6.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	1258と同様。	PL80

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1260	家 (破風に付属する横木)	残破片 長 < 2.8> 高 < 5.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	① B ②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	1258と同様。	PL80
1261	家 (破風に付属する横木)	残破片 幅 < 5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	① B ②橙5 YR 6/8③普通・普通	短い板状の付属品。小口の一端に剝離痕がみられる。妻の端部折り返し部分に貼付されたものか。一部にハケメを残しナデている。	天地不明。
1262	家 (破風に付属する横木)	残破片 高 < 6.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	① B ②橙5 YR 6/6③普通・普通	板状の小破片である。家の妻部分のかえりに付属し、構築材の端部を表現していたか。ナデを施されている。	
1263	家 (壁体)	残破片 高 < 7.9>	①後円部西側②C-2 -III-2	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。一面はハケメ、もう一面はナデを施す。	天地不明。
1264	家 (壁体)	残破片 高 < 12.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円部N	① B ②明褐7.5 YR5/6・橙7.5 YR6/6③普通・やや軟質	平滑な板状の破片、家の壁体部を構成していたと考えられる。	器面は粗れている。

#### 家形埴輪(16) (第190図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1265	家 (壁体)	残破片 高 < 19.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N-I	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	平滑な板状を呈した破片である。内外面ともタテあるいはヨコ方向のハケメを施す。残存部上端には四角形を呈すると思われる透孔が認められ窓あるいは入口部を表現したものと考えられる。	PL82
1266	家 (壁体)	残破片 高 < 16.4>	①後円部西側・後円部墳 頂部～上段②2トレ 2E-13G、 後円部上段 出土の破片	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状、表面はナナメ方向のハケメの上に赤色塗彩による渦巻文(蕨手文か)を描いている。	
1267	家 (壁体)	残破片 高 < 13.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C-II	①B②橙7.5YR 6/6・③赤褐7.5 YR6/4③普通・普通	壁体の隅部分を構成する破片である。外面タテハケ、内面はナデとハケメを交える。外面にはX字状に交わる赤色塗彩の文様が施される。	PL82
1268	家?(壁体)	残破片 高 < 11.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②B T VI	① B ②明赤褐5 YR5/8(表)、 ③赤褐5YR4/4 (裏)③普通・普通	平面四角形の基台部状を呈することから家の壁体、基部の可能性を考えた。残存部上端は外面が肥厚する。接合のための補強粘土あるいは突帯の痕跡と考えられる。側面には円形と思われる透孔が穿たれている。外面はタテ、内面はナナメ方向のハケメを施す。	PL82
1269	家 (屋根)	残 流れの 先端隅部分 高 < 7.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S T	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	寄棟造りの屋根部先端軒部分の破片である。	
1270	家	残破片 高 < 3.8>	①後円部南側(後方)② 10トレ7区 内堀中	① A ②明赤褐 2.5 YR5/8③普通・普通	突帯を呈していたか。裏面は剝離痕である。表面から側面にかけて2条1単位とする斜格子目状文が配置されていたと考えられる。	
1271	家 (付属品)	残破片 高 < 9.9>	①後円部南側(後方)② 10トレ5区 下段	① B ②明赤褐 2.5 YR5/6③普通・普通	表面は丁寧に磨かれ、線刻による鋸歯状文と直線文が描かれている。	
1272	家	残破片 高 < 10.5>	①後円部東側②2トレ 2E-25G 下段	①A②赤褐 7.5YR6/4③普通・普通	板状を呈すが一端はやや彎曲する可能性がある。外面はタテ方向のハケメ、内面はタテ方向のナデを施している。	一部黒色を呈する。

家形埴輪(17) (第191図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1273	家 (付属品?)	残 破片 高 < 13.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②17トレ1 区	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	板状を呈し、本体から翼状に張り出していたか。表面はハケメ後これをナデ消し、2条1単位の線刻で鋸歯文を構成していると考えられる。	天地不明。 PL82
1274	家 (壁体)	残 破片 高 < 7.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	板状粘土の破片である。外面にタテ・ヨコ方向のハケメを内面に粗雑なナデを施す。円形の透孔を穿っている。	
1275	家 (壁体)	残 破片 高 < 13.0>	①後円部西 側②6トレ	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	板状の破片、表裏両面ともハケメ後部分的にナデを施している。	
1276	家 (壁体)	残 破片 高 < 8.5>	①くびれ部 西側②18ト レ4区	①B②橙2.5YR 6/6③普通・やや 軟質	矩形の箱状を呈するものの破片である。各面の接合は鈍角をなす。外面はタテハケを施し、残存上辺にヨコナデがみられる。	PL82
1277	家 (壁体)	残 破片 高 < 9.8>	①後円部南 側(後方)② 10トレ3区 上～中段	①B②橙5YR 7/8③普通・普通	板状の破片である。壁面を構成していたか。	
1278	家 (壁体)	残 破片 高 < 11.6>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2G -20G中段	①B②橙7.5YR 6/8③普通・普通	壁面を構成していたか、板状を呈する。外面はタテ方向のハケメ、内面はハケメ後、ヘラナデを施している。	
1279	家 (壁体)	残 破片 高 < 12.5>	①くびれ部 東側②17ト レ2区上段	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。一定方向にハケメを施した後、赤色塗彩により菱形あるいは矩形の文様を配していると考えられる。裏面はハケメ後、補強のためか粘土をナデ付けた部分がある。	
1280	家?	残 破片 高 < 9.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G 後 円部上段	①B②橙7.5YR 6/8③普通・普通	壁面の一部を構成していたか。外面はタテ方向のハケメ後部分的にナメ方向にナデている。内面にもハケメを施す。	
1281	家 (壁体)	残 破片 高 < 12.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円CT	①B②橙7.5YR 6/8・にぶい黄橙 10YR7/4③普通 ・やや軟質	板状を呈し、一部に端部が残存する。透孔の一部か。内外面ともタテ方向のハケメを施す。	
1282	家 (壁体)	残 破片 高 < 8.9>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2G -20G中段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	鈍角に接合された隅部分である。外面はタテ方向のハケメ、内面はハケメ後ナデている。	
1283	家	残 破片 長 < 9.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円部N -1	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。隅の部分を残している。表面は割れ口近くが肥厚、器面が剥離している。組合せ式の下屋根上位につき、上屋根をささえる受部の可能性がある。	

家形埴輪(18) (第192図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1284	家 (壁体)	残 破片 高 < 16.4>	①出土地不 詳②C-	①B②橙7.5YR 6/6③普通・やや 軟質	平滑な板状の破片である。外面はタテ方向にハケメを施している。	内面は粗れている。
1285	家 (破風)	残 破片 高 < 7.6>	①出土地不 明	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	入母屋造りの上屋根の破風である。流れから直角に折り返る。小口面には2条1単位のヘラ描き沈線による鋸歯文が配され、内面に赤色塗彩が施されている。折り返した端部にも赤色が塗彩されている。	天地不明。
1286	家?	残 破片 高 < 14.3>	①出土地不 明	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	円筒部から翼状に板状粘土が突出している破片である。正面には2本を1単位と考えられるヘラ描き沈線による文様が配置されているが全体の構成は不明である。	PL82



No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1287	家 (流れ)	残 破片 高 < 9.8>	①出土地不明	① B ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	屋根の流れの破片である。一部外側に折り返る破風部分も残存する。流れ外面はタテハケ後円弧状に赤色塗彩を施していると考えられる。破風部分は2本1単位のヘラ描きによる鋸歯文が配される。沈線内は赤色塗彩が施されている。	天地不明。 PL82
1288	家 (壁体)	残 破片 高 < 9.7>	①出土地不明	① B ② 橙 7.5 YR 6/8 ③ 普通・やや軟質	壁体の隅部分の破片である。壁面の接合は鈍角である。外面はタテ方向のハケメを施し、残存部少量の面に赤色塗彩を施している。	

#### 盾形埴輪(1)・(2) (第193・194図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1289	盾	残 盾面1/2 高 < 98.3>	①前方部西側②WC-VI、WCT-VI	① B ② 明赤褐 5 YR5/6 (正面)、 にぶい赤褐 5 YR4/4 (後) ③ 普通・普通	本文中参照。	PL85

#### 盾形埴輪(3) (第195図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1290	盾	残 盾面右側1/2 高 < 56.8>	①くびれ部西側②C-5	① A ② 橙 5 YR6/8 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL84
1291	盾 (基台部)	残 下半部底 (24.2) 高 < 29.1>	①くびれ部西側②C-5	① B ② 明赤褐 5 YR5/6 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL84

#### 盾形埴輪(4)・(5) (第196・197図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1292	盾	残 盾面右側の1/3 高 < 56.6>	①前方部西側②WC-III、WCT-III	① B ② 赤褐 2.5 YR4/6 ③ 普通・普通	盾面上辺は丸く山形となると思われ、端部には小さな突起を作る。側部はゆるく括れる。上辺部はヘラ描きの沈線により山形に内外区を2分、周縁にも沈線をめぐられている。外区は2本1単位の沈線で細分されている。山形部分と以下の盾面は横位の沈線で分画され、ヨコ線には刺突文を重ねている。側部は2本1単位の沈線鋸歯文を配し、単位内に赤色塗彩を施す。内外面とも横位・斜位のハケメを配する。	PL84
1293	盾	残 盾面1/2 高 < 75.7>	①前方部西側②WC-III、WCT-III	① B ② 赤褐 2.5 YR4/6 ③ 普通・良好	本文中参照。	PL84
1294	盾	残 基台部底 (24.9) 高 < 37.9>	①くびれ部西側②C-4・5、C-5 VII	① B ② 橙 2.5 YR6/6 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL84

盾形埴輪(6) (第198図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1295	盾	残 円筒部	①後円部西側②B-1 III-1 No48, B-1 No51 B-1、12-2	①B②赤褐2.5YR4/6③普通・普通	本文中参照。	PL83

盾形埴輪(7) (第199図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1296	盾	残 破片 高 <16.1>	①前方部西側②4トレX-16G下段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	本体とそれから左側に張り出す板状部分の破片である。下端部である。前面はナナメ方向のハケメをナデ消し、線刻による鋸歯文を構成している。裏面はタテ方向にナデている。	PL86
1297	盾	残 破片 高 <15.3>	①前方部西側②WC T、VI	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	盾面円筒部の中央右下寄りの破片である。外面タテハケ後、ヘラ描きの2重沈線により弧状の文様が配される。沈線内には赤色塗彩が施される。内面はタテ方向にナデる。	
1298	盾	残 破片 高 <7.2>	①前方部西側②WC T-V	①B②明褐7.5YR5/6③普通・普通	外面タテハケ後断面台1の突帯を貼る。上半にヘラ描きが施される。	
1299	盾	残 破片 高 <8.4>	①前方部西側②4トレX-14G周堀内	①B②橙5YR6/8③普通・普通	円筒状の本体とそれから張り出す板状部分の基部の破片である。前面は中央にタテ方向、側面寄りにヨコ方向のハケメを施している。弧状の線刻の一部がみられ、それに沿って赤色塗彩が施されている。また、基部にもタテ方向の赤色塗彩がみられる。	
1300	盾	残 破片 高 <7.8>	①前方部西側②4トレX-17G上段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	板状の粘土板で本体から剥落している。表面はタテハケ後側縁部をナデている。ナナメ方向の線刻は鋸歯文を構成するか。裏面の残存上位には底幅1.8cmの粘土帯が貼り付く。	
1301	盾	残 破片 高 <8.4>	①前方部西側②WC T VI、WC VI	①B②橙7.5YR6/6③良好・普通	外面タテハケ後、ヘラ描き沈線により三角状の文様を配していたと思われる。	
1302	盾	残 破片 高 <8.1>	①前方部西側②WC T VI	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	盾面の円筒部の破片である。外面タテハケ後ヘラ描きの2重沈線を斜行させ、内部に赤色塗彩を施す。	
1303	盾	残 破片 高 <11.2>	①前方部西北隅②竪2堀	①B②橙5YR6/8③普通・普通	板状の破片である。表裏両面ともタテ方向にハケメを施す。表面は縁辺部に沿ってヘラ描き沈線を刻む。また、これに接する斜行線もみられる。	PL86
1304	盾	残 破片 高 <10.1>	①前方部西北隅②竪2堀	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	円筒部から翼状に突出した部分の破片である。表面はナナメヨコ方向のハケメを施したのち、2本1単位の鋸歯文を配している。沈線に沿って赤色塗彩が重ねられている。	裏面は磨減・剝離。 PL86
1305	盾	残 破片 高 <9.2>	①前方部西北隅②西北端	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	板状の破片である。側縁の表面側は面取りがなされている。表面はヨコハケ、裏面はタテハケに一部ヨコハケを施している。	
1306	盾?	残 破片 高 <5.6>	①前方部西北隅②竪2堀	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	外面ハケ後2本1単位の弧線を施す。内面はハケメ後ナデを施す。	
1307	盾?	残 破片 高 <8.0>	①前方部西北隅②竪2一括	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	外面はタテハケ後弧状のヘラ描き沈線を組合わせた文様を配する。	
1308	盾?	残 破片 高 <12.0>	①前方部西北隅②竪2堀	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	直行する縁辺を有する板状の破片であるが、やや器肉が厚い。表面は縁辺に沿ってヘラ描き沈線が引かれている。	PL86
1309	盾	残 破片 高 <10.5>	①前方部西北隅②15トレR-17G下段	①A②橙2.5YR6/8③普通・普通	本体から右側へ翼状に張り出す板状部分の破片である。正面はヨコ方向のハケメ後大形の鋸歯文を配置したか。	天地不明。 PL86

盾形埴輪(8) (第200区)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1310	盾?	残 破片 高 <12.0>	①前方部中央(前面)②前方NTVII	①B②明赤褐5YR5/8③普通・やや軟質	円筒形を呈していたと考えられる。縦横に剝離痕が認められる。外面にはタテハケを施す。	
1311	盾	残 破片 高 <6.7>	①前方部中央(前面)②1トレP-20G	①A②にふい赤褐5YR5/4③普通・普通	右側鱗状の部分の下端である。基部につくり付けた粘土板部分から剝落している。表面に線刻が施されている。	
1312	盾	残 破片 高 <9.7>	①前方部東側②3トレV-26G周堀内	①A②にふい橙5YR6/4③普通・普通	表面に線刻による鋸歯文がみられる。表裏面ともヨコ方向にハケメを施し、縁部の各面をナデている。	
1313	盾	残 破片 高 <11.4>	①前方部東北隅②拡3	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・やや軟質	翼状部分の右下隅である。表面はタテハケ後ヘラ描き沈線により区画をなし、下端から交互に赤色塗彩を充填していると考えられる。	PL86
1314	盾?	残 破片 高 <8.9>	①前方部東北隅②拡3表	①B②橙5YR6/6③普通・やや軟質	円筒部分の破片である。裏面の外面はタテハケが施されている。	
1315	盾	残 破片 高 <7.9>	①前方部東北隅②拡3表	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	円筒部から翼状に突出する部分への移行部の破片である。表面はヨコハケ後ヘラ描き沈線による鋸歯文が区画されている。区画内には赤色塗彩が施された部分もあるか。	

盾形埴輪(9) (第201区)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1316	盾	残 破片 高 <21.3>	①くびれ部西側②拡1、1号埴輪16トレ-4区	①B②明褐7.5YR5/8③普通・やや軟質	盾面の左上部の破片である。上辺部は山形を呈すると考えられ、側辺部との移行部分には小さな突起がつく。盾面の上面にはヘラ描きによる文様が描かれる。上辺部と側辺部はヨコ線で区分される。上辺部は周縁部の形状に沿って弧線が引かれ、さらに内部を2本1単位の弧線で内外に区画、これを沈線で細分している。側辺部にみられる2本1単位の斜行線は鋸歯文を構成していたと考えられる。	PL86
1317	盾?	残 破片 高 <23.9>	①くびれ部西側②拡1中段排土	①B②明赤褐5YR5/6③良好・普通	本体から鏝状に突出した部分の破片である。表裏面ともハケメを充填した後ヘラ描き沈線による鋸歯文が2段にわたり配されている。また付属品の剝離痕として一部粘土塊が残存している。	天地不明。 PL86
1318	盾?	残 破片 高 <16.1>	①くびれ部西側②拡1、3号埴輪	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	盾面の一部、翼状を呈する部分の破片である。表面はヨコハケ後、側縁部をヨコナデ、その上にヘラ描き沈線により一辺の規模が大形の鋸歯文を配していたと考えられる。	器面磨滅、剝離する。 PL86
1319	盾?	残 破片 高 <11.2>	①くびれ部西側②拡1、3号埴輪	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	盾面の一部で、翼状を呈する部分の破片である。表面はヨコハケ後側縁部をナデた後2本1単位のヘラ描き沈線による鋸歯文を割りつけていたと考えられる。	PL86
1320	盾	残 破片 高 <10.2>	①くびれ部西側②拡1中段	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	器面の厚い板状破片である。側縁から離れるにつれて器厚を増す。表面はナデ、裏面はナナメハケ後側縁部寄りをナデている。	
1321	盾	残 破片 高 <9.5>	①くびれ部西側②拡1	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	盾面の左下隅の破片である。板状を呈する器面はナナメヨコ方向のハケメを施し、周縁部にナデを重ねる。表面にはヘラ描きによる沈線が斜行する。	PL86
1322	盾	残 破片 高 <9.9>	①くびれ部西側②11トレZ-18G上段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	本体から翼状に張り出す部分の破片か。ナナメあるいはヨコ方向のハケメ後タテ方向にナデている。	天地不明。

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1323	盾?	残 破片 高 < 7.2>	①くびれ部 西側②11ト レZ-15G 内堀内~下 段	① A ② 橙 2.5 YR6/6③普通・ 普通	残存する外縁の一部は弧状をなしている。正面の一部に線刻がみられる。周縁部にはヨコナデを施す。	天地不明。
1324	盾	残 破片 高 < 11.6>	①くびれ部 西側②拡 1 排土	① B ② 橙 5 YR6/6③普通・ 普通	盾面の右下隅部分である。翼状の粘土板で表裏面ともヨコハケ後周縁部にナデ調整を加えている。表面にはヘラ描き沈線により鋸歯文が配されている。一部に赤色塗彩を残すか。	PL86
1325	盾?	残 破片 高 < 7.6>	①くびれ部 西側②拡 1	①B②にふい赤 褐5YR4/4③普 通・やや軟質	盾面の上辺部、山形を呈する部分の破片である。表面にはナナメ方向のハケメ後、ヘラ描き沈線による文様を配している。その構成は、2本1単位の弧線により内外の2区に区分し、外区はさらに周縁部に沿った弧状線とそこからT字状に延びる2本1単位の斜線により細分されている。	

### 盾形埴輪(10) (第202図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1326	盾	残 破片 高 < 8.9>	①くびれ部 東側・鞍部 墳頂部②17 トレ5区、 11トレZ- 20G	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	円筒状の本体部分の破片である。板状に張り出す粘土板の付け根と、この内側に併行して垂下する線刻で区画し、その内側を斜線にて区切り鋸歯文を構成している。	PL86
1327	盾	残 破片 高 < 13.1>	①くびれ部 西側②鞍部 WV	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	側縁部の破片である。表・裏面ともヨコハケ後、周縁部にナデを重ねる。表面にはヘラ描きのヨコ線を配し、これに沿って赤色塗彩を施す。赤色塗彩は側縁の辺部にもみられる。	天地不明。 PL86
1328	盾?	残 基部上 位破片 高 < 15.9>	①鞍部墳頂 部②鞍部W CT-V	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	器財の本体下端から基部上位の破片と考えられる。2条の突帯をめぐらしている。基部には円形の透孔が認められる。外面には縦位に3条、横位に1条赤色塗彩が施されている。	PL87
1329	盾	残 破片 高 < 7.3>	①くびれ部 西側②WC 4 III B	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状を呈し、円筒部から左右に張り出す盾面の一部と考えられる。内外面ともナナメヨコ方向のハケメを施し、側辺部をヨコナデする。	天地不明。
1330	盾	残 破片 高 < 9.0>	①くびれ部 西側②WC -IV	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	盾面のうち円筒部から左右に張り出す部分の一部と考えられる。外面の円筒部との境にヘラ描きによる沈線でタテ方向の区画をし、その外側に鋸歯文を配したと思われる。	天地不明。
1331	盾	残 破片 高 < 11.1>	①くびれ部 西側②WC IV	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	盾面本体部分の破片である。弧状に張り出した外面に2条の線刻が施されている。器面の調整は外面タテハケ、内面はタテ方向のナデが施される。	PL87
1332	盾	残 破片 高 < 8.6>	①くびれ部 東側②5ト レY-23G 下段	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	右側の鱗状の板である。表面はハケメの方向を変え、鋸歯状の意識した調整が施されている。	
1333	盾?	残 破片 高 < 4.9>	①くびれ部 西側②C- 5	①A②褐7.5YR 4/6③普通・普通	小破片、外面タテハケ後、ヘラ描きによる斜線が施される。	
1334	盾	残 破片 高 < 10.6>	①くびれ部 東側②拡 4 中段	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	円筒部から翼状に突出する部分である。表面にはヘラ描き沈線がみられる。裏面は周縁部をナデ、他はヨコハケを充填させている。	表面剝離。 PL86
1335	盾	残 破片 高 < 7.7>	①くびれ部 東側②11ト レZ-24G 下段~内堀 内	①A②にふい橙 7.5YR6/4③普 通・普通	翼状に張り出す部分の小破片である。側縁部の一端は緩やかな弧を描きはじめている。表・裏面ともナナメ方向のハケメ後、周縁部をヨコナデする。	天地不明。
1336	盾	残 破片 高 < 18.0>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪	①B②赤褐2.5 YR6/8③普通・ 普通	盾面右下の破片である。円筒部から幅10.5cmの板状部分が翼状に突出している。下端部縁辺は表面に粘土を貼り肥厚させている。表裏面ともヨコハケを充填、周縁部にナデを施している。外面にはヘラ描きによる鋸歯文を配している。	PL87

盾形埴輪(11) (第203図)

№	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1337	盾?	残破片 高<8.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙2.5YR 6/6③普通・普通	本体から鏝状に張り出す破片か。上面には2本の平行する線刻で鋸歯状の文様が構成されたか。下面にはハケメを残す。	
1338	盾	残破片 高<17.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 E-20G	①A②にぶい橙 2.5YR6/4③良 好・普通	左側、鱗の付根部分である。	PL87
1339	盾?	残破片 高<8.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	板状を呈しほとんど彎曲しない。ハケメ後弧状の線刻が2条みられ、渦巻あるいは蕨手状の文様が配されていたと考えられる。	
1340	盾?	残破片 高<10.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	外面は平滑に仕上げられ、周縁部に沿って線刻による区画がなされ、内外面とも鋸歯文が配されている。裏面には剝離痕がみられる。	天地不明。
1341	盾	残破片 高<6.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N- II	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	盾面の右下隅の破片と考えられる。外面はハケメ後ナメ方向のヘラ描き沈線が加えられており鋸歯文が配されていたと思われる。	
1342	盾	残破片 高<10.0>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N- II	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	板状の破片である。器面にハケメを施した後、側縁に沿ってヘラ描きの沈線を加えている。その内側も沈線による文様が配されられると思われる。	
1343	盾	残破片 高<9.0>	①くびれ部 東側②17ト レ5区中～ 下段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	胴部の破片である。タテ方向のハケメを充填させた上に斜行の線刻がみられ鋸歯文が配されていたと考えられる。	PL87
1344	盾?	残破片 高<10.5>	①後円部東 側②2トレ 2E-25G 下段	①A②明赤褐 5YR5/8③普通・ 普通	鱗状部分の破片である。表面はヨコ方向のハケメを施す。裏面はハケメ後ナデている。	天地不明。
1345	盾?	残破片 高<7.1>	①外堀②7 トレG-24 G井戸下段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	平滑で板状の破片である。ハケメを施した後、線刻による蕨手文が構成され、外縁の弧には刺突が重複している。	
1346	盾	残破片 高<8.1>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区 下段	①A②にぶい赤 褐5YR5/4③普 通・普通	盾面の隅部の破片である。器面は前後両面にヨコ方向のハケメを施し、縁辺をヨコナデしている。前面には線刻による鋸歯文が配置されている。内行する三角形の部分に赤色塗彩が施されている。	天地不明。
1347	盾	残破片 高<8.4>	①くびれ部 東側②17ト レ4区上～ 中段	①A②明赤褐 2.5YR5/8③普 通・普通	盾面の右上辺部隅の破片である。上辺部は中央が山形にふくらむ形状が想定でき、側辺への移行部分に小さな突起がつく。外(表)面には上辺に沿った線刻と、この下位に横走する二本の線刻がみられる。器面はハケメを充填し、周縁部にヨコナデを施す。	PL87
1348	盾	残破片 高<11.5>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2J -20G内堀	①A②明赤褐 2.5YR5/6③良 好・普通	本体から左側に張り出す板状部分の破片である。内外面ともタテ方向のハケメ後、外面には線刻による鋸歯文を構成している。また線刻に沿って赤色塗彩を施している。	PL87
1349	盾	残破片 高<7.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST	①B②橙7.5YR 6/6③普通・やや 軟質	盾面の一部と考えられる。刺突文を伴う横位のヘラ描き沈線が3条認められる。2条1単位で文様構成がなされていたと思われる。沈線区画内に赤色塗彩が施されている。	
1350	盾	残破片 高<15.5>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2K -20G内堀	①A②明赤褐 2.5YR5/6③良 好・普通	円筒状の本体の一部とこれから左側に張り出す板状部分の接合部周辺の破片である。表面は本体部分にタテ方向、張り出し部分にヨコ方向のハケメを施す。張り出し部には線刻による鋸歯文が構成され、これに沿って赤色塗彩が施されている。	PL87
1351	盾?	残破片 高<6.8>	①後円部西 側②19トレ 6区下段	①A②にぶい橙 5YR6/4③普 通・普通	盾の本体部分の破片か。タテ方向のハケメに重ねて弧状の線刻がみられる。	
1352	盾	残破片 高<11.4>	①後円部西 側②19トレ 6区下段	①A②にぶい橙 5YR7/4③普 通・普通	本体から翼状に張り出す板状の破片である。タテ方向にハケメを施した後、前面はナデ、弧線を線刻する。2本みられる。	PL87

盾形埴輪(12) (第204図)

№	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1353	盾	残破片 高 < 4.3>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	本体から翼状に張り出す板状破片である。側縁部に沿って垂下する線刻がみられその内側に鋸歯文が配されていたと考えられる。	天地不明。
1354	盾	残破片 高 < 6.4>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	①A②にぶい橙 2.5YR6/4③普通・普通	板状の破片である。器面にはハケメを施した後側縁に沿った線刻とこれに接合するナナメ方向の線刻4条がみられる。一部に赤色塗彩がみられる。	天地不明。
1355	盾?	残破片 高 < 5.3>	①後円部南 側(後方)② 10トレ3区 上~中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	小破片である。ハケメの上に線刻による弧、刺突を重ねている。	
1356	盾	残破片 高 < 4.6>	①くびれ部 西側②18ト レ1区	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普通・普通	板状の小破片である。表面はハケメ後、タテ・ナナメ方向に線刻を施している。裏面はナデている。	
1357	盾	残破片 高 < 7.5>	①前方部西 側②WC III	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	円筒部分の破片である。内区の下を二分する横位2本のヘラ描き沈線が認められる。外面タテハケ、内面タテ方向のナデを施す。	
1358	盾	残破片 高 < 8.1>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	盾の円筒部が翼状に張り出す板状部分の破片である。内外面ともハケメを施し、側辺にナデを重ねる。外面には2条1単位のヘラ描きで鋸歯文を構成し、ヘラ描きの内側に赤色塗彩を施す。	天地不明。
1359	盾	残 盾面1/ 6 高 < 34.4>	①後円部西 側②WD	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	盾面の右下部分から基台部上位の残存破片である。盾面は下端隅から上位に向けて内彎する2条の弧線により内・外区に二分されていると思われる。外区は側縁部に沿って2条の平行線が垂下し、中央に横行する沈線が延びている。基台部は盾面下端の突帯で区別され側部に円形の透孔が配されている。調整は外面タテハケ、内面ナナメハケである。下端部にも縁辺に沿って1条の沈線が施される。いずれの沈線も刺突が重ねられている。	PL87
1360	盾	残 側部下 端の破片 高 < 10.0>	①前方部西 側②WC III	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	左側部下端である。2本1単位のヘラ描き沈線は鋸歯文を構成すると思われる。	
1361	盾?	残破片 高 < 10.7>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	板状の粘土の破片である。側辺は弧状を呈す。側辺に沿った弧状のヘラ描きをナナメ方向に区画している。いずれも刺突を重ねている。側辺に赤色塗彩を施すか。	
1362	盾	残破片 高 < 7.2>	①後円部西 側②C-1	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	円筒部から翼状に張り出す粘土板の右側(向かって左側)の肩部の破片である。表裏面ともハケメを施す。表面には側縁に沿ってヘラ描きの沈線が垂下する。	PL87
1363	盾	残破片 高 < 6.1>	①後円部西 側②6トレ 4区中段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普通・普通	本体から左側に張り出す翼状の部分である。上端隅は丸みをおびている。表裏面ともハケメを施す。表面には線刻が加えられている。	PL87
1364	盾	残破片 高 < 5.9>	①後円部西 側②BT II	①B②にぶい赤 褐5YR4/4③普通・普通	盾面上辺に近い部分の破片である。辺部に沿ってヘラ描き沈線がめぐり、その内側も小区分されていると考えられる。一部に赤色塗彩がみられる。	天地不明。
1365	盾?	残破片 高 < 11.8>	①後円部西 側②6トレ 3区上~中 段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	器内は1.4cm程と比較的薄い。表面には線刻による鋸歯文が施される。裏面はハケメ後ナデている。	
1366	盾?	残破片 高 < 11.0>	①後円部南 側(後方)② 10トレ3区 上~中段	①B②橙7.5YR 7/6③普通・普通	内外面ともハケメを複数回重ねている。また、ハケメと直交する方向に幅6・7mmのナデを施す。	

盾形埴輪(13) (第205図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1367	盾?	残 破片 高 < 8.6>	①後円部西側②2トレ2 E-13G 周堀内	①A②におい赤褐2.5YR4/4③普通・普通	彎曲した粘土板に裏面から入の字状に別の粘土板を合わせ成形している。表面はハケメ後ナデで器面調整をおこなっている。弧状の線刻が二重に配されているか。表面に赤色塗彩。	
1368	盾?	残 破片 高 < 7.6>	①後円部南側(後方)②10トレ3区上~中段	①A②赤褐2.5YR4/6③普通・普通	板状の破片である。ハケメ後縁辺をナデている。表面に線刻がみられる。	天地不明。
1369	盾	残 破片 高 < 5.3>	①後円部墳頂部~上段②BT-VI	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	小破片である。外面にヘラ描き沈線と赤色塗彩が施される。	天地不明。
1370	盾	残 破片 高 < 7.6>	①くびれ部西側②16トレ4区上~中段	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	円筒状を呈する本体部分の破片である。側面から翼状に張り出す基部の欠損部分がみられる。表面はタテ方向のハケメ、基部には強いナデが施されている。	
1371	盾?	残 破片 高 < 34.3>	①後円部南側(後方)・周堀②1トレ2 I・J・N-20G 下段	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	盾面本体の円筒部前面の破片である。側面部から翼状に張り出す部分の基部が一部残存し、ヘラ描きの沈線による鋸歯文が配されていたことが認められる。外面はタテハケ、内面はナデ調整がなされる。	PL87

靱形埴輪 (第206図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1372	靱	残 矢筒上半部 高 < 23.4>	①鞍部墳頂部②5トレY-20G	①A②橙5YR7/8③普通・普通	本文中参照。	PL88
1373	靱	残 破片 高 < 6.1>	①前方形墳頂部②4トレX-20G	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	矢筒部より下位側面に翼状に張り出していたと考えられる。本体から張り出す粘土板を、更にもう一枚の粘土板で覆い成形している。器面は前後両面とも丁寧にナデられている。残存上位と下端部に列状の刺突文が施されている。	PL88
1374	靱	残 破片 高 < 15.5>	①前方形西側②3トレV-16G 下段	①A②橙7.5YR5/8③普通・やや軟質	背板の下端部破片である。器面には特別の文様もなく、ハケメ後ナデている。	PL88
1375	靱	残 破片 高 < 17.5>	①鞍部墳頂部②5トレZ-23G、11トレ	①A②におい赤褐2.5YR5/4③普通・普通	矢筒本体の破片である。靱を背負うための紐が幅1.5cm程の粘土帯により表現され、結び目は蝶々結びにしている。粘土帯には線刻が施されている。	PL88
1376	靱 (左背板)	残 破片 高 < 7.0>	①鞍部墳頂部②5トレY-20G 墳頂面	①A②橙5YR6/6③普通・普通	左側の背板の下端部で円筒部分との接合痕がみられる。表面の下端は幅3.0cm程の粘土帯を貼付、縁取りをしている。内区には鋸歯文を構成したと考えられる線刻がみられる。裏面にはヨコ方向のハケメが施される。	
1377	器財?	残 破片 高 < 6.3>	①前方形墳頂部②3トレ墳丘東	①A②橙5YR6/6③普通・普通	円形の透孔が施される。孔は周縁が縁取られ、切口も丁寧にナデられている。外面はナデ、内面はタテ方向のハケメ、ナデが施される。	

大刀形埴輪 (第207図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1378	大刀 (勾金、下端)	残 破片 高 < 8.0>	①くびれ部東側②17トレ4区上~中段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	厚さ1.0cm程の板状を呈し、残存部上端は円筒状の本体と接合していたと考えられる。下端は三角形を呈し、表面には横幅9.5cmの三輪玉を貼付している。この三輪玉の中央を中心に円形に赤色塗彩を施している。	PL88

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1379	大刀?	残破片 高 < 6.3>	①後円部墳 頂部~上段 ②後円C-II	①A②橙7.5YR 6/8③普通・やや 軟質	幅6.0cmの帯状を呈し、斜行する縁辺をもつ、両面ともタテハケを施す。一面には2本1単位のヘラ描き沈線が斜行する。	
1380	大刀 (勾金?)	残破片 幅 < 6.4>	①後円部墳 頂部~上段 ②後円上段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	厚さ1.2cm程の板状を呈し背面に補強のためと思われる粘土が貼り合わせてある。表面はハケメ後ナデを加えている。両側縁に沿って帯状に赤色塗彩が施されている。	
1381	大刀?	残破片 高 < 4.4>	①くびれ部 東側②5トレ Y-22G 上~中段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普通 ・普通	板状を呈する。表面はハケメを施し、縁部にナデを加えている。	
1382	大刀?	残破片 高 < 9.0>	①後円部墳 頂部~上段 ②後円C-N-I	①A②明褐7.5 YR6/6③普通・ 普通	小径の筒状を呈するが径は一律ではない。残存部下端ではもう1本粘土紐を貼り足して肥厚させている。	PL88
1383	大刀?	残破片 高 < 10.9>	①後円部西 側②C-1 WC-1	①A②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	幅6.3cmの板状粘土で一端は欠損する。表裏とも付属品の剥離痕がある。大刀の勾金か。	PL88
1384	大刀?	残破片 高 < 4.7>	①後円部墳 頂部~上段 ②1トレ2 F-20G	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状品の部分である。表面はハケメ、裏面はナデている。	
1385	大刀?	残破片 長 < 7.5>	①くびれ部 西側②C- 4	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	幅68mmの帯状の粘土板、両端は欠損している。外面には剥離やそれに沿うナデが認められる。大刀の勾玉の一部か。	PL88
1386	大刀	残破片 高 < 3.8>	①後円部東 側②22トレ 4区上段~ 中段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	厚さ1.1cmの帯状の粘土帯に丸い粘土塊が接着している。大刀の勾金の一部とそれに装着された三輪玉の端部である。	

### 帽子形埴輪(1) (第208図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1387	帽子	残基台部 欠損 高 < 25.3>	①前方部西 側②WC T VI	①B②橙2.5 YR6/6③普通・ 普通	本文中参照。	PL89
1388	帽子	残破片 高 < 8.1>	①鞍部墳頂 部②1トレ Z-20・2 A-20G鞍 部	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普通 ・普通	上位側面の破片である。外面はハケメ後丁寧なナデられ、線刻による二重の蕨手状文が表現されている。	PL88
1389	帽子	残破片 高 < 8.8>	①鞍部墳頂 部②1トレ 2A-20 G、鞍部	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普通 ・普通	上位側面の破片である。線刻により下位にめぐる横線とその上に構成された蕨手状文がみられる。タテ方向のハケメを残している。	PL88
1390	帽子?	残破片 高 < 1.8>	①後円部西 側②C-I	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	弧状の端部をもつ。外面は放射状のハケメ後周縁部をヨコナデする。ヘラ描きによる区画がなされている。帽子の破片か。	
1391	帽子	残破片 高 < 2.8>	①前方部西 側②前方W 5	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	縁辺が弧状を呈する破片であり、人物が被った帽子と考えられる。幅23mm、厚さ3mmの粘土帯が貼られている。	PL88
1392	帽子?	残破片 長 < 8.0>	①鞍部墳頂 部②1トレ 2A-20G 墳頂部	①A②橙2.5 YR6/8③普通・ 普通	帽子の鐙の破片か。円板状の破片である。端部は断面M字形を呈する。上面はハケメ後粗雑にナデた上に2条1単位の乱れた鋸歯文が配置されていると思われる。下面にはハケメを残す。	PL88



帽子形埴輪(2) (第209図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1393	帽子	残 鏝及び その付根部分 高 <11.5>	①くびれ部 西側②C- 4 III C	①B②明赤褐2.5 YR5/6③普通・ 普通	器財の帽子の一部か。鏝は外方に大きく外反する。付根には幅27mmの粘土帯を貼り、飾りを表現している。鏝の外側は放射状にハケメを施した上をへら描きによる2本1単位の鋸歯文で区画している。	PL89

器財埴輪(1) (第210図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1394	器財?	残 破片 高 < 3.4>	①くびれ部 東側②拡4 表採	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	外面には2本1単位のへら描き沈線が縦横に配され、ナナメ方向の沈線も一部みられる。器財の飾り、あるいは人物の付属品の可能性が考えられる。	
1395	器財	残 破片 高 < 5.6>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①A②にぶい橙 5YR6/4③普通・ 普通	タテ方向のハケメ後線刻による垂線と鋸歯文が施される。盾あるいは人物の着衣の可能性が考えられる。	
1396	器財?	残 破片 高 < 5.3>	①前西部 北隅②15ト レR-17G 下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	周縁部寄りに線刻を施し、この中を斜行線で区画、鋸歯文を連続して配置する。表裏両面とも同様のモチーフがみられる。	天地不明。 PL90
1397	器財?	残 破片 高 < 6.4>	①前东部 側②3トレ V-23G上 ~中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	外縁は弧状をなす。表裏両面に線刻による意匠が施される。外縁から2.0cm内側を円弧で区画し、その間に一辺2.5cm程の鋸歯文を充填している。	PL90
1398	器財	残 破片 高 < 7.7>	①後西部 側②2トレ 2E-13G 周堀内	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	板状の部分である。残存部左上に弧をなす側縁部がみられる。(透孔の可能性あるか)表裏面ともハケメを施す。表面に線刻を施す。	PL90
1399	器財	残 破片 高 < 9.4>	①前东部 側②4トレ X-22G上 ~中段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	鱗状の粘土板で側縁に寄せて径1.8cmの扁平な円形浮文を貼り付けている。内外面ともナナメ方向のハケメ後、端部をナデている。	PL90
1400	器財	残 破片 高 < 9.8>	①前西部 北隅②拡2	①B②橙5YR 6/8③普通・やや 軟質	外面はタテハケ後、へら描き沈線による蕨手状の文様が配されていると考えられる。盾あるいは人物の胴部の可能性が考えられる。	PL90
1401	器財 (盾)	残 破片 高 <12.6>	①前中部 中央(前面)② 1トレS- 20G下~中 段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③良 好・普通	板状の本体の裏側に幅3.0cm程の粘土帯を貼り付けている。外面はタテ方向のハケメ、内面もハケメ、粘土帯の周辺はナデている。	PL90
1402	器財 (盾?)	残 破片 高 < 8.7>	①前东部 墳頂部②4ト レX-19G 墳頂面	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の粘土板の裏面に、長軸3.5cm程の棒状粘土を貼り付け補強している。外面はハケメ調整、ナナメ方向に1条の線刻がみられる。	
1403	器財 (盾あるいは 靱?)	残 破片 高 < 8.7>	①前东部 北隅②13ト レQ-23G 内堀中	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	2.0cm前後、緩やかに彎曲する破片で、裏面に補強と思われる断面三角形の粘土帯が貼り付く。	
1404	器財	残 破片 高 <12.1>	①後西部 側②6トレ 3区上~中 段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	内側が肥厚する板状の破片である。表面はハケメ後ナデを施す。線刻により放射状の文様が構成されている。部分的に赤色塗彩が施されているか。	天地不明。 PL90
1405	器財 (一部)	残 破片 高 <11.4>	①後西部 墳頂部~上段 ②後円上段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	本体に鱗状に貼付される付属品か。ヨコ方向の断面は三角形を呈する。外面に側面にヨコ方向、稜部分にタテ方向の粗いハケメを施す。	PL90

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1406	器財	残破片 高 < 5.5>	①くびれ部 東側②5ト レY-24G 下段~周堀 内	①A②にぶい赤 褐2.5YR5/4③ 普通・普通	円筒状の本体に幅1.5cm、厚さ4mmの粘土帯を貼り付けている。	
1407	器財 (基台部?)	残破片 高 < 7.1>	①前方部東 側②4トレ X-22G上 ~中段	①A②明赤褐2.5 YR5/6③普通・ 普通	円筒部分に3.5cmの間隔をあけて2条の突帯が廻る。突帯は断面台形である。外面は全面をナデている。	

### 器財埴輪(2) (第211図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1408	器財	残破片 長 < 5.2>	①後円部埴 頂部~上段 ②後円羨門 北、WC T (I?)	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	外縁が弧状を呈する板状品である。外面にはヘラ描き沈線により不等間隔に区画されている。	器面が粗れている。 PL90
1409	器財	残破片 高 < 10.2>	①後円部西 側②C-2 ・II-2	①A②明褐7.5 YR5/6・灰黄褐 10YR6/2③普 通・普通	1411と同一個体の破片と考えられる。外面タテハケ、内面は粘土紐の接合部分を指頭により押圧する。	PL90
1410	器財	残破片 高 < 11.0>	①出土地不 明	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	円筒状の下位から内彎ぎみに立ち上がり、朝顔形の肩部のような形状を呈する。断面台形の突帯が廻り、その上位段には4単位と考えられる位置に小孔が穿たれている。	PL90
1411	器財	残破片 径 (24.0) 高 < 18.7>	①後円部西 側②C-2 ・I-2	①A②赤褐5YR 4/6・褐灰7.5 YR5/1③普通・ 普通	胴部付近の3段が残存する。下2段は円筒状を呈するが最上段は内彎して立ち上がる。上位の突帯を挟み径2.5cm程の小円形の透孔が対面して配される。また、最上段には刺突文も配される。外面タテハケ。内面は粗雑なナデを加える。	PL90
1412	器財?	残破片 径 (11.7) 高 < 6.8>	①くびれ部 東側②拵4 周堀	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	やや形状が歪むが小径の円筒状をなす。外面タテハケ、内面タテ方向のナデを施す。馬の足の可能性も考えられるが他例と比較するとやや小径である。	
1413	器財	残破片 高 < 13.7>	①後円部埴 頂部~上段 ②後円C T	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	板状破片で下端は外側に幅45mmの粘土を帯状に貼り肥厚させている。外面タテハケ後、赤色塗彩による円弧状の文様を描いている。内面はナデ、ナナメハケを交じる。家の屋根端部か。	PL90
1414	器財?	残破片 高 < 21.0>	①後円部西 側②C-2 -III-2・ 3	①A②明褐7.5 YR5/6・にぶい 橙7.5YR6/4③ 普通・普通	平滑な器面をなし、器財の破片、あるいは基部の一部と考えられる。下端は幅33mm程が外側に肥厚し弱い段をなす。外面の調整は肥厚部分がヨコ他タテ方向のハケメである。内面は基部粘土板の重ね合わせ部をヨコナデ、上位はナナメハケを重ねる。	PL90

### 人物埴輪(1)・(2) (第212・213図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1415 1426	人物 (鞆を背負 う男子)	残破片	①後円部西 側②B-I、 C-2	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	本文中参照。	PL96

### 人物埴輪(3)・(4) (第214・215図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1427 1436	人物 (鞆を背負 う男子)	残破片	①後円部西 側②B-1、 C-2	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	本文中参照。	PL96・97

人物埴輪(5)・(6) (第216・217図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1437 1448	人物 (鞆を背負う男子)	残 破片	①後円部西側②B-1、C-2	① B ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL97

人物埴輪(7)~(9) (第218~220図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1449	人物 (手を合わせあぐらの男子)	ほぼ完形 幅 <52.3> 高 <114.0>	①後円部西側②C-2-III-3、C-2-IV-2、C-2-V-2	① B ② 橙 5 YR 6/6・明赤褐2.5 YR5/6 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL98~100

人物埴輪(10)~(12) (第221~223図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1450	人物 (容器を捧げ持つ女子)	顔・胴部の一部を除いて完形 底 37.6 高 101.4	①後円部西側②C-2	① B ② 明赤褐5 YR5/8・赤褐2.5 YR4/6 ③ 普通・普通	本文中参照。	PL101~103 顔料分析試料。

人物埴輪(11) (第222図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1451	人物 (基台部の装飾)	残 破片 高 <10.4>	①後円部西側②C-2・IV-2	① A ② 橙 7.5 YR 6/8 ③ 普通・普通	本体に付属する板状の部品である。上半は本体の形状に合わせて彎曲する。座る人物像の台部の飾りと思われる。	PL103
1452	人物 (基台部の装飾)	残 破片 高 <9.7>	①後円部西側②C-2・IV-2	① A ② 明赤褐5 YR5/6 ③ 普通・普通	1451と同様。	PL103
1453	人物 (基台部の装飾)	残 破片 高 <9.2>	①後円部西側②C-2・III-3	① A ② 明褐7.5 YR5/6 ③ 普通・普通	1451と同様。	PL103

人物埴輪(12) (第223図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1454	人物 (基台部の装飾)	残 破片 高 <10.4>	①後円部西側 ② C-2・2 IV人 I	① A ② 明褐5 YR 5/6 ③ 普通・普通	1451と同様。	PL103
1455	人物 (基台部の装飾)	残 破片 高 <10.9>	①後円部西側 ② C-2・2-IV人 I	① A ② 明褐7.5 YR5/8 ③ 普通・普通	1451と同様。	PL103
1456	人物 (顎)	残 破片 長 <2.7>	①後円部西側②C-2 III 3	① A ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	顔面の本体に粘土板を貼り付けた部分である。ヘラで口を切り込んでいる。	
1457	人物 (耳環)	残 破片 長 <4.5>	①後円部西側②C-2 III 3	① B ② 橙 7.5 YR 6/8 ③ 普通・普通	直径14mmの粘土紐を丸め輪をつくっている。外径は44mm、内径は16mm以上を推定させる。	PL103

人物埴輪(13)~(19) (第224~230図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1458	人物 (三人童女)	ほぼ完形 高 <101.4> 幅 83.4	①後円部西 側②C-2 -IV-4	① B ②明赤褐 2.5 YR5/8・赤 褐2.5 YR4/6③ 普通・普通	本文中参照。	PL104~109

人物埴輪(20)~(22) (第231~233図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1459	人物 (皮袋を捧 げ持つ女 子)	残 髷欠損 底 (24.3) 高 <109.2>	①後円部西 側②C-2 -IV-2・ III-3	① B ②橙5 YR 6/8(上)、明赤褐 2.5 YR5/8(下) ③普通・普通	本文中参照。	PL110・111
1460	人物 (髷)	残 破片 長 <9.1> 幅 <9.3>	①後円部西 側②C-2 ・III-2	① A ②橙5 YR 6/6③普通・普通	女子の島田髷の側部から端部の破片である。端は粘土を合わせ肥厚させ、隙間を保ち髪のリを表現している。内面には剥離痕がみられ、頂部を開放した頭部を閉塞した様子が確認できる。	PL119
1461	人物 (耳環)	残 破片 径 4.6	①後円部西 側②C-2 -IV-4	① A ②橙7.5 YR 6/6③良好・普通	幅15mmの粘土紐を輪にし、接合部を本体の耳の下に接合したと考えられる。	外面に黒色の付着物あり。

人物埴輪(23) (第234図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1462	人物 (正装の女 子)	残頭部~胴 上半部 高 <46.0>	①後円部西 側②C-2 -1-1	① B ②赤褐2.5 YR4/6③普通・ 普通	本文中参照。	PL119

人物埴輪(24)・(25) (第235・236図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1463 ・ 1464	人物 (振り分け 髪を盛装男 子)	残脚下端部 欠損 高 <155.5>	①くびれ部 西側②C- 4-II	① A ②明赤褐5 YR5/6・橙5 YR6/6③良好・ 普通	本文中参照。	PL112~114

人物埴輪(25) (第236図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1465	人物 (基台部)	残 破片 高 <17.4>	①くびれ部 西側②C- 4南	① B ②橙5 YR 5/6③普通・普通	1463の基台部破片と考えられる。脚部と基台部の接合部分は粘土紐がめぐり、小さな段をなす。刺突は正面、瓜先側に施されたか。双脚間に小孔が配されている。	PL114
1466	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.7 高 <3.8>	①くびれ部 西側②C- 4-II	① A ②橙7.5 YR 6/6③良好・普通	付属品で剥離面を残す。外径37mmを測る。中空で器肉は11mm程である。ヘラ状工具により鈴口を刻むが裏面には達していない。	
1467	人物 (鈴)	残 付属品 高 <3.2>	①くびれ部 西側②C- 4-II	① A ②橙7.5 YR 6/6③良好・普通	付属品である。外径は長軸34、短軸30mmとややつぶれている。中空で器肉は1.2cmである。上面にヘラ状工具で刻みをつけるが裏面には達していない。	
1468	人物 (鈴)	残 付属品 高 <2.6>	①くびれ部 西側②C- 4-II	① A ②橙5 YR 6/8③普通・普通	径30mm、残高26mmを測る。鈴にはヘラにより切り込まれている。側面形は半円状を呈し中空である。	
1469	人物 (禪)	残 破片 高 <6.8>	①くびれ部 西側②C- 4-II	① B ②橙5 YR 6/6③普通・普通	禪の一部である。残存上位には粘土帯がめぐり肥厚する。ヘラ描き垂線には刺突文が重ねられている。	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1470	人物 (脚?)	残破片 高 < 5.9>	①くびれ部 西側②C-4-II	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	小径の小破片である。外面はタテハケ後ヘラ状工具によりヨコ線を重ねている。内面はナデ、一部にタテハケを施す。	
1471	人物 (右爪先)	残破片 長 <15.6> 幅 <13.6>	①くびれ部 西側②垢1	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	人物の足部で履を表現している。平面三角形の粘土板は頂点に向かって緩やかに膨らみをもつカーブを描いている。側面的には爪先がやや反り返るように台部に取り付けられていたと考えられる。上面はハケメ後周縁部にナデを重ねている。また爪先方向に頂部をもつ山形文がヘラ描きされている。裏面は中央部を補強するように粘土を貼り肥厚させている。	PL114
1472	人物 (左爪先)	残破片 長 <15.9> 幅 <13.8>	①くびれ部 西側②垢1	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	規模・成形・調整とも1471と類似し、これとともに同一人物の足部の一対をなしていたと考えられる。	PL114

#### 人物埴輪(26) (第237図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1473	人物 (盛装男子 胴部)	残下半部 高 <42.8>	①くびれ部 西側②C-5 V a	①B②にぶい赤褐5YR4/4③普通・普通	本文中参照。	PL115

#### 人物埴輪(27)~(29) (第238~240図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1474	人物 (盛装男子 の基台部)	残上半部 欠損 高 <98.4>	①くびれ部 西側②C-5 V a、16 トレ5区	①B②赤褐2.5 YR4/6③良好・普通	本文中参照。	PL116・117 顔料分析試料。

#### 人物埴輪(29) (第240図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1475	人物 (右美豆良)	残破片 長 <11.3>	①くびれ部 西側②C-5 V a	①A②橙5 YR 6/6③普通・普通	下げ美豆良である。1476と一対をなしていたと考えられる。形状・粘土紐の巻きつけ、赤色塗彩の状況は1476と同様である。	PL115
1476	人物 (左美豆良)	残破片 長 <12.6>	①くびれ部 西側②C-5 V a	①A②橙5 YR 6/6③良好・普通	下げ美豆良を棒状粘土で成形している。下端は前面に弱く突出している。器面に幅7~10mmの粘土紐を巻きつけている。さらにその上に付属品を貼り付けた痕跡が、側面に2箇所みられる。器面には飾り紐を表現したと考えられる赤色塗彩が縦横に施される。	PL115

#### 人物埴輪(30) (第241図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1477	人物 (頭部)	残破片 高 < 8.6>	①くびれ部 西側②C-5-V a	①B②橙5 YR 6/6③普通・普通	人物の頭部の一部で鏝のある帽子を被っているものと考えられる。山形を呈すると思われる帽子はその下端に幅3.0cm程の粘土を薄く貼り、上下の両縁に弧状のヘラ描き沈線を配したと思われる。	PL115
1478	人物 (鈴)	残付属品 高 < 3.2>	①くびれ部 西側②C-5 V a	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	幅31mm、高さ32mmを測る。本体から剥離している。中実で宝珠形に近い形状を呈する。鈴口をヘラ描きによって表現する。器面はナデている。	黒色の付着物あり。
1479	人物 (鈴)	残付属品 高 < 3.1>	①くびれ部 西側②C-5-V a	①A②明赤褐 2.5 YR5/8③普通・普通	幅32mm、高さ31mm本体から剥離している。中実で宝珠形に近い形状を呈する。鈴口をヘラ描きによって表現している。器面はナデている。	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1480	人物 (鈴)	残 付属品 高 < 2.9>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	幅32mm、高さ29mm本体から剥離している。中実である。鈴口はへら描きによって表現されている。	黒色の付着物あり。
1481	人物 (鈴)	残 高 < 2.7>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	幅26mm、高20mmの小型品である。本体に付属する板状の粘土上に貼り付いている。中実で、鈴口をへら描きで表現している。下半部に赤色塗彩を施している。	
1482	人物 (軀)	残 付属品 高 < 5.0>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①A②明赤褐 2.5 YR5/8③普 通・普通	人物の上衣に付属し、腰から下げられていたと考えられる。幅2.3cm程の粘土紐を6の字に丸め、先端は板状にしてある。時計の12時の方向には粘土紐の重なりを束ねるように幅2.6cm程の薄い粘土を重ね、その上に鈴を貼り付けている。端部からはりボン状に細い粘土紐がまわっている。器面には本体に沿って2本、本体を輪切りにする方向に6本、刺突文を伴うへら描き沈線が交差している。本体の一部及び鈴の肩口より赤色塗彩が施されている。	PL115
1483	人物 (上衣の裾)	残 破片 高 < 10.5>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	1474と同一個体の可能性が高い。	PL115
1484	人物 (帯)	残 破片 幅 < 5.2>	①くびれ部 西側②C- 5-V b	①A②明赤褐5 YR5/6(表)、赤 褐5YR4/6(裏) ③普通・普通	本体に厚さ4mmの粘土を帯状に貼り付けたものと考えられる。肩部に赤色塗彩を施している。	
1485	人物?	残 破片 高 < 8.1>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	1474と同一個体の可能性が高い。器面はタテ方向に細いハケメを施した後二重の円弧を配し、刺突文を重ねている。上位の割れ口に刺突文がみられる。径9mmの小孔が穿たれている。	内面に黒色部分あり。
1486	人物 (履の踵)	残 破片 長 < 5.5>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	脚部下端に半月状に貼り付いていたと考えられる。上面にハケメ、下面にナデが施される。	PL115
1487	人物 (履の右爪先)	残 破片 長 < 11.6>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	出土位置から1474と同一個体と考えられる。本体の付け根部分から剥落している。台形の粘土板でやや爪先上がりである。長さは11.3cm、甲側の周縁に粘土を貼り縁道を肥厚させ、刺突文を施している。側面に赤色塗彩が施される。	PL115
1488	人物 (履の左爪先)	残 破片 長 < 12.4>	①くびれ部 西側②C- 5-V a	①B②にぶい赤 褐5YR5/4(表)、 赤褐5YR4/6 (裏)③普通・普 通	1474と同一個体と考えられる。本体の付け根部分から剥落している。台形の粘土板で爪先も欠損する。裏面は粘土を張りたし肥厚させている。	PL115

### 人物埴輪(31) (第242図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1489	人物 (襟首)	残 破片 高 < 6.1>	①くびれ部 西側②拡1	①A②橙5 YR 6/6・明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	人物の首の周辺の破片である。本体に粘土を貼り付け襟元を表現、端部に沿って刺突を伴うへら描きの横線を刻んでいる。首飾りは径1.5cmの粘土粒を連続して置いている。	外面黒色みおびる。 PL118
1490	人物 (右美豆良)	残 破片 長 < 11.3>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①A②橙7.5YR 7/6③良好・普通	下げ美豆良である。下端は膨らみ、断面長円形を呈する。径6mmの棒状粘土紐を11段巻きつけている。髪を束ねた紐を表現したものと考えられる。赤色塗彩を施す。	黒色みおびる。 PL118
1491	人物 (上半身)	残 破片 高 < 11.6>	①くびれ部 西側②拡 1、6号埴 輪	①B②橙5 YR 6/8・にぶい赤 褐5YR4/4③普 通・普通	人物の胴部破片である。粘土を貼り、弱い段をなし着衣のあわせを表現している。端部からやや内側寄りに刺突を伴うへら描き沈線を沿わせている。	PL118
1492	人物 (上衣)	残 破片 高 < 13.5>	①くびれ部 西側②拡 1、34トレ	①B②橙5 YR 6/8・にぶい赤 褐5YR4/4③普 通・普通	1491と同一個体と考えられる。残存部上位には粘土紐を貼り、結びを表現している。	PL118

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1493	人物 (右腕)	残破片 長 <28.5> 径 4.7	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①A②橙7.5YR 6/6③良好・普通	腕部は肘を曲げずに垂下し、腰に手をあてた形状をとっている。棒状粘土に粘土を足し、二ノ腕に弱い段をつくっている。着衣の袖口を表現している。肩口に粘土紐の飾りがつく。下腕は粘土を足し籠手を表現している。刺突を伴うヘラ描き沈線により鋸歯文を2段配している。手には粘土紐による手甲の表現がなされている。赤色塗彩を施す。	PL118
1494	人物 (左腕)	残破片 長 <16.3>	①くびれ部 西側②拡1	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	人物の肩から肘周辺の残片である。中実の粘土を曲げて成形している。上腕部の中位やや下位の稜は着衣の袖口を表現したもののか。下腕部には籠手を装着しており、周縁部は端部に沿って刺突をもつヘラ描き沈線がめぐる。	裏面は剝離している。 PL118
1495	人物 (籠手)	残破片 長 <6.9>	①くびれ部 西側②拡1	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	人物の左手で胴部に接している。親指は別に成形している。甲には手甲を表現する刺突を伴う粘土が貼り付けられ赤色塗彩が施されている。	PL118
1496	人物 (禪下げ緒)	残破片 長 <6.4>	①くびれ部 西側②16ト レ拡1	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	腰紐の端部破片である。幅4.1cmの薄い粘土板を本体に貼り付けている。円形の剝離痕は鈴状の付属品が接合されていたか。	PL118
1497	人物 (大刀)	残破片 長 <4.5> 径 3.5	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	人物に装着されていた大刀と考えられる。棒状粘土の途中に幅32mmの薄い粘土帯をかぶせ、鞘口を表現し、それより先端よりを把とし、以下の鞘の部分だけを胴部器面に接合している。端部にも粘土帯を貼り、鞘尻を強調している。	外面に黒色の部分あり。 PL118
1498	人物 (大刀)	残破片 長 <4.2> 厚 2.7	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	1497と同一。	PL118

### 人物埴輪(32) (第243図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1499	人物 (上衣の裾)	残破片 高 <7.2>	①くびれ部 西側②拡1	①B②橙5YR 6/6③良好・普通	人物の着衣の裾部の破片である。外面の下端は幅4.2cm程が肥厚し、ヘラ描き沈線による鋸歯文が配されている。部分的には刺突を伴っている。径3.4cmの円形の剝離痕は鈴状の付属品の痕跡であろう。	PL118
1500	人物 (上衣の裾)	残破片 厚 2.1 高 <4.6>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	上着の裾部の破片である。端部外面は幅4.0cm程粘土を貼って肥厚させている。肥厚部分は上下2条のヘラ描きの横線を廻らせ、これをナナメ方向に区切って鋸歯文を配している。	
1501	人物 (禪)	残破片 高 <10.8>	①くびれ部 西側②拡1	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	人物の禪の裾部分で、下肢を表現した円筒部分から翼状に突出していたと考えられる。三角形の板状を呈し、下端は粘土を貼り帯状に肥厚させる。正面には刺突を伴うヘラ描き沈線による格子目文を配し、肥厚部分の上下両端にも横行するヘラ描き沈線を施す。	黒色みをおびる。 PL118
1502	人物 (禪)	残破片 径 (16.5) 高 <22.7>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	禪の太ももの部分である。膝の部分で強くしぼられる。正面を中心に刺突を伴う格子目文様を配す。市松模様になるように赤色塗彩が施される。残存上端は上着の裾部との接合痕が認められ部分的に補強の粘土塊が残る。	黒色みをおびる。 PL118
1503	人物 (禪)	残破片 高 <9.0>	①くびれ部 西側②16ト レ5区第4層	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	ヨコ方向に彎曲、小径を呈するか。外面に2重円文がヘラ描きされ、区画内に赤色塗彩が施される。	
1504	人物 (禪)	残破片 高 <8.9>	①くびれ部 西側・くびれ部東側② 16トレ、拡 4、6号埴輪 ・拡1	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	外面はタテハケ後刺突を伴う2重の円文をヘラ描きしている。	外面に黒色みをおびる。

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1505	人物 (禪)	残 破片 長 <23.2> 径 (11.7)	①くびれ部 西側②16ト レ5区	① B ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	禪の左下肢部分である。下端は幅4.0cm程に粘土帯を貼り肥厚させている。左側面には裾部のひろがりや表現した粘土板の剝離痕がみられる。正面を中心に刺突を伴う格子目文様を配し、それ以外にはタテハケのみを施す。下端部の粘土帯の両端部にも刺突文が列をなしている。格子目は市松に赤色塗彩を施す。	黒色みをおびる。 PL118 顔料分析試料。
1506	人物 (右爪先)	残 破片 長 < 9.0> 幅 < 9.0>	①くびれ部 西側②拓1	① B ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	平面形は圭頭に近い。上面の周縁部には粘土紐を貼り縁部を強調している。器面にはハケメが施されている。	器面はやや剝離している。 PL118
1507	人物 (基台部)	残 下位1/3 底 (33.6) 高 <15.4>	①くびれ部 西側②WC 4 III A	① A ② 明褐 7.5 YR5/6・橙 7.5 YR6/8③良好・普通	横断面楕円形を呈していたと思われ、双脚の人物をささえていたと考えられる。表裏に各1箇所、やや位置をずらして円形の透孔が穿たれている。外面をタテハケ後底面に接して突帯を廻らしている。内面は下端に基部粘土板作製時の圧痕を残すが、それより上位はタテ方向のナデ、ハケを施す。	PL118

### 人物埴輪(33) (第244図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1508	人物 (上衣の裾)	残 上衣の 裾部1/5～ 1/6 高 < 7.7>	①くびれ部 西側②C－ 4 IV a	① B ② 橙 5 YR 6/6・橙 7.5 YR 6/6③普通・普通	双脚人物像の上衣の裾部分の破片である。本体から翼状に突出させた裾部が接合部分で剝落している。着衣には弧状のヘラ描き沈線が残存する。端部は30mm程を肥厚させヘラ描きの鋸歯文を連続させる。鈴状の付属品を貼付したと考えられる剝落痕が間隔を保って認められる。内面には裾部を支えるために補強の粘土塊がほぼ10.0cm間隔で貼られている。	PL119
1509	人物 (上衣の裾)	残 破片 高 < 6.0>	①くびれ部 西側②C－ 4 IV a	① B ② 橙 7.5 YR 6/6③普通・普通	1514と同一個体の可能性が高い。上衣の裾部先端は外側に粘土を貼り肥厚させている。ヘラ描きの鋸歯文の他にヘラ描きに沿った刺突文と付属物の剝離痕がみられる。	
1510	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.8 高 < 3.9>	①くびれ部 西側②C－ 4 IV a	① A ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	出土位置から人物の着衣に付属していたと思われる。頂部はやや尖り、側面の形状は宝珠状を呈する。頂部にはヘラによる刻みが施される。	
1511	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.9 高 < 3.7>	①くびれ部 西側②C－ 4 IV c	① B ② 橙 7.5 YR 7/6③普通・普通	人物に付属する鈴である。赤色塗彩が施される。	
1512	人物 (爪先)	残 破片 長 <10.3>	①くびれ部 西側②C－ 4－IV a	① B ② 明赤褐 5 YR5/6③普通・普通	履先端のとがる圭頭形を呈する。側面から見ると爪先が反り返る。付け根部分は厚みをもつ。甲部分にはハケメを有し、周縁はナデを加えている。側面に赤色塗彩を施すか。	PL119
1513	人物 (爪先)	残 破片 長 < 8.2> 幅 ( 9.0)	①くびれ部 西側②WC －IV	① B ② 橙 7.5 YR 6/6③普通・普通	履である。平面三角形の粘土板は脚部との接合面で剝離している。爪先への縁部は緩やかなカーブを描いているが、向かって左側が右側に比べシャープである。側面は爪先に向かいやや反り、赤色塗彩が施されている。	PL119
1514	人物 (基台部)	残 基部中 位破片 長径(34.0) 短径(17.5) 高 <20.0>	①くびれ部 西側② C － 4	① A ② 橙 5 YR 6/6・赤褐 5 YR 5/6③良好・普通	断面楕円形を呈する。双脚人物の基台と考えられる。外面タテハケ。内面タテ方向のナデを施すが一部タテハケを残す。中位には平面に一对、小口側に一对の透孔が配されると思われるが配置はやや乱れている。	PL119

### 人物埴輪(34)～(36) (第245～247図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1515	人物 (挂甲を装着する男子)	残 胴上半 部欠損 高 136.5 (図上復元)	①くびれ部 西側②C－ 5－VI	① B ② 明赤褐 5 YR5/6・橙 5 YR6/6③普通・普通	本文中参照。	PL120～122



No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1516	人物 (右手)	残破片 長 <16.6>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	人物の右手で、中実につくられている。上端部は粘土の剥離痕がみられ、着衣の表現がされていたか。前腕には粘土板を巻きつけ腕手を表現し、両端には細い粘土紐で緊縛や飾りを付している。手は4本の粘土紐を合わせ手のひらをつくり、指先を区別していたと思われる。手甲をつけている。	PL123
1517	人物 (挂甲肩?)	残破片 高 <6.7>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B②橙2.5YR 6/8③普通・普通	挂甲の一部か。屈曲して立ち上がる本体の外面に厚さ5~8mmの粘土板を重ねている。外面にはヘラ描きがなされ赤色塗彩が行われている。	

人物埴輪(37) (第248図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1518	人物	残破片 高 <11.5>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	挂甲の合わせ部分が表現されている。挂甲の上端は突帯を廻らせている。ヘラ描きの短冊状の沈線文の上に合わせの紐を粘土紐で表現している。その下位にも剥離痕がみられる。	外面に黒色の付着物あり。 PL123
1519	人物	残破片 高 <13.4>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	挂甲の合わせ部分か。板状粘土の破片。裏面には剥離痕がみられる。ヘラ描きによる沈線が平行する。残存中央部に粘土紐4本からなる付属品が付いていたと考えられる。	天地不明。 PL123
1520	人物 (甲冑?)	残破片 高 <6.6>	①くびれ部 西側②C- 4	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	丸みをおびた破片である。器面にヨコハケ後それと直交方向に短冊状のヘラ状工具による線刻が施される。	PL123
1521	人物	残破片 高 <8.6>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	円筒状を呈する破片、上端は外反をはじめている。外面はタテハケ後ヘラ描きによる短冊状の区画が配され、一区画おきに赤色塗彩が施されている。	器面に黒色の付着物がついている。
1522	人物 (上衣の裾)	残破片 高 <9.9>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B②明赤褐5 YR5/8(表)、赤 褐5YR4/6(裏) ③普通・普通	ヘラ描きにより短冊状の区画が配されている。外面にはハケメが加えられる。	PL123
1523	人物	残破片 幅 <5.7>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	幅65mm、厚10~11mmの粘土板で両端に向かって強く反り返える。裏面に剥離痕がみられ、人物の帯を表現していたものと考えられる。ヘラ描き沈線により縦長に区切り、赤色塗彩を施す。	天地不明。 PL123
1524	人物	残破片 高 <9.5>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	ヨコ方向に彎曲する破片である。外面にヘラ描きによる短冊状の文様が配される。	
1525	人物 (脚部)	残破片 高 <14.4>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B②橙5YR 8/6③普通・普通	1527と同様。	PL123
1526	人物 (着衣または 挂甲の小札 の表現?)	残破片 高 <6.1>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	緩やかに彎曲する小破片である。ハケメ後、タテ・ヨコ方向に格子目状の線刻を施している。彩色は幅1.0cm程の縞状を呈している。	
1527	人物 (禪)	残破片 高 <24.2>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	双脚立像の人物の脚部破片である。下半は小径の円筒状を呈し、断面台2のタイプの突帯をめぐらす。上半ももの部分は外反して膨らむ。外面にはタテハケを施し、突帯以下にヘラ描きによる短冊状の区画を配する。小札を表現しているものと考えられる。	黒色の付着物あり。 PL123
1528	人物 (着衣)	残破片 高 <5.7>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段		ハケメ後タテ方向に線刻を施す。その後縞状に赤色塗彩を施す。	
1529	人物 (着衣)	残破片 高 <4.1>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	横位方向に粘土板が重なり肥厚している。ナデ後、タテ・ヨコ方向に線刻を施す。	

人物埴輪(38)・(39) (第249・250図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1530	人物 (鎌をかつぐ男子)	残 頭部・ 右腕欠損 底 22.1 高 <78.9>	①くびれ部 西側②C- 5-VII	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	本文中参照。	PL124

人物埴輪(40) (第251図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1531	人物 (右肩に鎌をかつぐ男子)	顔面～胴部 上半 高 <34.5>	①くびれ部 西側②鞍部 W	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	本文中参照。	PL123
1532	人物 (上衣の裾)	残 付属品 径 (25.0) 高 <4.9>	①くびれ部 西側②WC T-I、W C T-II	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	半身像の人物の裾部である。裾部は円筒状の本体から3.0cm程張り出している。器面はハケメ後周縁部にナデを施している。粘土の剝離痕があり、腰に付属品を備えていた可能性がある。	
1533	人物 (基台部)	残 下半部 底 (25.0) 高 <20.7>	①後円部西 側②C-2 -1 (注記 誤りか)	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	形象埴輪の基台部、下位の部分の残存である。径は残存中では底面に最大径をもち、徐々にその数値を減じている。外面はタテハケ、内面はナナメあるいはタテ方向にナデを施す。底面から4.3cmの位置に断面台形の突帯を廻らす。突帯の下位近くに2箇所、焼成前穿孔の径1.4mmの小孔が貫通している。	内面黒色の 付着物あり。 PL124

人物埴輪(41) (第252図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1534	人物 (髷)	残 破片 幅 <22.5> 高 <18.2>	①後円部西 側②C-2 -III-2・ 3、C-2 IV-3	①A②橙5YR 6/6③良好・普通	女子人物の頭部、島田髷である。円板状を呈するが周縁の破損が著しい。中央部に径2.7cmの円孔を穿つ。また幅2.8cmの平たい粘土紐を貼り、髷の結紐を表現している。器面にはハケメを施す。裏面に頭部との剝離痕が認められる。	内面黒色の 付着物あり。 PL125
1535	人物 (髷)	残 破片 長 <9.1> 幅 <19.0>	①後円部西 側②C-2 ・III-3	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	女子の島田髷の端部破片である。先端は髪をかえした様子を表現している。内面には頭部との接合痕が認められる。	PL125
1536	人物 (髷)	残 破片 長 <6.5> 幅 <13.6>	①後円部西 側②C-2 -III-3	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	女子の島田髷の一部である。円板状を呈し、側面も立体感を有さない。半円形の練り込みを入れ、前後の髪を区別している。開放した頭部を閉塞し、接合部の隙間を粘土でふさいでいる。	器面粗れて いる。 PL125
1537	人物 (髷)	残 破片 長 <5.6> 幅 <6.3>	①後円部西 側②C-2 III-3	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	女子の島田髷の一部である。先端側辺は粘土の重ねに隙間を保ち、髪が折り返された様子を表現している。	PL125
1538	人物 (着衣)	残 破片 高 <5.0>	①後円部西 側②D	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	着衣の合わせ目の部分である。胴部本体に粘土を貼り肥厚させて左衽を表現する。端部に沿ってヘラ描き沈線を引き、内部に横向する刺突文を連続させる。着衣にもヘラ描き沈線による意匠の一部がみられる。	PL125
1539	人物 (帽子の鏝)	残 破片 高 <1.6>	①後円部西 側②C-2 -VI	①A②橙7.5YR 6/8③普通・普通	端部は円形を呈すると思われ、人物の帽子の鏝あるいは着衣の裾部と考えられる。外面はナデを施し、線刻を施している。	
1540	人物 (耳環?)	残 破片 長 <4.7>	①後円部埴 頂部～上段 ②羨北	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	幅13mm、厚さ8mmの偏平の粘土紐の一端である。	
1541	人物 (耳環)	残 破片1/2 長 <4.3>	①出土地不 明②No.1人	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	径1.3cmの粘土紐を丸めリング状にしている。	PL125 後円西側出 土か。

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1542	人物 (耳環)	残 破片1/2 幅 < 4.7>	①出土地不明 ②No 1人	①A ②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	径1.3cmの粘土紐を丸めリング状にしている。裏面に剝離痕がみられる。外径4.7cm以上、内径2.0cmを想定できる。	後円西側出土か。
1543	人物 (耳環)	残 破片 径 4.2	①後円部西側 ②C-2 IV-3	①A ②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	幅13・14mmの粘土紐を輪にしている。	PL125
1544	人物 (耳環)	残 破片 径 4.5	①後円部西側 ②C・I ・IV-2	①A ②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	直径14mmの粘土紐を丸く輪にしている。外径は45×48mm、内径は18×21mmである。	PL125
1545	人物 (耳玉と耳環)	残 破片 高 < 4.0>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	①A ②橙5 YR 6/6③普通・普通	耳は円形の透孔の周囲に小さな環状の粘土を貼り付けて表現したものか。径7~10mmの粘土粒を連ねガラス小玉による耳玉を表現している。下端には耳環の剝離痕がみられる。	PL125
1546	人物 (鍬)	残 破片 長 <10.5>	①後円部西側 ②WC-1	①A ②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	人物が肩にかついでいた道具(鍬)が本体から剝離したものである。柄の部分は幅34mmの粘土紐を肩の丸みにあわせて貼りつけている。右肩に装着していたか。	PL125
1547	人物 (着衣?)	残 破片 高 < 7.8>	①後円部西側 ②C-2 -V-2	①A ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	人物の胴部あるいは盾面の一部と考えられる。ヘラにより鋸歯文を描き、赤色塗彩を重ねて施している。	PL125
1548	人物?	残 破片 高 < 3.7>	①後円部西側 ②C-2 -IV-3	①A ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	小破片、幅16mm、厚さ3mmの粘土紐が貼り付く。人物の胴部か。	天地不明。
1549	人物 (着衣?)	残 破片 高 < 4.1>	①後円部西側 ②C-2 -V-2	①B ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	人物の胴部破片か。本体に幅18mm、厚さ4mmの粘土紐を貼り付ける。	天地不明。
1550	人物 (立像の基 台部?)	残 破片 高 <10.0>	①くびれ部 西側②18ト レ3区	①B ②橙5 YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。上幅が狭く、三角形に近い断面台形の突帯が二条貼り付くことが確認できる。外面はナデ調整できる。	PL125
1551	人物 (上衣の裾)	残 胴部下位 ~基台部上 位3/4 高 <16.4>	①後円部西側 ②C-2 -I-2	①B ②橙5 YR 6/6(表)、明赤褐 5YR5/6(裏)③ 普通・普通	円筒形の基台部の上の半身像は、裾部が短く外反して延びるだけで、特段着衣の表現はみられない。外面はタテハケ後端部を強くヨコナデするため外反の途中に弱い稜がつくられている。内面はナナメタテ、あるいはタテ方向に粗雑なナデを施している。	PL125

#### 人物埴輪(42) (第253図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1552	人物 (髷)	残 髷の4/5 幅 <22.1>	①くびれ部 西側②C- 4中段	①A ②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	円板状を呈する。両側部の中央よりやや後方に寄って割り込みがなされ髷を表現している。外面には粘土紐を貼り、結びの紐を表現している。器面は内外面ともハケメを施す。内面には頭部との接合痕が残る。	外面に黒色の付着物あり。 PL126
1553	人物 (不明)	残 破片 長 <12.3>	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B ②橙5 YR 7/6③普通・普通	本体から剝離したリング状の破片である。人物の帽子の鏝、あるいは半身像の上着の裾部分の可能性が考えられる。	PL126
1554	人物 (帽子?)	残 破片 高 < 1.6>	①くびれ部 西側②C- 5-VII	①B ②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	本体から鏝状に水平方向に張り出す破片である。端部は上からみて弧状を呈すると思われる。上面にはヘラ描き沈線により鋸歯文が配されている。	PL126
1555	人物 (帽子)	残 破片 幅 <14.4>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①B ②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	人物の被る帽子の鏝の一部と思われる。ヘラ描き沈線により内部を区画し、先端に円形の浮文を貼る2条の粘土紐は飾りの紐を表現したものと考えられる。鏝の縁辺に赤色塗彩を施す。	PL126
1556	人物 (大刀)	残 破片 長 <14.4>	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A ②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	棒状の粘土で両端とも欠損する。残存長は145mmである。径は25~27mmである。本体に付属するものと考えられ表面に斜格子状に赤色塗彩が施される。	PL126
1557	人物 (帽子?)	残 破片 高 < 4.8>	①くびれ部 西側②掘1 堀	①A ②橙5 YR 6/8③普通・やや軟質	本体に幅12~14mmのややつぶれた粘土紐が逆T字状に貼り付く。	天地不明。

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1558	人物 (頭)	残破片 高 < 6.3>	①くびれ部 西側②鞍部 W	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	頭頂部の破片、腕を伏せた状態に近い。内面に粘土紐の接合痕を残す。	
1559	人物 (顔面)	残破片 長 < 4.4>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	眉の表現を兼ねて眼窩上部の隆起と鼻深の上半部を残した破片である。	
1560	人物 (弁帽)	残破片 長 < 6.3>	①くびれ部 西側②拡1 中段	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	断面が径35×30mmの長円形を呈する棒状粘土である。割れ口部分は本体との接合があったことを思わせる。ナデが認められる。側面に細い粘土紐が貼り付く。盾持ち人に類似の知られる弁帽の破片と考えられる。	PL126
1561	人物 (美豆良?)	残破片 長 < 5.0>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①A②にぶい橙 5YR6/4③普通・ 普通	径2.5cm前後の棒状を呈する。器面の調整は粗雑で人物腕の柄あるいはその他形象の補強材の可能性が考えられる。	
1562	人物 (美豆良)	残破片 長 < 4.3>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	下げ美豆良の下端か。径2.6cm程の棒状粘土の一端である。丁寧なナデが施されている。	
1563	人物 (美豆良?)	残破片 長 < 3.4>	①くびれ部 西側②16ト レ	①A②赤褐2.5 YR4/6③普通・ 普通	棒状を呈し、両端は欠損している。幅2.6cm、厚1.9cmの断面楕円形を呈する。器面はナデている。	天地不明。
1564	人物 (美豆良)	残破片 長 8.3	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	頭側部から剥離した上げ美豆良である。タテ8.0cm、ヨコ3.2cm、厚さ3.1cmの粘土塊で、中央部分をややしぼり、幅1.0cmの粘土紐を貼付、結紐を表現している。結紐には赤色塗彩を施す。	PL126
1565	人物 (裾)	残破片 高 < 6.7>	①くびれ部 西側②C- 4中段下	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	人物の腰部破片である。断面三角形の突帯は帯紐を表現すると考えられる。突帯に接する粘土紐は刀子を想定したい。	
1566	人物 (耳環)	残破片 幅 2.0	①くびれ部 西側②11ト レZ-15・ 16G、内堀 内~下段	①A②にぶい橙 5YR6/4③普通・ 普通	径2.0cm程の粘土紐が径8.3cmのリング状を呈している。表面の磨耗の度合、剥離の状態から右耳下に付けられていたか。	天地不明。 PL126

#### 人物埴輪(43) (第254図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1567	人物 (耳環?)	残破片 幅 < 4.6>	①くびれ部 西側②拡1 中段	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	径22~24mmの粘土紐で、リング状を呈していたか。裏面に本体から剥離痕が認められる。	PL126
1568	人物 (耳環?)	残破片 幅 2.3	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①A②にぶい赤 褐5YR5/4③普通・ 普通	径1.8~2.3cmの粘土紐がリング状を呈しているか。	
1569	人物 (耳環?)	残破片 長 < 4.6>	①くびれ部 西側②拡 1、4号埴 輪	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	径14×12mmの粘土紐でリング状をなしていたか。人物に付属する耳環あるいは着衣の紐と考えられる。	
1570	人物 (着衣ある いは掛甲表 現)	残破片 高 < 3.4>	①くびれ部 西側②11ト レZ-16G 下段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	小破片、ハケメの上にタテ・ヨコ方向の線刻が施され、縞状に赤色塗彩がおこなわれていたと考えられる。	
1571	人物 (腕?)	残破片 長 < 12.7>	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	残存端部に一部変化がある他はほぼ一定の径を保つ棒状の粘土である。	外面は剥離が著しい。

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1572	人物 (腕)	残 左上腕部破片 長 < 12.8 >	①くびれ部 西側②C-5	①A②明褐7.5YR5/6③普通・普通	1463の盛装男子同様の全体形状を呈すると思われる。左上腕部の破片と考えられ、ソケット状に肩部に接続されている。肘近くの径は4.5×4.1cm、着衣の表現か、残存部先端はひとまわり細くなる。器面はハケメ後ナデを重ねており、肩口及び袖口(?)の部分に赤色塗彩が施される。	PL126
1573	人物 (着衣?)	残 破片 高 < 5.4 >	①くびれ部 西側②垢1	①B②橙5YR6/6③普通・普通	人物の足部の一部か。幅2.6cmの粘土帯を貼り付けている。外面には刺突を伴うヘラ描き沈線が施されている。	
1574	人物 (付属の刀子?)	残 破片 長 < 8.0 >	①くびれ部 西側②垢1	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	本体に付属する部品と考えられる。両端で幅の異なる粘土帯は緩やかな弧状を呈する。	PL126
1575	人物 (腰?)	残 破片 高 < 6.3 >	①くびれ部 西側②鞍部W-V	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	人物の半身と基部の境界部分と考えられる。断面台2の突帯2本を廻らす。	
1576	人物 (裾?)	残 破片 長 < 5.3 >	①くびれ部 西側②16ト レ4区上～中段	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	周縁部は弧状を呈し、外面のやや内側に弧状の線刻をめぐらせる。内区には弧状の線刻がみられる。内外面ともハケメを施し周縁部をヨコナデしている。	PL126
1577	人物 (手の甲)	残 破片 長 < 4.8 >	①くびれ部 西側②垢1	①A②橙5YR6/6③普通・普通	人物の手の甲に装着された籠手の部分である。周縁とその内側に粘土紐を貼っている。赤色塗彩が施されている。	PL126
1578	人物 (指)	残 破片 長 < 3.9 >	①くびれ部 西側②C-4・5	①A②にぶい赤褐5YR5/3③普通・普通	扁平な粘土帯、先端に向けて狭小になり丸みをもって尖る。付属品と考えられるが裏面は本体からは離れている。	
1579	人物 (右腕)	残 肘から先 長 < 9.1 >	①くびれ部 西側②中段下	①A②橙5YR6/8③普通・やや軟質	肘から先を強く曲げている。手は親指を欠損、他の4本の指はグローブ状に一括して表現されている。	PL126
1580	人物 (裾?)	残 破片 高 < 8.5 >	①くびれ部 西側②C-4・5、C-4 II	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	小径の筒状部分の破片である。襷の一部と考えられ、靴と接する部分に近い。外面、タテハケ後ナデを施す。内面、ナナメハケを施す。横位のヘラ描き沈線に刺突文が連続して重ねられる。	
1581	人物 (上衣の裾)	残 破片 長 < 5.8 >	①くびれ部 西側②鞍部WV	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	人物半身像の上衣の裾部である。本体の胴部から4.0cm程外反している。上面にはハケメ、下面にはヨコナデが施される。	
1582	人物 (上衣の裾)	残 破片 高 < 5.2 >	①くびれ部 西側②16ト レ5区	①B②橙5YR7/8③普通・普通	1500と同一。	
1583	人物 (上衣の裾)	残 破片 高 < 6.1 >	①くびれ部 西側②C-4・5	①A②明褐7.5YR5/6・にぶい褐7.5YR5/4③普通・普通	上衣の裾部分と考えられる。外面端部は幅4.0cmに粘土帯を貼り肥厚させる。内面端部も内側に折り返される。肥厚部分の上下両端にヘラ描き沈線で2条平行線文を配し、その内部を斜線で区画、対向する鋸歯文を配置する沈線には連続刺突文が重ねられる。また、一箇所円形の剝離痕がみられ、鈴状の付属品が付けられた可能性がある。さらにこれらの文様帯の上位にもヘラ描きの弧線と刺突文が施されている。	PL126
1584	人物 (挂甲の破片?)	残 破片 高 < 5.0 >	①くびれ部 西側②C-5-VI	①B②橙2.5YR6/8③普通・普通	挂甲武人の一部と考えられる。厚さ8mmと薄い。端部は鋭角に収束する。外面にはヘラ描きが施され、赤色塗彩がなされている。	
1585	人物 (刀子、把頭)	残 破片 高 < 5.1 >	①くびれ部 西側②垢1 排土	①A②橙5YR6/8③普通・やや軟質	本体から剝離した痕跡が認められる。棒状粘土に粘土紐が巻かれている。	PL126
1586	人物 (襷?)	残 破片 高 < 3.5 >	①くびれ部 西側②16ト レ4区上～中段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	弱く彎曲する小破片である。ハケメの上にタテ方向の線刻がみられる。部分的に赤色塗彩が施される。	

人物埴輪(44) (第255図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1587	人物 (鈴)	残 付属品 径 (3.6) 高 < 3.1>	①くびれ部 西側②IV	①A②橙7.5YR 7/6③普通・普通	中実で本体から剥離した状態にある。鈴口にはヘラ状工具による切り込みが加えられている。	
1588	人物 (鈴)	残 付属品 高 < 2.6>	①くびれ部 西側②C— 5 VI	①A②赤褐5YR 4/6③普通・普通	本体に付属する鈴である。宝珠状を呈し、鈴口は横位のヘラ描き沈線により表現されている。中実である。	
1589	人物 (鈴)	残 付属品 径 2.7 高 < 2.4>	①くびれ部 西側②WC —4 III A	① A ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	小型である。付属品で本体から剥離している。中実で上面にヘラ描きにより鈴口を表現する。側面からは宝珠のつまみ状を呈する。外面に赤色塗彩を施す。	
1590	人物 (鈴)	残 付属品 径 2.5 高 < 2.0>	①くびれ部 西側②抔1 排土	① A ② 明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	本体に付属する鈴で、体高22mm、幅25mmと小型である。中実である。	
1591	人物 (鈴)	残 付属品 径 2.6 高 < 3.2>	①くびれ部 西側②抔1	① A ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	本体に付属する鈴で中実である。鈴口はヘラで切り込んでいる。剥離面には粘土紐や幅狭の粘土帯が付着している。肩部に赤色塗彩が施されている。	PL127
1592	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.5 高 < 3.8>	①西方中堤 ②11トレ2 A—8G 中 堤	① A ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	中実である。孔を表す線刻は片寄って施されている。裏面には剥離痕がみられ幅2.0cmの粘土帯に取り付けられたことが確認できる。	
1593	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.4 高 < 3.0>	①くびれ部 西側②抔1 中段	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	本体に付属する破片である。中実の成形である。鈴口にはヘラで切り込まれている。	
1594	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.3 高 < 3.6>	①くびれ部 西側②抔 1、34トレ	① A ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	本体に付属する鈴である。中実で、鈴口はヘラで切り込まれている。剥離面には粘土紐が付着している。肩部に赤色塗彩が施されている。	
1595	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.3 高 < 3.6>	①くびれ部 西側②16ト レ5区中～ 下段	① A ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	半円形の粘土で球体を表現し、上半部に孔を表す線刻を施す。本体に貼り付いていたと考えられ裏面に幅6mmの粘土紐の残欠が2本残っている。	
1596	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.5 高 < 3.3>	①くびれ部 西側②抔 1、34トレ	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	本体に付属する鈴である。中実で鈴口はヘラで切り込まれている。	
1597	人物 (褌)	残 破片 高 < 6.2>	①くびれ部 西側②抔1	① B ② 明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	盛装男子の褌部分の破片と考えられる。刺突を伴うヘラ描きの斜格子文を配する。	
1598	人物 (褌)	残 破片 高 < 8.9>	①くびれ部 西側②C— 5—V a	① B ② 明赤褐5 YR3/6③普通・ 普通	盛装男子の褌部分の下端に位置すると考えられる。タテハケの後に刺突文を伴う格子目文を配す。右端の割れ口には粘土板の剥離痕がみられ、褌の裾が翼状に表現されていたものと考えられる。	
1599	人物 (踵)	残 破片 長 < 6.0>	①くびれ部 西側②抔 1、34トレ	① B ② 明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	人物の履の踵を表現した部分である。円筒形の足の下端に平面三角形の突起を付けている。	PL127

人物埴輪(45) (第256図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1600	人物 (右腕)	残 破片 長 < 12.5>	①前方部西 側②WC II	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	人物の右腕、肩口から分離してしまっている。腕を強く彎曲させており指先は欠損するもの手のひらを胴部に接していた痕跡が認められる。中実で手のひらに向けてその径を減じている。	PL127
1601	人物 (上衣の裾)	残 腰部～ 基台部位 高 < 29.7>	①前方部西 側②WC II、WC T —V、WC T II、WC T—I	① B ② 橙 5 YR 6/8(表)、にぶい 赤褐2.5YR4/4 (裏)③普通・普 通	人物半身像の腰部から基台部の破片である。腰部は上着の裾部は水平方向に短く延びている。残存部位に貼り付けられた棒状粘土は弧状をなし、右側の先端がやや偏平にはることから刀子を表現したと考えられる。基台部は円筒で裾部の接合部から13.8cmに突帯をめぐらしている。円形の透孔一対が配されている。調整は外面が着衣の端部をナデる他はタテ方向のハケメを施す。内面はナナメタテ方向にナデている。	PL127

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1602	人物 (胴部)	残胴部1/4 高 < 19.1	①前方部西側②WC II、WCT-II	①B②明褐7.5YR5/6③普通・普通	人物の胴部下半から腰部の破片である。幅29mmの低い突帯をめぐらし帯を表現している。器面はタテハケを施し着衣の細部を表現していない。	PL127
1603	人物 (胴部)	残破片 高 < 9.4	①前方部西側②WCT-II	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	胴部下半～腰部の破片である。幅26mmの突帯をめぐらせ帯を表現したものと考えられる。突帯の幅、それを貼り付けるためのヨコナデにやや相違をみせるが1602と同一個体の可能性もある。	PL127
1604	人物 (基台部)	残下半部 底 (21.9) 高 < 33.1	①出土地不明	①A②明赤褐5YR5/8③普通・普通	出土位置からみると人物の基台部と考えられる。底面から4.3cm、21.6cmの位置に突帯がめぐる。第3段に円形の透孔が配される。調整は外面がタテ方向のハケメ。内面はナデを施すが基部粘土板、粘土紐の接合痕が明瞭に残る。基部の粘土板は8.0cm、右を上重ねている。	PL127

#### 人物埴輪(46) (第257図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1605	人物 (顎)	残破片 長 < 3.2	①前方部西側②WCT-I	①A②明褐7.5YR5/8③普通・普通	人物の顎部分の破片である。本体に厚さ7mmの粘土を貼り顎の張り出しを表現している。	黒色の付着物あり。 PL127
1606	人物 (胴部)	残破片 高 < 21.7	①前方部西側②WCT-I・II	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	胸部の破片である。肩部に向けてやや膨らみを有する。器面はタテ方向のハケメを上位でナデ消している。	PL127
1607	人物 (上衣の裾)	残腰部破片 高 < 9.5	①前方部西側②WCT-I・II	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	人物の半身像の腰部の破片である。裾部に向かって徐々に外反すると考えられる。腰に2条の突帯をめぐらし帯を表現したものと思われる。	器面に黒色の付着物あり。
1608	人物 (左腕)	残左腕 長 < 13.9	①前方部西側②WCT-II	①A②橙7.5YR6/6③普通・普通	人物の左腕の部分で肩口との接合部分、手のひらの先端を欠損する。腕は中実で大きく彎曲する。手のひらは胴部に接していた痕跡が認められる。	黒色の付着物あり。 PL127
1609	人物 (基台部)	残下半部 底 20.7 高 < 42.9	①前方部西側②WC I、WCT-II	①B②橙5YR6/6③普通・普通	形象の基台部である。樹立位置から人物と考えられる。成形は基部成形後粘土紐を4回程の作業単位で巻き上げていったと考えられ、上位に向かってその径を除々に減じている。外面は数回に分けてタテハケを、内面はタテからナナメタテ方向のナデを加えるが、粘土紐の接合痕を残す箇所が多い。底面から43.2cmと、底面間近の2箇所突帯をめぐらす。	外面に黒色の付着物あり。 PL127

#### 人物埴輪(47) (第258図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1610	人物 (鼻)	残破片 長 < 6.0	①前方部西側②4トレX-16G下段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	鼻は高く筋が良く通っている。頭本体に粘土塊を貼り付けている。	PL129
1611	人物 (帽子?)	残破片 高 < 2.2	①くびれ部西側②WC-IV	①A②橙7.5YR6/6③普通・普通	端部の破片である。外面に縁部に向けてハケを施し、周縁にヨコナデを施す。	
1612	人物 (頭部)	残破片 高 < 5.3	①前方部西側②前方W-V	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	上位に向けて彎曲する破片である。人物の頭部破片と考えられる。外面はタテハケ後ヘラ描きによる波形文を配しており帽子の文様と考えられる。	
1613	人物 (頭部)	残破片 高 < 6.9	①前方部西側②3トレV-15G下段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	ナナメ方向のハケメをナデ消している。残存下端にはナデがみられる。	
1614	人物 (胴部)	残首～肩部破片 高 < 6.0	①前方部西側②WC II	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	肩から首にかけての部分であるが左右の判別はできない。首には大小の粘土紐を貼り付け首飾りを表現する。外面はハケメ、内面は粘土紐の接合痕を残す。	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1615	人物 (美豆良)	残破片 長 <12.2>	①前方部墳 頂部②1ト レX-20G 墳頂面	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	剥落痕から左側に付けられたものと考えられる。中実の棒状を呈し前後方向に長軸をもつ3.5×2.5cmの断面楕円形をなす。下端は外反して止まる。赤色塗彩が施される。	PL129
1616	人物 (耳環)	残破片 径 6.0	①前方部西 側②前方W 5	①A②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	径20mm前後の粘土紐を楕円形のリング状に成形している。裏面には本体から剥離した痕跡が認められる。	PL129
1617	人物 (頭部)	残破片 高 <6.5>	①前方部西 側④4トレ X-17G上 ~中段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	人物の頸部の破片である。ヨコナデ後丸玉を表現したと考えられる長径1.7cmの粘土粒を付けている。4箇所のうち3箇所は剥落するがその痕跡を明瞭に残す。外面はタテ方向にハケメ、内面はタテ方向にナデている。	
1618	人物 (美豆良)	残破片 長 <6.6>	①前方部西 側②WC T -I	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	人物の頭部から剥離した美豆良である。左側頭部に付属した可能性が高い。棒状粘土の中実をしぼり、上下両端をやや膨らませた形状である。器面はナデている。	黒色の付着物あり。
1619	人物 (鍬)	残破片 長 <8.7>	①前方部西 側②WC II	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	人物の肩に付属する鍬である。肩の丸みに合わせてつくられているが、刃部及び柄の下端は欠損している。右肩に接していたか。幅3.4cmを測る。	PL129
1620	人物?	残破片 高 <6.6>	①前方部西 側②3トレ V-15G下 段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	ヨコ方向に弱い稜をもつ突帯がめぐっている。外面はナデている。内面には粘土紐の接合痕を明瞭に残す。	
1621	人物 (上げ美豆 良)	残破片 長 <7.3>	①前方部西 側②WC VI	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	板状粘土の上下両端が肥厚している。	PL129
1622	人物か馬の 付属品?	残破片 長 <6.0>	①前方部西 側②3トレ V-15G下 段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	幅2.0cm程の粘土帯、Jの字状に彎曲しながら先細りし尖る。表面には幅5mm程で赤色塗彩が施され、縞状の意匠をなす。裏面には本体からの剥離痕がみられる。	PL129
1623	人物 (刀子)	残破片 長 <11.5>	①前方部西 側②WC T VI	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	人物に付属する刀子である。柄頭は径18mmの棒状粘土を下方に折り曲げている。	PL129

#### 人物埴輪(48) (第259図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1624	人物 (胸部・右 腕)	残破片 長 <15.6>	①前方部西 側②WC II、WC T II	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	右手を身体につけている。腕の彎曲の状態、腕に接して粘土の剥離痕がみられることから鍬等を肩にかついでいる状況が想定できる。腕は中実である。	PL129
1625	人物 (左腕)	残破片 長 <14.2>	①前方部西 側②WC- VI	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	肩部にソケット状に接合されていたと思われる。柄の先端は欠失するが、脇の下の接合を補強した粘土塊を明瞭に残している。腕は横に丸く曲げられ手のひらが胸部に接していたと考えられる。手の親指は欠損、他の4本も先端は欠損するが、一体につくりヘラで区別されている。	PL129
1626	人物 (左腕)	残破片 長 <12.0>	①前方部西 側②WC T VI	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	上腕部下半から手のひらまでが残存する。腕は大きく曲がり、手のひらは胸部に接する。器面は丁寧にナデられている。	PL129
1627	人物 (右腕)	残破片 長 <11.4>	①前方部西 側②WC T -VI	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	欠損して肩からはずれている。肘から先は大きく曲がり、手のひらは胸部に接している。指はすべて省略されている。道具をもっていたと考えられる。	PL129
1628	人物 (上衣の裾)	残 腰~上 着裾部分1/ 4 高 <16.1>	①前方部西 側②WC- II	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	円筒状の本体に断面三角形の粘土を貼り、上衣の裾を表現している。腰には2本の突帯をめぐらせ、帯を表現したものと考えられる。	PL129
1629	人物 (付属品)	残破片 長 <5.8>	①前方部西 側②WC T VI	①A②橙7.5 YR6/6③普通・ 普通	径28×24mmの小口面を有する。棒状の粘土、欠損部分は押圧を受け扁平になる。器面は丁寧にナデられている。	



No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1630	人物 (胴部)	残破片 高 < 7.2	①前方部西 側②WC II	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	人物の胴上部の破片と思われるが判然としない。外面は縦・横位のハケメ後ナデ、内面は接合痕をナデている。	

#### 人物埴輪(49) (第260図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1631	人物 (右頭部～ 美豆良)	残破片 長 < 13.1	①前方部西 北隅②14ト レT-15G 下～中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	右目から頭部の破片である。頭部は高く立ち上がると思われるが帽子の有無は確認できない。美豆良は長さ7.2cmの上げ美豆良である。美豆良の後側にヘラ状工具による穿孔がなされていると思われる。	PL129
1632	人物 (顎～首)	残破片 長 < 12.3	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①B②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	左顎を中心として残存する。顎は本体に粘土を貼り足し肥厚させている。目は切り込むの下端のみ残存する。口は外面から工具を押し込むように開けている。首部には3.7cmの間隔を持って径1.8cmの粘土粒を貼り首飾りとしている。	PL129
1633	人物 (口～顎)	残破片 高 < 4.7	①前方部西 北隅②14ト レT-14G 下段	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	頭部本体に粘土板を貼り合わせ、顎の張り出しを表現している。口は大きく切り込んでいていると思われる。	
1634	人物 (顔、左目)	残破片 長 < 10.3	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①A②明赤褐5 YR5/6(表)、赤 褐5YR4/6(裏) ③普通・普通	人物の顔面、目周辺の破片と考えられる。眼窩上突起は強く突出する。これと目の切り込みの間にはヘラ描きによる沈線が施される。突起の上にも山形の沈線が一部残る。	PL129
1635	人物 (左頬)	残破片 長 < 9.9	①前方部西 北隅②14ト レT-15G 下～中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	顔面は頸部から円筒状に粘土紐を積み上げ本体をつくりこれに粘土板を貼り付け顎の張りを表現している。顔面は大形で盾持ち人が想定される。	
1636	人物 (顔)	残破片 長 < 8.7	①前方部西 北隅②拡2	①A②にふい赤 褐5YR5/4③良 好・普通	人物の顔面右下部分の破片である。目、口の切り込みの一部が残存する。鼻孔は刺突により表現されている。	PL129
1637	人物 (美豆良)	残破片 長 < 9.3	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	円筒形の本体に粘土塊が付属する。残存する下端は膨らみを有する。人物の美豆良か。	PL129
1638	人物 (左腕?)	残破片 長 < 8.9	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①A②赤褐5YR 4/6③普通・普通	上腕部の破片で中実である。残存状況から腕を強く屈曲させていたと想定される。	黒色の付着物あり。
1639	人物 (右腕)	残破片 長 < 5.7 径 4.4	①前方部西 北隅②14ト レT-15G 下～中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	二の腕の破片である。付根の先端に柄状の突起をつくり、これを胴部に嵌入している。外面からナデつけている。	
1640	人物 (左腕)	残破片 長 < 12.4	①前方部西 北隅②前方 部西北端	①A②にふい赤 褐5YR4/4③普 通・普通	人物の左腕下半～手の部分である。指は親指のみ個別表現する他はグローブ状の成形をし、ヘラ描きによる区別もしていない。手のひらから手首の裏面は胴部に接していた痕跡を残している。	PL129
1641	人物? (爪先)	残破片 長 < 4.6	①前方部西 北隅②拡2	①A②明赤褐 2.5 YR5/6③普 通・やや軟質	やや先端が細くなる棒状品である。径5mmの小孔が2箇所貫通する。	
1642	人物 (右腕)	残破片 長 < 7.5 径 6.0	①前方部西 北隅②14ト レT-14G 下段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	二の腕から肩にかけての破片である。付け根の先端に柄状の突起をつくる。これを胴部に嵌入、外面から補強粘土を付け足しナデつけ、ハケメを施す。	

人物埴輪(50)・(51) (第261・262図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1643	人物 (駒引き)	ほぼ完形 底 (20.1) 高 <99.0>	①前方部中央(前面)②前方部中央(前面)	① B ②赤褐2.5 YR4/6③普通・普通	本文中参照。	PL128
1644	人物 (顔?)	残 破片 長 <6.0>	①前方部中央(前面)②前方NT	① A ②橙5 YR6/8③良好・良好	本体に粘土板を張り付けて肥厚させている。人物の顔、頸部分か。横位の切り込みは丸く下位に繰り込まれている。外面に赤色塗彩を施す。	PL129
1645	人物 (耳環)	残 破片 幅 1.8 厚 1.5	①前方部中央(前面)②1トレQ-20G	① A ②明赤褐2.5 YR5/6③普通・普通	扁平の粘土紐で環状を呈していたと考えられる。ナデ調整を施す。	
1646	人物	残 破片 長 <7.4>	①前方部墳頂部②前方部CT中段	① A ②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	幅2.3~1.8cmの帯状の粘土である。人物の付属品と考えられ刀子の可能性ある。一部に赤色塗彩を施す。	
1647	人物?	残 破片 径 (18.2) 高 <4.5>	①前方部中央(前面)②1トレT-20G上段	① A ②明赤褐2.5 YR5/6③普通・普通	球形の本体に粘土紐を巻き付け鐮状に成形している。一部粘土を張りたし小突起としている。半身像の着衣裾か。	PL129

人物埴輪(52) (第263図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1648	人物 (首)	残 破片 高 <5.0>	①前方部東北隅②前方部東北端T・II	①A②橙7.5YR6/6(表)、明赤褐5YR5/6(裏)③普通・普通	首は細くくびれる。長径17mmの粘土粒を貼り付け首飾りを表現している。	
1649	人物 (右腕)	残 破片 長 <8.0>	①前方部東北隅②13トレQ-23G内堀中	① A ②橙5 YR6/6③普通・普通	前面に曲げた腕を表現したと考えられる。二の腕側の先端は柄状につくりソケット状に肩にはめこんでいる。割れ口を観察すると中心が径5mm程中空状を呈している。ただしこれは粘土を木芯等に巻きつけて成形したのではない。	PL130
1650	人物 (腕)	残 破片 長 <8.8>	①前方部東北隅②拡3、1号埴輪	① B ②橙5 YR6/6③普通・普通	上腕部の破片である。腕を胴部の前面に曲げていたと考えられ、肉厚に成形されている。器面はやや粗雑にナデられている。	
1651	人物 (帯)	残 破片 高 <4.8>	①前方部東北隅②13トレQ-23G内堀中	① A ②明赤褐2.5 YR5/6③普通・普通	径12.0cm程の円筒状の本体に幅3.4cm、厚さ5mmの粘土帯が巻かれ、帯を表現していると考えられる。	
1652	人物 (左手)	残 破片 長 <9.8>	①前方部東北隅②拡3中段	① B ②橙5 YR6/6③普通・普通	手首から先が残存するが、親指は欠失している。他の4本の指の区別はなくミット状に表現されている。外面にはハケメを残す。内側はナデを施す。体部との接点の有無は不明瞭である。	PL130
1653	人物 (右手)	残 破片 長 <9.3>	①前方部東北隅②拡3堀	① A ②橙5 YR6/6③良好・普通	手のひらを胴部に接した姿勢がとられていると思われる。親指は単独で表現されているか欠損する。他の4本はミット状に成形し、表面にヘラ描きによる刻みをつけて区別している。	手のひら側は剝離している。 PL130
1654	人物 (鎌)	残 破片 長 <5.9>	①前方部東北隅②拡3	① B ②橙5 YR6/6③普通・普通	幅24mm程の粘土帯を肩の丸みに合わせ貼り付けている。鎌先端部分は欠損する。	
1655	人物 (禪あるいは胴体)	残 破片 高 <3.0>	①くびれ部東側②17トレ2A-23G下段	① B ②橙5 YR7/8③普通・普通	小破片、直線状の線刻に刺突を重ねている。赤色塗彩を施している。	
1656	人物 (耳環)	残 破片 高 <5.2>	①前方部東北隅②前方東北端	① A ②明赤褐5 YR5/8③普通・普通	径13mm前後の粘土紐をリング状に曲げていると思われる。裏面には本体に付属していた痕跡が認められる。	
1657	人物?	残 破片 高 <6.5>	①外堀②9トレM-9G内堀中	① A ②明赤褐5 YR5/6③普通・普通	幅2.2~2.7cmの薄い粘土帯を貼付している。一部にハケメを残す他はナデている。	

人物埴輪(53) (第264図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1658	人物 (顔)	残左頬破片 長 < 7.8>	①前方部東側 ②前方部E T	① B ② 橙 5 YR 6/6 ③ 良好・普通	顎は本体に粘土板を貼り合わせて肥厚させている。左目、口の切り込み部分が認められる。内外面ともナデている。	
1659	人物 (顔)	残顎の破片 長 < 3.7>	①前方部東側 ②前方部東側	① A ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	本体から剥離した粘土板の破片である。顎を形成した部分で口の切り込みが認められる。	
1660	人物 (振り分け髪?)	残破片 長 < 4.3>	①前方部東側 ②3トレ墳丘東側部分	① A ② 橙 5 YR 6/8 ③ 普通・普通	八の字状に外反して端部にいたる破片である。	
1661	人物	残腰部 ～基台部 底 18.2 高 < 42.9>	①前方部東側 ②前方部E T	① B ② 明赤褐 5 YR 5/8 ③ 普通・普通	半身の人物像である。上位に残存する断面三角形の突帯は帯を表現したものと考えられる。また、この突帯に貼り付く粘土塊は腰にさした鎌であろう。基台部は高さ42.9cmで上位突帯の直下6.0cmの位置に円形の透孔を配している。また、底面に接する位置に、上端を上方につまみ上げた形状の突帯がめぐる。基台部の調整はタテハケ、内面は基部下端から4回程に分けてタテハケを施す。基部の粘土板は右を上重ねている。	PL130
1662	人物 (腕付根)	残破片 長 < 5.9>	①前方部東側 ②前方部E T V	① A ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	腕の付け根の部分の破片である。胴内にソケット状にさしこまれた部分が残存していた。付け根の部分の径は38mmとやや細身である。	
1663	人物 (頭部)	残破片 高 < 4.6>	①前方部東側 ②3トレV-25G周堀内	① A ② 明褐 7.5 YR 5/6 ③ 普通・普通	頭部周辺の破片と思われる。残存部下にヨコナデがみられる。内面には粘土紐の接合痕を明瞭に残す。	1665と同一個体。
1664	人物 (耳環)	残破片 長 < 7.6>	①前方部東側 ②前方部E T	① A ② 橙 5 YR 6/6 ③ 普通・普通	人物に付属する耳環であるが径7.0cm以上が想定され盾持ち人のものと考えられる。裏面に頭部本体からの剥離痕を残す。	
1665	人物 (顔)	残破片 長 < 4.3>	①前方部東側 ②3トレV-24G周堀内	① A ② 褐 7.5 YR 4/6 ③ 普通・普通	人物の顔面の一部で右目の目尻と美豆良の付け根がみられる。美豆良は幅2.0cm程の粘土帯(棒)が垂下していたか。	
1666	人物 (美豆良?)	残破片 長 < 5.2>	①前方部東側 ②3トレVライン墳丘東側	① A ② 暗褐 7.5 YR 3/3 ③ 普通・普通	左側的美豆良と考えられ、下端は2分されている。成・整形ともに粗雑で粘土の接合痕を器面に残している。	

人物埴輪(54) (第265図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1667	人物 (顔)	残破片 長 < 4.4>	①出土地不詳 ②5トレ	① A ② 明赤褐 5 YR 5/6 ③ 普通・普通	顔の顎の部分である。頭部の本体に貼り付けた粘土板が剥離したものである。残存部上端に口の切り込みの一部がみられる。表面は丁寧になでられている。	
1668	人物 (頭?)	残破片 長 < 5.4>	①くびれ部東側 ②拡4中段	① A ② 明赤褐 5 YR 5/6 ③ 普通・普通	外側に向けてやや丸みを有する破片である。残存部の下端に赤色塗彩が施される。	
1669	人物	残破片 高 < 9.8>	①くびれ部東側 ②拡4	① B ② 赤褐 2.5 YR 4/6 ③ 普通・普通	内彎しながら立ち上がる破片である。外面はヨコハケを充填、その後、縦位に間隔をあけて幅8mm程をナデ消し条線を作成している。	
1670	人物 (右腕)	残破片 長 < 13.5>	①くびれ部東側・前方部東北隅 ②拡4周堀、13トレS-23G	① A ② 橙 5 YR 6/8 ③ 普通・普通	人物の右腕～脇周辺の破片である。腕は丸く曲げられているが手は欠損している。肩の外面に剥離痕がみられ、鎌を背負っていたと考えられる。	PL130

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1671	人物 (鈴)	残付属品 径 3.6 高 < 3.7)	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪	①A②明赤褐 2.5 YR5/6③良 好・普通	本体に付属する鈴である。中実、粘土紐を丸く成形し、下端に粘土を貼って本体に接合している。	
1672	人物 (大刀?)	残 破片 長 < 5.9)	①くびれ部 東側②拡 4・6号埴 輪	①A②橙7.5YR 6/6③普通・やや 軟質	角柱状に稜をもつ棒状粘土である。本体から剝離した痕跡がある。端部寄りの幅2.5cmには薄い粘土帯を貼り、器面に刺突を加えている。人物の装着した大刀の一部と考えられる。赤色塗彩が施されている。	PL130
1673	人物	残 破片 高 < 12.6)	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪17-5区	①B②明赤褐 2.5 YR5/8③普 通・普通	外面には幅1.8~2.0cmの粘土紐が貼り付けられ、これにヘラ描きの鋸歯文が配されている。赤色塗彩が施されている。	天地不明。

### 人物埴輪(55) (第266図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1674	人物 (上美豆良)	残 破片 長 < 6.8)	①後円部東 側②22トレ 4区上段~ 中段	①A②橙5 YR 6/6③普通・普通	人物の顔面右側の上げ美豆良である。径2.5×3.0cmの棒状粘土の中央からやや上位でくの字状に屈曲させている。外面は丁寧にナデている。	
1675	人物 (頭部)	残 破片 高 < 6.6)	①後円部東 側②22トレ 4区上段~ 中段	①A②明赤褐 2.5 YR5/6③普 通・普通	頭部は輪積により円筒状に成形され、外面に厚さ1.0cmの粘土帯を2.0cm程突出させ帽子の鏝としている。鏝より上位にはタテ方向のハケメを残すが、下位はこれに粗雑なヨコナデを加えている。帽子を被った人物の破片と考えられる。	
1676	人物 (美豆良)	残 破片 長 < 8.1)	①後円部東 側②22トレ 4区上段~ 中段	①A②橙2.5YR 6/6③良好・普通	人物の左側下美豆良の一部と考えられる。径2.5cmの棒状粘土で先端は前方にL字状に屈曲し、尖る。顔面との接合面には粗雑な調整痕を残す。	
1677	人物 (着衣裾)	残 破片 長 < 4.0)	①後円部東 側②22トレ 4区上段~ 中段	①A②橙5 YR 6/6③普通・普通	周縁部は弧状を呈するか。周縁部から内側1.2cmに弧線を配しこれに約1.0cm間隔で刺突を重ねる。外区にも線刻がみられる。	天地不明。
1678	人物 (帽子を被 る男子)	残存上半部 高 < 42.7)	①後円部東 側②22トレ 3区4区上 段~中段	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	本文中参照。	PL130

### 人物埴輪(56) (第267図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1679	人物 (顔)	残 破片 長 < 12.2)	①くびれ部 東側②17ト レ5区中~ 下段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	鼻を中心に左右の目元、眼窩上部にいたる破片である。鼻は高い。鼻梁はナデられ幅1.0cm程の平坦面をなす。鼻孔はヘラ状工具で長さ1.0cm程の刺突をおこなっている。左側面にも刺突痕がみられる。大形の顔で盾持ち人と考えられる。	PL131
1680	人物 (付属品?)	残 破片 高 < 4.9)	①後円部東 側②2トレ 2E-25G 下段	①A②明赤褐 2.5 YR5/6③普 通・普通	円形の粘土板か。各面ともナデられている。	天地不明。
1681	人物	残 破片 高 < 7.0)	①後円部東 側②2トレ 2E-23G	①A②明赤褐 2.5 YR5/6③普 通・普通	本体に厚さ5mm程の粘土板を重ね、小さな段差をつくっている。タテ方向の2本線刻の間に赤色塗彩を施している。	黒色の付着物あり。
1682	人物 (口~顎)	残 破片 長 < 5.7)	①くびれ部 東側②17ト レ5区中~ 下段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	首は粘土紐を積み上げ円筒状に仕上げていると思われる。これに厚さ2.5cmの粘土板を貼り顎を成形している。外面にはタテ方向に単位の細いハケメを施す。口はヘラで大きく切り込んでいる。盾持ち人か。	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1683	人物 (禪)	残 破片 高 <11.9>	①後円部東側②2トレ2E-25G下段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	脚部に付く鱗状の粘土板である。表面に線刻により格子目状の意匠が配置されている。	PL131
1684	人物 (耳)	残 破片 高 <1.9>	①東辺周堀②33トレ	①A②明赤褐5YR5/8③普通・普通	ラップ状を呈していたと考えられ、盾持ち人に付属していたものと思われる。	天地不明。
1685	人物 (美豆良)	残 破片 長 <3.4>	①後円部東側②2トレ2E-23G上段～中段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	下端は棒状の粘土紐をナナメに切り簡単にナデている。	
1686	人物 (禪)	残 破片 高 <4.8>	①後円部東側②2トレ2E-25G下段	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	下端約3.0cmの粘土帯が貼付され突帯がつくられている。この部分に一辺1.5cm程の格子目文様が配置されているか。	
1687	人物 (胴部?)	残 破片 高 <9.4>	①後円部東側②2トレ2E-23G上段～中段	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	線刻による二重の弧線が鱗状に配置されているか。これにヘラ状工具による刺突も重ねられているか。	黒色の付着物あり。
1688	人物 (大刀?)	残 破片 幅 3.1	①後円部東側②2トレ墳丘東側部分	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	かまぼこ型の断面形状を呈する。裏面は本体に貼付されていた痕跡がみられる。2条1単位の線刻により区画された間に鋸歯文が施されていると考えられる。	黒色の付着物あり。 PL131
1689	人物 (裾)	残 破片 高 <8.8>	①くびれ部東側②17トレ2B-23G中段	①A②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	着衣の下半の破片と考えられる。端部は欠損する。	
1690	人物 (基台部?)	残 破片 高 <12.1>	①後円部東側②2トレ2E-25G下段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	鈍角をなす隅部の一部である方形の基台部か。外面の隅には幅3.0cm程の粘土帯を貼付し、突帯をつくっている。外面はタテ方向のハケメが内面はナデがみられる。	器面は粗れている。 PL131
1691	人物 (着衣裾部)	残 破片 幅 <29.3> 高 <6.0>	①後円部東側②2E-23G、V-20G	①A②明赤褐2.5YR6/6③普通・普通	脚部に粘土帯を貼り付け裾部としている。縁部から4cm程上位に線刻をめぐらせ、これと縁部の間に一辺4cm程の鋸歯文が配置されている。	PL131
1692	人物 (左足爪先)	残 破片 長 <13.0> 幅 <11.7>	①後円部東側②後円E-T	①B②明褐7.5YR5/6③普通・普通	双脚人物の左足爪先と考えられる。履を表現すると考えられる平面三角形の粘土板は先端が丸みをおびている。上面の周縁部に1列、爪先寄りには4・5列の刺突が加えられている。上面、ハケメ後ナデを施す。下面はナデている。	PL131
1693	人物?	残 破片 高 <6.1>	①後円部東側②2トレ2E-23G上段～中段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	表面はタテ方向のハケメ後残存部下端に上下2列、刺突文がめぐる。馬の鞍の破片の可能性も考えられる。	

#### 人物埴輪(57) (第268図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1694	人物 (顔)	残 破片 長 <13.4>	①後円部南側(後方)②10トレ5区中～下段	①A②橙5YR6/8③普通・普通	目は木の葉状に切り込まれていたか。鼻を中心に額から口にかけての破片で二片からなる。鼻梁は高くとおっている。鼻孔は長さ6mm程の刺突により表現されている。口は大きく切り込まれ、上唇は反り返る。額の上には幅1.2cm程の粘土紐が貼付されている。帽子あるいは髪の毛の飾りと考えられる。眼下から顎にかけて赤色塗彩が残存している。盾持ち人か。	PL131
1695	人物 (口～顎)	残 破片 長 <10.8>	①後円部南側(後方)②1トレ2J-20G下段	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	人物の鼻、口の周辺の破片である。鼻の幅は狭く、著しく高い。刺突により鼻孔を表現している。口はあまり開かないがやや長い。顎は粘土を貼り、張りを強調している。	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1696	人物 (鈴)	残 付属品 径 3.2 高 < 3.5>	①後円部南 側(後方)② 10トレ2M -17G内堀	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	半円形の粘土で球体を表現し、下半部に孔を表わす一文字状の線刻を施す。繫などの本体に接続していたと考えられ裏の剝離面に2本1単位の幅0.5cm程の粘土紐がみられる。	
1697	人物 (胴部?)	残 破片 高 < 4.8>	①後円部西 側②19トレ 4区中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	小破片、ヨコ方向に平行する2本の線刻がみられる。	
1698	人物 (右腕)	残 破片 長 <12.3> 径 4.2	①後円部南 側(後方)② 10トレ	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	人物の右上腕部で弧をなして屈曲している。	PL131
1699	人物 (髪?)	残 破片 長 < 8.3>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2G -20G中段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	斜下方に外反して張り出している。端部には幅4.8cm、長さ2.3cmの短冊状突起がみられる。裏面には本体からの剝離痕がある。	
1700	人物 (付属品?)	残 破片 高 < 5.2>	①後円部西 側②19トレ 4区中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	残存部は小形のコップ状を呈するが全体像は把握できない。内面は粘土紐を接合し、しぼるように調整している。外面は丁寧にナデている。	
1701	人物?	残 破片 長 < 4.9> 幅 4.2	①後円部墳 頂部~上段 ②1トレ2 E-20G	①A②橙5YR 6/6③良好・普通	一端が舌状に成形されることから下美豆良の先端と考えたが、出土位置を考慮すると、家あるいは器財の破片の可能性も充分考えられる。	PL131
1702	人物 (着衣ある いは韌)	残 破片 高 <11.2>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区 下段	①A②明赤褐 YR5/8③普通・ 普通	直径12.0cm前後の小径をなすと考えられ人物の胴部破片あるいは韌の矢筒部分の破片が想定される。幅2.0cmの薄い粘土帯を張っている。これには約1.0cm間隔でヨコ線を刻み、これに直交し帯の中央を2分する縦位の線刻がみられる。	
1703	人物 (胴部?)	残 破片 高 <12.6>	①後円部西 側②19トレ 4区中段	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	盾持ち人の胴部上位の破片の可能性ある。下位の径が大きく、膨らむ。突帯は断面三角形、この下辺から内彎する2本の弧線が線刻されている。外面はハケメの上に丁寧なナデ、内面は指頭痕を残すナデを施している。	

#### 人物埴輪(58) (第269図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1704	人物 (足部?)	残 破片 長 < 7.8>	①周堀②拡 5外堀	①A②橙2.5 YR6/6③普通・ 普通	幅7.1cm、厚さ1.7cmの板状を呈する破片である。上面の先端には粘土を付加し、指先状に仕上げている。	PL131
1705	人物 (足部?)	残 破片 長 < 8.2>	①周堀②拡 5外堀	①A②橙2.5 YR6/6③普通・ 普通	幅7.5cm、厚さ1.8cmの板状を呈する破片である。先端はやや左側に片寄って延び、上面は1704同様の粘土の付加がある。	PL131
1706	人物 (美豆良)	残 破片 長 < 8.0>	①周堀②拡 5中堤	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	人物の右側の下げ美豆良の下半部である。断面楕円形を呈する。下端は逆Jの字状に屈曲、先端は尖っている。屈曲部分に幅7mm程の粘土紐2本を貼付し髪結の紐を表現している。器面はハケメを施し、部分的にこれをナデ消している。	PL131
1707	人物 (腕)	残 破片 高 < 4.5>	①周堀②8 トレN-7 G外堀~中 堤	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	人物の腕をさしこんだ先端で長径3.7cmの棒状粘土の破片である。成形は粗雑で粘土の接合痕がみられる。	天地不明。
1708	人物 (鞆)	残 破片 径 < 5.6>	①出土地不 詳②F階段	①B②明赤褐 YR5/6③普通・ 普通	裏面に剝離痕を有し、人物に付属する鞆と考えられる。粘土の合わせ目部分は欠損している。器面には先端の尖った棒状工具により刺突文が施されている。	PL131
1709	人物 (上美豆良)	残 破片 長 < 8.0>	①出土地不 明②No36(1)	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	径30mm前後の棒状粘土の中位を強くつまみ、両端の膨らみを強調している。上半は頭部側面に沿って付けられ、下半は屈曲して本体からやや離れていたと思われる。器面は丁寧にナデている。	天地不明。 PL131

人物埴輪—盾持ち人(1)・(2) (第270・271図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1710	盾持ち人	残頭部欠損底 (24.0) 高 <95.4>	①前方部西側②WC—V・VI	①B②明褐7.5YR5/6・にぶい橙7.5YR7/4③普通・普通	本文中参照。	PL92

人物埴輪—盾持ち人(3)・(4) (第272・273図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1711	盾持ち人	残頭部欠損底 (21.9) 高 <84.5>	①前方部西側②WC—IV、WC—V、WC—VI	①B②明赤褐5YR5/8(表上)・明褐7.5YR5/6(表下)、褐7.5YR4/4(裏)③普通・やや軟質	本文中参照。	PL91

人物埴輪—盾持ち人(5)・(6) (第274・275図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1712	盾持ち人(頭部)	残 頭部上半高 <32.0>	①前方部西側②前方W T	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	本文中参照。	PL95
1713	盾持ち人	残 基台部下半欠損高 <92.1>	①くびれ部西側②拡1、1号埴輪・3号埴輪中段・裾排土・Z—15G	①A②明赤褐5YR5/8・黒褐5YR2/1③良好・普通	本文中参照。	PL93・94

人物埴輪—盾持ち人(7)・(8) (第276・277図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1714	盾持ち人	残 頭部・基台部下半欠損高 <58.9> (図上復元)	①くびれ部西側②拡1裾中段11Z—15G排土	①A②橙5YR6/8③良好・普通	本文中参照。	PL95

人物埴輪—盾持ち人(9) (第278図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1715	盾持ち人(顔、左目)	残 破片長 <7.0>	①前方部西側②WC—V・VI	①A②橙5YR6/6③普通・普通	両目の目頭と眼窩上突起が残る。鼻は剥離している。赤色塗彩が施される。	
1716	盾持ち人(耳)	残 破片長 <6.9>	①くびれ部西側②WC4III A	①B②橙7.5YR6/6③普通・普通	径23mmの粘土紐を丸く輪にしている。頭部との接合面は内外から粘土を貼り補強している。	
1717	盾持ち人(耳環)	残 破片径 (6.7)	①くびれ部西側②WC—4	①A②明褐7.5YR5/6③良好・普通	外径67mmを測る。径18~21mmの粘土紐で輪をつくっている。	
1718	盾持ち人(耳?)	残 破片高 <3.9>	①くびれ部西側②鞍部WC T—VI	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	本体から剥離したラッパ状の付属品である。	

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1719	盾持ち人 (盾面)	残 破片 高 < 7.2>	①くびれ部 西側②WC IV	①A ②橙5 YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。盾面の上辺あるいは下辺の一隅と考えられる。器面はハケメに一部ナデが施される。	天地不明。
1720	盾持ち人 (顔)	残 顔面下 半長 < 14.6>	①前方部西 側②WC V ・VI	①A ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	粘土紐を巻上げて作成した頭部・顔面に粘土を貼り顎を作製している。鼻は剥落している。目・口はヘラ状工具で切っている。頸部には首飾の粘土粒の剥離痕が認められる。耳飾りの剥離痕もある。頬に赤色塗彩を施す。	PL94
1721	盾持ち人 (顔)	残 破片 高 < 11.1>	①前方部西 北隅②拡2 堀	①B ②橙5 YR 6/8③普通・普通	本体と接合していた痕跡を残す。板状を呈するが人物の鼻の可能性もある。両側面にはヘラ描きにより渦巻と弧線から構成される文様が配される。両面対称ではない。下端の剥離面寄りの2つの刺突が鼻孔を表現したものと考えられる。	PL94
1722	盾持ち人 (耳)	残 右耳と 側頭部破片 長 < 7.8>	①前方部東 側②前方部 ET	①B ②橙5 YR 6/6③普通・普通	耳は粘土紐を径6.5cm程の円形に丸めてつくっている。下端は開放する。耳孔は径2.0cmの通孔を穿っている。耳環の剥離痕が認められる。外面は一部にハケメ、耳の周辺はナデている。	PL94
1723	盾持ち人 (笠帽?)	残 破片 長 < 5.4>	①前方部東 側②4トレ X-23G下 段	①A ②明赤褐 2.5 YR5/6③普 通・普通	径3.3cmの棒状を呈する。ハケメおよびヘラケズリを施すが、欠損部寄りはナデられている。家の堅魚木の可能性もあるか。	
1724	盾持ち人	残 破片 高 < 7.8>	①前方部西 側②WC T -III	①A ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	筒状あるいは球状の本体に下端の幅3.5cmの帯を巻いている。	
1725	盾持ち人	残 破片 径 ( 9.0)	①前方部西 側②前方W T	①B ②赤褐5YR 4/6③普通・普通	盾持ち人の耳部分である。調整の状況から左耳になるものと思われる。粘土帯を丸めラッパ状に成形している。	
1726	盾持ち人 (顔・顎)	残 破片 長 < 6.0>	①鞍部墳頂 部②鞍部S	①A ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	顎の破片である。本体に粘土板を貼り顎の形状をかたちづくっている。口の切り込みが認められる。顎の下の粘土は襟口を表していると考えられる。盾持ち人か。	
1727	盾持ち人 (盾)	残 破片 高 < 7.0>	①後円部西 側②19トレ 6区下段	①A ②橙7.5YR 7/6③普通・普通	盾面の左上隅と考えられるが、縁部が水平に張り出すことから盾持ち人の破片の可能性もある。前面に弧状の線刻3本がみられる。	

#### 人物埴輪—盾持ち人(10) (第279図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1728	盾持ち人 (右耳)	残 破片 高 < 15.4>	①くびれ部 東側②拡4	①B ②橙5 YR 6/6③普通・普通	頭部本体に粘土帯を貼りラッパ状の耳を成形している。輪の中央には径1.6cmの小孔を穿っている。耳の下位には太い粘土紐を丸く輪にし外径6.0cmの耳環を取り付けている。また耳の後には断面三角形の突帯がみられる。	PL94
1729	盾持ち人 (右耳)	残 破片 高 < 8.4>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪中段	①B ②にぶい褐 5 YR 4/4 ③普 通・普通	人物の右側頭部周辺の破片である。右目尻の一部が残存する。耳は上端の径7.2cmのラッパ状を呈し、径2.0cmの小孔が貫通する。耳の下端には耳環の剥落した痕跡を残す。	PL94
1730	盾持ち人 (盾)	残 破片 高 < 13.4>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪	①B ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	盾面の円筒部から一部翼状に突出する部分の破片である。翼状部分の上端は剥離痕が収束しており、盾持ち人の盾面である可能性が高い。表面はヨコハケ後、ヘラ描きによるタテ方向の沈線で内外に区分し、両区とも鋸歯文を配していると考えられる。	
1731	盾持ち人 (顔)	残 破片 長 < 12.3>	①出土地不 明	①B ②橙5 YR 6/6③普通・普通	大型の顔面に高い鼻がついていたと考えられる。左目は長く、木の葉様に切り込まれる。眼窩上隆起も強い。側面部の移行も強い稜を残し、頬から顎が強調されていたことがうかがわれる。耳の痕跡も一部残存する。	PL94
1732	盾持ち人? (顎?)	残 破片 長 < 4.2>	①くびれ部 東側②拡4 表	①B ②赤褐2.5 YR4/6③普通・ 普通	小径の筒状部分からヨコ方向に1.2cm程鏢状の突出部が付く。外面の一部に赤色塗彩を施している。	外面に黒色の付着物あり。



## 馬形埴輪(1)~(3) (第280~282図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1733	馬	残 頭部欠損 長 <112.4> 高 <143.6>	①前方部西北隅②前方西北隅	① B ② 明赤褐5 YR5/6③普通・普通	本文中参照。	PL132~134

## 馬形埴輪(4) (第283図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1734	馬(顔)	残 頭部破片 長 <10.3>	①前方部西北隅②前方部西北隅	① B ② 橙5 YR 6/8③普通・普通	左頬部分の破片である。円筒形につくった頭部に粘土板を貼り頬骨を表現している。面繋の交差する位置には径4.8cmの円形板を置き辻金具を表現している。その下位には引手壺が残存する。	PL140
1735	馬?	残 破片 高 <7.9>	①前方部西北隅②14トレT-17G上段	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	弧状の線刻に重ねてあるいはこれに沿わせて刺突文を施している。	1733と類似する。
1736	馬(鈴)	残 付属品 径 (4.5) 高 <5.2>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	1733の馬体から剥落したものと思われる。器高を有する半球状を呈し、中空である。鈴口の切り込みの中央に刺突が施される。馬体に接合後基部に粘土紐をめぐらせる。基部に赤色塗彩が残る。	PL140
1737	馬(鈴)	残 付属品 径 (4.7) 高 <4.5>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	1736と同様。	PL140
1738	馬(鈴)	残 付属品 径 (5.1) 高 <5.2>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	1736と同様。	PL140
1739	馬(鈴)	残 付属品 径 (3.9) 高 <4.2>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	馬体から剥落したものと考えられる。球形を呈し、鈴口をへら切りで表現する。中空である。本体との接合に粘土を薄く幅広に貼る。1741が同様の形状を呈す。	PL140
1740	馬(鈴)	残 付属品 径 (4.3) 高 <4.3>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	馬体から剥落したものと考えられる。鈴口をへら切りで表現する。中空で、馬体に接合後基部に粘土紐をめぐらせる。	
1741	馬(鈴)	残 付属品 径 3.9 高 <4.3>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	1739と同様の形状。	
1742	馬(鈴)	残 付属品 径 (4.0) 高 <4.2>	①前方部西北隅②前方部西北端	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	1740と同様の形状。	
1743	馬(鈴)	残 付属品 径 2.8 高 <3.2>	①前方部西北隅②前方部西北端	① A ② 明赤褐5 YR5/6③良好・普通	馬体に付属していたものである。球形を呈するが肩部の張りは弱い。中空である。一部に赤色塗彩が残る。鈴口をへらで切り込んでいる。	
1744	馬(鈴)	残 付属品 径 3.0 高 <3.0>	①前方部西北隅②前方部西北端	① A ② 明赤褐5 YR5/4③良好・普通	馬体に付属したものである。球形を呈する。鈴口はへらにより切られている。中空である。一部に赤色塗彩が残る。	

## 馬形埴輪(5)~(8) (第284~287図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1745	馬	残 ほぼ完形 高 <132.4> 長 <132.0>	①前方部東北隅②掘3中段T-23G・表・掘No 2・No 3、3号・埴輪1号埴輪	① A ② 明赤褐5 YR5/6③普通・普通	本文中参照。	PL135~137

## 馬形埴輪(9) (第288図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1746	馬 (鈴)	残 付属品 高 < 5.0>	①前方部東 北隅②拵3 中段	① A ② 橙5 YR 6/6③良好・普通	1745に付属するか。径6.3cm程で他に比して大型である。中空。鈴口をヘラ切りで表現している。器面は丁寧にナデを施す。	PL140
1747	馬 (鈴)	残 付属品 径 4.3 高 < 3.9>	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	馬装の繫を飾っていたと思われる。中空で側面形は腹部の張る宝珠状を呈する。鈴口はヘラにより横一文字に切り込まれる。この他に中実で本体との接合面がややくぼむ形状を呈するものに1748～1755の8個がみられる。1749・1750はやや大型である。	PL140
1748	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.3 高 < 3.3>	①前方部東 北隅②拵3 T-23G	① A ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	1747と同様。	
1749	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.7 高 3.5	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙2.5 YR 6/6③良好・普通	1747と同様。赤色塗彩を施す。	PL140
1750	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.7 高 < 3.6>	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙2.5 YR 6/6③良好・普通	1747と同様。赤色塗彩を施す。	
1751	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.1 高 < 2.7>	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙5 YR 6/6③良好・普通	1747と同様。赤色塗彩を施す。	
1752	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.0 高 < 2.7>	①前方部東 北隅②拵3 ・No 2	① A ② 橙5 YR 6/6③良好・普通	1747と同様。赤色塗彩を施す。	
1753	馬 (鈴)	残 付属品 径 2.9 高 < 2.7>	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙7.5 YR 6/6③普通・普通	1747と同様。	
1754	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.2 高 < 3.0>	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙5 YR 6/6③良好・普通	1745に付属する。赤色塗彩を施す。	
1755	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.3 高 < 3.1>	①前方部東 北隅②拵3 ・No 2	① A ② 橙5 YR 6/6③良好・普通	赤色塗彩を施す。	
1756	馬 (飾り)	残 付属品 径 2.0 高 1.1	①前方部東 北隅②拵3	① A ② 橙2.5 YR 6/6③普通・普通	馬の繫の付属品である。繫飾りを表現したものと考えられる。	PL140

## 馬形埴輪(10)・(11) (第289・290図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1757	馬 (頭部～胸部)	残 頭部 ～胸部 長 <73.0> 高 <54.1>	①前方部東 側②前方E T	① B ② 明赤褐5 YR5/8③良好・ 普通	本文中参照。	PL138

## 馬形埴輪(11) (第290図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1758	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.8 高 < 3.9>	①前方部東 側②前方E T	① A ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	本体から剝離した痕跡がある。径42×39mm、高さ40mmを測る。中実で、鈴口をヘラ切りで表現している。	PL140
1759	馬 (胴部?)	残 破片 高 < 9.7>	①前方部東 側②前方部 E T	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	胴部破片と考えられる。タテ方向のハケメに2本1単位のヘラ描き沈線による円弧を重ねている。	PL140

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1760	馬? (不明)	残 破片 高 <13.9>	①前方部東 側②前方部 E T	① A ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	本体はドーム状を呈するか。幅23mmの扁平な粘土紐 2本が垂下する。	PL140
1761	馬 (胴部)	残 破片 高 <12.3>	①前方部東 側②前方部 E T	① B ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	胸繫部分の破片である。胴部本部に幅5.0cmの粘土板を薄く貼っている。ヘラ描き沈線により中央を横線で二分し馬に向かって右に頂部を有する矢羽根状の文様を刻んでいる。	PL140

#### 馬形埴輪(12)・(13) (第291・292図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1762	馬 (鞍～後脚)	残存尻部 高 <45.0>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① B ② 明赤褐 5 YR5/6③普通・普通	本文中参照。	PL139
1763	馬 (脚?)	残 破片 径 20.5 高 <18.6>	①前方部東 側②3トレ V-23G 墳 丘面	① B ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	脚の上位、胴部への移行部分の破片である。外形・調整の状況から後左脚と想定される。外面はタテ方向のハケメを施し、一部に粗雑なナデが認められる。内面はナナメ、あるいはタテ方向にナデている。	PL139
1764	馬 (脚?)	残 破片 径 19.0 高 <15.9>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① B ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	脚部の上位、胴部への移行部分の破片である。外形・調整の状況から右前脚と想定される。外面はタテ方向のハケメ、内面にはヨコ方向のハケメとタテ方向のナデが認められる。	PL139

#### 馬形埴輪(13) (第292図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1765	馬 (鈴)	残 付属品 径 4.0 高 <4.4>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① A ② 橙 7.5 YR 6/6③普通・普通	本体と付属する鈴である。側面形は無花果形に近い。中実でヘラで鈴口を切り込んでいる。	
1766	馬 (鈴?)	残 付属品 径 3.9 高 <3.1>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① B ② 赤褐 5 YR 4/8③普通・普通	本体に装着する破片である。側面は宝珠形を呈する。中実で鈴口をヘラで切り込んでいる。	
1767	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.9 高 <5.0>	①前方部東 側②3トレ V-23G 表 土中	① A ② 明赤褐 5 YR5/6③普通・普通	繫に装着された鈴である。側面形状が球形でなく無花果状を呈している。中実で鈴口がヘラにより切り込まれている。1762に装着されていたか。	
1768	馬 (鈴)	残 付属品 径 4.2 高 <4.7>	①前方部東 側②3トレ V-23G	① A ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	装着の位置に関係するのかわ平面形・側面形とも歪みが著しい。中実で、鈴口はヘラで切り込まれている。	
1769	馬 (鈴)	残 付属品 径 4.8 高 <7.1>	①前方部東 側②3トレ V-23G 表 土中	① A ② 明赤褐 5 YR5/6③普通・普通	馬の繫に装着された鈴である。中実で、鈴口はヘラによって切り込まれている。	PL139
1770	馬 (辻金具)	残 破片 幅 2.7	①前方部東 側②3トレ V-23G 表 土中	① A ② 橙 5 YR 7/8③普通・普通	長方形の粘土板である。馬装の辻金具あるいは雲珠の脚を表現したものと考えられる。上面の粘土粒は鋸を表わしているのであろう。	PL139

#### 馬形埴輪(14) (第293図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1771	馬 (尻繫)	残 破片 高 <20.0>	①前方部東 側②3トレ V-23G 墳 丘面	① B ② 明赤褐 5 YR5/6③普通・普通	胴部破片と考えられる。尻繫 2本が残存し、うち 1本にはヘラ描き沈線による矢羽根状の文様が刻されている。	PL140

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1772	馬 (鞍)	残 破片 高 <13.8>	①前方部東 側②3トレ V-23G表 土中	①B②赤褐5YR 4/8③普通・普通	やや彎曲する本体に粘土を貼り平滑な面を成形している。内外面の調整は工具が異なる。残存部下端には列点文と山形のヘラ描き文が配されている。赤色塗彩が施される。	PL140
1773	馬 (尻繫)	残 破片 高 <16.1>	①前方部東 側②3トレ V-23G	①B②赤褐5YR 4/8③普通・普通	胴側部の破片と考えられる。縦横2本の尻繫が残存する。横位の繫はヘラ描き沈線による文様が刻まれている。垂下する繫は雲珠からのものか中位に端部を有する。赤色塗彩が施される。	PL140
1774	馬 (尻繫)	残 破片 高 <15.3>	①前方部東 側②3トレ V-23G東 上段~中段 表中土	①B②明赤褐 2.5 YR5/8③普 通・普通	胴側部の破片か。尻繫を表現した粘土帯が縦横に貼り付く。下位のヨコ方向の繫にはくの字状のヘラ描きの文様が刻まれる。	

### 馬形埴輪(15) (第294図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1775	馬 (頭部)	残 破片 長 <33.3>	①前方部西 側②前方W T	①B②明赤褐 2.5 YR5/8③普 通・普通	本文中参照。	PL141
1776	馬 (頭部)	残 破片 長 <34.4>	①前方部西 側②前方W T、WC T VI	①B②明赤褐5 YR5/8③良好・ 普通	馬の顔面、右側の頬骨周辺の破片である。円筒状の本体の側面に板状の粘土を接合している。目・口の切り込みの一部を残す。面繫は鼻革・頬革・顎革を幅8mm、高さ8mmの粘土紐を貼り付けている。各革はヘラ描き沈線により矢羽根状の文様を施されている。辻金具の表現がない。頬革と鼻革の接続の状況からは鏡板も表現されていなかった可能性がある。頬革の下位には幅11mmの粘土紐により手綱が表現されて、ナナム方向にヘラ描きの刻みが施されている。外面には赤色塗彩が施されている。	PL141
1777	馬 (胴部)	残 破片 高 <11.2>	①前方部西 側②前方W T	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	馬の胴体、腹部の破片と考えられる。内面に粘土を貼りだし補強をしている。	
1778	馬 (帯)	残 破片 幅 3.1 厚 0.6	①前方部西 側②3トレ V-14G西 内堀下段表 ~墳面	①A②赤褐2.5 YR4/8③普通・ 普通	幅31mmの板状粘土の破片である。馬装の繫を表現したと考えられ本体から剝離した痕跡がみられる。	
1779	馬? (繫?)	残 破片 幅 3.8	①前方部西 側②4トレ X-14G周 堀内	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	断面台形状の薄い粘土板で、厚さ1.0cmを測る本体から剝離している。表面にハケメを施すが器面が粗れ、残存していない。	
1780	馬 (口先)	残 破片 長 <9.5>	①前方部西 側②前方W T	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	馬の口先部分である。筒状に成形した本体部分は側面に剝離痕がみられ頬骨の粘土板が接合していたと考えられる。上位には径17mmの鼻孔が残存する。	PL141
1781	馬 (たて髪)	残 破片 高 <13.4>	①前方部西 側②前方W T	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	厚さ1.5cmの板状の粘土に両側から補強をして頭~頸部本体と接合している。割口近くに剝離がみられ、これが面繫の上端にあたると思われる。器面は両面ともハケメを施し、赤色塗彩を施したと思われる。	PL141
1782	馬?	残 破片 高 <13.6>	①前方部西 側②前方W T	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	上下方向に緩やかに彎曲する破片である。ヨコ方向に断面三角形の突帯を貼る手綱の可能性ある。(馬の首の部分の破片か?)	PL141
1783	馬 (脚?)	残 破片 径 (20.6) 高 <18.6>	①前方部西 側②前方W T	①B②赤褐5YR 4/6(表)、にぶい 赤褐5YR4/4(裏) ③普通・普通	外面はタテ方向のハケメを施し、一部をナデ消している。内面はタテあるいはナナムタテ方向にナデている。	器面の剝離した下層に布目圧痕がみえる。

## 馬形埴輪(16) (第295図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1784	馬 (脚)	残破片 径 (17.5) 高 <26.3>	①前方部西側②前方WT	①B②明赤褐5YR5/6(表)、にぶい赤褐5YR4/4(裏)③普通・普通	外面はタテハケ、内面はタテ方向のナデを施す。	
1785	馬 (脚)	残破片 高 <18.9>	①前方部西側②前方WT	①B②赤褐5YR4/6③普通・普通	器肉厚い。外面はタテ方向のハケメを施す。内面はナナメタテ方向に粗いナデを施す。	黒色の付着物あり。
1786	馬 (脚)	残破片 高 <26.3>	①前方部西側②前方WT	①B②赤褐5YR4/6③普通・普通	外面はタテ方向のハケメ、内面はタテ方向のナデを施す。	黒色の付着物あり。
1787	馬 (脚)	残破片 高 <9.8>	①前方部西側②前方WT	①B②赤褐5YR4/6③普通・普通	上位がやや外反ぎみになり、付け根に近い破片と思われる。外面タテハケ、内面、ハケメにナデを重ねている。	
1788	馬 (顔)	残破片 長 <23.1>	①前方部西北隅②前方部西北端、拡2	①B②橙5YR6/6③普通・普通	頬骨部分の破片である。上位から垂下する面繫は下端に鈴が付いていたか。これに重なり、太さ12mmの粘土紐で引手が表現されている。外面に三角形の赤色塗彩が施される。	PL141
1789	馬? (胴部)	残破片 高 <8.3>	①前方部西北隅②前方部西北端	①B②赤褐5YR4/6③普通・普通	ヨコ方向に弱く彎曲する破片である。外面はハケメ後それをナデ消し、赤色塗彩による円文を施している。	
1790	馬 (脚)	残破片 高 <11.1>	①前方部西北隅②拡2	①B②橙5YR6/8③普通・普通	小径の円筒状を呈する。外面タテハケ、内面、ハケ、ナデを施す。	
1791	馬	残破片 高 <12.7>	①前方部西北隅②15トレQ-17G下段	①B②橙5YR6/4③普通・普通	緩やかに彎曲する破片である。器肉が1.7cm前後と厚い。底幅4.0cmの粘土帯が貼り付けられている。馬の胴部破片で繫の一部が残存したものと考えられる。	
1792	馬 (蹄表現の切り込み)	残破片 高 <11.6>	①前方部西北隅②拡2	①B②橙5YR6/6・にぶい黄褐10YR5/4③普通・普通	下端に蹄の切り込みの一部が残存する。外面タテハケ、内面はナナメタテ方向にナデている。	PL141
1793	馬 (蹄表現の切り込み)	残破片 高 <5.7>	①前方部西北隅②拡2	①B②橙5YR6/6③普通・普通	外面タテハケ、内面ナデを施す。下端に蹄の切り込みが認められる。	

## 馬形埴輪(17) (第296図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1794	馬 (右側顔下部)	残破片 長 <18.5> 幅 <8.8>	①前方部中央(前面)②1トレR-20・S-20G下段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	頭部は本体の下端に貼付した粘土板により顎を表現している。口先は粘土板に切り込みを加え、上顎との境を作っている。面繫は幅2.5cmの粘土帯の貼付により、口先から9.0cm入った帯の交差部分には径4.7cm、円形の粘土板による辻金具が配されている。鏡板は剥落しその痕跡を残す。引手はほとんど剥落しているがその痕跡から幅0.6cmの粘土紐が想定される。	PL142
1795	馬 (辻金具)	残破片 高 <4.7>	①前方部中央(前面)②1トレR-20G下段	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	面繫と思われる粘土帯に径5.3cmの円形粘土板を重ねている。径1.5cmのつまみ状の突起が付いている。	PL142
1796	馬 (左側顔下部)	残破片 長 <8.8>	①前方部中央(前面)②1トレS-20G中段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	顎骨の破片である。本体に粘土板を貼付し、顎を表現している。幅0.8~1.0cmの粘土紐を貼付し引手としている。外面にはナナメあるいはヨコ方向のハケメを残す。	
1797	馬 (鞍)	残破片 高 <7.8>	①前方部中央(前面)②1トレS-20G中段	①A②橙5YR6/8③普通・普通	前輪あるいは後輪の破片である。粘土板を本体に垂直に貼付し、その両側を別の粘土で補強している。	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1798	馬 (胴部破片?)	残破片 高 < 11.5>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	外面にハケメ、内面はハケメ後一部をナデ消している。	
1799	馬 (尻繫)	残破片 高 < 8.6>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	胴部本体に幅2.5cmの粘土帯を貼り付け尻繫を表現する。横位にめぐり繋とこれから直角方向に分岐する2本が認められる。分岐点に円形粘土板の剥離痕がある。ヨコ方向の繋には房状の粘土紐が付いていたか。内面には一部にハケメを残す。	PL142
1800	馬 (尻尾から右腰)	残破片 高 < 10.3>	①前方部中央(前面)② 1トレス- 20G中段	①A②橙5YR 5/8③普通・普通	尻尾は中空で、周囲をめぐり尻繫の剥離痕がみられる。この下位には胴部を横位に走る尻繫が幅2.0cmの粘土帯で表現される。中位の剥離痕は鈴が貼付していたか。また、この帯には房飾りが付き、2箇所確認できる。外面の尻繫から下位はタテ方向にハケメ、内面はナデを施している。	PL142
1801	馬 (繫)	残破片 高 < 6.9>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①A②明赤褐 YR5/6③普通・普通	孤状をなす破片、外面に繋と思われる剥離痕が認められる。内外面ともハケメを施す。	
1802	馬 (胴部尻繫)	残破片 高 < 8.3>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	幅0.8cmの粘土紐が逆U字状を呈する。尻繫に付けられた房飾りと考えられる。外面はタテ方向のハケメ、内面はナデている。	PL142
1803	馬 (脚部?)	残破片 高 < 12.3>	①前方部中央(前面)② 1トレス- 20G中段	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	横断面は緩やかに彎曲する。外面はタテ方向に7本/2cmの粗いハケメ、内面は残存上位をナデ、下位はハケメである。	
1804	馬 (鞍褥)	残破片 長 < 6.5>	①前方部中央(前面)② 1トレス- 20G下段	①A②明赤褐 YR5/8③普通・普通	薄い粘土板、裏面には剥離痕が残る。表面には線刻による斜格子文様が描かれている。外面にはハケメを弱く残す。	
1805	馬 (鞍)	残破片 高 < 5.5>	①前方部中央(前面)② 1トレス- V(注記誤りか)	①A②にふい赤 褐YR5/3③普通・普通	鞍部分の破片と考えられる。外面は鞍褥が剥離した痕跡が認められる。内外面ともハケメを残す。	

### 馬形埴輪(18) (第297図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1806	馬 (左首~鞍、前輪)	残破片 高 < 23.2>	①後円部南側(後方)・ 前方部中央(前面)② 1トレQ-20 G・S-20 G・2J- 20G	①A②明赤褐 YR5/8③普通・普通	鞍の前輪は本体に厚さ2.0cm前後の粘土板をほぼ垂直に取り付けている。両輪の間には薄い粘土板を本体に合わせて貼り、鞍褥が表現され、1820同様の線刻文様が構成されていたと考えられるが欠落している。前輪に接して2本1単位の幅0.6cm程の粘土紐が垂下している。力革を想定できる。その右側にも幅1.5cmの粘土紐が垂下する。調整は首部分にナメ方向のハケメを施す。内面にも粗いハケメとナデを残している。	PL142
1807	馬 (左側鞍後輪~胴部)	残破片 高 < 22.3>	①前方部中央(前面)② 1トレQ~ S-20G	①A②明赤褐 YR5/6③普通・普通	鞍は後輪の左下端が認められている。鞍褥も本体から剥落している。側面には後輪に接して幅0.9cmの粘土紐が2条平行して垂下している。尻繫は後輪から出て胴部を横位にめぐり1本と、これから分岐し、背中を越えるもの2本がみられる。幅2.0cmの粘土帯を本体に貼り付けている。横位の繋には幅0.8cm程の粘土紐を房状に取り付けた装飾が3箇所確認された。外面は上位をヨコ方向に下位をタテ方向にハケメが施されている。内面には外面と同様のハケメとナデである。	PL142

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1808	馬 (尻繫)	残 破片 長 <17.2>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20・S-20 G下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	背中から尻尾にかけての破片である。雲珠から放射状に伸びた3本の尻繫が残る。中央の尻尾に向かう帯は幅1.5cm、先端がやや広がってとまる。その両脇の一本は尻尾をまいて一本になると考えられ、径3.0cmの中空造りの鈴が各1個貼付されている。内面はヨコ方向にナデている。	PL142
1809	馬 (胴部)	残 破片 高 <17.4>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G・S- 20G下段	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	外面、タテ方向のハケメ。内面はタテ方向のハケメ後残存部上位にナデを重ねている。	
1810	馬 (鞍)	残 破片 長 <12.3>	①前方部中央(前面)② 1トレQ- 20G・R- 20G	①A②にふい赤 褐5YR5/3③普通・普通	鞍本体の破片であるが、鞍褥は剥落している。外面にはハケメを、内面には粗雑なナデで施す。	
1811	馬 (皮帯)	残 破片 幅 2.2	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	幅2.0cm粘土帯で本体から剥落している。面繫の一部と考えられる。外面にハケメを施す。	
1812	馬 (皮帯)	残 破片 幅 2.3	①前方部中央(前面)② 1トレQ- 20G	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	本体に貼り付けられた板状の粘土帯の一部である。外面はナデ調整が施される。	
1813	馬 (脚部)	残 脚部下 半 高 <37.1>	①前方部中央(前面)② 1トレS- 20G・T- 20G	①A②橙5YR 6/8③良好・普通	脚の脚下半部と考えられる。底径約14~15cmの円筒状で、上位においても大きな変化はない。底面から7.0cm上位に外径3.8cmの円形の透孔が穿ってある。これを蹄の切り込みの変形と考えたい。外面はタテ方向、下から上に比較的長いタッチのハケメを施す。内面はヘラナデ、ハケメがみられる。外形は小さな凹凸がみられるが、内面の輪積痕は下半をのぞいてほとんど残っていない。	PL142

### 馬形埴輪(19) (第298図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1814	馬 (耳~引手)	残 破片 高 <11.3>	①前方部中央(前面)② 1トレP- 20G	①A②橙2.5YR 6/6③良好・普通	頭部左側面の破片である。眼孔の一部が残存していた。周囲は若干盛り上がっている。内面は指頭によりナデている。面繫は幅2.5cmの粘土帯の貼付によるもので、これに径2.5cmの円形板を重ねている。引手は幅1.5cmの粘土紐を貼り付ける。内面の一部にハケメを残す。	PL142
1815	馬 (胸繫?)	残 破片 高 <9.5>	①前方部中央(前面)② 前方NT- VII	①A②明赤褐 5YR5/6(表)、赤 褐5YR4/6(裏) ③普通・普通	本体に横位に幅45mm・厚さ5mmの粘土板を貼り、さらに鈴を付属させている。鈴はやや高さの減じた球形を呈している。中空である。馬の胸繫の一部と考えられる。	PL141
1816	馬 (鏡板?)	残 破片 径 (5.4)	①前方部中央(前面)② 前方CT中 段	①A②明赤褐 5YR5/6③普通・普通	付属品であり裏面に剝離痕を残す。幅1.3cmの粘土紐をリング状に合せている。	PL143
1817	馬 (鏡板)	残 破片 径 (5.9)	①前方部中央(前面)② 前方CT中 段	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	付属品、裏面に本体からの剝離痕を残す。径1.3cmの粘土紐を丸くリング状に合せている。	PL143
1818	馬 (胴部)	残 破片 高 <4.8>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①A②橙2.5 YR6/6③良好・普通	ヘラ切りによる径3.5cmの穿孔がある。外面はタテ方向のハケメ、内面はハケメを消しながらヨコ方向のナデである。	
1819	馬 (胴部)	残 破片 高 <15.0>	①前方部中央(前面)② 前方NIX	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・普通	馬の胴部の破片と考えられる。外面に幅3.2cmの薄い粘土帯を貼り、その上に径2.6cmの薄い円形の粘土を間隔を保ち重ねている。	天地不明。 PL141

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1820	馬 (鞍褥)	残 破片 高 < 9.0>	①前方部中央(前面)② 1トレQ- 20G	①A②橙2.5YR 6/8③普通・普通	薄い粘土板を本体に貼り付け、胴部の丸みに沿わせている。一端をL字状に折り曲げ、前輪(後輪)に合わせて立ち上げている。外面には線刻により文様を表現している。内面には5本/2cmの粗い単位のハケメを施す。	PL142
1821	馬 (胴部?)	残 破片 高 < 14.8>	①前方部中央(前面)② 1トレS- 20G中段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③良 好・普通	緩やかに彎曲する。外面はタテ方向にハケメを、内面はタテ方向のハケメをナナメ方向にナデている。	
1822	馬 (障泥)	残 破片 高 < 7.6>	①前方部中央(前面)② 前方NTX	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ やや軟質	本体に幅18mmの薄い粘土帯を貼り区画をしている。区画内にはヘラ描き沈線により格子状文が配されていると思われる。馬の障泥部分か。	
1823	馬 (股間)	残 破片 高 < 4.5>	①前方部中央(前面)② 1トレS- 20G中段~ 上段	①A②にぶい橙 2.5YR4/6③良 好・普通	脚部はその上端の径を除々に増し、互いをよせかけるようにして接合されており、両者の間に平坦面は残存していない。脚部外面は単位の粗いハケメを、股間は細いハケメを施している。内面はヨコ方向のハケメ後一部に削りを加え器形を整えている。	
1824	馬 (障泥?)	残 破片 高 < 5.5>	①前方部中央(前面)② 前方NT- X	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	本体に幅27mm以上の薄い粘土帯を貼り、その上に円形の粘土板を重ねている。	
1825	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.2 高 3.0	①前方部中央(前面)② 1トレI・ S-20G	①A②橙5YR 6/8③良好・普通	馬に付属するか。鈴口はヘラ描きされる。中空である。赤色塗彩を施す。	
1826	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.3 高 < 3.3>	①前方部中央(前面)② 1トレR- 20G下段	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	中空の造りである。尻繫に貼付されていたか。	

#### 馬形埴輪(20) (第299図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1827	馬 (鈴?)	残 付属品 径 5.7 高 < 7.5>	①前方部中央(前面)② 前方NT	①A②明赤褐5 YR5/8(表)、に ぶい黄褐10YR 4/3(裏)③普 通・普通	本体から剥離している。大形の鈴である。球形の体部の肩部分に粘土紐を巻き付け、薄い粘土板に貼り付けている。鈴口はヘラ状工具で深く刻まれている。中空である。	PL143
1828	馬 (鈴)	残 付属品 径 4.3 高 < 4.0>	①前方部中央(前面)② 1トレS- 20G中段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	尻繫を飾ったか。中空のつくりである。1826や1828よりも大径である。鈴口の線刻は中位が内面に貫通している。赤色塗彩を施す。	PL142
1829	馬 (鈴)	残 付属品 径 3.5 高 < 3.6>	①前方部中央(前面)② 1トレS- 20G中段	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	尻繫を飾っていたか。中空のつくりである。ヘラ描きにより鈴口を表現している。	

#### 馬形埴輪(21) (第300図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1830	馬	残 破片 長 < 6.4>	①前方部東北隅② ③	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	口先の下半部の破片である。口先は円筒状に成形されており、先端は補強粘土を貼り整形している。左右には頬骨の一部が板状に表現されているものが残存する。	PL143
1831	馬 (鈴)	残 付属品 径 ( 5.3) 高 < 5.0>	①前方部東北隅② 前方部東北端T	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	大形の鈴の破片で本体に付属していた痕跡がある。中空で、鈴口は貫通している。器面は丁寧にナデられている。	



No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1832	馬 (脚)	残 破片 底 (13.0) 高 <13.1>	①前方部東 北隅②前方 東北端	①A②明黄褐10 YR6/6・橙7.5 YR6/6(表)、橙 7.5YR6/8(裏) ③普通・普通	脚の破片で、底面から三角形の切り込みを入れて蹄を表現している。	器面は粗れている。 PL143
1833	馬 (脚)	残 付け根 付近 径 (16.0) 高 <20.0>	①前方部東 北隅②前方 東北端T・ I 拡3前方 ENTレ	①A②明赤褐5 YR5/8(表)、明 赤褐5YR5/6(裏) ③普通・普通	小径の円筒形を呈し、付け根部分で、腹部に向かって大きく彎曲している。外面はタテハケ、内面はタテハケ後ナデを重ねている。器面の状況からは左前脚あるいは右後脚と考えられる。	器面の磨滅 が著しい。
1834	馬 (脚)	残 蹄周辺 底 (13.5) 高 <25.4>	①前方部東 北隅②前方 東北端I	①A②明赤褐5 YR5/8・赤褐5 YR4/6(表)、明 赤褐5YR5/6(裏) ③普通・普通	本文中参照。	器面は粗れ ている。 PL143
1835	馬 (前脚)	残 付根～ 蹄 底 (13.4) 高 <55.0>	①前方部東 北隅②前方 東北端トレ ンチ	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	本文中参照。	器面は粗れ ている。 PL143
1836	馬	残 破片 高 <12.0>	①前方部東 北隅②拡3 中段	①A②橙5YR 6/6③良好・普通	内彎ぎみに丸みをもって立ち上がる破片である。上下方向に幅3.6cmの粘土帯を貼っており、馬の繋を表現したものと考えられる。	
1837	馬 (尻尾)	残 破片 長 <7.0>	①前方部東 北隅②前方 東北端	①B②橙5YR 6/8・明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	断面楕円形に近い筒状を呈し、不整形な端部をもつ。中央からやや片寄った位置に、貫通孔がある。棒状の補強材をさし込みそのまま焼成した可能性がある。	器面は粗れ ている。 PL143

### 馬形埴輪(2) (第301図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1838	馬 (鞍)	残 破片 高 <23.8>	①前方部東 北隅②前方 部東北端I	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	馬の鞍の部分、前輪の右側が残存したものである。厚さ15mm前後の板状粘土を胴部からほぼ垂直あるいはやや後方にたおして接合していると思われる。周縁は上位がやや弧状をなし、いわゆる爪先は胴部に沿って下に長く続いている。前面にはたて髪は接合痕を残している。器面は両面ともハケメを施し、周縁部をナデている。	外面に黒色の の付着物あり。 PL143
1839	馬?	残 破片 高 <9.3>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G 墳頂部	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	筒状を呈すると思われるが、断面形は上方に向かって外反、径が大きくなる。外面はハケメ、残存部上半は粗雑にナデられている。	
1840	馬 (股間)	残 破片 高 <6.9>	①くびれ部 東側②拡4 中段	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	脚の最上位の破片である。外側に腹部との接合を補強する粘土塊が足されている。	
1841	馬 (障泥)	残 破片 高 <5.9>	①前方部東 側②3トレ 墳丘東側部 分	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	胴左側、前輪寄りの下端部破片である。縁部は幅2.5cm程にわたり厚さ5mm程の粘土帯を貼付、縁取りを表現している。	PL143
1842	馬? (耳?)	残 破片 長 <8.6>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ やや軟質	内径1.7cmを測る筒状を呈し、上端はナナメ方向に切り込まれている。残存部下端は本体との接合痕を残している。形状からは馬の耳が想定できるが外面に一部粘土を肥厚させ弱い稜をなす点がやや特異である。	器面の剝離 著しい。 PL142
1843	馬?	残 破片 高 <10.7>	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	本体は内彎ぎみに立ち上がる。馬の胴体の一部と考えられ、外器に垂下する幅37mmの粘土帯は尻繋の一部を表現したもので下端の剝離痕には付属品(鈴など)が付いていたと思われる。	

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1844	馬 (引手)	残破片 幅 1.4	①前方部東側②3トレV-23G周堀内	①A②橙5YR6/6③普通・普通	粘土紐の破片、引手の一部か。	
1845	馬 (鍔・障泥)	残破片 高 <13.5>	①外堀②3トレV-6G外堀内	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	障泥は胴部側面に9.0cm程の粘土板を付け足してつくられている。側縁と下端には幅2.0cm程の粘土帯を貼り付け縁取りを表現している。外面はタテ方向のハケメ上に格子目状の線刻を重ねている。鍔は鉄製の輪鍔を模したもので幅1.0cmの粘土帯で外径8.0cm程と推定される環を形成している。内面には脚部との接合痕がみられ、残存部分が胴の左側面、前輪寄りの下端の破片であることがわかる。	PL144
1846	馬 (鞍?)	残破片 高 <6.8>	①後円部東側②7トレG-24G井戸下段	①A②橙5YR6/6③普通・普通	板状の本体から垂直方向に張り出す粘土帯が接続している。	
1847	馬? (繫)	残破片 幅 4.9	①前方部墳頂部②4トレX-21G上段	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	幅広の繫と思われ本体から剥離している。厚さ1.0cmを測る各面ともナデている。	黒色の付着物あり。
1848	馬 (胸部)	残破片 高 <12.9>	①後円部墳頂部~上段 ②後円ST	①A②明褐7.5YR5/6③普通・普通	ヨコ方向に緩やかに彎曲する大形破片である。幅3.2cmの低い粘土帯を横位に貼る。帯上には径6.3cmの中空の鈴が貼り付けられている。外面にはタテハケを施す。	PL144
1849	馬?	残破片 高 <2.3>	①前方部東側②3トレV-23G上~中段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	本体に貼り付けられた粘土帯の小破片である。稜線に沿って2・3mm間隔で刺突が施されている。	
1850	馬? (繫)	残破片 幅 2.8	①前方部東側②4トレX-23G下段	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	上幅2.5cm、厚さ0.7cmの粘土板、本体から剥離した痕跡がみられる。	

### 鳥形埴輪 (第302図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1851	鳥	残 嘴欠損 長 <8.5> 幅 3.2 高 <5.3>	①前方部東北隅②前方部東北端T・I	①A②明赤褐2.5YR5/6③良好・普通	本文中参照。	PL144
1852	鶏	残 頭部 長 <6.1> 高 <5.4>	①後円部墳頂部~上段 ②石室上部	①A②明褐7.5YR5/6③普通・普通	偏平な顔の形状を呈する。中実である嘴は細くつままれて突出、ヘラで上下に切り分けられている。目は竹管状の刺突により表出されている。肉垂は粘土を貼り膨らみをだしている。一部に赤色塗彩が残存する。	PL144
1853	鶏	残 頭部 長 <6.9> 高 <5.1>	①くびれ部東側②拡4中段	①A②赤褐2.5YR4/6③普通・普通	中実である。全体に偏平な成形である。目は径7mmの竹管押圧による。嘴は上部が欠損するがヘラで切れ込みが入れられている。とさかは欠損している。全体にナデ調整を施している。	PL144
1854	鳥 (足~基台部)	残破片 径 (18.6) 高 <11.8>	①前方部中央(前面)②前方NT-IV	①B②明赤褐5YR5/6(表)、明赤褐5YR5/8(裏) ③普通・普通	鳥の足部である。棒状の粘土をつかむように3本の粘土紐が貼られている。粘土棒は円筒部に孔を明け、外側から柄状にさしこまれ、接合部分をナデている。	PL144

形象埴輪の基台部(1) (第303図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1855	基台部	残 基台部 1/3 底 (26.3) 高 <26.8>	①前方部西 北隅②前方 部西北端	① B ② 赤褐2.5 YR4/6③良好・ 普通	小径の円筒で形象の基台部と考えられる。形状は底面近くが著しく歪んでいる。底面から10.0cm程の高さの上基部をつくり、その後10.0cm程を作業単位に粘土紐を積み上げている。底面から26.0cmの位置に円形の透孔を穿っている。外面はタテハケ、内面はタテ方向にナデを施している。	器面に黒色の付着物あり。PL145
1856	基台部	残 破片 径 (19.2) 高 <11.2>	①前方部西 北隅②拡2	① B ② 赤褐5YR 4/6③普通・普通	外面タテハケ、内面ハケメとナデを交える。	PL145
1857	基台部	残 破片 底 (26.0) 高 <16.7>	①前方部東 北隅②前方 東北端III	① B ② 明赤褐5 YR5/6(表)、赤 褐5YR4/6(裏) ③普通・普通	調整は外面がタッチの弱いタテハケ。内面がナナメ及びタテ方向のナデを施している。	内面に黒色の付着物あり。PL145
1858	基台部	残 下位破 片1/4 底 (34.8) 高 <14.3>	①前方部東 北隅②前方 部東北T— I	① B ② 明赤褐5 YR5/8・明赤褐 5YR5/6(表)、 赤褐5YR4/6(裏) ③普通・普通	基台部は横長楕円形を呈すると思われる。双脚人物の基台部と考えられる。底面から10.0cmの高さまでの基部として成形している。外面はタテハケ後底面間近に突帯をめぐらしている。側面に円形の透孔を配している。内面は下端に押圧痕を残す他はタテハケを施している。	PL145
1859	基台部 (または馬 の足)	残 基部1/ 3 底 (17.0) 高 <17.5>	①前方部中 央(前面)② 前方NT— VI	① A ② 赤褐5YR 4/6③普通・普通	外面、タテハケ。内面はナナメタテハケ後、部分的にナデを施す。	器面は粗れている。PL145
1860	基台部	残 基部下 位 底 (29.0) 高 <14.6>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪	① A ② 橙5YR 6/6③良好・普通	歪みが著しい。下端も重量のためか外面に反りが生じている。外面タテハケ後底面から2.8cmに突帯を配する。内面は丁寧なナデ、部分的にナナメハケを重ねる。	PL145
1861	基台部	残 破片 径 (17.3) 高 <11.1>	①くびれ部 東側②17ト レ4区上～ 中段	① B ② 明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	外径17.3cmを復元する円筒状を呈する。突帯は断面台形で中央がくぼんだ形状をである。外面にはタテハケ、内面にはタテ方向のナデを施す。突帯下位の胴部に透孔が穿たれている。円形を呈するか。	
1862	基台部	残 基台部 下半 底 (21.2) 高 <21.6>	①くびれ部 東側②5ト レY—22G	① A ② 明赤褐 2.5YR5/6③良 好・普通	幅9.0cmの粘土板で基部を作製、その上に粘土紐を巻き上げている。外面タテハケ。底面から7.0cmのところ調整の端部が認められる。内面は丁寧なナデを施す。	内面黒色の付着物あり。PL145
1863	基台部	残 破片 径 (26.6) 高 <13.8>	①前方部埴 頂部②3ト レV—20G 埴頂面	① A ② 橙5YR 6/8③普通・やや 軟質	円筒の最下位に断面三角形の突帯を貼り付け肥厚させている。外面はタテ方向のハケメ、内面にはナデを施している。	外面は粗れている。

形象埴輪の基台部(2) (第304図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1864	基台部?	残 破片 長 <12.0>	①後円部西 側②19トレ 6区下段	① A ② ぶい橙 5YR6/4③普 通・普通	幅1.5cm程の粘土紐を隅丸の短形に積みあげ、その後四隅に補強し、精美に成形していると考えられる。外面にはタテ方向のハケメを充填している。	PL145
1865	基台部	残 破片 径 (16.6) 高 <9.2>	①後円部南 側(後方)② 10トレ	① A ② 橙2.5 YR6/8③普通・ 普通	円筒状の胴部に、張り出しの弱い、断面台形の突帯がめぐる。残存部右端に直線状の切り込みがあり、方形あるいは棒状の透孔が配されていたか。	PL145
1866	基台部	残 底部破 片 高 <14.8>	①後円部西 側②BT— II	① B ② 明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	板状を呈するが、円筒埴輪が著しく歪んだ可能性もある。外面タテハケ後突帯貼り付けを行う。突帯の断面はM2である。内面もタテハケを施す。突帯の上位に透孔の残存がみられる。	PL146
1867	基台部	残 破片 径 (10.0) 高 <18.3>	①後円部西 側②C—2 —VI、B— 1	① B ② 明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	小径である。残存の端部に小円形の透孔が穿たれている。器面の調整は外面タテハケ、内面タテ方向のナデを施す。	器面に黒色の付着物あり。

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1868	基台部	残 基台部 下半 底 (25.3) 高 <36.9)	①くびれ部 西側②C- 4-I	① B ② 橙7.5 YR6/6③普通・ 普通	人物あるいは器財の基台部である。器形は歪みが著しく、底面は隅丸長方形を呈する。下端とこれから25.5cm離れた中位に突帯がめぐる。外面は、16・17本2/cmのタテハケを施す。内面はナデを施す。基底部の粘土板は左を上を重ねる。	PL146
1869	基台部	残 胴部2 段1/3 底 (22.0) 高 <10.7)	①後円部西 側②BT- II	① B ②明赤褐5 YR5/6(表)、暗 オリーブ 褐2.5 Y3/3(裏)③ 普 通・普通	小径の円筒である。外面タテハケ後断面形台1の突帯を貼り付ける。残存部上段に円形の透孔を穿っている。内面はタテ方向にナデる。	PL146
1870	基台部	残 基部下 端1/3 底 (22.4) 高 <10.0)	①くびれ部 西側②C- 4-IV a	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	小径である。外面はタテハケ後底面に接して突帯をめぐらす。内面は粘土板を作製時の押圧とナメハケがみられる。	底面に工作 台の木目の 圧痕。
1871	基台部	残 破片 径 (17.0) 高 <11.6)	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	① B ② 橙7.5 YR 6/6・明赤 褐5 YR5/6③普通・ やや軟質	小径の円筒である。外面タテハケ後断面M2形の突帯を貼り付ける。内面はタテ方向にナデる。直行する切り込みの一部が残存し、スリット状の透孔が配されていた可能性がある。	PL146
1872	基台部	残 破片 径 (17.0) 高 <20.0)	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	① B ② 明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	小径の円筒である。外面タテハケ後突帯貼り付けをおこなう。内面はタテ方向にナデる。	

### 形象埴輪の基台部(3) (第305図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
1873	基台部	残 基台部 下端1/3 底 (23.0) 高 <16.4)	①くびれ部 西側②C- 4	① B ② ② ぶい赤 褐5 YR5/4③ 普 通・普通	外面はタテハケ後底面間近に断面台1の突帯をめぐらす。底面から9.0cmに円形の透孔を配す。内面は下端に基部作製時の押圧痕を残すがそれより上位はナメナデを施す。	PL146
1874	基台部	残 破片 底 (19.0) 高 <16.2)	①後円部西 側②C-2 -VI	① B ② 橙7.5 YR 6/6③普通・普通	円筒状を呈す。基部の粘土板の高さは約7.0cmである。外面には9本2/cmのタテハケが施される。	
1875	基台部	残 下端1/3 底 (20.5) 高 <15.0)	①くびれ部 西側②C- 4	① A ② 明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	小径。外面はタテハケ、内面はタテ方向のナデを施す。	
1876	基台部	残 下半部 底 (23.4) 高 <44.4)	①くびれ部 西側② 拡 1、3号埴 輪裾1号埴 輪	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	人物あるいは器財の基台部と考えられる。円筒状を呈し、上位に向けて徐々にその径を細くする。残存部上段に円形の透孔の存在が知られる。調整は外面が13・14本/2cmのハケメを比較的長いピッチで充填している。内面はタテ方向に丁寧なナデを施す。	PL146
1877	基台部	残 破片 底 (14.0) 高 <10.8)	①前円部西 側②4トレ X-14G周 堀内	① A ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	基台部の破片と考えられる。底面に粘土板の右を上にした重ね合わせ痕が認められる。外面は下から上方向にタテハケを施す。内面はナメ方向に粗雑なナデが施される。	
1878	基台部	残 破片 高 <10.2)	①前円部西 側②3トレ V-15G下 段	① A ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	基部寄りである。横断面が隅丸矩形を呈すると考えられる。外面はタテ方向のハケメ、内面はナデ、指頭圧痕がみられる。底面には左を上にした粘土板の接合痕が認められる。	PL146
1879	基台部	残 基底部 ～胴部6段 1/2 底 (22.4) 高 <78.8)	①くびれ部 西側② 拡 1、5号埴 輪表採	① B ② 橙2.5 YR 6/6③良好・普通	本文中参照。	やや還態を 呈する部分 がある。 PL146

器種不明の形象埴輪(1) (第306図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1880	不明 (馬?)	残 破片 高 <11.2>	①前方部西北隅②抔2	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	小径の円筒状をなす。馬の足部あるいは形象の基台部を構成していたか。外面タテハケ、内面ナナメハケをナデ消している。	
1881	不明	残 破片 高 <11.4>	①前方部西北隅②15トレQ-17G下段	①B②橙2.5YR6/6③普通・普通	周縁部は丸みをおび、器肉もやや薄くなる。外形に沿って線刻が2条めぐる。	天地不明。 PL147
1882	不明	残 破片 高 <8.1>	①前方部西北隅②抔2	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	細かな起伏を有する外面には径35mmの中球形を呈した鈴が貼られている。	PL147
1883	不明 (人物?)	残 破片 高 <9.6>	①前方部西北隅②抔2	①A②にぶい赤褐5YR4/4③良好・普通	下端に向かって緩やかに外反する。人物の半身像、上着の裾部と考えられる。残存上端に幅30mmの粘土帯が付く。帯を表現していると思われる。	PL147
1884	不明	残 破片 長 <6.1>	①前方部西北隅②14トレT-15G下~中段	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	長辺は弱い弧状を呈する。短辺の方向と合わせると扇状をなしていたか。ハケメ後周縁部にヨコナデを施す。	
1885	不明	残 破片 高 <5.7>	①前方部西北隅②抔2	①A②明赤褐5YR5/6③良好・普通	外面に幅25mm、厚さ8mmの粘土帯が貼り付けられる。端部は丸みをおびる。	天地不明。
1886	不明	残 破片 高 <6.9>	①北辺周堀②24トレ	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	緩やかに彎曲する小破片、線刻による文様が配されている。斜格子状文となるか。赤色塗彩が施されるか。	天地不明。
1887	不明 (馬?)	残 破片 高 <9.3>	①前方部西北隅②抔2	①B②明赤褐5YR5/6③良好・普通	外面はタテハケ後、下端幅17mmの断面台2形の突帯を貼り付ける。また、残存部下端にはこれと方向の異なる突帯が残存したと思われる。	
1888	不明	残 破片 高 <6.5>	①前方部西北隅②抔2	①B②橙5YR6/6③普通・普通	一部に縁辺を残す透孔の一部か。内外面とも粗いナデを施す。	
1889	不明	残 破片 高 <3.1>	①前方部西北隅②抔2	①A②明赤褐5YR5/6③良好・やや硬質	外面はヘラ描き沈線、刺突が施され、一部赤色塗彩が認められる。	天地不明。
1890	不明 (人物?)	残 破片 高 <7.3>	①前方部西北隅②抔2	①B②にぶい赤褐5YR5/4③普通・やや軟質	外面にはヘラ描き沈線が縁辺部に向かって放射状に刻まれている。人物の顔の破片か。	天地不明。 PL147
1891	不明	残 破片 高 <5.9>	①前方部西北隅②抔2	①B②明赤褐5YR5/6③普通・やや軟質	外面タテハケ後ヘラ描きによる鋸歯文が重ねられている。残存部上端の肥厚は帯状に粘土が貼り付けられている。	
1892	不明	残 破片 高 <4.6>	①前方部西北隅②抔2	①A②橙5YR6/8③普通・やや軟質	外面にヘラ描きの沈線が認められる。	天地不明。
1893	不明	残 破片 高 <7.4>	①前方部西北隅②前方部西北端	①B②赤褐5YR4/6③普通・普通	外面タテハケ。内面ナナメハケを施す。	外面に2条弧状のヘラ記号。
1894	不明	残 破片 高 <8.1>	①前方部西北隅②抔2	①B②赤褐5YR4/8③普通・普通	板状の破片。外面タテハケ後、ヘラ描きによる2重円文が配され区画内に赤色塗彩を施す。	天地不明。
1895	不明	残 破片 幅 4.1	①前方部西北隅②西北端	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	厚さ1.2cmの粘土板を曲げリング状にしているか。外側面と両端面に赤色塗彩が施される。	
1896	不明 (馬?)	残 破片 高 <8.8>	①前方部西北隅②抔2一括	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	横位に彎曲する破片である。馬の一部をなすか。外面タテハケ内面はナデを施す。	
1897	不明	残 破片 高 <8.1>	①前方部西北隅②抔2	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	外面ヨコハケ後弧状のヘラ描き沈線を複数施す。一部に赤色塗彩がみられる。	
1898	不明	残 破片 高 <5.3>	①北西隅周堀②抔5	①B②明赤褐5YR5/8③普通・普通	器面の剝離が著しいが、ヨコ方向に並ぶ刺突文の列がみられる。	

器種不明の形象埴輪(2) (第307図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1899	不明	残破片 高 < 6.6>	①前方部西北隅②堀2堀	① A ② 橙 5 YR 6/6③普通・やや軟質	板状の破片、表面にヘラ描き沈線が2条刻まれている。	
1900	不明 (家?)	残破片 高 < 12.3>	①北西隅周堀②9トレM-9G内堀中	① A ② 明赤褐 2.5 YR5/8③普通・普通	板状の本体に幅が狭く、突出度の強い突帯が貼り付く。	
1901	不明	残破片 高 < 10.8>	①北辺外堀②26トレ外堀内	① A ② 明赤褐 2.5 YR5/6③普通・普通	緩やかに波打つ板状破片である。残存上位には弧状の周縁部がみられる。一部に刺突列が施されている。赤色塗彩が施される。	
1902	不明	残破片 高 < 6.2>	①北西隅周堀②堀5外堀	① B ② 明赤褐 2.5 YR5/6③普通・普通	靴の下半側面にみられる翼状を呈する破片である。	
1903	不明	残破片 高 < 3.6>	①北西隅周堀②堀5外堀	① A ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	径2.6cmのフック状を呈する粘土塊である。本体からの剝離痕がみられる。	

器種不明の形象埴輪(3) (第308図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1904	不明	残破片 長 < 13.3>	①前方部中央(前面)②前方NT-IV	① B ② 明赤褐 5 YR5/8③普通・普通	本体は筒形をなすが径は一方に向けて収束するようである。表面に厚さ8mmの粘土板を貼り、ヘラ描き沈線による文様を配している。本体外面にはハケメを、内面にもハケメを施し、一部をナデている。	PL147
1905	不明	残破片 高 < 5.8>	①前方部中央(前面)②1トレT-20G上段	① A ② 橙 2.5 YR 6/6③普通・普通	彎曲の著しい破片で外面に4条の線刻がみられる。	
1906	不明	残破片 高 < 3.5>	①前方部中央(前面)②前方NTVIII	① A ② 明赤褐 5 YR5/6③良好・普通	扁平な小破片である。弧状になされた切り込みの一部が残る。外面にはナメ方向にヘラ描きによる沈線5本が平行する。	
1907	不明	残破片 長 < 13.0>	①前方部中央(前面)②前方NT-V	① A ② 明赤褐 5 YR5/8③普通・普通	足状に外反する板状破片である。ヘラ描き沈線により、表裏両面に矢羽根状の文様を配している。	PL147
1908	不明	残破片 長 < 11.2>	①前方部中央(前面)②前方NT-IV・V	① A ② 明赤褐 5 YR5/8(表)、明赤褐 5 YR5/6(裏)③普通・普通	円筒状の破片である。不整形な円錐状を呈している。外面にはハケメを施す。内面には粘土紐を押圧した痕跡であるのか接合痕を明瞭に残す。	天地不明。 PL147
1909	不明	残破片 高 < 10.3>	①前方部中央(前面)②1トレS-20G中段	① A ② ③ ぶい赤褐 2.5 YR5/4③普通・普通	本体は緩やかに彎曲する破片である。ヨコ方向に底幅4.0cm、高さ1.5cmの断面三角形の突帯がめぐっている。外面は突帯の下位にハケメを施す。内面は粗雑なナデである。	内面に黒色付着物あり。 PL147
1910	不明	残破片 高 < 5.4>	①前方部中央(前面)②前方NT-VIII	① B ② 明赤褐 5 YR5/6③良好・普通	角柱状を呈していたか。隅はやや鈍角をなす。器肉は薄く、外面はタテハケ、内面はナデを施す。	
1911	不明	残破片 高 < 5.0>	①前方部中央(前面)②前方NT	① B ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	板状の破片である。	器面磨減している。
1912	不明	残破片 高 < 8.4>	①前方部中央(前面)②1トレS-20G下段	① A ② 明赤褐 2.5 YR5/6③良好・普通	彎曲する本体の内側に底幅4.0cm程、高さ2.5cm程の断面三角形の補強粘土を貼付している。外面は2方向のハケメが認められる。	天地不明。
1913	不明	残破片 高 < 3.7>	①前方部中央(前面)②前方NIX	① A ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	本体からラップ状に開くものと思われる。器面はナデている。	天地不明。

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1914	不明	残破片 高 < 4.0>	①前方部中央(前面)②前方NT-VII	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	外面、タテハケ後ヘラ描き沈線により鋸歯文が配されたか。	
1915	不明	残破片 高 < 5.9>	①前方部中央(前面)②前方NT-VII	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	横位に強く彎曲する。外面はタテハケ後、ヘラ描き沈線により斜行線を2本残す。	
1916	不明	残破片 高 < 7.6>	①前方部中央(前面)②前方NT-V	①A②橙5YR6/8③普通・普通	強く彎曲する小破片である。外面はハケメを施した後、ヘラ描き沈線により斜行線が重ねられる。	

#### 器種不明の形象埴輪(4) (第309図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1917	不明	残破片 高 < 12.9>	①前方部中央(前面)②1トレT-20G中段	①B②明赤褐2.5YR5/6③普通・普通	断面形は弧状を呈し、強く彎曲する。外面にはハケメ後、平行する3本のヘラ描き沈線が施される他に円形に付属品が剥離した痕跡が認められる。内面にはハケメとナデが施される。	1919と同一個体か。PL147
1918	不明	残破片 長 < 2.9>	①前方部中央(前面)②1トレS-20G下段	①A②橙5YR6/8③普通・普通	幅1.4cmの粘土紐の破片である。	天地不明。
1919	不明	残破片 高 < 11.2>	①前方部中央(前面)②1トレT-20G中段	①B②橙5YR6/6③普通・やや軟質	強く内彎する器体の側部には高さ1.7cm、薄い魚の鱗状の突起が付く。外面はハケメが施され、平行するヘラ描き沈線が突起の右側に5本、突起の左側に1本刻まれている。内面にはナデを施すが粘土紐の接合痕を残す。	1918と同一個体か。PL147
1920	不明	残破片 高 < 9.0>	①前方部中央(前面)②前方NT-X	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	小径の円筒形を呈するか。横位に強く彎曲する器肉は厚い。外面はタテハケ、内面ハケをナデている。	器面は粗れている。
1921	不明	残破片 長 < 11.1>	①前方部中央(前面)②前方NTVI-VII	①A②明赤褐5YR5/6③普通・普通	ややつぶれた棒状の粘土である。両端の欠損部でやや大きさが異なる。外面にハケメを施す。本体に付属していたと考えられ、離面に剥離痕がみられる。	PL147
1922	人物(器財)	残破片 高 < 8.5>	①前方部東側②3トレV-21G東上段表土中	①B②橙5YR6/6③普通・普通	帽子の鏝状を呈する破片である。表面にヘラ描きによる文様が施される。	
1923	不明(基台?)	残破片 高 < 6.7>	①前方部東北隅②垢3排土	①B②橙5YR6/6③普通・やや軟質	外面ナナメハケ後突帯貼り付ける。突帯は残存部左端の幅がやや広くなる。	
1924	不明	残破片 高 < 7.2>	①前方部東北隅②垢3T-23G	①B②橙5YR6/8③普通・普通	外面タテハケ後ヘラ描きによる円弧を配すると思われる。	
1925	不明	残破片 高 < 8.2>	①前方部東北隅②垢3T-23G	①B②明赤褐5YR5/6③普通・普通	外面には幅3.3cmの薄い粘土板が貼られる。	
1926	不明	残破片 高 < 4.1>	①外堀東北隅②27トレ中堤?	①A②橙2.5YR6/6③普通・普通	小破片、外面に赤色塗彩が施されている。	天地不明。
1927	不明(付属物)	残破片 径 2.6 厚 0.9	①前方部東北隅②13トレR-23G下段	①A②橙5YR6/8③普通・普通	径2.6cmのボタン状の粘土板で本体に貼付されていたと考えられる。	

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1928	不明 (家あるいは盾?)	残 破片 高 <10.4>	①前方部東 北隅②13ト レQ-23G 内堀中	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状を呈する破片である。外面はハケメを施した後に部分的に粘土を塗り上げている。内面にも後補の粘土の層がみられる。	

器種不明の形象埴輪(5) (第310図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1929	不明 (基台部?)	残 破片 高 <16.8>	①前方部東 側②3トレ V-23G中 段?	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	円筒状部分の破片である。器肉が厚い。外面にはタテ方向のハケメ、内面には粘土紐の接合痕を残しながらナデ、指頭圧痕がみられる。	
1930	不明	残 破片 幅 <7.5>	①前方部東 側②前方部 E T-VI	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	円筒状の本体から水平方向に延びた破片である。上下両面とも放射状のハケメ後端部にヨコナデを加えている。	
1931	不明	残 破片 高 <10.1>	①前方部東 側②前方部 E T-VI	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	強く彎曲する破片である。一部小孔を穿った点と帯状の剝離痕が認められることから馬の顔部の可能性が考えられる。外面はナデ、内面もナデるが接合痕を顕著に残す。	
1932	帯	残 破片 幅 2.6	①前方部東 側②4トレ X-22G上 ~中段	①A②におい赤 褐2.5YR5/4③ 普通・普通	厚さは0.4~0.8cmで両端で厚さが異なる。裏面には本体からの剝離痕がみられる。外面はヨコナデを施している。	
1933	不明	残 破片 高 <5.1>	①前方部東 側②4トレ X-24G下 段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	線刻による区画内に2段以上の鋸歯文が配されている。	
1934	不明	残 破片 高 <7.9>	①前方部東 側②3トレ V-25G下 段~周堀内	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	突帯は高く、明瞭な稜をなしている。	器面は剝離している。
1935	不明 (繫?)	残 破片 高 <6.8>	①前方部東 側②4トレ X-24G下 段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	幅5.6cmが本体と比較して8mm程肥厚している。下端際は押圧され沈線がめぐり。帯部分の外面はヨコ方向のハケメを施す。	
1936	不明	残 破片 高 <4.2>	①前方部東 側②E T	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	棒状の粘土。何らかの本体に付属するもので剝離痕が認められる。	
1937	不明	残 胴部下 端の破片か 高 <7.1>	①前方部東 側②前方E T	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	外面タテハケ後2.7cmの間隔に突帯2本を配す。内面にはナデを施す。	
1938	不明	残 破片 高 <7.8>	①前方部墳 頂部②前方 C T-V	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	コーナーをもつ本体に板状の粘土を貼り付けている。これに一边を延長して幅3.9~4.3cmの粘土帯が突出している。一部に赤色塗彩を施す。家の一部か。	PL147
1939	不明	残 破片 高 <4.8>	①前方部墳 頂部②前方 C T	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	本体から突出する板状品であるが天地・左右不明である。厚さは2.7cmとやや厚い。	
1940	不明	残 破片 高 <6.3>	①前方部墳 頂部②4ト レX-20G 墳頂面	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	外縁は緩やかに彎曲する。外面は放射状に、内面は同心円状にハケメを施した後に端部の外面をナデる。	
1941	不明	残 破片 長 <5.7>	①前方部墳 頂部②前方 墳頂	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	径2.6cmの粘土紐である。両端は欠損するがリング状を呈していた可能性がある。	
1942	不明	残 破片 高 <6.9>	①前方部墳 頂部②前方 中央V・VI	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	大径の本体から裾状に延長される部位である。	



No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1943	不明 (盾か家)	残破片 高 < 7.4>	①前方部墳 頂部②3ト レV-20G 墳頂面	①A②にぶい橙 5YR6/4③普 通・普通	板状を呈する破片である。表面には剥離痕があり、これに沿って波状に赤色塗彩が施される。また線刻もみられる。裏面にはハケメが施される。	
1944	不明	残破片 径 6.6	①前方部墳 頂部②前方 CT中段	①A②明赤褐 YR5/6③普通・ 普通	径1.2cmの粘土紐をリング状に丸くあわせている。耳環の可能性も考えられるか他に比較してやや細い。	PL147
1945	不明	残破片 高 < 3.9>	①くびれ部 東側②5ト レY-23G 下段	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	薄い板状の破片。	
1946	不明	残破片 高 < 4.9>	①くびれ部 東側②拡4 周堀	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	人物の頭頂部の破片か。外面にはハケメが、内面には粘土紐の接合痕とこれを押圧した痕跡が認められる。	

### 器種不明の形象埴輪(6) (第311図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1947	不明 (馬の付属 品?)	残破片 径 4.1	①鞍部墳頂 部②5トレ Z-20G墳 頂部	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	半円の断面形を呈し、乳房状を呈する。表面はナデている。裏面には本体からの剥落痕がみられる。	
1948	不明	残破片 高 < 10.1>	①くびれ部 東側②5ト レY-22・ 23G中段～ 下段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	円筒状を呈すると思われる。外面のハケメは波状や弧状をなすものがあり、文様が構成されていたか。内面はヨコ方向のハケメ。	
1949	不明	残破片 高 < 6.5>	①くびれ部 東側②5ト レZ-23G 下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	表面の端部にヘラ状工具による線刻と刺突により皮綴の表現がなされている。裏面にはハケメが施される。	天地不明。 PL148
1950	不明 (人物か 鳥?)	残破片 高 < 6.1>	①くびれ部 東側②拡 4、6号埴 輪	①B②明赤褐 YR5/6③普通・ 普通	平面形は先端が木の葉状に尖っている。先端に粘土紐がつく。周縁部は内側に反り返っている。	天地不明。 PL148
1951	不明	残破片 高 < 6.2>	①くびれ部 東側②5ト レY-26G 下段～周堀	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	外面、残存部分下位に低い断面三角形の隆起がみられる。	
1952	不明	残破片 高 < 4.9>	①鞍部墳頂 部②1トレ W-20G墳 頂面	①A②橙2.5YR 6/6③普通・普通	裏面に本体から剥離した痕跡がみられる。	天地不明。
1953	不明 (帯?)	残破片 幅 4.4	①鞍部墳頂 部②11トレ Z-19G墳 頂部	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	下幅4.4cm、上幅3.5cmの断面台形状をなし、厚さは1.5cm程を測る。裏面に剥離痕がみられる。帯状を呈するが家に付属し、板状を表現した可能性も考えられる。	PL148
1954	不明	残破片 高 < 4.5>	①鞍部墳頂 部②5トレ Y-20G墳 頂面	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	表面に線刻による意匠が描かれている。	PL148
1955	不明	残破片 高 < 4.0>	①後円部東 側②2トレ 2E-23G	①A②にぶい橙 2.5YR6/4③普 通・普通	幅1.5cm、高さ2mm程の低い断面三角形の突帯がめぐり、これに赤色塗彩が施される。	
1956	不明	残破片 高 < 4.4>	①くびれ部 東側②17ト レ3区上段	①A②橙2.5YR 6/8③普通・普通	幅6.4cm、厚さ1.2cmの帯状品、裏面に剥離痕がみられる。表面には鈴あるいはボタン状の装飾品が付されていたと思われる剥離痕がある。	天地不明。

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1957	不明	残破片 高 < 6.1)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円E T	①B②橙7.5YR 6/8③普通・やや 軟質	緩やかに彎曲する破片で、一部に縁部を残す。外面に半円状のヘラ描き沈線を配し内側に赤色塗彩を施す。	PL148
1958	不明	残破片 高 < 7.8)	①後円部東 側②後円東 裾	①B②にぶい黄 橙10YR7/3③ 普通・普通	幅31mm、高さ8mmの帯状の突帯が貼られる。	
1959	不明	残破片 高 < 5.8)	①後円部東 側②後円E T	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	小径の筒形を呈する破片である。外面タテハケ後断面台2形の突帯を貼り付ける。ヘラ描きによる2重沈線を弧状に配し、内側に刺突を施す。突帯及び沈線内に赤色塗彩を施す。	PL148
1960	不明 (馬の脚部 または基台 部?)	残破片 高 < 11.2)	①後円部東 側②2トレ 2E-22G	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	円筒部分の破片である。外面はタテ方向のハケメ、内面にはタテあるいはナナメ方向のナデを施している。	
1961	不明	残破片 高 < 4.0)	①くびれ部 東側②17ト レ4区上～ 中段	①A②明赤褐2.5 YR5/6③普通・ 普通	小径の管状を呈する本体の側面にプロペラ状の板が水平方向に接合している。外面タテハケ、内面はナデを施す。	PL148
1962	不明	残破片 高 < 3.9)	①後円部東 側②後円E T	①B②橙7.5YR 6/8③普通・普通	ヘラ描きによる2重沈線が弧状にめぐり、これに刺突が伴う。沈線区画内に赤色塗彩が施される。	
1963	不明	残破片 長 < 8.6)	①後円部東 側②2トレ 2E-23G 上段～中段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	双脚人物の基台部上面の破片か。視覚的に表に出ない部分の破片である。残存部の一端は直立ぎみに立ち上がる様子がみられる。外面は粗雑なナデで一部にハケメを残す。内面は粗雑な指頭圧痕がみられる。	PL148
1964	不明 (基台部?)	残破片 径 (16.2) 高 < 11.2)	①くびれ部 東側②17ト レ3区上段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	小径の円筒である。残存部端部にヘラによる切り込みがみられスリット状の孔が穿たれていたか。形象の基部と考えられる。	内面に黒色の付着物あり。
1965	不明	残破片 高 < 6.1)	①後円部東 側②後円E T	①B②橙7.5YR 6/6③普通・やや 軟質	内彎する破片である。外面の一部にタテ方向の剝離痕が認められる。残存面にはヘラ描きにより、刺突を伴う横位の沈線が2本認められ、これに沿って赤色塗彩が施される。	

器種不明の形象埴輪(7) (第312図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1966	不明	残破片 高 < 10.0)	①後円部東 側②7トレ 2G-24G 井戸下段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	外反ぎみに立ち上がる本体に断面三角形の突帯が横位に取り付く。これからタテ方向にも粘土帯が延びていたか。残存下端には透孔が穿ってある。	
1967	不明	残破片 高 < 8.1)	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G後 円部上段	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	緩やかに彎曲する板状品である。外面には広範囲にわたり付属品の剝落痕がみられる。	一部に赤色塗彩か。
1968	不明	残破片 幅 4.0 高 < 6.2)	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S T	①B②橙7.5YR 6/8③普通・普通	本体に付属する厚さ8mmの薄い粘土板である。幅4.0cm、残長6.2cmを測る。外面にはヘラ描きによる矢根状の文様を配し、1つおきに区画内を赤色塗彩を施している。側面にも赤色塗彩を施す。	PL148
1969	不明	残破片 高 < 9.5)	①後円部南 側(後方)② 1トレ2G -20G中段	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	横断面をみると緩やかに彎曲する。内外面にはハケメを施す。	
1970	不明	残破片 高 < 7.2)	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 C-20G墳 頂面	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	残存部右側端部はL字状に屈曲する。タテ方向のハケメがみられる。	黒色の付着物あり。

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	備考
1971	不明	残破片 高<5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST ・WT	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	板状粘土の破片である。幅3.7cm、厚さ19～21cmを測り、幅広の面にはハケメを残す。	
1972	不明	残破片 高<6.5>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	家の裾廻突帯の隅部分に類似するが断定できない。一部にヨコ方向のハケメを残す。	
1973	不明	残破片 高<5.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円ST	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	小径の本体に鈴を伴う幅1.5cmの粘土紐がめぐる。鈴は径3.0cm、鈴口をへらで切り込んでいる。本体にも一部へら描きの沈線がみられる。人物の足結あるいは鳥などが想定される。	PL148
1974	不明	残破片 高<4.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G後 円部上段	①A②にふい赤 褐2.5YR5/4③ 良好・普通	本体に付属する带状製品と考えられる。隅丸を呈している。外面に赤色塗彩が施される。	
1975	不明	残破片 高<4.1>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2J -20G下段	①A②にふい赤 褐5YR5/4③良 好・普通	小破片である。径約7.2cmの透孔が穿たれている。周縁も調整されている。外面は丁寧なナデを施す。	
1976	不明	残破片 高<4.2>	①後円部南 側(後方)② 20トレ5区 下段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	盾の破片か。前面はハケメ後、線刻による鋸歯文が重ねられている。	
1977	不明	残破片 高<5.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G後 円部上段	①B②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	器肉の薄い本体から厚さ2.9cmの板状品が張り出している。家の床部の破片か。	
1978	不明	残破片 高<4.8>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2G -20G中段	①A②にふい橙 5YR6/4③良 好・普通	板状製品の端部破片である。内外面ともハケメ後ナデている。	
1979	不明	残破片 高<3.3>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2L -20G内堀	①A②橙5YR 6/8③普通・普通	厚さ0.9cmの带状の粘土板に、長軸3.0cmのボタン状粘土を付けている。三輪玉を表現したものか。	
1980	不明	残破片 長<5.0>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	①A②橙2.5 YR6/6③普通・ 普通	棒状の欠損品で一端は紡錘形状を呈する。欠損端部に径7mm程の棒状工具の圧痕がみられる。	
1981	不明	残破片 高<8.2>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G後 円部上段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	板状製品である。端部は面取りをおこないナデている。	
1982	不明 (鉢巻か帯)	残破片 径5.8 高<4.3>	①くびれ部 西側②18ト レ2区	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	幅3.7～4.0cmの粘土帯が環状を呈していたか。	PL148
1983	不明	残破片 高<4.5>	①後円部南 側(後方)② 1トレ2L -20G内堀	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	器肉の薄い小破片である。表面は弧状の線刻とその内側に赤色塗彩がみられる。裏面にも線刻がある。	天地不明。

器種不明の形象埴輪(8) (第313図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
1984	不明 (方形基台部?)	残破片 高 < 11.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 E-20G	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。径3.5cm程の透孔がみられる。外面はハケメ、内面はハケメを一部ナデ消している。	
1985	不明	残破片 高 < 8.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C-I	①B②橙7.5 YR7/6・明褐7. 5YR5/6③普通 ・やや軟質	板状を呈する。外面の一部には付属品が剥離した痕跡がみられる。外面はハケメ後、ヘラ描きにより平行する沈線を施す。	
1986	不明	残破片 長 < 11.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C-I	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	形状は扁平な舌状を呈する。板状の粘土の先端を柄状に成形、これを包みこむように粘土紐を巻いている。上面には太い沈線を平行に6本配す。	PL148
1987	不明	残破片 高 < 8.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	幅98mmを測る板状品である。両側縁は高くなる。外面の端部から61.0mmの位置に粘土を足し肥厚、ステップ状の段をつくっている。外面はタテハケを弱くナデている。裏面は本体から剥離した痕跡を残す。	天地不明。 PL148
1988	不明	残破片 高 < 6.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	山形の断面形を呈する。2条1単位のヘラ描きにより外面に頂部を越える斜格子状の文様、その両側に鋸歯状の文様を施す。内面の焼成状態からは本体に付属した可能性が考えられる。	PL148
1989	不明	残破片 高 < 10.0>	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明褐7.5 YR5/6③良好・ 普通	板状の破片である。残存する周縁部は直線的であるが一部が縞り込み状を呈する部分が認められる。外面はハケメをナデ消した後にヘラ描き沈線による区画を表出し、一部に赤色塗彩を施している。	天地不明。 PL149
1990	不明	残破片 高 < 8.1>	①くびれ部 西側②C- 5	①B②明褐7.5 YR5/6・橙7.5 YR6/6③良好・ 普通	板状の破片で一部に周縁部を残す。外面はハケメをナデ消し、ヘラ描きの沈線を重ねる。区画内の一部に赤色塗彩を施す。	天地不明。 PL148
1991	不明	残破片 高 < 6.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円N- 1	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ やや軟質	幅6.6cm、厚さ1.6～2.3cmの板状を呈するものと思われる。一面は2本1単位のヘラ描き沈線を斜行させ、内部に赤色塗彩を施す。もう一面は沈線を伴わないが鋸歯状に赤色塗彩をめぐらせている。側面にも赤色塗彩がみられる。	PL148
1992	不明	残破片 長 < 12.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②橙5YR 6/6③良好・普通	棒状の製品である。本体に付属していたと考えられる剥離痕が認められる。	PL148
1993	不明	残破片 高 < 7.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	径58～61mmの細い筒形を呈する本体のほぼ同レベルの位置で対向方向に幅45mm程のプロペラ状の粘土板を水平に貼り付けている。外面にはハケメを施し、内面はタテ方向にナデている。	PL148
1994	不明	残破片 高 < 3.7>	①後円部墳 頂部～上段	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状粘土の破片である。外面はハケメ後、ヘラ描き沈線を施す。	
1995	不明	残破片 長 < 4.3>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	薄手な粘土板をS字状に成形したものと考えられる。本体に付属し装飾を施していたか。	
1996	不明	残破片 高 < 7.6>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②明褐7.5 YR6/6③普通・ 普通	板状粘土である。残存する両縁からは巴の足様の形状が想定される。両面とも弧状のヘラ描き沈線文が施される。	PL149
1997	不明	残破片 高 < 5.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	厚さ13mmの板状粘土である。器面はハケメ後ヘラ描き沈線により綾杉状の文様が施されている。裏面にもヘラ描きがみられる。	
1998	不明	残破片 高 < 8.4>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①A②明褐7.5 YR5/6③良好・ 普通	板状の粘土品で裏面に本体に付属していた剥離痕を残す。器面は丁寧になデている。	
1999	不明	残破片 長 < 7.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②石室上部	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	弧状の周縁部を有する破片である。側縁部に沿ってヘラ描き沈線をめぐらし、内区にはそれを底辺とする鋸歯文を割りつけている。内行する三角形部分には赤色塗彩を施している。残存端部に小孔を穿っている。	PL148